目　次

〔こども学科・学校教育学科〕

1．人間総合科目

学びの技法 …… 10
文化・社会 …… 19
生命・自然 …… 36
コミュニケーション …… 50

2．こども総合科目

こどもの総合的理解 …… 64
こどもの表現と文化 …… 76

〔こども学科〕

3．こども専門科目

保育と福祉 …… 93
心とからだ …… 112
教育の原理と保育内容 …… 122
教科専門 …… 141
実践に学ぶ …… 158
卒業研究 …… 171

〔学校教育学科〕

4．教育専門科目

児童・生徒の理解 …… 174
教育の実践と応用 …… 182
教職基礎・教科指導法 …… 195
教科専門 …… 215
実践に学ぶ …… 227
卒業研究 …… 231

授業科目開講一覧表

〔こども学科・学校教育学科〕

★＝必修科目

区分	科目群	授業科目	掲載頁	単位数	開講学期 1年次 前	1年次 後	2年次 前	2年次 後	3年次 前	3年次 後	4年次 前	4年次 後	資格取得科目 保育士	幼稚園教諭	小学校教諭
人間総合科目	学びの技法	スタディナビゲーションA	11	1	★										
		スタディナビゲーションA	12	1	★										
		スタディナビゲーションB	13	1		★									
		スタディナビゲーションB	14	1		★									
		スタディナビゲーションC	15	1			★								
		スタディナビゲーションC	16	1			★								
		スタディナビゲーションD	17	1				★							
		スタディナビゲーションD	18	1				★							
	文化・社会	社会学	20	2	○	○	○	○	○	○	○	○			
		法学（日本国憲法を含む）	21	2	○	○	○	○	○	○	○	○		■	
		法学（日本国憲法を含む）	22	2	★										▲
		現代人と宗教	23	2		○		○		○		○			
		ボランティア・NPO論	24	2	○		○		○		○				
		経済学	25	2	○		○		○		○				
		歴史入門	26	2	○		○		○		○				
		文学と人間	27	2		○		○		○		○			
		音楽文化史	28	2		○		○		○		○			
		美と表現	29	2	○	○	○	○	○	○	○	○			
		歌舞伎入門	30	2		○		○		○		○			
		日本文化	31	2	○	○	○	○	○	○	○	○			
		ジャパノロジー入門	32	2	○	○	○	○	○	○	○	○			
		カナダ文化の理解	33	2	○		○		○		○				
		アジアの社会と文化	34	2		○		○		○		○			
		アメリカの生活と文化	35	2		○		○		○		○			
	生命・自然	自然科学の成立と発展	37	2	○		○		○		○				
		生命の倫理	38	2		○		○		○		○			
		心理学	39･40	2	○	○	○	○	○	○	○	○			
		生活と環境	41	2	○	○	○	○	○	○	○	○			
		色彩論	42	2	○		○		○		○				
		生き物の科学	43･44	2	○	○	○	○	○	○	○	○			
		宇宙へのアプローチ	45	2		○		○		○		○			
		健康とスポーツ	46	2	○		○		○		○		●	■	
		健康とスポーツ	47	2		★									▲
		体育実技	48	1		○							●	■	
		体育実技	49	1	★										▲
	コミュニケーション	コミュニケーションスキル	51	1	○		○		○		○				
		アートコミュニケーション	52	1	○		○		○		○				
		コンピュータリテラシⅠ（基礎）	53	1	★									■	
		コンピュータリテラシⅠ（基礎）	54	1	★										▲
		コンピュータリテラシⅡ（応用）	55	1		○								■	
		コンピュータリテラシⅡ（応用）	56	1		★									▲
		英語コミュニケーションA（こどもの文化）	57	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	□	△
		英語コミュニケーションB（日常会話）	58	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	□	△
		中国語コミュニケーション	59	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	□	△
		韓国語コミュニケーション	60	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	□	△
		日本語表現	61	1	○	○	○	○	○	○	○	○			
		キャリアデザイン	62	1			○		○		○				
		キャリアインターンシップ	63	2				○		○		○			

★＝必修科目

区分	科目群	授業科目	掲載頁	単位数	開講学期								資格取得科目		
					1年次		2年次		3年次		4年次		保育士	幼稚園教諭	小学校教諭
					前	後	前	後	前	後	前	後			
こども総合科目	こどもの総合的理解	こども理解と観察	65	2	★								○	■	
		こども理解と観察	66	2	★										
		こどもの権利	67	2		○							○		
		現代家族とこども	68	2					○						
		こどもと福祉社会	69	2				○							
		世界のこどもと教育	70	2				○							
		こどもの安全と危機管理	71	2					○						
		ジェンダーと現代社会	72	2		○									
		フィールド体験	73	1	★									■	
		フィールド体験	74	1	○										
		海外セミナー（カナダ）	75	2		○		○		○					
	こどもの表現と文化	こどもの表現と創造性	77	2			★								
		合奏アレンジメント	78	1				○		○		○			
		ヴォーカルボディワーク	79	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	□	
		ヴォーカルアンサンブル	80	1	○	○	○	○	○	○	○	○			
		ソングライティング	81	2					○		○				
		音響デザインとテクノロジー	82	2						○		○			
		ストリートダンス	83	1	○		○		○		○				
		絵画制作	84	1			○	○	○	○	○	○	○	□	
		イノセンスアート	85	1				○		○		○	○		
		児童文化	86	1			○	○	○	○	○	○			
		紙芝居入門	87	1				○		○		○			
		英語の歌あそび	88	1				○		○		○			
		地球のことばと表情	89	2			○		○		○				
		自然観察	90	1				○							
		スクールガーデニングA	91	1		○		○		○		○			
		スクールガーデニングB	92	1		○		○		○		○			

●保育士必修科目　■幼稚園教諭必修科目　▲小学校教諭必修科目
○保育士選択科目　□幼稚園教諭選択科目　△小学校教諭選択科目

〔こども学科〕

★＝必修科目

区分	科目群	授業科目	掲載頁	単位数	開講学期								資格取得科目	
					1年次		2年次		3年次		4年次		保育士	幼稚園教諭
					前	後	前	後	前	後	前	後		
こども専門科目	保育と福祉	保育原理	94	2	★								●	
		社会福祉概論	95	2	★								●	
		児童家庭福祉論	96	2		○							●	
		相談援助演習	97	1					○				●	
		保育相談支援	98	1						○			●	
		社会的養護論	99	2				○					●	
		社会的養護内容	100	1					○				●	
		乳児保育	101	2			○						●	
		障害児保育	102	2				○					●	■
		在宅保育	103	2						○		○		
		家庭支援論	104	2				○					●	
		家族・地域支援の展開	105	2					○				○	
		家族の心理学	106	2			○	○	○	○	○	○	○	
		コミュニティの心理学	107	2			○		○		○			
		多文化と保育	108	2				○		○		○		
		保育者論	109	2			○						●	
		保育の制度と展開	110	2				○		○		○		
		児童福祉施設のマネジメント	111	2			○		○		○			
	心とからだ	保育の心理学演習	113	1		○							●	
		子育てと父親	114	2						○		○		
		こどもと性格	115	2					○		○			
		グループダイナミクス	116	1						○				
		こどもの保健Ⅰ	117	2			○						●	
		こどもの保健Ⅱ	118	2				○					●	
		こどもの保健演習	119	1					○				●	
		こどもの食と栄養	120	2			○						●	
		こどもの食と調理	121	1						○		○	○	
	教育の原理と保育内容	教職概論	123	2					○	○	○	○		■
		教育原理	124	2				★					●	■
		教育心理学	125	2			○		○		○		○	□
		発達心理学	126	2	★								●	□
		教育の制度と経営	127	2			○	○	○	○	○	○		□
		教育社会学	128	2			○		○		○			□
		カリキュラム論	129	2				○					●	■
		保育計画法	130	2					○	○			○	□
		保育内容総論	131	2		○							●	■
		保育内容（人間関係）	132	2			○						●	■
		保育内容（環境）	133	2			○						●	■
		保育内容（健康）	134	2		○							●	■
		保育内容（ことば）	135	2		○							●	■
		保育内容（表現）	136	2			○						●	■
		こどもと学習活動	137	2					○	○	○	○		■
		教育の方法と技術	138	2			○	○	○	○	○	○		□
		保育教材演習	139	2		○							●	□
		保育カウンセリング	140	1					○	○	○	○	○	■

★＝必修科目

区分	科目群	授業科目	掲載頁	単位数	開講学期 1年次 前	1年次 後	2年次 前	2年次 後	3年次 前	3年次 後	4年次 前	4年次 後	資格取得科目 保育士	幼稚園教諭
こども専門科目	教科専門	国語	142	2					○	○	○	○		□
		算数	143	2					○	○	○	○		□
		あそびと科学	144	2			○		○		○			□
		幼児体育	145	1			○						●	□
		こどもと音楽	146	2		○							●	□
		造形表現（図画工作）	147	1		○							●	□
		絵本学	148	2	○		○		○		○			□
		物語とこども	149	2			○		○		○			□
		ピアノ基礎A	150	1	○								●	□
		ピアノ基礎B	151	1		○							●	□
		ピアノ応用A	152	1			○	○	○	○	○	○	○	□
		ピアノ応用B	153	1			○	○	○	○	○	○	○	□
		ピアノ実践A	154	1			○	○	○	○	○	○	○	□
		ピアノ実践B	155	1			○	○	○	○	○	○	○	□
		応用伴奏法	156	1							○			
		器楽・合奏	157	1			○	○	○	○	○	○	○	
	実践に学ぶ	保育実習指導ⅠA	159	1			○						●	
		保育実習指導ⅠB	160	1				○					●	
		保育実習ⅠA（保育所）	161	2			○						●	
		保育実習ⅠB（福祉施設）	162	2				○					●	
		保育実習指導Ⅱ	163	1						○			○	
		保育実習Ⅱ（保育所）	164	2						○			○	
		保育実習指導Ⅲ	165	1						○			○	
		保育実習Ⅲ（福祉施設）	166	2						○			○	
		幼稚園教育実習指導	167	1					○	○	○	○		■
		幼稚園教育実習Ⅰ（基礎）	168	2						○				■
		幼稚園教育実習Ⅱ（応用）	169	2							○			■
		保育・教職実践演習（幼稚園）	170	2								○	●	■
	卒業研究	卒業研究Ⅰ	172	2					★					
		卒業研究Ⅱ	173	2							★			

●保育士必修科目　■幼稚園教諭必修科目
○保育士選択科目　□幼稚園教諭選択科目

〔学校教育学科〕

★＝必修科目

区分	科目群	授業科目	掲載頁	単位数	開講学期 1年次 前	1年次 後	2年次 前	2年次 後	3年次 前	3年次 後	4年次 前	4年次 後	資格取得科目 小学校教諭
教育専門科目	児童・生徒の理解	近代市民社会と学校	175	2					○				
		教員養成の歴史	176	2						○			
		学校教育の現代的課題	177	2			○						
		臨床心理学	178	2						○			
		家族の心理学	179	2			○	○	○	○	○	○	
		グループダイナミクス	180	1						○			
		特別支援教育入門	181	2		○							△
	教育の実践と応用	スクールソーシャルワーク	183	2				○					
		学校経営と学校図書館	184	2					○				△
		学校図書館メディアの構成	185	2						○			△
		学習指導と学校図書館	186	2							○		△
		読書と豊かな人間性	187	2					○				△
		情報メディアの活用	188	2								○	△
		外国語活動指導法	189	2							○		△
		教育インターンシップA	190	1	★								▲
		教育インターンシップB	191	1			○						△
		教育インターンシップC	192	1					○				△
		教育インターンシップD	193	1								○	△
		介護等体験	194	1								○	
	教職基礎・教科指導法	教職入門	196	2	★								▲
		教育学概論	197	2	★								▲
		教育心理学基礎論	198	2		★							▲
		教育の制度と経営	199	2				★					▲
		教育課程論	200	2				★					▲
		初等国語科指導法	201	2				★					▲
		初等社会科指導法	202	2				★					▲
		算数指導法	203	2				★					▲
		初等理科指導法	204	2					★				▲
		生活科指導法	205	2		★							▲
		初等音楽科指導法	206	2			★						▲
		図画工作指導法	207	2		★							▲
		初等家庭科指導法	208	2				★					▲
		初等体育科指導法	209	2			★						▲
		初等道徳教育	210	2			★						▲
		初等特別活動論	211	2	★								▲
		教育の方法と技術	212	2					★				▲
		児童指導基礎論	213	2					★				▲
		教育相談の基礎	214	2						★			▲
	教科専門	初等国語	216	2				★					▲
		社会	217	2			○						△
		算数	218	2			○						△
		初等理科	219	2				○					△
		生活	220	2	○								△
		初等音楽	221	2	○								△
		ピアノ演習A	222	1	○								△
		ピアノ演習B	223	1		○							△
		図画工作	224	2		○							△
		初等家庭	225	2			○						△
		初等体育	226	2		○							△
	実践に学ぶ	教育実習指導	228	1					○				▲
		教育実習	229	4						○			▲
		教職実践演習	230	2							○		▲
	卒業研究	卒業研究Ⅰ	232	2						★			
		卒業研究Ⅱ	233	2								★	

▲小学校教諭必修科目
△小学校教諭選択科目

ナンバリング一覧表

〔こども学科・学校教育学科〕

区分	科目群	授業科目	学科	区分	科目群	レベル	分類番号
人間総合科目	学びの技法	スタディナビゲーションA	C	H	SL	1	01
		スタディナビゲーションA	E	H	SL	1	01
		スタディナビゲーションB	C	H	SL	1	02
		スタディナビゲーションB	E	H	SL	1	02
		スタディナビゲーションC	C	H	SL	1	03
		スタディナビゲーションC	E	H	SL	1	03
		スタディナビゲーションD	C	H	SL	1	04
		スタディナビゲーションD	E	H	SL	1	04
	文化・社会	社会学	C(E)	H	CS	2	01
		法学（日本国憲法を含む）	C	H	CS	2	02
		法学（日本国憲法を含む）	E	H	CS	2	02
		現代人と宗教	C(E)	H	CS	2	03
		ボランティア・NPO 論	C(E)	H	CS	2	04
		経済学	C(E)	H	CS	2	05
		歴史入門	C(E)	H	CS	2	06
		文学と人間	C(E)	H	CS	2	07
		音楽文化史	C(E)	H	CS	2	08
		美と表現	C(E)	H	CS	2	09
		歌舞伎入門	C(E)	H	CS	2	10
		日本文化	C(E)	H	CS	2	11
		ジャパノロジー入門	C(E)	H	CS	2	12
		カナダ文化の理解	C(E)	H	CS	2	13
		アジアの社会と文化	C(E)	H	CS	2	14
		アメリカの生活と文化	C(E)	H	CS	2	15
	生命・自然	自然科学の成立と発展	C(E)	H	LS	2	01
		生命の倫理	C(E)	H	LS	2	02
		心理学	C(E)	H	LS	2	03
		生活と環境	C(E)	H	LS	2	04
		色彩論	C(E)	H	LS	2	05
		生き物の科学	C(E)	H	LS	2	06
		宇宙へのアプローチ	C(E)	H	LS	2	07
		健康とスポーツ	C	H	LS	2	08
		健康とスポーツ	E	H	LS	2	08
		体育実技	C	H	LS	1	09
		体育実技	E	H	LS	1	09
	コミュニケーション	コミュニケーションスキル	C(E)	H	SC	2	01
		アートコミュニケーション	C(E)	H	SC	2	02
		コンピュータリテラシⅠ（基礎）	C	H	SC	1	03
		コンピュータリテラシⅠ（基礎）	E	H	SC	1	03
		コンピュータリテラシⅡ（応用）	C	H	SC	2	04
		コンピュータリテラシⅡ（応用）	E	H	SC	2	04
		英語コミュニケーションA（こどもの文化）	C(E)	H	SC	1	05
		英語コミュニケーションB（日常会話）	C(E)	H	SC	1	06
		中国語コミュニケーション	C(E)	H	SC	1	07
		韓国語コミュニケーション	C(E)	H	SC	1	08
		日本語表現	C(E)	H	SC	1	09
		キャリアデザイン	C(E)	H	SC	2	10
		キャリアインターンシップ	C(E)	H	SC	3	11

区分	科目群	授業科目	学科	区分	科目群	レベル	分類番号
こども総合科目	こどもの総合的理解	こども理解と観察	C	C	CU	2	01
		こども理解と観察	E	C	CU	2	01
		こどもの権利	C(E)	C	CU	2	02
		現代家族とこども	C(E)	C	CU	4	03
		こどもと福祉社会	C(E)	C	CU	3	04
		世界のこどもと教育	C(E)	C	CU	3	05
		こどもの安全と危機管理	C(E)	C	CU	4	06
		ジェンダーと現代社会	C(E)	C	CU	2	07
		フィールド体験	C	C	CU	1	08
		フィールド体験	E	C	CU	1	08
		海外セミナー（カナダ）	C(E)	C	CU	2	09
	こどもの表現と文化	こどもの表現と創造性	C(E)	C	RC	3	01
		合奏アレンジメント	C(E)	C	RC	3	02
		ヴォーカルボディワーク	C(E)	C	RC	2	03
		ヴォーカルアンサンブル	C(E)	C	RC	3	04
		ソングライティング	C(E)	C	RC	3	05
		音響デザインとテクノロジー	C(E)	C	RC	4	06
		ストリートダンス	C(E)	C	RC	2	07
		絵画制作	C(E)	C	RC	3	08
		イノセンスアート	C(E)	C	RC	3	09
		児童文化	C(E)	C	RC	2	10
		紙芝居入門	C(E)	C	RC	3	11
		英語の歌あそび	C(E)	C	RC	2	12
		地球のことばと表情	C(E)	C	RC	3	13
		自然観察	C(E)	C	RC	2	14
		スクールガーデニングA	C(E)	C	RC	2	15
		スクールガーデニングB	C(E)	C	RC	3	16

〔こども学科〕

区分	科目群	授業科目	学科	区分	科目群	レベル	分類番号
こども専門科目	保育と福祉	保育原理	C	M	NW	2	01
		社会福祉概論	C	M	NW	2	02
		児童家庭福祉論	C	M	NW	2	03
		相談援助演習	C	M	NW	4	04
		保育相談支援	C	M	NW	4	05
		社会的養護論	C	M	NW	3	06
		社会的養護内容	C	M	NW	4	07
		乳児保育	C	M	NW	3	08
		障害児保育	C	M	NW	3	09
		在宅保育	C	M	NW	4	10
		家庭支援論	C	M	NW	3	11
		家族・地域支援の展開	C	M	NW	4	12
		家族の心理学	C	M	NW	3	13
		コミュニティの心理学	C	M	NW	3	14
		多文化と保育	C	M	NW	3	15
		保育者論	C	M	NW	3	16
		保育の制度と展開	C	M	NW	3	17
		児童福祉施設のマネジメント	C	M	NW	3	18
	心とからだ	保育の心理学演習	C	M	MB	2	19
		子育てと父親	C	M	MB	3	20
		こどもと性格	C	M	MB	3	21
		グループダイナミクス	C	M	MB	3	22
		こどもの保健Ⅰ	C	M	MB	2	23
		こどもの保健Ⅱ	C	M	MB	3	24
		こどもの保健演習	C	M	MB	4	25
		こどもの食と栄養	C	M	MB	2	26
		こどもの食と調理	C	M	MB	3	27
	教育の原理と保育内容	教職概論	C	M	TM	3	01
		教育原理	C	M	TM	3	02
		教育心理学	C	M	TM	3	03
		発達心理学	C	M	TM	2	04
		教育の制度と経営	C	M	TM	3	05
		教育社会学	C	M	TM	3	06
		カリキュラム論	C	M	TM	3	07
		保育計画法	C	M	TM	4	08
		保育内容総論	C	M	TM	2	09
		保育内容（人間関係）	C	M	TM	3	10
		保育内容（環境）	C	M	TM	3	11
		保育内容（健康）	C	M	TM	2	12
		保育内容（ことば）	C	M	TM	2	13
		保育内容（表現）	C	M	TM	3	14
		こどもと学習活動	C	M	TM	4	15
		教育の方法と技術	C	M	TM	3	16
		保育教材演習	C	M	TM	1	17
		保育カウンセリング	C	M	TM	4	18

区分	科目群	授業科目	学科	区分	科目群	レベル	分類番号
こども専門科目	教科専門	国語	C	M	ES	3	01
		算数	C	M	ES	3	02
		あそびと科学	C	M	ES	3	03
		幼児体育	C	M	ES	1	04
		こどもと音楽	C	M	ES	2	05
		造形表現（図画工作）	C	M	ES	2	06
		絵本学	C	M	ES	2	07
		物語とこども	C	M	ES	3	08
		ピアノ基礎A	C	M	ES	1	09
		ピアノ基礎B	C	M	ES	2	10
		ピアノ応用A	C	M	ES	3	11
		ピアノ応用B	C	M	ES	3	12
		ピアノ実践A	C	M	ES	4	13
		ピアノ実践B	C	M	ES	4	14
		応用伴奏法	C	M	ES	4	15
		器楽・合奏	C	M	ES	3	16
	実践に学ぶ	保育実習指導ⅠA	C	M	PS	2	01
		保育実習指導ⅠB	C	M	PS	2	02
		保育実習ⅠA（保育所）	C	M	PS	2	03
		保育実習ⅠB（福祉施設）	C	M	PS	2	04
		保育実習指導Ⅱ	C	M	PS	3	05
		保育実習Ⅱ（保育所）	C	M	PS	3	06
		保育実習指導Ⅲ	C	M	PS	3	07
		保育実習Ⅲ（福祉施設）	C	M	PS	3	08
		幼稚園教育実習指導	C	M	PS	4	09
		幼稚園教育実習Ⅰ（基礎）	C	M	PS	4	10
		幼稚園教育実習Ⅱ（応用）	C	M	PS	4	11
		保育・教職実践演習（幼稚園）	C	M	PS	4	12
	卒業研究	卒業研究Ⅰ	C	M	TH	3	01
		卒業研究Ⅱ	C	M	TH	4	02

〔学校教育学科〕

区分	科目群	授業科目	学科	区分	科目群	レベル	分類番号
教育専門科目	児童・生徒の理解	近代市民社会と学校	E	M	SU	3	01
		教員養成の歴史	E	M	SU	3	02
		学校教育の現代的課題	E	M	SU	2	03
		臨床心理学	E	M	SU	3	04
		家族の心理学	E	M	SU	2	05
		グループダイナミクス	E	M	SU	3	06
		特別支援教育入門	E	M	SU	2	07
	教育の実践と応用	スクールソーシャルワーク	E	M	PA	3	01
		学校経営と学校図書館	E	M	PA	4	02
		学校図書館メディアの構成	E	M	PA	4	03
		学習指導と学校図書館	E	M	PA	4	04
		読書と豊かな人間性	E	M	PA	4	05
		情報メディアの活用	E	M	PA	4	06
		外国語活動指導法	E	M	PA	3	07
		教育インターンシップA	E	M	PA	1	08
		教育インターンシップB	E	M	PA	2	09
		教育インターンシップC	E	M	PA	3	10
		教育インターンシップD	E	M	PA	4	11
		介護等体験	E	M	PA	4	12
	教職基礎・教科指導法	教職入門	E	M	TM	2	01
		教育学概論	E	M	TM	2	02
		教育心理学基礎論	E	M	TM	2	03
		教育の制度と経営	E	M	TM	3	04
		教育課程論	E	M	TM	3	05
		初等国語科指導法	E	M	TM	3	06
		初等社会科指導法	E	M	TM	3	07
		算数指導法	E	M	TM	3	08
		初等理科指導法	E	M	TM	3	09
		生活科指導法	E	M	TM	3	10
		初等音楽科指導法	E	M	TM	3	11
		図画工作指導法	E	M	TM	3	12
		初等家庭科指導法	E	M	TM	3	13
		初等体育科指導法	E	M	TM	3	14
		初等道徳教育	E	M	TM	2	15
		初等特別活動論	E	M	TM	2	16
		教育の方法と技術	E	M	TM	3	17
		児童指導基礎論	E	M	TM	2	18
		教育相談の基礎	E	M	TM	2	19
	教科専門	初等国語	E	M	ES	2	01
		社会	E	M	ES	2	02
		算数	E	M	ES	2	03
		初等理科	E	M	ES	2	04
		生活	E	M	ES	2	05
		初等音楽	E	M	ES	2	06
		ピアノ演習A	E	M	ES	1	07
		ピアノ演習B	E	M	ES	2	08
		図画工作	E	M	ES	2	09
		初等家庭	E	M	ES	2	10
		初等体育	E	M	ES	2	11
	実践に学ぶ	教育実習指導	E	M	PS	3	01
		教育実習	E	M	PS	4	02
		教職実践演習	E	M	PS	4	03
	卒業研究	卒業研究Ⅰ	E	M	TH	3	01
		卒業研究Ⅱ	E	M	TH	4	02

人間総合科目

（学びの技法）

授業科目名	CHSL101	授業の種類	授業担当者
スタディナビゲーションA		（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	五十嵐裕子・五味美奈子・柴田崇浩・宮﨑静香

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	1年次・前期	必修

［授業の目的］

変化の予測がつかないこの時代に、大学で何を、どのように学ぶのかという問いに答えることは、そう簡単ではありません。1年次の必修科目である、スタディナビゲーションA・Bの目的は、受講者が自ら自分自身を成長させながら、その答えを見つけることにあります。スタディナビゲーションAでは、大学での学びに必須となる「スチューデントスキル」と「スタディスキル」の内容を理解し、実践と自己分析を通して、それらを確実に身につけていきます。自ら課題を発見し、深く思考し、責任を持って行動を遂げる態度が習慣となり、大学生として主体的に学べることを目指します。

［授業全体の内容の概要］

大学生としての社会性と自律（スチューデントスキル）、学びの技術（スタディスキル）を身につけるため、大学生活の身近な場面や、学部の特徴を題材に、グループワーク、学習トレーニング、自己分析を継続して行う。また、スタディナビゲーションBのグループプロジェクトに向けての準備を開始する。

［授業終了時の到達目標］

大学生として、安定した学習環境を自ら保持し、主体的に学ぶための基礎能力が身についていること。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業ガイダンス、スチューデントスキル①　キャンパスライフ
2．スチューデントスキル②　学びの環境を構築する
3．スタディスキル①　話を聞き、要点をまとめて記録する
4．スチューデントスキル③　学生生活のリスクを管理する
5．スタディスキル②　専門的な文章の情報を読み取る
6．スチューデントスキル④　友人との人間関係
7．スチューデントスキル⑤　あらたまった人間関係
8．前半の振り返りと自己評価
9．所属学部・学科を詳しく知る
10．スタディスキル③　情報を文章で書いて表す（記録・報告文）
11．スタディスキル④　情報を文章で書いて表す（小論文）
12．専門性とキャリア
13．共同調査準備
14．夏休みの課題決め
15．前期の振り返りと後期に向けて
レポート・提出物

［準備学習］

日頃から新聞やニュースに接し、学部の専門分野はもとより、それ以外の分野にも積極的に関心を持つこと。また、授業中に課せられた課題を着実にこなすこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：浦和大学こども学部こども学科スタディナビゲーション担当者編著『浦和大学こども学部スタディナビゲーション』
その他、授業中に配布する資料を各自ファイリングする。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験・レポート　70%、受講態度　30%
試験・レポート・受講時のワークシートについて、評価とコメントを加え、提出の翌週から学期末の間に、適宜返却する。

授業科目名	EHSL101	授業の種類	授業担当者
スタディナビゲーションA		（ 講義・演習・実習 ）	出口雅生・鶴ヶ谷柊子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	1年次・前期	必修

［授業の目的］

変化の予測がつかないこの時代に、大学で何を、どのように学ぶのかという問いに答えることは、そう簡単ではありません。1年次の必修科目である、スタディナビゲーションA・Bの目的は、受講者が自ら自分自身を成長させながら、その答えを見つけることにあります。スタディナビゲーションAでは、大学での学びに必須となる「スチューデントスキル」と「スタディスキル」の内容を理解し、実践と自己分析を通して、それらを確実に身につけていきます。自ら課題を発見し、深く思考し、責任を持って行動を遂げる態度が習慣となり、大学生として主体的に学べることを目指します。

［授業全体の内容の概要］

大学生としての社会性と自律（スチューデントスキル）、学びの技術（スタディスキル）を身につけるため、大学生活の身近な場面や、学部の特徴を題材に、グループワーク、学習トレーニング、自己分析を継続して行う。また、スタディナビゲーションBのグループプロジェクトに向けての準備を開始する。

［授業終了時の到達目標］

大学生として、安定した学習環境を自ら保持し、主体的に学ぶための基礎能力が身についていること。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業ガイダンス、スチューデントスキル①　キャンパスライフ
2．スチューデントスキル②　学びの環境を構築する
3．スタディスキル①　話を聞き、要点をまとめて記録する
4．スチューデントスキル③　学生生活のリスクを管理する
5．スタディスキル②　専門的な文章の情報を読み取る
6．スチューデントスキル④　友人との人間関係
7．スチューデントスキル⑤　あらたまった人間関係
8．前半の振り返りと自己評価
9．所属学部・学科を詳しく知る
10．スタディスキル③　情報を文章で書いて表す（記録・報告文）
11．スタディスキル④　情報を文章で書いて表す（小論文）
12．専門性とキャリア
13．共同調査準備
14．夏休みの課題決め
15．前期の振り返りと後期に向けて
レポート・提出物

［準備学習］

日頃から新聞やニュースに接し、学部の専門分野はもとより、それ以外の分野にも積極的に関心を持つこと。また、授業中に課せられた課題を着実にこなすこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
吉原恵子他『スタディスキルズ・トレーニング』
実教出版
その他、授業中に配布する資料を各自ファイリングする。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験・レポート　70%、受講態度　30%
試験・レポート・受講時のワークシートについて、評価とコメントを加え、提出の翌週から学期末の間に、適宜返却する。

授業科目名	CHSL102	授業の種類	授業担当者
スタディナビゲーションB		（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	五十嵐裕子・五味美奈子・柴田崇浩・宮﨑静香

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	1年次・後期	必修

［授業の目的］

変化の大きい社会で生きて行くためには、身につけた知識や技術の応用力が問われます。応用力を磨くには、熟考と実践を繰り返すしか方法はありません。スタディナビゲーションBでは、こども学科の特徴を生かしたテーマに基づくグループプロジェクトに取り組み、スタディナビゲーションAでの学びを、実践活動を通して強化することと、大学で「主体的に学ぶ」ことの意義と喜びを再認識することを目的とします。また、その活動を通して、教員や他学生との円滑なコミュニケーションの取り方を実践的に学びます。

［授業全体の内容の概要］

スタディナビゲーションAで決めたテーマで、グループプロジェクトを進める。そのために必要な研究法やプレゼンテーション技術を学び、課題設定、計画の立案、中間発表、結果報告プレゼンテーションまで規定に沿って行う。またスタディスキルのトレーニングも継続して行う。

［授業終了時の到達目標］

前期に学んだ、スチューデントスキルとスタディスキルを生かし、グループプロジェクトを最後までやり遂げること。グループ活動の中で、他人を尊重し、適切な自己表現ができること。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業ガイダンス　全体会
2．グループプロジェクト①（テーマの設定）
3．グループプロジェクト②（全体の計画）
4．スタディスキル①（情報を集める、インターネット）
5．スタディスキル②（情報を集める、書籍）
6．グループプロジェクト③（中間発表）
7．スタディスキル③（図・表の読み取り）
8．スタディスキル④（図・表の作成）
9．グループプロジェクト④（全体まとめ）
10．スタディスキル⑤（プレゼンテーションの方法、PC）
11．スタディスキル⑥（プレゼンテーションの方法、ポスターセッション）
12．グループプロジェクト⑤（プレゼンテーション・グループ1）
13．グループプロジェクト⑥（プレゼンテーション・グループ2）
14．スタディスキル⑦（レポートの作成）
15．振り返りと来年度に向けて　全体会
レポート・提出物

［準備学習］

日頃から新聞やニュースに接し、学部の専門分野はもとより、それ以外の分野にも積極的に関心を持つこと。また、授業中に課せられた課題を着実にこなすこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：浦和大学こども学科スタディナビゲーション担当者編著『浦和大学こども学部スタディナビゲーション』
その他、授業中に配布する資料を各自ファイリングする。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験・レポート　70%、受講態度　30%
試験・レポート・受講時のワークシートについて、評価とコメントを加え、提出の翌週から学期末の間に、適宜返却する。

授業科目名	EHSL102	授業の種類	授業担当者
スタディナビゲーションB		（ 講義・演習・実習 ）	出口雅生・鶴ヶ谷柊子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	1年次・後期	必修

［授業の目的］

変化の大きい社会で生きて行くためには、身につけた知識や技術の応用力が問われます。応用力を磨くには、熟考と実践を繰り返すしか方法はありません。スタディナビゲーションBでは、学校教育学科の特徴を生かしたテーマに基づくグループプロジェクトに取り組み、スタディナビゲーションAでの学びを、実践活動を通して強化することと、大学で「主体的に学ぶ」ことの意義と喜びを再認識することを目的とします。また、その活動を通して、教員や他学生との円滑なコミュニケーションの取り方を実践的に学びます。

［授業全体の内容の概要］

スタディナビゲーションAで決めたテーマで、グループプロジェクトを進める。そのために必要な研究法やプレゼンテーション技術を学び、課題設定、計画の立案、中間発表、結果報告プレゼンテーションまで規定に沿って行う。またスタディスキルのトレーニングも継続して行う。

［授業終了時の到達目標］

前期に学んだ、スチューデントスキルとスタディスキルを生かし、グループプロジェクトを最後までやり遂げること。グループ活動の中で、他人を尊重し、適切な自己表現ができること。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業ガイダンス　全体会
2．グループプロジェクト①（テーマの設定）
3．グループプロジェクト②（全体の計画）
4．スタディスキル①（情報を集める、インターネット）
5．スタディスキル②（情報を集める、書籍）
6．グループプロジェクト③（中間発表）
7．スタディスキル③（図・表の読み取り）
8．スタディスキル④（図・表の作成）
9．グループプロジェクト④（全体まとめ）
10．スタディスキル⑤（プレゼンテーションの方法、PC）
11．スタディスキル⑥（プレゼンテーションの方法、ポスターセッション）
12．グループプロジェクト⑤（プレゼンテーション・グループ1）
13．グループプロジェクト⑥（プレゼンテーション・グループ2）
14．スタディスキル⑦（レポートの作成）
15．振り返りと来年度に向けて　全体会
レポート・提出物

［準備学習］

日頃から新聞やニュースに接し、学部の専門分野はもとより、それ以外の分野にも積極的に関心を持つこと。また、授業中に課せられた課題を着実にこなすこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
吉原恵子他『スタディスキルズ・トレーニング』
実教出版
その他、授業中に配布する資料を各自ファイリングする。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験・レポート　70%、受講態度　30%
試験・レポート・受講時のワークシートについて、評価とコメントを加え、提出の翌週から学期末の間に、適宜返却する。

授業科目名	CHSL103	授業の種類	授業担当者
スタディナビゲーションC		（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	船木美佳・瓜巣由紀子・鶴ヶ谷柊子・丸谷充子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	2年次・前期	必修

［授業の目的］

1学年時の学びを振り返り、2学年時以降の学修目標を自ら立て、将来への展望を肯定的に描く。また卒業時に於ける自己実現のために必要な専門性及び社会性とは何かを理解し、それらを身に付けるための基礎的な能力や態度を養う。

［授業全体の内容の概要］

これまでの学修成果のチェックを行い、2学年開始時点での自己の到達度や課題を客観的に把握する。また、3学年からの卒業研究活動に必要な研究法の基礎を学修すると共に、目指す職業に関する調査や研究レポートを作成する。

［授業終了時の到達目標］

2学年時以降の到達目標と学修課題をはっきりと持ち、大学生活の後半の学びに向けた基礎的な学修技術を身につけている。自身が目指す職業分野に関する正確な知識を持っている。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業ガイダンス、これまでの学修成果のチェック、学修目標の設定
2．研究の基礎①（研究とは）
3．研究の基礎②（研究課題の選択方法）
4．研究の基礎③（予備調査の方法）
5．職業・業界調査①（目的と対象）
6．職業・業界調査②（外部講師招聘）
7．研究の基礎④（観察法）
8．研究の基礎⑤（面接法）
9．研究の基礎⑥（質問紙調査）
10．職業・業界調査③（キャリアガイダンスへの参加）
11．職業・業界調査④（企業合同説明会への参加）
12．研究の基礎⑦（研究の倫理的問題）
13．研究の基礎⑧（研究結果のまとめ方）
14．職業・業界調査⑤（調査結果の発表）
15．まとめ、後期授業に向けて
レポート・提出物

［準備学習］

日頃から新聞やニュースに接し、自身の専門領域と社会の繋がりに深く関心を持つこと。また、授業中に課せられた予習課題と復習課題を確実にこなすこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
授業において必要な資料を配布する。
参考文献：
白井利明他『よくわかる卒論の書き方』
ミネルヴァ書房

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験・レポート　70%、受講態度　30%
試験・レポート・受講時のワークシートについて、評価とコメントを加え、提出の翌週から学期末の間に、適宜返却する。

授業科目名	EHSL103	授業の種類	授業担当者
スタディナビゲーションC		（ 講義・演習・実習 ）	出口雅生・鶴ヶ谷柊子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	2年次・前期	必修

［授業の目的］

1学年時の学びを振り返り、2学年時以降の学修目標を自ら立て、将来への展望を肯定的に描く。また卒業時に於ける自己実現のために必要な専門性及び社会性とは何かを理解し、それらを身に付けるための基礎的な能力や態度を養う。

［授業全体の内容の概要］

これまでの学修成果のチェックを行い、2学年開始時点での自己の到達度や課題を客観的に把握する。また、3学年からの卒業研究活動に必要な研究法の基礎を学修すると共に、目指す職業に関する調査や研究レポートを作成する。

［授業終了時の到達目標］

2学年時以降の到達目標と学修課題をはっきりと持ち、大学生活の後半の学びに向けた基礎的な学修技術を身につけている。自身が目指す職業分野に関する正確な知識を持っている。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業ガイダンス、これまでの学修成果のチェック、学修目標の設定
2．研究の基礎①（研究とは）
3．研究の基礎②（研究課題の選択方法）
4．研究の基礎③（予備調査の方法）
5．職業・業界調査①（目的と対象）
6．職業・業界調査②（外部講師招聘）
7．研究の基礎④（観察法）
8．研究の基礎⑤（面接法）
9．研究の基礎⑥（質問紙調査）
10．職業・業界調査③（キャリアガイダンスへの参加）
11．職業・業界調査④（企業合同説明会への参加）
12．研究の基礎⑦（研究の倫理的問題）
13．研究の基礎⑧（研究結果のまとめ方）
14．職業・業界調査⑤（調査結果の発表）
15．まとめ、後期授業に向けて
レポート・提出物

［準備学習］

日頃から新聞やニュースに接し、自身の専門領域と社会の繋がりに深く関心を持つこと。また、授業中に課せられた予習課題と復習課題を確実にこなすこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
授業において必要な資料を配布する。
参考文献：
白井利明他『よくわかる卒論の書き方』
ミネルヴァ書房

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験・レポート　70%、受講態度　30%
試験・レポート・受講時のワークシートについて、評価とコメントを加え、提出の翌週から学期末の間に、適宜返却する。

授業科目名	CHSL104	授業の種類	授業担当者
スタディナビゲーションD		（ 講義・演習・実習 ）	船木美佳・瓜巣由紀子・鶴ヶ谷柊子・丸谷充子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	2年次・後期	必修

［授業の目的］

実習や就職活動で想定される、大学外部の「他者」との関わりを円滑に進めるための社会性やコミュニケーション能力を高める。専門性を持った社会人としての卒業後の自分自身を客観的に捉え、必要な課題を明らかにし、その解決のための諸能力を養う。

［授業全体の内容の概要］

インタビュー調査、外部講師の講義聴講、企業ガイダンス・業界説明会への参加などを通して、学外との関わりを持つ学修の際の基本的な心構えとマナーを身に付ける。また、3学年以降の卒業研究に関する情報提供を開始すると共に、研究活動に必要な知識と経験を得る。

［授業終了時の到達目標］

学外の指導者や専門家などと適切な方法でコミュニケーションをとり自己表現ができる。社会人としての基本的な倫理性、協調性、マナーを身につけている。専門的な研究活動に必要な基礎能力を身につけている。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業ガイダンス、共同調査の準備
2．共同調査①（グループでの調査活動）
3．共同調査②（パネル発表準備）
4．共同調査③（パネル発表、相互評価）
5．職業キャリア形成について考える①（専門家としてのキャリアとは）
6．職業・業界調査①（外部講師招聘）
7．職業キャリア形成について考える②（コミュニケーションについて）
8．職業・業界調査②（キャリアガイダンスへの参加）
9．職業キャリア形成について考える③（協働作業とは）
10．職業・業界調査③（企業説明会への参加）
11．研究の基礎①（実践研究について）
12．研究の基礎②（実験について）
13．社会人としてのマナー①（ビジネスマナー）
14．社会人としてのマナー②（履歴書を通して）
15．まとめ、3年次に向けて
レポート・提出物

［準備学習］

日頃から新聞やニュースに接し、自身の専門領域と社会の繋がりに深く関心を持つこと。また、授業中に課せられた予習課題と復習課題を確実にこなすこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
授業において必要な資料を配布する。
参考文献：
白井利明他『よくわかる卒論の書き方』
ミネルヴァ書房

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験・レポート　70%、受講態度　30%
試験・レポート・受講時のワークシートについて、評価とコメントを加え、提出の翌週から学期末の間に、適宜返却する。

授業科目名	EHSL104	授業の種類	授業担当者
スタディナビゲーションD		（ 講義・演習・実習 ）	出口雅生・鶴ヶ谷柊子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	2年次・後期	必修

［授業の目的］

実習や就職活動で想定される、大学外部の「他者」との関わりを円滑に進めるための社会性やコミュニケーション能力を高める。専門性を持った社会人としての卒業後の自分自身を客観的に捉え、必要な課題を明らかにし、その解決のための諸能力を養う。

［授業全体の内容の概要］

インタビュー調査、外部講師の講義聴講、企業ガイダンス・業界説明会への参加などを通して、学外との関わりを持つ学修の際の基本的な心構えとマナーを身に付ける。また、3学年以降の卒業研究に関する情報提供を開始すると共に、研究活動に必要な知識と経験を得る。

［授業終了時の到達目標］

学外の指導者や専門家などと適切な方法でコミュニケーションをとり自己表現ができる。社会人としての基本的な倫理性、協調性、マナーを身につけている。専門的な研究活動に必要な基礎能力を身につけている。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業ガイダンス、共同調査の準備
2．共同調査①（グループでの調査活動）
3．共同調査②（パネル発表準備）
4．共同調査③（パネル発表、相互評価）
5．職業キャリア形成について考える①（専門家としてのキャリアとは）
6．職業・業界調査①（外部講師招聘）
7．職業キャリア形成について考える②（コミュニケーションについて）
8．職業・業界調査②（キャリアガイダンスへの参加）
9．職業キャリア形成について考える③（協働作業とは）
10．職業・業界調査③（企業説明会への参加）
11．研究の基礎①（実践研究について）
12．研究の基礎②（実験について）
13．社会人としてのマナー①（ビジネスマナー）
14．社会人としてのマナー②（履歴書を通して）
15．まとめ、3年次に向けて
レポート・提出物

［準備学習］

日頃から新聞やニュースに接し、自身の専門領域と社会の繋がりに深く関心を持つこと。また、授業中に課せられた予習課題と復習課題を確実にこなすこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
授業において必要な資料を配布する。
参考文献：
白井利明他『よくわかる卒論の書き方』
ミネルヴァ書房

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験・レポート　70%、受講態度　30%
試験・レポート・受講時のワークシートについて、評価とコメントを加え、提出の翌週から学期末の間に、適宜返却する。

人間総合科目
（文化・社会）

授業科目名	C(E)HCS201	授業の種類	授業担当者
社会学		（講義・演習・実習）	金　美珍

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・前期,後期	選択

［授業の目的］

(1)コミュニティと空間をキーワードとして、その内側にいる〈私たち〉と外側に置かれる〈彼ら（他者）〉の関係について、社会学的な考え方や見方を学んでいく。

(2)コミュニティの内と外の境界線を超えて、他者を理解することの重要性と難しさを考える。

［授業全体の内容の概要］

私たちは、家族や友人といった身近な集団から国といった大きな共同体など、様々な集団に所属して生きています。それぞれの集団では特有の価値や規範が存在し、〈私たち〉はそれらを学び、共有し、実践しています。しかし、一方で、こうした集団は、しばしば内と外、あるいは自己と他者を区別し、包摂と排除を伴います。この授業は、コミュニティが持つ文化、価値や規範の働きについて検討していきます。また、私たちが自分たちとは異なるとしてしまう他者の存在に注目し、その理解の方法を考えていきたいと思います。

［授業終了時の到達目標］

授業を通じて、身の回りにある集団や共同体のあり方について社会学的な見方・考え方を理解するとともに、これまで自身が「当然」だとしてきた考え方を批判的に思考する態度を養う。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．イントロダクション
2．コミュニティの理解　親密性と公共性
3．コミュニティの理解　家族、共同体
4．他者の理解をめぐって
5．他者理解の難しさ
6．包摂と排除：共同体と暴力(1)
7．包摂と排除：共同体と暴力(2)
8．共同体形成のメカニズム
9．共同体作動のメカニズム
10．伝統社会とコミュニティ
11．リスク社会とコミュニティ
12．地域社会とコミュニティ
13．若者とコミュニティ
14．高齢化とコミュニティ
15．まとめ
期末レポート

［準備学習］

講義中に配布した資料は次回の講義までに読み、講義内容の理解を深めてください。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：特になし（授業内で資料を配布する）
参考文献：各回で使用する参考文献は異なるため、以下は一例となる。
倉沢進、2002、『改訂版　コミュニティ論』、放送大学教育振興会。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

受講態度　40%
期末レポート　60%

授業科目名	CHCS202	授業の種類	授業担当者
法学（日本国憲法を含む）		（講義・演習・実習）	横手　逸男

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・前期,後期	選択	幼稚園教諭必修

［授業の目的］

憲法、民法及び行政法の基礎知識を学ばせるとともに、私たちの生活のどのような場面で法との密接なかかわりがあるのかを、具体的な事例を取り上げながら講義し、法の役割や作用を理解させる。社会の一市民として、日常生活を送るに際し必要な憲法及び法律の基礎知識を、具体的な事件・判例、論争の検討により、正しく認識させる。

［授業全体の内容の概要］

法は人間社会を規律する交通信号のようなものである。それゆえ社会生活を営むうえにおいてはこれらの法を正しく認識することが不可欠である。授業では社会のさまざまなきまり、法の目的、法の種類、裁判制度等を概観したうえで、結婚や離婚、交通事故、幼稚園での事故、犯罪と法、社会保障制度、社会福祉、環境問題など社会生活を送るに際し、われわれが直面すると思われる問題にスポットを当て、裁判で争われた具体的事例をまじえながらわかりやすく講義したい。特に、保育現場における乳幼児の事故については、判例の検討を通じて、その法律上の問題点を詳しく検討する。

［授業終了時の到達目標］

私たちの日常生活における、さまざまな問題に関する法律上の問題を学ぶことにより、社会生活を送るに必要な法的基礎知識を身につける。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．講義の概要、法の概念と特色（民法・行政法の基本）
2．憲法の基本原理、平和主義
3．裁判制度、民事事件・刑事事件（法と強制力、法源、民事事件・刑事事件の進行）
4．基本的人権の体系、法の下の平等
5．家族生活と法（結婚・離婚に関する民法の規定・親権）
6．人身の自由（犯罪と法、罪刑法定主義、犯罪・刑罰、受刑者の処遇）
7．死刑の存続・廃止をめぐる問題
8．生存権（社会権規定、生活保護法、人間らしい生活とは）
9．社会保障と法（高齢化社会と社会保障、介護保険法）
10．権利擁護の制度（権利擁護の考え方、成年後見制度の知識）
11．社会生活と法①交通事故（交通事故と損害賠償、加害者の責任）
12．社会生活と法②保育現場における乳幼児の事故
13．経済生活と法③ネズミ講・マルチ商法
（悪質商法の種類、訪問販売等に関する法律、クーリング・オフ制度）
14．環境破壊をめぐる裁判（環境権、被害者の救済、公害・環境裁判）
15．わが国の政治制度（三権分立、国会と内閣、議院内閣制）
授業到達目標達成度判定の筆記試験

［準備学習］

毎回の授業の終りには、次回の授業予定とテキストの範囲を述べます。テキストの該当ページはあらかじめ一読して授業に臨んで下さい。

［使用テキスト・参考文献］

『私たちと法』　法律文化社

（参考文献）
『新六法』三省堂　2017年度版

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
受講態度・小テスト　30%
期末テスト　70%

授業科目名	EHCS202	授業の種類	授業担当者
法学（日本国憲法を含む）		（講義・演習・実習）	横手　逸男

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭必修
15回	30時間・2単位	1年次・前期	必修	

［授業のテーマ及び到達目標］

私たちが社会生活をおくるに際しては、憲法を頂点とする法体系を理解することが大切です。私たちの社会生活を規律する憲法・民法・刑法等、さまざまな法律の基本を、具体的な事例を通して学ぶことにより、社会生活をおくるに際して必要な法知識が身につきます。

［授業の概要］

授業では、法の概念、日本国憲法の基本原則、平和主義、わが国の政治制度、家庭生活と法、犯罪と刑罰、基本的人権、公害・環境問題等について、裁判で争われた具体的な判例の考察をまじえながらわかりやすく講義します。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第1回：法の概念　⑴人間社会　⑵社会規範　⑶国家と法
第2回：日本国憲法　⑴日本国憲法制定史　⑵基本原理　⑶平和主義
第3回：三権分立　⑴三権分立　⑵国会・内閣　⑶裁判所
第4回：家庭生活と法　⑴親族・親子関係　⑵結婚と法　⑶離婚と法
第5回：犯罪と刑罰　⑴人身の自由　⑵罪刑法定主義　⑶被疑者・被告人・受刑者
第6回：死刑存廃論議　⑴憲法36条　⑵死刑廃止条約　⑶わが国の死刑制度
第7回：憲法25条　⑴社会権　⑵憲法25条　⑶わが国の社会保障制度
第8回：労働三権　⑴労働三権　⑵労働三法　⑶現代社会と労働問題
第9回：消費者問題　⑴日常生活と契約　⑵さまざまな消費者問題　⑶消費者保護法
第10回：不法行為　⑴日常生活と事故　⑵不法行為　⑶国家賠償法
第11回：環境問題　⑴四大公害訴訟　⑵公害対策関連法　⑶環境保全条約
第12回：新しい人権　⑴新しい人権　⑵情報公開法　⑶個人情報保護法
第13回：学校事故と法　⑴学校事故とは　⑵さまざまな事例　⑶事故と被害の救済
第14回：政治参加と法　⑴国民主権　⑵わが国の選挙制度　⑶一票の格差
第15回：憲法改正問題　⑴憲法96条　⑵国民投票法　⑶憲法改正問題をめぐる近年の動向
定期試験：試験の概要は最終回の授業でお伝えします。

［準備学習］

毎回授業終了後、次回の予定は伝えます。テキストの該当ページは、あらかじめ一読して授業に臨んで下さい。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：平野武・平野鷹子『私たちと法』
法律文化社
参考文献：毎回の授業に際しては、補助プリントを配布します。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験（70%）、小テスト及び受講態度（30%）を総合的に評価。60点以上合格。

授業科目名	C(E)HCS203	授業の種類	授業担当者
現代人と宗教		（講義・演習・実習）	九里秀一郎

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・後期	選択

［授業の目的］

宗教はもともと人間生活の中から生まれてきたものであり、生と死について、生きることの意味について、人が理解する営みに根ざしている。この授業では、「人間」と「宗教」の関係と営みについて、現代の課題を十分に踏まえ、伝統的宗教が語り伝えてきたことを学習する。

［授業全体の内容の概要］

スピリチュアルケアの視点から、現代人と宗教の課題について理解を深める。世界宗教の中で最もポピュラーな聖書を概観し、聖書が現代人と宗教の課題にどのように応答するか考察する。

［授業終了時の到達目標］

①現代のスピリチュアルケアにおける宗教的側面を理解する。
②人類の歴史における宗教の役割、宗教の世界的現状を理解する。
③聖書の構成と歴史について理解する。
④旧約聖書、新約聖書の内容について理解を深める。
⑤聖書と現代社会との関係をスピリチュアルな話題を通して理解を深める。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業概要
2．現代人と宗教の課題－1（スピリチュアルケアの意義）
3．現代人と宗教の課題－2（スピリチュアルな健康）
4．現代人と宗教の課題－3（スピリチュアルな課題）
5．世界の宗教（世界宗教、身近なキリスト教）
6．聖書について（構成と歴史）
7．旧約聖書－1（天地創造物語、人間の誕生）
8．旧約聖書－2（カインとアベル物語、人間の罪）
9．旧約聖書－3（律法）
10．旧約聖書－4（預言者）
11．新約聖書－1（イエスの生涯、誕生と死）
12．新約聖書－2（奇跡物語）
13．新約聖書－3（イエスの教え①）
14．新約聖書－4（イエスの教え②）
15．まとめ（スピリチュアルケアと宗教）
レポート

［準備学習］

①プリントと聖書（抜粋）を配布しますので、それを使って予習・復習する。（各2時間、15回）
②「現代人と宗教の課題」「旧約聖書」「新約聖書」について、それぞれ指示された課題についてレポートを作成する。（各10時間、3回）

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：プリント配布
参考文献：聖書（抜粋プリント配布）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業態度：10%
レポート：90%
レポートの講評を行う。

授業科目名	C(E)HCS204	授業の種類	授業担当者
ボランティア・NPO 論		（講義・演習・実習）	大久保秀子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・前期	選択

［授業の目的］

ボランティア活動の原理や考え方の基本について、演習を交えて学ぶことにより、市民としての行動原理について理解するとともに、保育者としての職務において、ボランティアとの間により良い関係を築く視点や留意点を学ぶ。そして、近年、急速に盛んになった多様な NPO 活動の社会的意義や NPO 法人の今後の展開方向について理解を深める。

［授業全体の内容の概要］

ボランティア活動ならびに　NPO 組織と活動についての基礎知識について理解を深めるため、必要に応じてグループ学習も取り入れながらボランティア活動と組織について学ぶ、保育現場でどのような役割を果たせるか、ボランティアコーディネートの役割と重要性について学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

①ボランティア活動の歴史と現代的意義を理解するとともに自らが活動することに関心を持てるようになる。
② NPO 法を理解し、NPO 法人の活動を理解し、その可能性と課題について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ボランティアとは何か
2．ボランティア活動の原理①自発性
3．ボランティア活動の原理②非営利―無償の意義
4．ボランティア活動の原理③社会性・社会貢献性
5．ボランティア活動の原理④創造性の発揮
6．日本におけるボランティアの歴史的展開 1
7．日本におけるボランティアの歴史的展開 2
8．NPO 法の背景と意義
9．NPO 法人の組織的活動の実際と課題
10．NPO 法人の組織と運営
11．NPO・市民活動・ボランティア活動
12．保育・福祉施設におけるボランティアとの協働
13．地域社会とボランティア
14．ボランティアコーディネートの役割と重要性
15．ボランティア・NPO・市民活動の今後
試験・レポート等

［準備学習］

①事前に配付する資料の内、指定箇所を読んでくる。
②授業時に指定された課題を実施する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：授業時に資料配布
参考文献：
川口清史他編『よくわかる　NPO・ボランティア』（ミネルヴァ書房）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（成績評価の方法、基準）試験：60%
課題等：40%
（課題・成績評価のフィードバック）
授業時に事例を提示した課題についてグループ学習を行い、発表を通じて他者の考え方を十分に理解する。したがって、学生個々の考え方を発表できる時間が多く、その中で課題の成果がフィードバックされる。議論の参加姿勢等を含め、受講態度を重視する。

授業科目名	C(E)HCS205	授業の種類	授業担当者
経済学		（講義・演習・実習）	中村　泰治

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・前期	選択

［授業の目的］

1．社会の基礎をなす経済と経済学の歴史を知ること。
2．経済の基本原理を理解すること。
3．社会の基礎をなす政府の経済的役割を理解すること。

［授業全体の内容の概要］

私たちの生活している社会の経済システム（市場経済）を歴史と理論の両面から論じるとともに、現代社会においてますます重要性を増している政府の経済的役割について説明する。

［授業終了時の到達目標］

基本的な経済の仕組みと政府の役割を知ることによって、自分や政府の行う経済活動の社会的な意味や意義を理解できるようにする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．経済と経済システム
2．市場経済の特徴
3．世界市場の成立
4．産業革命と企業活動
5．企業の目標と形態
6．政府の基本的役割
7．市場と価格
8．企業と生産
9．労働市場と家計
10．競争の意義
11．金融の原理
12．財政の仕組み
13．経済成長と現代社会
14．経済政策と現代社会
15．まとめ
試験

［準備学習］

テキストは使用しないが、授業の前に参考文献の関連箇所は読んでくること。また、毎日の経済や財政に関するニュースを関心をもって見聞きすること。

［使用テキスト・参考文献］

テキストは使用しない。参考文献として伊藤元重『はじめての経済学』（日経新聞出版社）をあげておく。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

受講態度など：20%
試験・レポートなど：80%
小テストを実施し返却する。

授業科目名	C(E)HCS206	授業の種類	授業担当者
歴史入門		（講義・演習・実習）	岩本　裕子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・前期	選択

［授業の目的］

過去を知ることは、現在を考える上で欠かせないことであると同時に、将来への展望を描く上にも欠かすことはできない。「歴史に学ぶ」ことを怠ると、現在に迷い、将来に憂うことになりかねない。真摯な気持ちで歴史に向き合いたい。とかく「暗記物」と敬遠されがちな歴史だが、映画を通して考えることによって受講生にとってより身近な問題として取り組ませたい。

［授業全体の内容の概要］

歴史を学ぶとは「暗記する」ことではなく「考える」ことである。21世紀を迎えた地球の現状（環境問題、民族や宗教紛争、貧困問題など）を見る上で原因究明や解決方法模索のためには歴史を学ぶ必要がある。戦争の世紀といわれた20世紀から平和を志向した21世紀に入ったにも拘わらず起こった「9月11日」以来、合衆国ばかりか世界が変わったと言われる。世界の歴史を考える上で、アメリカ史を通して歴史を学んでいく。「9月11日以降の世界を考える」を主たる目的として、20世紀以来残されたドキュメンタリーを含み、事実に基づいたアメリカ映画や身近な音楽を用いて視聴覚にも訴えながら講義を進める。

［授業終了時の到達目標］

現在の日本や世界を考えるために、歴史を学ぶのだという「眼」をもって受講後も、世界の行方や動きを見ていく大学生に成長する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．講義内容紹介：時事ニュースから始める歴史学習
2．旧約聖書から読み解く中東和平：映画『プリンス・オブ・エジプト』
3．ギリシャ神話から知る西洋：映画『トロイ』
4．西洋と東洋の出会いから生まれたヘレニズム文化：映画『アレキサンダー』
5．十字軍が聖地から持ち帰ったものは…：映画『ダ・ヴィンチ・コード』
6．ケルト民族の伝説的英雄：映画『キング・アーサー』
7．大航海時代の始まり：映画『1492・コロンブス』
8．アメリカ先住民の悲劇の始まり：映画『ポカホンタス』と『ニューワールド』
9．アメリカ黒人奴隷貿易の実態：映画『アミスタッド』
10．南北戦争での逃亡奴隷と西方先住民：映画『グローリー』と『ダンス・ウイズ・ウルブス』
11．移民たちの夢「土地獲得レース」：映画『遥かなる大地へ』
12．日米関係を真珠湾攻撃と原爆投下から考える：映画『パール・ハーバー』
13．ハリウッドが描くマッカーシイズム：映画『真実の瞬間』
14．「9月11日」以降の世界を考える：映画『ワールド・トレード・センター』
15．まとめ（歴史入門を通して学習したことの整理）
最終試験

［準備学習］

講義初回で配布する詳細なシラバスに、毎回のテキスト予習頁が記載されている。この部分を熟読してから講義に臨むように心がけること。次回の予習をする前に、前回の該当頁を再度読んで、充実したノートを作るように復習の時間を重ねるようにすること。

［使用テキスト・参考文献］

（テキスト）
岩本裕子『スクリーンに投影されるアメリカ』
（メタ・ブレーン、2003年）
（参考文献）
随時講義で紹介する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
出席重視のため、毎回一問一答のクイズ形式で出席確認用紙を提出する。手書きノート持ち込みの最終試験を主な評価基準とする。
受講態度　20%　　中間レポート　20%
期末試験　60%

授業科目名	C(E)HCS207	授業の種類	授業担当者
文学と人間		（講義・演習・実習）	稲葉　喜徳

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1, 2, 3, 4年次・後期	選択

［授業の目的］

小説や詩歌などの文芸作品は心を豊かにする。様々な生き方や感じ方を知ることにより、自己認識や社会認識を深めることができる。これからの人生にプラスになる作品との出会いを求める「宝探しの旅」である。

［授業全体の内容の概要］

①明治以降のわが国（とりわけ埼玉）を舞台にした小説・詩歌・評論などを読み、②それぞれの社会状況を生きる人々の苦悩と喜びを知り、③「現代」を生きる世代として文学を伴侶とすることの意義を認識する。

［授業終了時の到達目標］

文芸作品の味わい方を学び、文学が人生にとって大きな意味を持つことを理解する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ガイダンス「宝探しの旅」
2．昔話「桃太郎」・福沢諭吉「ひゞのをしえ」・芥川龍之介「桃太郎」
3．石川啄木という教師
4．柳田国男の「遠野物語」を読む
5．坂口安吾の「高麗神社の祭りの笛」（安吾新日本地理）
6．「旅立ちの日に」と「和同遺跡」と「秩父事件」
7．「さいたま文学館」を訪ねる
8．早船ちよ「キューポラのある街」
9．壷井栄「母のない子と子のない母と」
10．無着成恭の「山びこ学校」を訪ねる
11．中村彰彦「二つの山河」―板東俘虜収容所とベートーヴェンの第9
12．井上ひさし「父と暮せば」「ふふふ」
13．「茨木のり子詩集」を読む
14．藤沢周平とニイニイゼミとイザベラ・バード
15．まとめ
レポート作成

［準備学習］

事前に配布された資料を読んでくること。
授業の後で作品についての感想をまとめておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

参考文献：
関田史郎著『文学で歩くふるさと』
（さきたま出版会）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

レポート1　40%
レポート2　40%
受講態度　20%

授業科目名	C(E)HCS208	授業の種類	授業担当者
音楽文化史		（講義・演習・実習）	出口　雅生

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・後期	選択

［授業の目的］

ある社会や集団の中で、音楽がどのような意味を持ち、どのように人々の生活や表現と関わりを持ってきたのか、音楽自体がもつ特徴と人々の「音楽的行為」の両面から理解する。またその音楽を、自身が現在どのように感じ、経験し得るのかを振り返りながら考察を深め、文化の多様性に対する柔らかい感性を養う。

［授業全体の内容の概要］

ジャンル、地域などの視点から、社会と音楽との関わりを捉えやすい事例を、年代順に、実際の音楽とともに紹介する。その音楽的特徴と社会・文化的背景を考察するとともに、聴者としての自身の感覚を内容に取り入れたレポートを作成する。また、テーマに基づいた鑑賞会をグループで企画・実施する。

［授業終了時の到達目標］

①多様な音楽に触れ、その音楽を文化的脈絡の中で理解し、味わう。
②自分自身が未知の音楽文化に接する際の柔軟な姿勢と感性を獲得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．音楽とは（音楽の諸定義）
2．音楽と社会
3．ポピュラー音楽①（1970年代まで）
4．ポピュラー音楽②（1980年代以降）
5．ポピュラー音楽③（日本のポピュラー音楽）
6．西洋クラシック音楽①（古典派以前）
7．西洋クラシック音楽②（古典派からロマン派）
8．西洋クラシック音楽③（近代から現代）
9．日本の伝統音楽①（声を伴う音楽）
10．日本の伝統音楽②（器楽）
11．世界の音楽①（アジア・オセアニア）
12．世界の音楽②（ヨーロッパ・北米・アフリカ・中南米）
13．映画と音楽①（洋画）
14．映画と音楽②（邦画）
15．鑑賞会とまとめ
レポート

［準備学習］

①普段から幅広く音楽に興味を持ち、特に参考資料として挙げるものを聴いておくこと。
②次回の授業で取り上げるトピックについて、基礎的な知識を得ておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：授業中に資料を配布する
参考文献：
村田千尋著『西洋音楽史再入門』春秋社
小泉文夫著『日本の音』平凡社
拓植元一他『はじめての世界音楽』音楽之友社

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

期末レポート70%、その他レポート30%
レポートに評価とコメントをつけて返却する。

授業科目名	C(E)HCS209	授業の種類	授業担当者
美と表現		（講義・演習・実習）	船木美佳・クリスティーヌ・プレ

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・前期,後期	選択

［授業の目的］

美術の世界を体験しながら、自己の想像の枠を拡げ、日常生活において美やその楽しさの発見者となり、それを表現することができるようになる。また環境と時間にあわせ、多様な素材を使いながら、自分の表現力を高めることで、はじめて他者とのコミュニケーションが開けてくることを学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

美術史上の作品を参照しながら、アイデアや発想の着眼点を研究しその表現の多様性を学ぶ。同時に、実践の制作現場においては頭でなく手で「自分もやりたいこと」を探っていく。各課題に対し、時間や素材または環境の制約を、「何ができるか」を絞る条件として捉えることで、発想を柔軟にしていく。

［授業終了時の到達目標］

自分が「何をしたいのか」を、常に実践しながら思考できるようになる。また「何がしたいのか」を明確にすることで、時間の使い方も能動的になることが望ましい。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ガイダンス
2．コラージュ　ディスカッション
3．自画像Ⅰ　リテラシー（美術史より）
4．自画像Ⅱ　制作
5．自画像Ⅲ　制作　ディスカッション
6．○□△による構成を考える　個人ワークとそのプレゼンテーションⅠ
7．○□△による構成を考える　個人ワークとそのプレゼンテーションⅡ
8．○□△による構成を考える　個人ワークとそのプレゼンテーションⅢ
9．身体と動きと空間　自然の中での制作1　リテラシー
10．身体と動きと空間　自然の中での制作2
11．イマジネーションを拡げる　グループワーク
　　シュルレアリスム、民族美術の技法と制作実践1
12．イマジネーションを拡げる　グループワーク
　　シュルレアリスム、民族美術の技法と制作実践2
13．イマジネーションを拡げる　シュルレアリスム、民族美術の技法と制作実践3
14．イマジネーションを拡げる　シュルレアリスム、民族美術の技法と制作実践4
15．総合ディスカッション
提出物　レポートなど

［準備学習］

できればブルーノ・ムナーリの絵本などに触れておくことが望ましい。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：随時指示

参考文献：ブルーノ・ムナーリ画集
　　アンディー・ゴールズワージー画集

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験やレポートの評価基準など）
課題作品　レポート　60%
受講態度　40%

授業科目名	C(E)HCS210	授業の種類	授業担当者
歌舞伎入門		（講義・演習・実習）	高野実貴雄

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・後期	選択

[授業の目的]

2005年にユネスコによって世界遺産となった日本の伝統芸能のひとつである歌舞伎に接し、日本の伝統文化を見なおす。そして歌舞伎の諸様式を理解することで歌舞伎を生涯にわたって楽しめるような基本的な知識を獲得する。

[授業全体の内容の概要]

古典で難解だと思われている歌舞伎を、様々な約束事を知ることによって楽しめるようになるよう、そのきっかけをつくることをめざす。歌舞伎には12種類の様式（武智鉄二）があるとされ、現在、もうひとつの様式が加わりつつある。絶えず変化し、進化している演劇である。この講義では歌舞伎の主人公や、それにまつわる人たちやキー・ワードを毎回、取り上げて、歌舞伎の歴史やそこから生まれた諸様式の特徴を説明し、また、歌舞伎の中のいろいろな約束事を解説し、学生が歌舞伎の世界への関心を深められるよう講義を進める。

[授業終了時の到達目標]

歌舞伎座、国立劇場で観劇した場合、その演目のジャンルの違いによって、主題・演技・演出が違うことを理解できるようにする。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．歌舞伎の特徴（律動性と絵画性）
2．現代の歌舞伎興行（俳優・裏方・音楽集団・興行会社）
3．出雲のお国（歌舞伎誕生と初期歌舞伎）
4．廓文章と封印切と和事（上方歌舞伎）
5．市川団十郎と荒事（江戸歌舞伎）
6．仮名手本忠臣蔵と義太夫狂言の特徴
7．義太夫狂言の展開（丸本歌舞伎）
8．歌舞伎のB·G·M（下座音楽）
9．京鹿子娘道成寺と歌舞伎舞踊のパターン
10．東海道四谷怪談（四世鶴屋南北の生世話）
11．河竹黙阿弥の世話物と江戸浄瑠璃（白浪五人男と直侍と三千歳）
12．勧進帳と松羽目物（明治の歌舞伎）
13．番町皿屋敷と新歌舞伎
14．ヤマトタケルとスーパー歌舞伎（現代の歌舞伎）
15．まとめ（もしくはレポート）

試験

※授業（2回相当分）を歌舞伎座及び歌舞伎座ギャラリーで行う予定。実施日は追って通知する。

[準備学習]

下記の参考文献を予・復習の時、該当項目ごとに読む。ノートを見開きにして、左側に板書、右側に疑問点を書き、調べ解決するようにする。分からない点は教員に積極的に質問し、自己を常に向上させるよう努力する。

次の回のとき、「日本芸術文化振興会」「文化デジタルライブラリー」にアクセスし、読んでくること。

4回 元禄文化と和事、5回 歌舞伎の成立と荒事、9回 歌舞伎舞踊、10回 鶴屋南北、11回 黙阿弥

[使用テキスト・参考文献]

（テキスト）なし、プリントを配布。

（参考文献）

『歌舞伎入門』岩波ジュニア新書

『歌舞伎への招待』岩波現代文庫

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

（試験やレポートの評価基準など）

試験　60%

授業態度　40%

修了時にノート提出。

授業科目名	C(E)HCS211	授業の種類	授業担当者
日本文化		（講義・演習・実習）	高野実貴雄

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・前期,後期	選択

［授業の目的］

江戸期の都市（京・大阪・江戸）の消費過程で発生し進化した落語という笑いの文化を理解し日本の社会における人間関係の基層の文化を理解する。その落語がなぜおもしろいのか、歴史的な背景やことばの面からも解き明かすことで、落語を身近に感じ、よりいっそう深く味わえるようになることを目標とする。

［授業全体の内容の概要］

文化を都市の消費過程で生まれた精神的遺産と定義して江戸期の三都（京・大坂・江戸）で誕生し、進化している笑いの文化としての落語を取り上げる。落語の歴史や江戸の歴史的背景、話芸としての落語の言葉（日本語）の特徴、オチの分類、噺の展開のパターン、下座音楽等を総合的に解説し、落語が何故おもしろいのかを解き明かし、落語をいっそう深く味わうことを目標として講義を進める。また、以上の説明に際して、ビデオ、CD をふんだんに活用するほか、プロの落語家の実演を交えた授業の展開を行う。

［授業終了時の到達目標］

滑稽噺の様々なジャンル、人情噺、新作落語の特質を理解し、日本文化理解の一助となる能力を獲得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．寄席の興行システムと寄席の符牒
2．実際に落語体験（ゲスト　金原亭馬生師匠）
3．落語の構造（マエオキ・マクラ・本題・オチ）
4．滑稽噺 v.s.人情噺
5．落語のマエオキ、マクラ
6．落語の本題のパターン
7．オチの様々Ⅰ
8．オチの様々Ⅱ
9．落語のシグサ（手ぬぐいと扇子の使い方）
10．落語の歴史と亭号
11．正本芝居噺（落語と歌舞伎）
12．上方落語の特質（東京落語との比較を通して）
13．寄席囃子概説（組織と用途）
14．新作落語とは（ゲスト　三遊亭円丈師匠）
15．まとめ
試験

［準備学習］

下記の参考文献で予・復習すること。（大学の図書情報センターに登録）毎回、聴く落語についてコメント（ペーパーによる）を求めるが、授業内でまとめることは困難である。各自、無料動画サイトで、その日の内に、別の演者の同じ落語を聴き、印象の違いを明らかにしまとめる。

第4回までに浅草演芸ホール、鈴本演芸場、池袋演芸場、末広亭の一つを選び、5月上席の昼の部の落語家と色物を区別し、そのリストを提出すること。（それぞれの寄席のホームページにアクセスすること。）

［使用テキスト・参考文献］

（テキスト）
なし、プリントを配布。
（参考文献）
『落語の言語学』平凡社ライブラリー
『落語の歴史』河出書房新社

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
試験　　60%
授業態度　40%
ファイル及びノート提出を試験時に課す。

授業科目名	C(E)HCS212	授業の種類	授業担当者
ジャパノロジー入門		（講義・演習・実習）	高野実貴雄

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・前期,後期	選択

[授業の目的]

グローバル化が急速に進む現在、外国人に日本文化について、聞かれ、説明しなければならない機会や必要性が、近年、とみに高まっていることを感じているだろう。そこで、良く聞かれるトピックだけでなく、「もったいない」（環境問題の解決）等、外国人が見習うべき文明とでも呼ぶべき、日本文化について講義し、個人として、また、それぞれ特定の地域に生きて、生活を営んでいる、日本人のひとりとして、誇りをもって社会で活躍し、外国人に臆することなく、対等に渡り合えるような人材を育成すべきことを本講義のねらいとする。

[授業全体の内容の概要]

日本の文化のありかたは、長い歴史の間に、経済活動（稲作）をベースにして自生的に形成された。それは対人関係、言語、もの、食、思想、芸術、芸能、衣などに具体的に表現されている。本講義では、日本文化の数々の中から、外国人によく聞かれるもの、日本文化をひたすら賞美し、自己満足の世界にひたることなく、世界に輸出すべき、日本文化、地域に誇るべき文化遺産の３本立てでこの講義を構成したい。ただし、下記の予定は、諸般の事情によって順序に変更がありうることを申し述べておく。

[授業終了時の到達目標]

日本文化を多項目に渡って検討することで、対象が自然であれ、社会であれ、その細かな対象との配慮（調和）のあり方について理解を得る。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．日本語にみられる日本文化のありかた１
2．日本語にみられる日本文化のありかた２
3．忠臣蔵と武士道
4．日本人の信仰心
5．市川団十郎と荒事
6．浮世絵の魅力
7．すしの歴史
8．相撲
9．古今和歌集と和歌
10．俳句と歳時記
11．旧制浦和高等学校と寮歌
12．緑区周辺と見沼の歴史
13．見沼探訪１
14．見沼探訪２
15．浦和とサッカー
試験等（レポートに換えることも）

[準備学習]

上記に関する項目について、１項目でもよいから、インターネット、図書館等で調べておくこと。

ノートの左右を１ページとし、左側に板書をし、右側に分からないことを調べ、メモを取る。分からなかった点は教員に質問することを繰り返す。

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：
授業時にプリントを配布。
参考文献：
本名信行　ベイツ・ホッファ編
『日本文化を英語で説明する辞典』有斐閣

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

（試験やレポートの評価基準など）
試験・レポート等　60%
授業態度　40%
レポート時にノート提出。

授業科目名	C(E)HCS213	授業の種類	授業担当者
カナダ文化の理解		（講義・演習・実習）	濱田　康史

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1, 2, 3, 4年次・前期	選択

［授業の目的］

カナダは毎年20万人以上の外国人を移民として受け入れている。これは春日部市や熊谷市の人口と同じくらいの数である。カナダではこうした街が毎年一つ誕生するようなペースで、外国人が新しく暮らし始めている。なぜカナダはこれほど移民の受け入れに積極的なのだろうか。どうしてそんなことができるのだろうか。その利点は何で、課題は何だろうか。世界的な「反移民」の声が聞こえるなか、移民社会の実情を知ることはますます重要になっている。この授業では、こうした問いに対して「多文化主義」をキーワードにさまざまな視点から答えに迫りつつ、あわせてこれからの日本社会を考えるためのヒントを得ることを目的にする。

［授業全体の内容の概要］

地理、歴史、政治、社会などいろいろな視点から、カナダ文化について総合的に講義する。「多文化主義」とはどのようなものか、それがどのような経緯で形成されたのか、文字資料だけでなく、スライドや映像を使って解説する。また、日本やアメリカの社会・文化とも比較することで、カナダの個性について立体的に学んでいく。高校で世界史や政治経済、地理を選択していない学生にも、本授業だけで理解できるように進める。

［授業終了時の到達目標］

カナダに関する基本的な知識を習得する。またこうした異文化理解を通して、自文化についても適度な距離をもってかえりみられるような視点を養う。カナダ研修への参加希望者においては、カナダ社会・文化への興味を深め、その予習となるような総合的な理解を目指す。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション
2．カナダの自然　—広い国土、豊かな生態系、恵まれた資源—
3．カナダの生活　—カナダの春夏秋冬—
4．カナダの歴史①　—先住民から連邦結成まで—
5．カナダの歴史②　—19世紀から現代まで—
6．カナダの政治　—イギリス的伝統の継承—
7．カナダの外交　—PKO が生まれた国—
8．カナダの経済　—アメリカとの微妙な関係—
9．カナダの社会　—多様なエスニシティと言語—
10．カナダの宗教　—世俗化とニューカマー宗教—
11．多文化主義①　—北米の「フランス」ケベック—
12．多文化主義②　—北米の「中国」バンクーバー—
13．多文化主義③　—課題と展望—
14．カナダと日本　—一つ海の両岸で—
15．まとめ
試験もしくはレポート

［準備学習］

①授業前に前回のノートや配布資料を見直す。
②国内外の「異文化」に関する話題やニュースを積極的にチェックする。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：授業時にプリント配布。
参考文献：①日本カナダ学会編『はじめて出会うカナダ』有斐閣　②飯野正子・竹中豊編『現代カナダを知るための57章』明石書店　③細川道久『カナダの歴史がわかる25話』明石書店

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験もしくはレポート：60%
授業への取り組み、毎回のコミュニケーションシートなど：40%

授業科目名	C(E)HCS214	授業の種類	授業担当者
アジアの社会と文化		（講義・演習・実習）	権　賢貞

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・後期	選択

[授業の目的]

アジア社会の形成の歴史の多様さや、多民族の特性にもたらされた多種多様な文化や生活スタイルを講義すると共に、一つ一つの国の生活と文化を取り上げ、その類似点と相違点を理解し、アジア共生社会への移行まで目を向けていく。授業の目標としては、アジア社会の急激な変動及び統合の情勢に対応できる能力を身につけることである。

[授業全体の内容の概要]

1）アジア社会への理解　　2）アジア文化の特徴と魅力
3）東アジア諸国の生活と福祉文化　　4）アジアの共生社会の構築

[授業終了時の到達目標]

①アジア社会への興味を持ち理解する。
②アジア社会の特徴を理解し、その国や文化を尊重する。
③アジアの共生社会であることを認識する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．アジア諸国の概要（地理、歴史、政治など）
2．アジア諸国の経済
3．アジア諸国の教育
4．アジア諸国の福祉
5．アジア諸国の社会と社会問題
6．アジア諸国の民族と多文化社会
7．アジア諸国の伝統文化
8．アジア諸国の食文化
9．アジア諸国の若者文化
10．アジア諸国の結婚文化
11．アジア諸国の言語
12．アジア諸国の言語行動の比較1
13．アジア諸国の言語行動の比較2
14．アジア諸国の非言語行動の比較1
15．アジア諸国の非言語行動の比較2
試験

[準備学習]

授業の最後で毎回の準備学習として参考文献や資料調べ等について指示する。

[使用テキスト・参考文献]

（使用テキスト）毎回プリントを配布
（参考文献）西川長夫『アジアの多文化社会と国民国家』人文書院　1999、萩原康夫『アジアの社会福祉』財団法人放送大学教育振興会　2010、環日本海学科　編『北東アジア事典』2006、服部民夫、金文朝　編『韓国社会と日本社会の変容』

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

授業態度：40%
試験：60%

授業科目名	C(E)HCS215	授業の種類	授業担当者
アメリカの生活と文化		（講義・演習・実習）	岩本　裕子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1, 2, 3, 4年次・後期	選択

［授業の目的］

アメリカ文化を学ぶことにより、「アメリカ化」されたかに見える日本文化といかに異なるかを確認していく。異文化をその生活を通して学んでいく。祝日や宗教的な祭事（ハロウィーンやクリスマス、バレンタインデーなど）に表れたアメリカ社会の様相を、映画を通して理解させたい。

［授業全体の内容の概要］

日本人の生活がアメリカ化された事実を自覚しないまま我々は日々暮らしている。マクドナルドやコカ・コーラ等の表面的なアメリカ文化に留まらず、彼らの生活を知り、アメリカ文化の特殊性を考えていきたい。人種、宗教、民族、ジェンダーといった多文化要因をキーワードにアメリカ社会を考えると、アメリカばかりか世界のありようも見えてくる。アメリカ的生活をする日本人も国民性は大きく異なり、まさに異文化であることが実感されるだろう。ハリウッド映画やヒップ・ホップ等の若者文化を手がかりに日本の次世代に「文化」とは何かを問題提起したい。

［授業終了時の到達目標］

アメリカの祝日や行事を学んだことによって、日本にも入ってきている行事(ハロウィーン､クリスマスなど）に対して、積極的な知的好奇心を持ち続けながら、子どもたちに接することのできる保育者になる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．講義内容紹介：身近なところに見つけるアメリカ文化
2．過ぎ越しの祭：映画『ファミリー・ビジネス』
3．復活祭：映画『イースター・パレード』
4．メモリアルデー：映画『めぐり会えたら』
5．独立記念日：映画『7月4日に生まれて』
6．ワシントン大行進：ドキュメンタリー『勝利を見すえて』
7．レーバーデイ：映画『スタンド・バイ・ミー』
8．コロンブス・デー：映画『1492・コロンブス』
9．ハロウィーン：映画『ET』
10．大統領選挙：映画『パーフェクト・カップル』
11．感謝祭（サンクスギビング・デー）：映画『34丁目の奇跡』
12．クリスマス：映画『ホームアローン2』
13．キング牧師誕生日：映画『ロング・ウォーク・ホーム』
14．セント・パトリック・デー：映画『逃亡者』
15．まとめ（アメリカの生活と文化で学習したことの整理）
最終試験

［準備学習］

講義初回で配布する詳細なシラバスに、毎回のテキスト予習頁が記載されている。この部分を熟読してから講義に臨むように心がけること。次回の予習をする前に、前回の該当頁を再度読んで、充実したノートを作るように復習の時間を重ねるようにすること。

［使用テキスト・参考文献］

（テキスト）
岩本裕子『スクリーンで旅するアメリカ』
（メタ・ブレーン、1998年初版2002年重版）
（参考文献）
随時講義で紹介する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
出席重視のため、毎回一問一答のクイズ形式で出席確認用紙を提出する。手書きノート持ち込みの最終試験を主な評価基準とする。
受講態度　20%　　冬休みレポート　20%
期末試験　60%

人間総合科目

（生命・自然）

授業科目名	C(E)HLS201	授業の種類	授業担当者
自然科学の成立と発展		（講義・演習・実習）	宮城　敦子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・前期	選択

[授業の目的]

近年、若年層の理科離れが進んでいる。原因は理科の授業時間の短縮化、授業内容の簡略化などのほか、背景に有る概念やひらめきに至る思考の積み重ねなどを学ぶ機会が無い事も、科学に対する理解がなかなか進まない一因であると考えられる。この授業では、自然科学を史学的な視点から学ぶことにより、科学とは何か、何故私たちの生活に必要不可欠であるのか、科学を活用する上での問題点は何かを考える思考力を身につける事を目的とする。

[授業全体の内容の概要]

普段、私たちの便利な生活を支える自然科学がもたらした技術がどのようにして発明・発見されてきたか、人は科学技術とどのように向き合って行くべきか、意識したり考えたりする機会は少ないかもしれない。この授業では、現代の私たちの便利な生活を可能にした科学や技術がどのように生まれ、発展してきたかを科学史の視点から考え、これまでに学んで来た科学知識の裏にはどのような背景があったのかを学ぶ。また、近代科学技術の発展がもたらした「近代兵器、地球温暖化を含めた環境問題」など負の側面や科学倫理について学び、自然科学をこれからどのように発展させて行くべきなのか考える。

[授業終了時の到達目標]

これまでの科学の発展の過程を把握するとともに、現在の技術とその問題点について技術的および倫理的観点から自分なりの解決法を意識し考えられるようにする。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．授業のガイダンス、自然科学概論
2．古典科学入門
3．古代ギリシャと哲学
4．宗教と科学
5．ギリシャ・ローマ文明と科学
6．ルネッサンスと科学(1)
7．ルネッサンスと科学(2)
8．アジアの文明と科学
9．近代科学の幕開け
10．近代科学・物理学の発展
11．近代科学・化学の発展
12．近代化学・生物学の発展
13．21世紀の科学
14．地球環境・公害問題
15．科学倫理論
期末試験、小テスト

[準備学習]

中学、高校で学習した自然科学（物理・生物・化学・地学等）の内容をもう一度復習して、自分なりにまとめてみる。史学と重なる部分も多いので、高校で使用した世界史の教科書に目を通しておくと良い。

[使用テキスト・参考文献]

参考文献：
アイリック・ニュート著、猪苗代英穂訳『世界のたね：真理を追い求める科学の物語』NHK 出版

※適宜資料プリントを配布する。

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

授業への取り組み	10%
小テスト	20%
期末試験	70%

授業科目名	C(E)HLS202	授業の種類	授業担当者
生命の倫理		（講義・演習・実習）	宮城　敦子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・後期	選択

［授業の目的］

生命倫理とは何かを講義を通して学ぶ。科学技術に関する原理や手法を学んだり、新聞記事やニュースなどから最新の生命倫理に関わる情報を収集したりすることで、生命倫理は自分自身にも密接に関係している問題であることを理解する。

［授業全体の内容の概要］

臓器移植や再生医療、遺伝子組み換えという言葉は知っていても、それがどのような技術なのか、なぜ行われるか、実際にどのようなことに対して使用されているのかなどについて、詳細まで理解している人は多くない。究極の個人情報である遺伝子をどのように扱うのか、人間とそれ以外の生物では命の価値は違うのか、自分の命についてなど、現在、問題として取り上げられる様々なテーマについて詳細を学習し、新聞などを題材として話し合い、自分はその問題に対してどのような意見を持つか考える。

［授業終了時の到達目標］

生命現象に関わる現在の科学技術に関する知見を得たうえで、生命倫理に関する諸問題において多角的な観点から自分自身で考え、自らの意見を述べることができる。さらに、他者の意見に対する賛否とその理由を論理的に意見できるようにする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業ガイダンス、生命倫理概論
2．生殖補助医療
3．妊娠中絶と胎児の権利
4．クローン技術の進歩
5．動物の倫理
6．幹細胞研究と再生医療への応用
7．がんの告知
8．インフォームド・コンセント
9．尊厳死と安楽死
10．薬物とエンハンスメント
11．臓器移植と生命倫理⑴背景
12．臓器移植と生命倫理⑵問題点
13．医療技術の発展と長寿化
14．脳死移植
15．災害と生命倫理
レポート

［準備学習］

新聞、テレビ、ネットなどの生命倫理にかかわるニュースに関心を持ち、自分の意見を考えておく。

［使用テキスト・参考文献］

参考文献：
黒崎剛「生命倫理の教科書」ミネルヴァ書房、2014

※資料プリントを適宜配布する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
授業態度、提出物：40％
レポート：60％

授業科目名	C(E)HLS203	授業の種類	授業担当者
心理学		（講義・演習・実習）	菅野　陽子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1, 2, 3, 4年次・後期	選択

［授業の目的］

現代のこころの科学としての「心理学」が成立した過程、および心理学は何を目標として、どのような問題を解決しようとしているか、という全般的な見方を伝える。

［授業全体の内容の概要］

全体をとおして、動物と人間の比較の観点を重視している。生物的存在としての「ヒト」と社会的存在としての「人間」と分けて表現しながら、本科目では心理学の多様な側面にふれていく。

［授業終了時の到達目標］

通俗的な「心理学」ではなく、今日の意識と行動を科学的に研究している「心理学」の基礎を理解し、「こころ」について関心を寄せること

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション：心理学の視点（心理学とは　方法と研究）初等実験の一例（ESP）
2．こころのありか：行動の基本様式、発達
3．学習・記憶：条件づけ、記憶、神経学的基礎
4．感覚・知覚：感覚の分化と統合
5．思考・言語：問題解決と認知発達、言語的＆非言語的コミュニケーション
6．心理学の実験：記憶、推論と発見　など
7．動機づけ・情動：達成と自己実現の動機づけ、フラストレーションとコンフリクト
8．個人差：知能、性格、パーソナリティ
9．心理学の実験：夢分析、性格検査　など
10．社会行動：社会行動の意味、対人魅力と対人関係、集団のなかの個人
11．心理学の歴史(1)：こころの概念
12．心理学の歴史(2)：精神医学の影響
13．心理学の歴史(3)：心理学の成立
14．心理学の歴史(4)：科学としての心理学の展開と現在
15．まとめ：振り返り
試験
注）実験は順不同の場合がある

［準備学習］

①次回の授業のテキストの範囲を読み、わからない用語など調べておくこと
②前回の授業の範囲を復習すること
③課題がある時はそれを授業の前までに必ずやってくること

［使用テキスト・参考文献］

使用テキスト：「心理学［第5版］」鹿取廣人／杉本敏夫／鳥居修晃［編］東京大学出版会
参考文献：新聞記事等適宜、授業時にコピーを配布する

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

成績評価の方法・基準：
授業態度　30%　　試験　70%
課題・成績評価のフィードバック：
・小テストは採点して返却する
・振り返りの提出シートはコメントをつけて返却するか、クラス全体に講評を伝える

授業科目名	C(E)HLS203	授業の種類	授業担当者
心理学		（講義・演習・実習）	皆川　順

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・前期	選択

［授業の目的］

ひとが生まれて死ぬまでの人生を心理学的に考察することがねらいである。ひとというものに対して、多面的にとらえていく方法論を学ぶ基本姿勢を作ることが達成目標である。さらにはこの講義を通じて、受講生みずからの生きる喜びや意味を見出していって欲しい。

［授業全体の内容の概要］

心理学はその起源をギリシア哲学に発しており、「こころ」という目に見えない対象を実証的に研究しようという学問である。したがって、その研究方法は、物理学や生物学の方法を応用した自然科学的なものから、哲学や現象学、社会学、歴史学の方法を応用した人文・社会科学的なものまで、さまざまな方法が用いられている。そのために、幅広くできるだけわかりやすい「心理学」の概説が中心になる。今日的な話題について、学生とともに討議する参加型の授業も取り入れる。

［授業終了時の到達目標］

生物－心理－社会を切り口に、人間がひととして「生きる」ということを考察して、人間を温かく心理学的に見つめる目を養う糸口を得る。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション：心理学とは？この授業で学ぶ「心理学」の位置づけ
2．心理学の歴史と内容⑴実験心理学系統
3．心理学の歴史と内容⑵教育心理学系統・臨床心理学系統
4．錯視・学習
5．記憶
6．パーソナリティの理解
7．知能と性格
8．発達
9．対人関係
10．意識と無意識⑴適応とは
11．意識と無意識⑵交流分析
12．社会現象の心理学
13．さまざまな心理療法（自律訓練法他）
14．カウンセリング理論と技法について学ぶ
15．心理学研究法
試験

［準備学習］

適宜、テキストや参考文献の資料を配布するが、次回の授業までにかならず目を通して、必要な場合にはキーワードなど下調べをしておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

（テキスト）
藤本忠明・栗田喜勝他著『ワークショップ心理学』
￥2,000＋税　ナカニシヤ出版
その他、関連資料をプリントで授業ごとに配布する。
パワーポイントによる学習を中心とする。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
期末テスト　80％
授業態度、提出物　20％

授業科目名	C(E)HLS204	授業の種類	授業担当者
生活と環境		（講義・演習・実習）	石川　寿樹

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・前期,後期	選択

［授業の目的］

私たちの生活は地球環境のうえに成り立ち、また環境へも大きく影響を与えている。私たち自身が安全に生活するために、また無駄に自然環境を壊さないために、現代社会が直面している様々な環境問題を科学的に理解し、自らの問題として考えられるようにする。

［授業全体の内容の概要］

科学技術が進歩し私たちの日常生活は大変便利になったが、様々な問題が生じてきた。特に環境問題は全人類的な課題である。本講義では、私たちを取り囲む地球環境の成り立ちを理解するため、自然科学の基礎を学び、さらに現代社会が直面している環境問題を取り上げ、その原因や問題点、対策を科学的な観点から学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

様々な環境問題の科学的側面を理解し、生活との関わりの上での解決方法について自分なりの意見を述べることができることを期待する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業の目的と準備
2．環境とは
3．地球温暖化(1)
4．地球温暖化(2)
5．水と生活環境
6．酸性雨と大気汚染
7．公害と新たな都市環境問題
8．エネルギー問題(1)
9．エネルギー問題(2)
10．生活と化学物質
11．森林破壊と生物多様性
12．放射線とその利用
13．環境問題解決のための新たなアプローチ
14．循環型社会の構築を目指して(1)
15．循環型社会の構築を目指して(2)
期末試験

［準備学習］

近年様々な環境問題が注目され、エコへの意識が高まってきている。各自日常生活の中で見聞きする身近な環境問題・エコについて注目し、事前に考えをまとめておく。

［使用テキスト・参考文献］

毎回プリントを配布する。

（参考文献）
鈴木孝弘著「新しい環境科学」

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
授業態度　40%
期末試験　60%

授業科目名	C(E)HLS205	授業の種類	授業担当者
色彩論		（講義・演習・実習）	菖蒲澤　侑

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・前期	選択

[授業の目的]

個々人の生活体験に基づく色彩への認識を自覚し共有した上で、特に造形芸術に関する色彩理論を学修する。

[授業全体の内容の概要]

古今東西の被服、食事、住居、祭事や神事における色彩の活用例を参照した上で、その活用として、造形芸術やアートプロジェクトにおける色彩の利用例を参照し、古代から現代までの人々と色彩の関係を概観する。その上で、身近な色彩の在り方について調査・分析し、実感に基づく色彩事典を編纂することを目指す。

[授業終了時の到達目標]

自らの色彩感覚とその根拠を自覚すると共に、他者と交流するときや多文化理解につながる古今東西、多様な色彩の知見を得る。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．授業概要の説明
2．私たちの好きな色／嫌いな色／よく使う色について
3．文化の中の色①　日本の色
4．文化の中の色②　他の国の色―1：西洋の色
5．文化の中の色③　他の国の色―2：東洋の色
6．物語の中の色①　古くからある物語
7．物語の中の色②　現代の物語
8．物語の中の色③　他国の物語
9．作品の中の色①　近代以前の作品
10．作品の中の色②　近現代の作品―1：造形作品の中の色
11．作品の中の色③　近現代の作品―2 プロジェクト・アートの中の色
12．自然の中の色　構内での色彩採集
13．色彩事典の編纂①　集めた色を分けてみる
14．色彩事典の編纂②　気になる色を調べてみる
15．色彩事典の編纂③　自分の色を考えてみる
期末レポート提出

[準備学習]

日頃自身の周りにある色について興味を持ち、気になるものがあれば積極的に記録するようにしてください。

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：授業内容に応じて適宜配布。
参考文献：千々岩英彰『色彩学概説』
（東京大学出版会、2001）
目黒区美術館編『色の博物誌』展覧会図録
※青（1992）、赤（1994）、白と黒（1998）、緑（2001）、黄（2004）、江戸の色材（2016）

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

授業中の小レポートの内容（40%）、期末レポート（60%）により評価する。全体の60%以上を満たしていれば合格。

授業科目名	C(E)HLS206	授業の種類	授業担当者
生き物の科学		（講義・演習・実習）	鶴ヶ谷柊子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1, 2, 3, 4年次・後期	選択

［授業の目的］

・講義や観察から、生物の世界を理解する。
・顕微鏡の使用方法やDNAの抽出方法など生物学に不可欠な技術について学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

地球上には様々な生物が存在し、生物であふれている。人間も地球上に存在する生物の一種にすぎない。DNAなど生物の体を構成する物質から生物の集団までを講義や観察を通して学び、さらに現代のバイオテクノロジーについても学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

・様々な生物の世界について理解し、簡単に説明ができる。
・生物の実験、観察についてのレポートが作成できるようになる。
・生物に関する簡単な英文を、辞書を使用しながら読むことができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業概要、生物観察の技術
2．生物の分類①　学名
3．生物の分類②　系統樹
4．魚類の体のつくりの観察
5．カイメンの骨片観察
6．人体
7．細胞
8．植物細胞の観察
9．プランクトンの観察
10．転写・翻訳
11．DNA抽出実験
12．遺伝
13．酵素
14．免疫
15．まとめ
定期試験・レポート

［準備学習］

①講義で行った実験についてまとめ、レポートを作成し提出する。
②講義内容について復習し、理解できなかった部分を明らかにしておく。
③講義内で配布する英文の和訳を行っておく。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：随時、資料を配布する。

参考文献：新版　生物学と人間
赤坂甲治編　裳華房

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

レポート　50%
試験　40%
受講態度　10%
提出されたレポート等は、コメントを入れて返却する。

授業科目名	C(E)HLS206	授業の種類	授業担当者
生き物の科学		（講義・演習・実習）	石川　寿樹

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・前期	選択

[授業の目的]

講義や実験を通じて生物の成り立ちや仕組みを理解する。また遺伝子組み換えや再生医療など最新のバイオテクノロジーの利点や問題点を学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

地球上には微生物から大型動植物まで様々な生物が共存している。講義や実験を通して、DNA やタンパク質など生物の体を構成する物質から、生物の集団までを学ぶ。

[授業終了時の到達目標]

基本的な生物科学の知識を習得し、さらに現代のバイオテクノロジーについてその恩恵と問題点を考える。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．生物とは？なりたちと分類
2．細胞⑴さまざまな細胞とその構造
3．細胞⑵細胞の観察
4．代謝・酵素⑴代謝・呼吸・酵素
5．代謝・酵素⑵酵素のはたらきを調べる
6．光合成のしくみと植物の色素
7．生殖と遺伝
8．DNA と遺伝子⑴遺伝情報の本体
9．DNA と遺伝子⑵細胞から DNA を取り出す
10．血液・免疫・ホルモン
11．神経と脳
12．環境と生物多様性
13．生物の行動と集団
14．バイオテクノロジー⑴遺伝子組換え技術と再生医療
15．バイオテクノロジー⑵利点と問題点
試験

[準備学習]

講義で扱った内容を復習し、理解しておく。

[使用テキスト・参考文献]

教科書は使用しない。
授業中に適宜資料を配布する。

（参考文献）
生物科学入門　石川統著　裳華房

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

（試験やレポートの評価基準など）
受講態度・レポート等：40%
試験：60%

授業科目名	C(E)HLS207	授業の種類	授業担当者
宇宙へのアプローチ		（講義・演習・実習）	袖山　文彰

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・後期	選択

［授業の目的］

人類の宇宙開発の歴史はまだ50年あまりであるが、常に最先端の科学技術を結集して日々進歩している。小惑星探査機「はやぶさ」や日本人宇宙飛行士の国際宇宙ステーション長期滞在などのトピックスを切り口に、宇宙開発の歴史や現状、未来について学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

人類のこれまでの宇宙開発の歴史やロケットが飛ぶしくみ、最先端の宇宙探査などについて解説していく。

［授業終了時の到達目標］

ニュース等で宇宙に関するキーワードに触れたとき、興味・関心を持って接することができるようになる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業概要
2．宇宙はどんなところか？
3．世界の宇宙開発
4．日本の宇宙開発
5．ロケット（種類・仕組み）①
6．ロケット（種類・仕組み）②
7．ロケット（種類・仕組み）③
8．宇宙に行く
9．宇宙ステーション
10．宇宙でのくらし
11．宇宙探査①
12．宇宙探査②
13．宇宙開発からのスピンオフ
14．これからの宇宙開発
15．まとめ
試験・レポート等

［準備学習］

普段から宇宙に関するニュースに関心をもって見聞きすること。
科学館やプラネタリウム等に行ってみる。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト　随時、資料を配布します
参考文献　宇宙開発がまるごとわかる本（学研）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

受講態度　40%
試験・レポート　60%

授業科目名	CHLS208	授業の種類	授業担当者
健康とスポーツ		（講義・演習・実習）	青木　秀雄

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	1,2,3,4年次・前期	選択	保育士必修 幼稚園教諭必修

[授業の目的]

健康についての基本的な知識を習得し、生涯を通じて心身ともに健康でいるためには何が必要なのか、どんなことに気を付けて生活していけばよいのかを自分の生活を振り返りながら実践的に理解していく。

[授業全体の内容の概要]

我が国における健康についての様々な問題について現状を把握し、その要因等を探り、考察することによって、自らの健康についての関心を高めていく。また、保育士・幼稚園教諭として、子どもの健康を支える様々な保育活動を総合的に捉えていく授業を行う。

[授業終了時の到達目標]

「生涯を通じて心身の健康を保つためには、どうしたらよいのか」というテーマに沿って、学びを深め、健康の保持増進のためにはスポーツや正しいライフスタイルが必要なことを認識していく。また子どもの健康を支えるにはどうしたらよいのかを考える力を養っていく。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1.（ガイダンス）「健康とは」
2.「自分のライフスタイルを認識する①」
3.「生活習慣病①」
4.「生活習慣病②」
5.「健康とレジャー・レクリエーション①」
6.「健康と食習慣」
7.「健康と睡眠」
8.「健康とストレス（心の問題について）」
9.「自分のライフスタイルを認識する②」
10.「健康と運動①」
11.「健康と運動②」
12.「健康とレジャー・レクリエーション②」
13.「現代の子どもの健康について①」
14.「現代の子どもの健康について②」
15.「生涯スポーツへ向けて」
定期試験・レポート等

[準備学習]

事前に参考文献等に目を通し、当該の内容について自分なりの考えをもって授業に臨んでほしい。

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：特に使用しない。（※毎回の授業でプリントを作成・配布して参考資料とする。）
参考文献：「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」
・「健康と運動の科学」大修館書店
・「健康・スポーツ科学講義（第２版）」杏林書院
・「子どもの遊び・運動・スポーツ」市村出版
※その他を適宜紹介する。

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

※定期試験の結果（60%）とともに、レポートの内容（30%）、授業に参加する態度（10%）の総合的な見地により評価する。

授業科目名	EHLS208	授業の種類	授業担当者
健康とスポーツ		（講義・演習・実習）	青木　秀雄

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭必修
15回	30時間・2単位	1年次・後期	必修	

［授業のテーマ及び到達目標］

「生涯を通じて心身の健康を保つためには、どうしたらよいのか」というテーマに沿って、学びを深め、健康の保持増進のためにはスポーツや正しいライフスタイルが必要なことを認識していく。また子どもにかかわる者として、自らの健康を支える重要性を自覚し、そのための知識や工夫について考える力を養う。

［授業の概要］

我が国における健康についての様々な問題について現状を把握し、その要因等を探り、考察することによって、自らの健康についての関心を高めていく。併せて、主として子どもの健康を支える様々な取組を総合的に捉え得ることができるよう授業を行う。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第１回：（ガイダンス）健康とは
第２回：自分のライフスタイルと健康状態を認識する
第３回：現代の若者・子どもの健康とスポーツ
第４回：生活習慣病①　生活習慣病の基礎知識
第５回：生活習慣病②　生活習慣病の予防とライフスタイル・スポーツ
第６回：健康と食習慣
第７回：健康と睡眠
第８回：健康とストレス（心の問題について）
第９回：健康と運動①　健康維持とスポーツ
第10回：健康と運動②　心の健康とスポーツ
第11回：健康とレジャー・レクリエーション①　レクリエーションの効果
第12回：健康とレジャー・レクリエーション②　スポーツ・レクリエーションの実際
第13回：現代の子どもの健康について①　遊びとスポーツ
第14回：現代の子どもの健康について②　身体発達とスポーツ
第15回：生涯スポーツの定着へ向けて
定期試験・レポート等

［準備学習］

我が国の健康にかかわる諸問題について考え、問題意識をもって授業に臨んでほしい。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：特に使用しない。（※毎回の授業でプリントを作成・配布して参考資料とする。）

参考文献：
・徳永幹雄『健康と運動の科学』大修館書店
・出村慎一『健康・スポーツ科学講義（第２版）』杏林書院
・浅見俊雄・福永哲夫編『子どもの遊び･運動･スポーツ』市村出版
※その他を適宜紹介する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験の結果（60%）とともに、レポートの内容（30%）、授業に参加する態度（10%）の総合的な見地により評価する。総合して60点以上を合格とする。

授業科目名	CHLS109	授業の種類	授業担当者
体育実技		（ 講義・演習・(実習) ）	北原　澄高

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	1年次・後期	選択	保育士必修 幼稚園教諭必修

[授業の目的]

・技術の向上ではなく、様々な課題に積極的に取り組む姿勢を養う。
・仲間と協力して、一つの作品を創り上げる。

[授業全体の内容の概要]

この授業では、子どもの運動能力の発達段階を知り、それぞれの段階に応じた運動あそびを考え、実践する。また、表現あそびやリズムあそび、ダンス、ゲームなどの様々な活動を通して、動くことの楽しさを知り、積極的に運動に参加できる態度を養う。そして、保育の現場に即した運動あそびや態度を学ぶとともに、将来、安全面に配慮した指導を行うことができるよう、器具・用具などの安全な使用方法を学ぶ。これらの学習を進めながら、保育者として自らに求められる基礎体力に目を向けさせ、それを身につけることができるよう指導する。

[授業終了時の到達目標]

・安全面に配慮した上で、子どもの運動能力の発達段階に応じた運動遊びを実践できる。
・積極的に運動に参加できる態度および協調性を習得する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．オリエンテーション・コミュニケーションゲーム
2．体操・ゲーム・運動あそび(1)
3．体操・ゲーム・運動あそび(2)
4．体操・ゲーム・運動あそび(3)
5．体操・ゲーム・運動あそび(4)
6．器具・用具を使っての運動あそび(1)
7．器具・用具を使っての運動あそび(2)
8．器具・用具を使っての運動あそび(3)
9．器具・用具を使っての運動あそび(4)
10．表現あそび・ダンス(1)
11．表現あそび・ダンス(2)
12．表現あそび・ダンス(3)
13．表現あそび・ダンス(4)
14．表現あそび・ダンス(5)
15．創作ダンス発表会（実技試験）

マット・平均台・跳箱・鉄棒・ボール・フラフープ・プレイバルーン・縄

[準備学習]

「数年後には、自分が保育士もしくは幼稚園教諭になる」という自覚を持って参加することが望ましい。運動の出来る服装で参加すること。（第1回目に限り、私服でも可。）

[使用テキスト・参考文献]

特にテキストは指定しないが、下記参考文献を予習・復習に活用してほしい。
（参考文献）
・前橋明『0～5歳児の運動あそび指導百科』2004年、ひかりのくに、￥2500
・西洋子ほか『子ども・からだ・表現～豊かな保育内容のための理論と演習～』2003年、市村出版、￥2200

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

意欲・態度・準備　40%
実技試験　30%
レポート　30%

授業科目名	EHLS109	授業の種類	授業担当者
体育実技		（ 講義・演習・(実習) ）	林　園子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭必修
15回	30時間・1単位	1年次・前期	必修	

［授業のテーマ及び到達目標］

各スポーツ種目の実践を通して自己の身体を理解し、健康の保持増進及び体力の向上に必要な技能を身につける。また、練習・ゲームにおいてルールやマナーを学び、仲間との協調性を養う。

［授業の概要］

高校までに触れたスポーツ及び新しいスポーツを実践できるようにし、身体を動かすことの楽しさを味わわせ、自分自身及び仲間の健康や体力に配慮できるようにする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第1回：アイスブレーキング・仲間づくり

第2回：体つくり運動　自分の身体への気づき

第3回：体つくり運動　仲間との交流

第4回：ネット型スポーツ　バドミントン（シングルス　ルール　審判法）

第5回：ネット型スポーツ　バドミントン（ダブルス　ルール　審判法）

第6回：ネット型スポーツ　バドミントン（ゲーム　戦術を考える）

第7回：ゴール型スポーツ　バスケットボール（ボール慣れ　基礎練習　簡易ゲーム）

第8回：ゴール型スポーツ　バスケットボール（基礎練習）

第9回：ゴール型スポーツ　バスケットボール（ゲーム　戦術を考える）

第10回：縄を使った運動　短なわとび（課題に挑戦）

第11回：縄を使った運動　大なわとび（ダブルダッチを含む）

第12回：縄を使った運動　短なわとびと大なわとびを合わせた運動

第13回：ニュースポーツ　フライングディスク（投げ方　基礎練習）

第14回：ニュースポーツ　フライングディスク（アルティメット　ルール　ゲーム展開方法）

第15回：ニュースポーツ　フライングディスク（アルティメット　ゲーム　審判法）

［準備学習］

体力及びスキルに自信がない者は、日常生活において積極的に体力・スキル向上に取り組むこと。また、次回の授業までに、学んだルールやスキルを理解した上で臨むこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
特になし。
参考文献：
参考にして欲しい本や文献は、授業において紹介する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

運動種類別の運動スキルやルールの理解度などについての小テスト（60%）、授業への取り組み姿勢（20%）、協調性（技能の有無ではなく、グループ活動における協力性、準備・後かたづけなど）：20%。総合して60点以上を合格とする。

人間総合科目
（コミュニケーション）

授業科目名	C(E)HSC201	授業の種類	授業担当者
コミュニケーションスキル		（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	柴田　崇浩

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・ 1 単位	1, 2, 3, 4年次・前期	選択

［授業の目的］

対人コミュニケーションの様々な理論を学び、体験的に学習することを通して、自他理解を深め、社会に通用する対人スキルを獲得する。

［授業全体の内容の概要］

社会とは何かと聞かれれば、私たちにとって最も身近な社会は“人”であり、“人間関係”であると考えられます。そのため、よりよい人間関係を築くことは、社会でうまくやっていくことに直結することになります。この演習では、よりよい人間関係を築くきっかけを得るべく、様々な対人コミュニケーションを体験的に学びます。授業では、参加する様々な人たちと共に演習に取り組んでいきますので、自分を表現する勇気を少し持って参加していただけたらと思います。

［授業終了時の到達目標］

体験的に自他理解をとおして、コミュニケーションの再考と再構成化を行い、社会性を獲得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション
2．エクササイズⅠ
3．コミュニケーションと自己理解
4．コミュニケーションと他者理解
5．パーソナル・スペースと対人関係
6．コミュニケーションと対人距離
7．コミュニケーションと自己表現
8．コミュニケーション演習 1
9．コミュニケーション演習 2
10．エクササイズⅡ
11．グループワークⅠ
12．グループワークⅡ
13．コミュニケーション演習 3
14．コミュニケーション演習 4
15．まとめ
期末レポート

［準備学習］

演習で学習した内容を、普段の日常生活で意識的に用いて対人コミュニケーションをするように心がけること。また、他者の行為を詳細に観察し、コミュニケーションのパターンや行動の予測を行うようにすること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：授業内でプリント配布
参考文献：渋谷昌三「人と人との快適距離―パーソナル・スペースとは何か」NHK　ブックス　1990
國分康孝、縫部義憲「教師と生徒の人間作り　エクササイズ実践記録集　第１～５集」
瀝々社　1987

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業への取り組み：30%
授業内レポート・課題提出：40%
期末レポート：30%

授業科目名	C(E)HSC202	授業の種類	授業担当者
アートコミュニケーション		（ 講義・演習・実習 ）	船木　美佳

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	1,2,3,4年次・前期	選択

［授業の目的］

この授業では、ワークショップを通して「対話」をもち、グループ内の相互作用から学びを深めます。ひとりひとりが「自分」の意見や考えを持ち、お互いがその違いを受容する時、コミュニケーションが開けていきます。そのためには、まずは自分自身とコミュニケーションを図ることの重要さを知ります。

［授業全体の内容の概要］

「ワークショップとは何か」を理論と実践で学びます。その後、グループに分かれ自分たちで目標設定・企画から実施まで実験的に行い、実施者／参加者／観察者の３役をお互いで経験します。各回、フィードバックをしながら、現場で学んだことを共有します。なお実践はグループワークですが、いずれも、ひとりひとりが観察と考察を繰り返します。

［授業終了時の到達目標］

コミュニティの中で、「自分」をどのように表現し、形成していくか意識を高める。またコミュニケーションにおいて自分の課題を明確にしていくこと。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ガイダンス
2．ワークショップとは何か①　基礎理論
3．ワークショップとは何か②　実践１
4．ワークショップとは何か③　実践２
5．ワークショップとは何か④　実践３
6．グループにてワークショップ実践Ⅰ①　目的設定
7．グループにてワークショップ実践Ⅰ②　企画
8．グループにてワークショップ実践Ⅰ③　実践
9．グループにてワークショップ実践Ⅰ④　振り返り
10．全体　振り返りⅠ　対話
11．グループにてワークショップ実践Ⅱ①　目的設定
12．グループにてワークショップ実践Ⅱ②　企画
13．グループにてワークショップ実践Ⅱ③　実践
14．グループにてワークショップ実践Ⅱ④　振り返り
15．振り返りⅡ　対話
試験：レポート提出

［準備学習］

受講中は積極的・能動的な態度が望ましい。

［使用テキスト・参考文献］

参考文献：
ワークショップと学び１　まなびを学ぶ
ワークショップと学び２　場づくりとしての学び
ワークショップと学び３　まなびほぐしのデザイン

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
学習態度（能動性など）：40%
レポートなど提出物：60%

授業科目名	CHSC103	授業の種類	授業担当者
コンピュータリテラシⅠ(基礎)		（ 講義・(演習)・実習 ）	内田　徹・鶴ヶ谷柊子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	1年次・前期	必修	幼稚園教諭必修

[授業の目的]
・コンピューターを実際に使用することから特徴を把握し、有効性を伝えられるようにする。
・コンピューター操作の基本的な技能（Word）を身につける。

[授業全体の内容の概要]
現代において、コンピューターの使用は不可欠なものとなっている。そこで、多くの現場で使われているWordを用いて分かりやすい文書を作成する方法を学ぶ。また、情報倫理について理解し、電子メールやインターネットを使う際のマナーについても学ぶ。

[授業終了時の到達目標]
・情報倫理について理解し、ルールを守ってコンピューターを使うことができる。
・インターネットを用いた検索ができる。
・電子メールの送受信（添付ファイルを含む）ができる。
・Wordを用いて文書作成、プレゼンテーション作成ができる。
・30分で600文字以上の文字入力ができる。・生活科の授業の意義を理解できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数

1．授業概要、情報倫理について
2．電子メール・インターネットについて
3．Windowsについて・Word（日本語入力）
4．Word（書式）
5．Word（図の挿入）
6．Word（表の挿入）
7．Word（フォント・拡張書式）
8．Word（ワードアート）
9．Word（課題）
10．Word（プレゼンテーションとは）
11．Word（プレゼンテーション準備1）
12．Word（プレゼンテーション準備2）
13．Word（プレゼンテーション1）
14．Word（プレゼンテーション2）
15．まとめと入力テスト
試験

[準備学習]
①講義の前後に講義内で説明された操作について確認し、使用できるように練習しておく。
②正確で迅速な文字入力ができるよう、常に練習を行う。
③課題を行う際に必要となる配布資料を整理しておく。

[使用テキスト・参考文献]
テキスト：随時、資料を配布する。
参考文献：Word 2010 Excel 2010 PowerPoint 2010 ステップアップラーニング(技術評論社)

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]
試験　60%
提出物　30%
受講態度　10%
提出物には、コメントを入れて返却する。
試験の不合格者には補習を行う。

授業科目名	EHSC103	授業の種類	授業担当者
コンピュータリテラシⅠ（基礎）		（ 講義 ・演習・ 実習 ）	内田　　徹

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭必修
15回	30時間・1単位	1年次・前期	必修	

［授業のテーマ及び到達目標］

情報収集や他者とのコミュニケーション、文書作成に必要なソフトウェアを操作できる。
情報セキュリティや著作権、個人情報保護等について説明でき、コンピュータを安全に利用できる。

［授業の概要］

現代の情報化社会におけるコンピュータリテラシとして求められるインターネットや電子メール、Microsoft Word 等の基本的なソフトウェアの操作方法、および情報セキュリティや個人情報の保護、著作権等のコンピュータの安全な利用方法について学ぶ。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数
授業計画

第1回：授業の概要の説明―情報機器の利用状況や情報セキュリティ、著作権等に関するアンケート
第2回：コンピュータの基礎知識―コンピュータの5大装置、PC の周辺機器と使用方法、OS の操作
第3回：インターネットの利用方法と情報検索、およびその仕組み
第4回：情報セキュリティ(1)―コンピュータウィルス、脆弱性、暗号化
第5回：電子メールの利用方法とネチケット
第6回：情報セキュリティ(2)―スパムメール対策、個人情報の保護
第7回：コピー＆ペーストと著作権
第8回：Microsoft Word(1)―基本操作、ファイルの作成・保存方法、基礎的な文書の作成
第9回：Microsoft Word(2)―ページ設定、文字の編集（フォント、大きさ、装飾等）
第10回：Microsoft Word(3)―インデント、行揃え等の使い方
第11回：Microsoft Word(4)―クリップアート、図表描画
第12回：Microsoft Word(5)―画像や罫線、表の挿入方法
第13回：デジタル画像の活用方法(1)―解像度、色、印刷
第14回：デジタル画像の活用方法(2)―プリンタ、スキャナー、デジタルカメラ
第15回：コンピュータの安全な利用方法
定期試験

［準備学習］

授業の展開に応じて紹介する事例や最新の動向等について調査し、基本的なソフトウェアを用いてレポートを作成する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：授業の展開に応じて、資料や文献コピーを適宜、配布する。
参考文献：岡本薫『著作権の考え方』岩波新書、小泉直樹『知的財産法入門』岩波新書、等。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業ごとの課題（40%）、定期試験（60%）。総合して60点以上合格。

授業科目名	CHSC204	授業の種類	授業担当者
コンピュータリテラシⅡ(応用)		（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	内田徹・鶴ヶ谷柊子・袖山文彰

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	1年次・後期	選択	幼稚園教諭必修

[授業の目的]
・コンピューターを実際に使用することから特徴を把握し、有効性を伝えられるようにする。
・コンピューター操作の基本的な技能（Excel•PowerPoint）を身につける。
・ホームページの作成ソフトの基本操作を身につける。

[授業全体の内容の概要]
現代において、コンピューターの使用は不可欠なものとなっている。そこで、多くの現場で使われているソフトを用いて、分かりやすい表やプレゼンテーションを作成する方法、ホームページを作成する方法を学ぶ。

[授業終了時の到達目標]
・表計算ソフトを用いて、表の作成、計算、グラフの作成ができる。
・インターネットやホームページの仕組みを理解する。
・ホームページ作成ソフトを用いた簡単なホームページ作成ができる。
・効果的なプレゼンテーション方法について理解する。
・プレゼンテーション作成ソフトの使い方を理解し、プレゼンテーションを行うことができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数

1．Excel　基本操作
2．Excel　表の作成
3．Excel　差し込み印刷
4．Excel　グラフの作成
5．Excel　データの並べ替え・計算
6．ホームページの作成　ネットワークの仕組み
7．ホームページの作成　自己紹介ホームページの作成
8．ホームページの作成　自己紹介ホームページの紹介
9．Excel　入力試験
10．PowerPoint　基本操作1　プレゼンテーションの作り方
11．PowerPoint　基本操作2　アニメーション
12．PowerPoint　プレゼンテーション準備1
13．PowerPoint　プレゼンテーション準備2
14．PowerPoint　プレゼンテーション1
15．PowerPoint　プレゼンテーション2
試験

[準備学習]
①授業の前後に授業内で説明された操作について確認し、使用できるように練習しておく。
②課題を行う際に必要となる配布資料を整理しておく。
③プレゼンテーションを作成するための資料を集める。

[使用テキスト・参考文献]
テキスト：随時、資料を配布する。
参考文献：Word 2010 Excel 2010 PowerPoint 2010 ステップアップラーニング(技術評論社)

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]
試験　50%　　発表　30%
提出物　10%　　受講態度　10%
提出物には、コメントを入れて返却する。
試験の不合格者には補習を行う。

授業科目名	EHSC204	授業の種類	授業担当者
コンピュータリテラシⅡ（応用）		（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	内田　　徹

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭必修
15回	30時間・1単位	1年次・後期	必修	

［授業のテーマ及び到達目標］

表計算やプレゼンテーションソフトを用いて資料を作成できる。HP作成ソフトを用いて、スマートフォンやタブレット端末で撮影した画像や動画を取り込んだHPを作成できる。

情報化社会におけるコンピュータリテラシとして、パソコンやタブレット端末、電子黒板やデジタル教科書等の教育ICTにコンピュータや学んだソフトウェアが活用・応用されていることがわかる。

［授業の概要］

表計算やプレゼンテーション、画像・動画処理、HP作成等の応用的なソフトウェアの知識と操作について実技演習を通して学ぶ。また、インターネットを用いて教育ICTの活用事例について情報収集し、学んだソフトウェアを複数用いて、その結果を発表・検討する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第1回：授業の概要の説明：使用ソフトウェアの紹介、ICT活用事例に関するアンケート
第2回：Microsoft Excel⑴：表計算ソフトの活用例の紹介、基本操作、データの入力
第3回：Microsoft Excel⑵：ページ設定、文字の編集（フォント、大きさ、装飾等）
第4回：Microsoft Excel⑶：グラフの作成
第5回：ホームページの作成⑴：HTMLの基本構造、基本的なタグの知識、作成の手順
第6回：ホームページの作成⑵：基本的なホームページの作成、文字の変更、リンクを張る
第7回：ホームページの作成⑶：複数ページのリンク、ナビゲーションのテクニック
第8回：ホームページの作成⑷：テーブルによるレイアウト、スタイルシートの基礎知識
第9回：デジタル画像・動画の活用方法⑴―スライドショーやビデオの取り込み
第10回：デジタル画像・動画の活用方法⑵―動画の編集やオーディオの追加
第11回：Microsoft PowerPoint⑴―基本操作
第12回：Microsoft PowerPoint⑵―画像・音声・アニメーションの貼り付け
第13回：Microsoft PowerPoint⑶―効果的なプレゼンテーションの基礎知識
第14回：著作権と知的財産権
第15回：教育ICTの活用について
定期試験

［準備学習］

授業の展開に応じて紹介する事例や最新の動向等について調査し、基本的なソフトウェアを用いてレポートを作成する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：授業の展開に応じて、資料や文献コピーを適宜、配布する。
参考文献：日本視聴覚教育協会「教育ICTの活用事例集」等。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業ごとの課題（40%）、定期試験（60%）。総合して60点以上合格。

授業科目名	C(E)HSC105	授業の種類	授業担当者
英語コミュニケーションA(こどもの文化)		（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	岩本　裕子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	保育士選択 幼稚園教諭選択 小学校教諭選択
15回	30時間・1単位	1,2,3,4年次・前期,後期	選択	

[授業のテーマ及び到達目標]

地球共通語として、あらゆる国の人々とのコミュニケーション手段となる英語を、嫌うことなく積極的に学び、教育現場で向き合うことになる児童たちにも、英語学習の学びが楽しいことだと伝えられるような教員になってほしい。

[授業の概要]

初等教育の場では、読み書き、文法などよりもまず聴力養成が優先されることだろう。コミュニケーションの現場でも、会話力以前に聴力が必要とされる。話すことより聴くことが言語能力向上には必須条件となる。その能力を高めるために、映画を題材にする。アメリカ生まれながら日本で絶大な人気を誇るディズニー映画を、吹き替えではなく英語で見聞きしながら、こどもの文化理解を進めていきたいと思う。主として学生による研究発表を中心に授業を進めていくことになる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

授業計画

第１回：英語コミュニケーション（こどもの文化）とは？（講義内容紹介）
第２回：低年齢での英語学習の意味を考える
第３回：歌を題材として、英語を耳で聴き、歌う　①　♪When you wish upon a star
第４回：歌を題材として、英語を耳で聴き、歌う　②　♪Happy Working Song
第５回：歌を題材として、英語を耳で聴き、歌う　③　♪Part of your world
第６回：映像（映画）を題材として、英語だけでなく、こどもの文化を学ぶ　①　Toy Story
第７回：映像（映画）を題材として、英語だけでなく、こどもの文化を学ぶ　②　Finding Nemo
第８回：映像（映画）を題材として、英語だけでなく、こどもの文化を学ぶ　③　Lilo & Stitch
第９回：映像（映画）を題材として、英語だけでなく、こどもの文化を学ぶ　④　Monster's Inc.
第10回：「ディズニー」と「こども」の接点から英語の大切さを知る　①　Bambi の母との別れ
第11回：「ディズニー」と「こども」の接点から英語の大切さを知る　②　Dumbo が空を飛ぶ！
第12回：「ディズニー」と「こども」の接点から英語の大切さを知る　③　Pinocchio が人間になる！
第13回：低年齢での英語学習とディズニー文化の効果を確認する　①　TDL キャラクターを通して
第14回：低年齢での英語学習とディズニー文化の効果を確認する　②　TDS アトラクションを通して
第15回：まとめ（ディズニー映画に関するドキュメンタリーを使った講義最終確認）
定期試験

[準備学習]

ディズニー映画ばかりか、日常的にアメリカ映画を見るときには、必ず英語（日本語字幕付き）で見聞きするようにする。吹き替えで見る習慣があった学生は、この授業を契機に、映画で英語を聞くように切り替える。英語力とは聴力を意味する。耳に英語をなじませることが準備学習である。

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：特に指定はせず、授業の展開に応じて、その都度配布する。
参考文献：『ディズニーアニメーション大全集』（集英社、2008年）など

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

期末試験（60%）受講態度（20%）ファイルノート提出（20%）総計して60点以上を合格とする。

授業科目名	C(E)HSC106	授業の種類	授業担当者
英語コミュニケーションB(日常会話)		（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	岩本　裕子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	保育士選択 幼稚園教諭選択 小学校教諭選択
15回	30時間・1単位	1,2,3,4年次・前期,後期	選択	

[授業のテーマ及び到達目標]

地球共通語として、あらゆる国の人々とのコミュニケーション手段となる英語を、嫌うことなく積極的に学び、教育現場で向き合うことになる児童たちにも、英語学習の学びが楽しいことだと伝えられるような教員になってほしい。

[授業の概要]

英語を嫌う学生が多い一方、現実には英語を使えなければ海外へ出られず、日本国内でも外国人との意思疎通が困難になっているのが21世紀の日本の現状である。「日常会話程度なら話せる」という表現があるが、これこそが難しい。日常会話をこなすためには、英語力だけでなく異文化理解能力も問われるからである。授業では単に語学力向上にとどまることなく、異文化理解を積極的に指導していく。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

授業計画

第１回：英語コミュニケーション（日常会話）とは？（講義内容紹介）

第２回：まずは自己紹介から始めよう！　Relax and smile!

第３回：英語圏にホームステイするとしたら①　ホストファミリーに挨拶を！

第４回：英語圏にホームステイするとしたら②　異文化の中で暮らすとは？

第５回：身体の部位を英語で言ってみよう！♪Head, shoulders, knees and toes

第６回：家系図を作り、家族関係を英語で表現しましょう！Family Tree

第７回：家族に関する英文を読んで、アメリカの家族のあり方を知ろう！

第８回：身の回りの英語を探そう！沢山あふれる英語表現を学ぶ①　ノートパソコンは英語じゃない！

第９回：身の回りの英語を探そう！沢山あふれる英語表現を学ぶ②　交通機関の「回送」は英語で何？

第10回：初めての海外旅行をするとしたら①　食事の注文はできる？

第11回：初めての海外旅行をするとしたら②　チップの習慣を学ぼう！

第12回：言葉でなくジェスチャーで会話はできる。異文化体験をしてみよう！

第13回：つづり字コンテストについて学ぶ（映画やミュージカルを通して）

第14回：つづり字コンテスト（Spelling Bee）に挑戦！

第15回：まとめ（これまでに覚えた日常会話表現の整理）

定期試験

[準備学習]

授業時間内に限らず、常に身の回りにある「英語」に敏感になってアンテナを伸ばし、見聞きしてほしい。見聞きしたものは、その場でメモする習慣をつけ、語学学習は24時間、世界中どこにいても続いていることを自覚してほしい。それこそが準備学習である。

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：特に指定はせず、授業の展開に応じて、その都度配布する。

参考文献：NHK テレビ・ラジオ英会話テキストに代表される各種英会話教材

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

期末試験（60%）受講態度（20%）ファイルノート提出（20%）総計して60点以上を合格とする。

授業科目名	C(E)HSC107	授業の種類	授業担当者
中国語コミュニケーション		（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	金　　佳

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	保育士選択 幼稚園教諭選択 小学校教諭選択
15回	30時間・1単位	1,2,3,4年次・前期,後期	選択	

［授業のテーマ及び到達目標］
・授業のテーマ：中国語の聞き取りと発音、初級レベルの中国語文法及び会話。
・到達目標：中国語で簡単なコミュニケーションができるようになること。

［授業の概要］
日本語と比較しつつ、中国語に関する基礎知識を取り上げる。4技能（聞く・話す・読む・書く）の中で、特に聞くことと話すことに重点を置く。また、独学で中国語を勉強できる方法等も教授する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数
授業計画
第１回：講義内容の紹介と中国語の発音（その１：母音とアクセント）
第２回：中国語の発音（その２：子音・重母音）
第３回：中国語の発音（その３：鼻母音と発音のまとめ）と挨拶
第４回：自己紹介
第５回：友達を紹介する。
第６回：家族のことを話す。
第７回：復習とロールプレイ（その１：挨拶と自己紹介について）
第８回：どこに何があるかを伝える。
第９回：どこに住んでいるかを伝える。
第10回：復習とロールプレイ（その２：住まい、場所について伝える）
第11回：趣味について話す。
第12回：何ができるかを伝える。
第13回：相手をほめる。
第14回：復習とロールプレイ（その３：趣味と相手について話す）
第15回：まとめ
定期試験

［準備学習］
授業の後に、宿題とテスト準備を完成すること。

［使用テキスト・参考文献］
テキスト：
山田眞一著『たのしくできる中国語』白水社
参考文献：
オンライン中国語学習
http : //www.ch-texts.org/index.html

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］
定期試験（60%）、宿題・小テスト（40%）。
総合して60点以上を合格。

授業科目名	C(E)HSC108	授業の種類	授業担当者
韓国語コミュニケーション		（ 講義 ・演習・ 実習 ）	権　賢貞

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	保育士選択 幼稚園教諭選択 小学校教諭選択
15回	30時間・1単位	1,2,3,4年次・前期,後期	選択	

［授業のテーマ及び到達目標］

韓国語の仕組みを理解しハングル（文字）の読み書きができるとともに、基本的な会話ができるようになる。また、韓国の社会や文化についての知識を深める。

［授業の概要］

韓国語の文字の仕組みを学びハングルの読み書きができるようにする。韓国語の基本的な挨拶をはじめ、日常会話に必要な願望・依頼・勧誘表現などの習得を目指す。写真や映像などを通して韓国の生活習慣、社会・文化に触れることで日本との共通点・相違点について考える。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第１回：韓国語のしくみ　ハングルとは　韓国はどのような国か
第２回：文字と発音１　子音と母音、パッチム
第３回：文字と発音２　濃音と激音、合成母音
第４回：文字と発音３　日本語のハングル表記　発音の復習
第５回：韓国語の挨拶と自己紹介　　挨拶の日韓比較
第６回：指示表現と質問　　初対面における韓国人の言語行動の特徴
第７回：基本動詞と動詞の活用　　韓国語の敬語の特徴
第８回：動詞と形容詞の否定表現　　韓国語における人の呼び方の特徴
第９回：数字（時間と曜日）　　韓国の年中行事
第10回：同意を求める表現　　韓国の子供と教育
第11回：願望表現　　韓国の交通
第12回：勧誘表現　　韓国の食べ物
第13回：依頼表現　　韓国の若者
第14回：可能・不可能表現　　韓国の歌
第15回：まとめと自由会話
定期試験

［準備学習］

毎回の授業で課する課題を行う。テキストのCDを利用して単語および会話の読み方を予習する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
李志暎『できる韓国語Ⅰ（初級）』DEKIRU出版
参考文献：
特になし

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験（60%）、課題・確認テスト（40%）。総合して60点以上を合格とする。

授業科目名	C(E)HSC109	授業の種類	授業担当者
日本語表現		（ 講義 ・演習・ 実習 ）	眞有　澄香

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・ 1 単位	1,2,3,4年次・前期,後期	選択

［授業の目的］

「正しい日本語」とはどのようなものかを知り、手紙や論文、レポートなどを適切に運用できるようになることを目標とする。また、社会人としての言語運用能力の水準の向上、養成を目指し、文章を書く能力を身につける。

［授業全体の内容の概要］

現代社会では、正しく、美しい日本語を使うことについて軽視されがちである。この授業では、多くの文章に触れ、演習や作文などを通じて、大学生にふさわしい日本語表現を身に付けることを目指す。

［授業終了時の到達目標］

改めて普段使っている日本語を認識文章の構成や組み立てを意識して、文章を作成することを目標とする。また、手紙やビジネス文書など、書式の決まった文書を、敬語法を用いて正しい文章表現で作成できる。その上で、実作と添削の中で、各自が文章作成にあたっての自己の課題点を見つけ、それを解決することもあわせて目標とする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ガイダンス―日本語を知ろう
2．日本語の歴史と発展
3．文学的表現と日常表現
4．敬語表現―第三者が関わる場合など
5．敬語表現の整理
6．文法とは何か
7．なぜ悪文ができてしまうのか
8．語彙力を高める
9．同義語・類義語・対義語について
10．日本語の表記
11．慣用句を覚えよう
12．日本語の運用―ことわざ・故事成語
13．漢字の運用
14．まとめと補足
15．実作の発表

［準備学習］

毎授業時には、授業内容に即した小文を作成してもらう。また、漢字や熟語、故事成語などの小テストも行うので、積極的な授業参加が求められる。最終講義日には、課題となるテーマに沿った文章を各自発表してもらう。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：大野晋『日本語練習帳』（岩波新書）
参考文献：大野晋『日本語の教室』（岩波新書）、川本信幹『みがこう、あなたの日本語力』（東京書籍）、沖森卓也『日本語表現法』（三省堂）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業時の課題や提出物（50%）と日常的な小テスト（50%）で総合評価する。総合して60点以上を合格とする。

授業科目名	C(E)HSC210	授業の種類	授業担当者
キャリアデザイン		（ 講義 ・演習・ 実習 ）	太田真美子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	2,3,4年次・前期	選択

［授業の目的］

キャリア・ナビゲーションを習得した学生の第２段階とする。一般的な職業意識から具体的に保育職やこどもに関する仕事への理解を深め、自分の適性を探していく第一歩とする。キャリア・ナビゲーションの学習同様に「自分探し」を続けていきながら、もっとも自分が就きたい仕事を見極めていく。

［授業全体の内容の概要］

この授業では、「キャリア・ナビゲーション」において学びとった就労の意義と職業についての理解に関する基本事項をもとに、職業人としての資質をより高めるため、人間的な態度や基礎的な人間関係の形成について学ぶ。そして、職業人としての自覚や態度の形成と自己の形成を行うことにより、職業に就くことへの意欲と関心をより高める。

企業、福祉現場を問わず、職業人に共通して求められる常識を身につけることをめざす。礼儀、マナーやモラルをはじめ、社会人として通用するような態度行動をとれるよう、ロールプレイを取り入れた指導を行う。また、適性検査の実施や自己分析シートの作成指導、自己紹介文の作成指導などを行い、自己を見つめ、社会人としての自己の形成を助ける。8回のうち、4回程度を自己PRと自己紹介の作文指導にあてる。

保育、福祉現場の現場で求められる保育者像と、そうした職業の意義や労働条件を含めて総合的に理解することをめざす。また、こどもや親に接するうえで求められる常識や態度を身につけるとともに、特に親（保護者、養育者）との関係形成、職場内のチームワークなどこどもだけではなく、大人との円滑な人間関係の重要さを理解させる。

［授業終了時の到達目標］

キャリアデザインの履修後には、全員の職業適性検査、自己分析、作文指導、履歴書指導を修了し、就職活動に向けての土台づくりを固める。また、一社会人としての一般的な礼儀やマナーやモラルを習熟し、社会で通用していける大人の知識を幅広く身につける。

保育士として働く上での保護者や養育者の背景や接し方を学ぶ。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．講義内容紹介
2．「自分探し」は進んでいますか？書いて確かめる自己 PR
3．自己 PR 1（履歴書→面接での回答）
4．自己 PR 2（履歴書→面接での回答）
5．第 1 回学習度合確認
6．保育者像の学習 1
7．保育者像の学習 2
8．保育対象のこどもの保護者や養育者の仕事理解
9．就職適性（SPI）
10．第 2 回学習度合確認
11．「日本社会の社会人としてのマナー」講義の復習：面接指導に向けて
12．就職活動面接模擬指導 1（保育職を中心に）
13．就職活動面接模擬指導 2（こどもに関する職業を中心に）
14．キャリアデザイン終了直前の履歴書披露大会
15．まとめ（「就職研究」で身につけたものの整理）
キャリア意識成長度最終確認試験（筆記試験で確認）

［準備学習］

毎週予告する予習内容をきちんとこなしてから次週に臨むこと。努力に期待している。

［使用テキスト・参考文献］

就職試験に関する各種問題集（具体的には、講義内で説明する）
授業ごとに配布した教材を各自学生がファイルを作っていく。
使用教材：早稲田教育出版『秘書検定２級』（クイックマスター）
『秘書検定３級』

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
受講態度　20％
レポート　20％
試験　　60％

授業科目名	C(E)HSC311	授業の種類	授業担当者
キャリアインターンシップ		（ 講義・演習・(実習) ）	高野・船木・瓜巣・岩本・菅野・皆川・亘理・金井・五十嵐・五味・柴田・丸谷・宮﨑

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
集中	90時間・2単位	2, 3, 4年次・通年	選択

［授業の目的］

企業、NPO 法人、保育実習の実習先とはならない地域の子育てひろばなどへの就労の体験を通じて自らの適性を見つめ、就職への意識を高めるとともに、職場における基本マナー、チームワークの重要性を身につける。

［授業全体の内容の概要］

学生の希望も勘案しながら大学の開拓した企業等への配属を行い、学生就職課との連携のもとで書類作成等事前指導を行った後、10日～２週間のインターンシップを行う。事前指導、巡回指導、終了後報告会を実施する。

［授業終了時の到達目標］

夏休みに行うインターンシップが充実したものとなるよう、事前準備を整える。
社会に出る経験を通し、働くことのやりがいや責任感、就業倫理などを体得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション・配属希望調査
2．配属先決定にもとづく提出書類（履歴書等）作成
3．配属先の企業等研究
4．直前指導
5．インターンシップ（10日間以上）
6．インターンシップ報告会

［準備学習］

①各自が実施するインターンシップ先に関する資料を読む。
②授業時に指定される課題を行い、インターンシップのための事前準備を積み重ねる。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：なし、プリントを配布する。
参考文献：授業の展開に応じて紹介する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

記録：20%
評価票：50%
事前学習：30%

こども総合科目

（こどもの総合的理解）

授業科目名	CCCU201	授業の種類	授業担当者
こども理解と観察		（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	菅野陽子・柴田崇浩・丸谷充子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
30回	60時間・2単位	1年次・通年	必修	保育士選択 幼稚園教諭必修

［授業の目的］

日々乳幼児と共に在ってこどもの全人格に影響をあたえる保育者として、一人ひとりのこどもの成長・発達を的確に感受し、促進的に関わることのできる専門職としての力が求められる。実践と理論を融合させた学習形態によって主体的な学びを促進させ、実践に際して重要なこども理解に関する基礎知識・技能、態度を培う。

［授業全体の内容の概要］

こどもの心や行動の発達に関する理論と実際のすがたを実践の中で統合的に学ぶために参加型の体験学習や観察学習を多く取り入れる。大学周辺に居住する親子の協力による学内施設における特定の親子との継続的な交流授業を行い、学生がこどもの豊かな感受性や親子の関係性の中での育ちに直接触れ保育者としての感受性や共感性を練磨する機会を提供する。

［授業終了時の到達目標］

交流授業の録画・観察記録・フィールドノートなどを基にグループ学習を行い多様な価値観を認め、自己洞察を深める等を通して共感的人間理解と観察力を深めること。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション
2．こども理解と観察方法1
3．こども理解と観察方法2
4．親子観察の事前学習①
5．授業内（保育実習室）での親子観察①
6．親子観察の事後学習①
7．授業内（スタジオ）での親子観察①
8．乳幼児期のこども理解を深める(1)
9．乳幼児期のこども理解を深める(2)
10．乳幼児期のこども理解を深める(3)
11．親子観察の事前学習②
12．授業内（保育実習室）での親子観察②
13．親子観察の事後学習②
14．授業内（スタジオ）での親子観察②
15．乳幼児期のこども理解を深める(4)
16．親子観察の事前学習③
17．授業内（保育実習室）での親子観察③
18．親子観察の事後学習③
19．授業内（スタジオ）での親子観察③
20．乳幼児期のこども理解を深める(5)
21．乳幼児期のこども理解を深める(6)
22．親子観察の事前学習④
23．授業内（保育実習室）での親子観察④
24．親子観察の事後学習④
25．授業内（スタジオ）での親子観察④
26．乳幼児期のこども理解を深める(7)
27．親子観察のまとめ①
28．親子観察のまとめ②
29．親子観察の事前学習⑤
30．親子観察のまとめ③

［準備学習］

年間の授業計画にあわせて各テーマ毎に提示する学習課題に関する文献・資料等を基に、自らの問題意識をもって臨むこと。とくに交流授業は事前の理論的学習と事後の場面分析をセットにした統合的学習であるので準備学習を十分にすること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
必要により随時、オリジナル教材を配布
参考文献：
岡本依子他「エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学―関係のなかでそだつ子どもたち」新曜社

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
課題レポート：50%
記録ノート・ファイル：30%　　参加態度：20%
①毎回課題を提出し、コメントをつけて返却します。②レポートの講評を行います。③ファイルを評価して返却します。

授業科目名	ECCU201	授業の種類	授業担当者
こども理解と観察		（ 講義・(演習)・実習 ）	菅野　陽子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
30回	60時間・2単位	1年次・通年	必修

[授業の目的]

日々乳幼児と共に在ってこどもの全人格に影響をあたえる保育者として、一人ひとりのこどもの成長・発達を的確に感受し、促進的に関わることのできる専門職としての力が求められる。実践と理論を融合させた学習形態によって主体的な学びを促進させ、実践に際して重要なこども理解に関する基礎知識・技能、態度を培う。

[授業全体の内容の概要]

こどもの心や行動の発達に関する理論と実際のすがたを実践の中で統合的に学ぶために参加型の体験学習や観察学習を多く取り入れる。大学周辺に居住する親子の協力による学内施設における特定の親子との継続的な交流授業を行い、学生がこどもの豊かな感受性や親子の関係性の中での育ちに直接触れ保育者としての感受性や共感性を練磨する機会を提供する。

[授業終了時の到達目標]

交流授業の録画・観察記録・フィールドノートなどを基にグループ学習を行い多様な価値観を認め、自己洞察を深める等を通して共感的人間理解と観察力を深めること。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．オリエンテーション
2．こども理解と観察方法1
3．こども理解と観察方法2
4．親子観察の事前学習①
5．授業内（保育実習室）での親子観察①
6．親子観察の事後学習①
7．授業内（スタジオ）での親子観察①
8．乳幼児期のこども理解を深める(1)
9．乳幼児期のこども理解を深める(2)
10．乳幼児期のこども理解を深める(3)
11．親子観察の事前学習②
12．授業内（保育実習室）での親子観察②
13．親子観察の事後学習②
14．授業内（スタジオ）での親子観察②
15．乳幼児期のこども理解を深める(4)
16．親子観察の事前学習③
17．授業内（保育実習室）での親子観察③
18．親子観察の事後学習③
19．授業内（スタジオ）での親子観察③
20．乳幼児期のこども理解を深める(5)
21．乳幼児期のこども理解を深める(6)
22．親子観察の事前学習④
23．授業内（保育実習室）での親子観察④
24．親子観察の事後学習④
25．授業内（スタジオ）での親子観察④
26．乳幼児期のこども理解を深める(7)
27．親子観察のまとめ①
28．親子観察のまとめ②
29．親子観察の事前学習⑤
30．親子観察のまとめ③

[準備学習]

年間の授業計画にあわせて各テーマ毎に提示する学習課題に関する文献・資料等を基に、自らの問題意識をもって臨むこと。とくに交流授業は事前の理論的学習と事後の場面分析をセットにした統合的学習であるので準備学習を十分にすること。

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：
必要により随時、オリジナル教材を配布
参考文献：
岡本依子他「エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学―関係のなかでそだつ子どもたち」新曜社

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

（試験やレポートの評価基準など）
課題レポート：50%
記録ノート・ファイル：30%　　参加態度：20%
①毎回課題を提出し、コメントをつけて返却します。②レポートの講評を行います。③ファイルを評価して返却します。

授業科目名	C(E)CCU202	授業の種類	授業担当者
こどもの権利		（講義・演習・実習）	普光院亜紀

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	1年次・後期	選択	保育士選択

[授業の目的]

「子どもの権利」への理解および感性を身につけ、①現代社会の子どもに関する種々の問題を考察するための視点を獲得する、②子どもにかかわる仕事をする者として必要な基本姿勢や判断力を身に付ける。

[授業全体の内容の概要]

子ども観の変遷、子どもの権利条約の理念の成立過程など、子どもの権利保障の歴史を学ぶとともに、子どもの権利条約が保障しようとする内容、子どもの最善の利益の考え方について、世界および日本の現状に照らして理解する。また、子どもの権利に関わる身近なテーマや、保育との関係について、グループワークによって意見を出し合い、理解を深める。

[授業終了時の到達目標]

・子どもの権利条約について理解する
・子どもの権利の侵害の現状について理解する
・日常の保育に活かせる子どもの権利の視点を身に付ける

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．子どもと人権
2．子どもの権利保障の歴史
3．子どもの権利条約1〈理念と内容〉
4．子どもの権利条約2〈実現の方策〉
5．戦争と子どもの権利
6．少年法に関する議論
7．教育を受ける権利
8．体罰の禁止についての議論
9．児童虐待にかかわる現状と施策
10．子どもの最善の利益とは何か
11．児童福祉法と子どもの権利
12．子どもの意見表明権
13．差別・いじめの防止
14．障害をもつ子どもの権利
15．子どもの権利を実現する保育とは？
試験
（テーマに応じてグループワークを行います）

[準備学習]

毎回の授業で学んだことを復習し、配布資料も含めてノートに整理すること。また、次の回で学ぶテーマについて、ニュースで見聞きしたことや、自分の身近に起きていることと関連づけ、自分なりのイメージをもって積極的に授業に参加できるように準備すること。

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：なし。必要な資料を毎回配布します。
参考文献：喜多明人、森田明美、広沢明、荒牧重人 著
『[逐条解説] 子どもの権利条約』
日本評論社　2009年

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

授業への取り組み：40%
（テーマに応じてリアクションペーパーを提出、次の授業で講評する）
試験：60%
（自作のノートの持ち込みを可とする）

授業科目名	C(E)CCU403	授業の種類	授業担当者
現代家族とこども		（講義・演習・実習）	丸谷　充子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	3年次・前期	選択

［授業の目的］

現代の日本社会においては、家族の機能の低下や家族関係の希薄化が指摘されている。「現代社会と家族」を学ぶ目的は、現代社会の家族の実態について、先入観や「常識」にとらわれずに客観的かつ主体的に把握するための枠組と視点を自分の中に築き、現れる問題解決のための方法について理解することにある。

［授業全体の内容の概要］

本講義では、歴史から見る家族の変遷を知り、現代社会における家族の状況について、配偶者選択と夫婦関係、親子関係、三世代の関係、家族の危機、多様化する家族をトピックに、家族の姿を客観的に理解し、現代社会の家族のあり方を検討していく。

［授業終了時の到達目標］

1．現代社会の家族について歴史的な変遷から理解する。
2．現代社会の家族の状況及び特徴を理解する。
3．現代社会の家族に現れる問題解決のための方法を理解する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション　現代社会と家族を学ぶ意義
2．家族の変遷①　現代社会の家族
3．家族の変遷②　歴史的な変遷から
4．パートナーの選択
5．家族と子ども①　夫婦から家族へ
6．家族と子ども②　子どもにとっての家族
7．現代社会における子どもの発達と家族の発達
8．現代社会における生涯発達と親子関係
9．親子関係―母と娘、母と息子、父と息子、父と娘
10．DV・児童虐待・家庭内暴力
11．離婚・再婚とステップファミリー
12．障がい児と家族
13．高齢化と家族
14．ライフコースの多様化
15．まとめ
期末試験または期末レポート

［準備学習］

日頃から問題意識を持って家族について書かれた新聞記事、書籍などを収集して目を通しておく。
授業の中で指示された、次の授業までに行うべき予備学習、課題を行う。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：未定
参考文献：
上野千鶴子「近代家族の成立と終焉」岩波書店
長津美代子・小澤千穂子編著「新しい家族関係学」建帛社
湯沢雍彦「データで読む平成期の家族問題」旭選書

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

講義への参加度：20%
レポート、リアクションペーパー：20%
期末試験または期末レポート：60%

授業科目名	C(E)CCU304	授業の種類	授業担当者
こどもと福祉社会		（講義・演習・実習）	大久保秀子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・後期	選択

［授業の目的］

保育者・教育者は自身が福祉社会の担い手であると同時に、日々の保育・教育実践を通じて、福祉社会の創造者を形成する役割を有している。このことをまず理解し、福祉の諸課題と支援方策の現状、展望について学び、保育者・教育者として、こどもの未来に対して何ができるか、あるいは何をしてはならないか、を学んでいく。その成果を将来にわたり実践に生かせるように身につけていくことを目的とする。

［授業全体の内容の概要］

こどもに限らず、高齢者や障がい者に関する幅広い福祉課題と家族・地域社会の支援体制のあり方、行政の役割ならびに住民参加の意義について基礎的知識を学ぶ。また、前提となる高齢者理解、障がい者理解に関する自らの先入観に気づくことを促し、人間理解を深めることにより、保育者・教育者としての資質を高める。日本のめざした20世紀型福祉国家の到達点と限界を知り、歴史的観点をふまえながら参加型の福祉社会への転換の必要性と可能性を理解できるよう講義を進める。理解を促すため、必要に応じて視聴覚教材を用いる。

［授業終了時の到達目標］

こどもから高齢者、障がい者までの多様な人々の存在やその直面する福祉課題に気づき、人間理解を深めること及び、その理解を、未来を担う子供たちに伝えていく重要性を理解できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業オリエンテーション
2．障がい児・者の歴史
3．障がいの正しい理解：障がいの概念の変遷を学ぶ
4．障がい児・者と家族の生活
5．保育・教育場面における「合理的配慮」
6．放課後のこどもたちの居場所づくり
7．放課後保障から学ぶ福祉課題と支援
8．高齢社会に生きる「こども」
9．高齢者の正しい理解：認知症高齢者の変容を促す関わりとは
10．高齢者の福祉文化の理念を学ぶ
11．こどもと高齢者・障がい者をつなぐ福祉文化実践
12．福祉社会の支援拠点とその役割
13．日本における20世紀社会福祉・福祉国家の到達点と展開
14．21世紀の福祉課題と福祉社会
15．総括―福祉社会の創造へ―
定期試験

［準備学習］

1．毎回資料を配布するので、指定箇所を事前に読む。レポートを指示通り作成する。
2．授業後には配布資料を読み直して整理しファイルを作成しておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：大久保秀子『新・社会福祉とは何か』（1年次に購入した者はそれを持参のこと）
毎回の授業時にプリントを配布
参考文献：授業時に紹介する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（成績評価の方法・基準）
試験：60％　課題・授業時提出物等：40％
（成績評価のフィードバック）
授業時の小課題に記載された内容を整理し、授業に反映させることにより、学生間の考え方や感じ方の共有を進める。

授業科目名	C(E)CCU305	授業の種類	授業担当者
世界のこどもと教育		（講義・演習・実習）	山口　和孝

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・後期	選択

[授業の目的]

先進国における経済格差と開発途上国における貧困が、子どもたちの学校教育の在り方にどのような影響を及ぼしているのかについてグローバルな視点で認識し、学校に行きたくても学校がない国と学校があっても学校に行きたくない子どもがいる現状と、学校にいけない子どもたちへの多様な学びが工夫されている世界の動きを知る。

[授業全体の内容の概要]

様々な国の学校教育あるいは、インフォーマル・エジュケーションの実態を記録した映像資料・文字文献を提示し、毎回提示する観点についてグループ討議し発表する。

[授業終了時の到達目標]

世界各地のこどもの現実と学校教育の在り方を知ったうえで、日本のこどもの現状や学校教育のありかたを相対的に見ることができるような視点を形成できるようにする。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．授業の流れ・評価などについてシラバス確認。
2．グローバルな広がりを見せる世界の階層格差と学校教育、子どもたちの貧困
3．世界のストリートチルドレン（ネパール、インド、ベトナム、モンゴル、フィリピン）
4．極貧社会と子どもたちの生活（スモーキー・マウンテンの子ども達）
5．バスラと呼ばれる子ども達（ケニア、ガーナ）
6．世界の果ての通学路（そんなにまでして学校に通う子ども達）
7．階層化する中国の教育①（中国のエリート階層の子ども達）
8．階層化する中国の教育②（民工の子ども達の学校）
9．過熱化している韓国の受験競争
10．韓国のオールターナティブ・スクール
11．アメリカのマイノリティの子どもたち
12．アメリカのフリー・スクール
13．日本社会の階層格差と学力問題
14．多様な学びを保証する学習支援活動の実態
15．夜間中学校
中間レポートと期末レポート

[準備学習]

授業で配布される資料の事前学習を行っておくこと。また、連続するテーマも多いので、一回前の授業の復習を行っておくこと。

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：特になし。授業の展開に応じて、資料、文献コピーを授業で適宜配布する。
参考文献：石井光太『絶対貧困』新潮文庫、二宮皓『世界の学校』学事出版

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

中間レポート（50%）と期末レポート（50%）の総合評価による。60点以上合格。
中間レポートについて、授業で講評を行う。

授業科目名	C(E)CCU406	授業の種類	授業担当者
こどもの安全と危機管理		（講義・演習・実習）	山口　和孝・矢部　一夫

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	3年次・前期	選択

［授業の目的］

学校におけるさまざまな危険・事故の実態を学習し、それらを防止したり、発生時の対応についての基礎的な知識とスキルを学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

学校事故、防災対策、救命措置、アレルギー対応、いじめ防止、スクール・セクハラ防止、不審者対応などについて、具体的な事例を通し、小学校教師として身につけるべき最低の知識と問題に対し初期的に対応できるスキルをテーマごとに学習する。

［授業終了時の到達目標］

こどもたちが安全に・安心して学べる学校環境と教育手法を維持するために必要な措置と対応、危機管理の基礎知識を学び、初期的対応ができるようにする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業概要の説明、受講に際しての留意事項ガイダンス（担当：山口）
2．学校事故の事例を通して①…授業の中で（担当：山口）
3．学校防災の事例を通して②…校外活動において（担当：山口）
4．学校防災の事例を通して（担当：山口）
5．不審者対応の事例とその対応①…不審者とは何か（担当：矢部）
6．不審者対応の事例とその対応②…どう対応するか（担当：矢部）
7．学校の防災訓練…火事、地震が発生したら（担当：矢部）
8．救急救命について①…事例をとおして（担当：矢部）
9．救命救急について②…AED の使い方（担当：矢部）
10．アレルギー対応…事例とエピペンの使い方（担当：矢部）
11．保護者対応…問題を拡大させないために（担当：矢部）
12．〈いじめ〉防止にむけて①…被害者救済に向けて（担当：山口）
13．〈いじめ〉防止にむけて②…加害者への対応と支援（担当：山口）
14．スクール・セクハラの防止にむけて（担当：山口）
15．学校の安全を考える…グループ討論（担当：山口）
定期試験

［準備学習］

連続して扱うテーマが多いので、一回前の授業内容を復習しておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：なし。授業の展開に応じて、資料、文献コピーを授業で適宜配布する。
参考文献：数見隆生『子どもの命を向き合う学校防災』(かもがわ出版)、赤城智美『学校給食アレルギー事故防止マニュアル』(合同出版)、坂本洋子『子どもの心と体の危機対応マニュアル』(明治図書)

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業内容に関する期末試験（100%）の結果による。60点以上合格。
採点答案は、添削したものを返却する。

授業科目名	C(E)CCU207	授業の種類	授業担当者
ジェンダーと現代社会		（講義・演習・実習）	堀川　修平

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	1年次・後期	選択

[授業の目的]
1．自分たちの身のまわりにあるジェンダー／セクシュアリティ問題を相対化して認識できる力を養う。
2．フェミニズム運動を含め、ジェンダー／セクシュアリティ平等のための諸活動(社会運動･教育/学習活動)の成立と展開の原理を学ぶ。
3．ジェンダー／セクシュアリティに関する現代的な課題について理解を深める。

[授業全体の内容の概要]
1．身のまわりにあるジェンダー／セクシュアリティ問題を反省的にとらえる契機を与え、差別問題一般について省察的な意見をもてるような交流を行う。
2．ジェンダー／セクシュアリティ平等のための諸活動の変遷を系統的に説明し、フェミニズム思想・ジェンダー／セクシュアリティ論・クィア論の展開を解説する。
3．性の多様性、「らしさ」の強要、「LGBT 市場」、学校教育とジェンダー／セクシュアリティ差別、スクール・セクシュアル・ハラスメントなどの現代的諸課題について、具体的ケースを示しながら検討する。
4．受講者数を勘案し、可能なら、グループワークを取り入れる。

[授業終了時の到達目標]
1．ジェンダー／セクシュアリティに関する差別問題が身のまわりに存在することを理解できるようにする。
2．ジェンダー／セクシュアリティ平等のための諸活動の歴史的な展開を理解できるようにする。
3．ジェンダー／セクシュアリティに関する諸問題について、日常的な関心を形成し、意見を述べることができるようにする。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数

1．オリエンテーション
2．性の常識を打ち破ろう！　①ジェンダー／セクシュアリティとはなにか
3．性の常識を打ち破ろう！　②フェミニズム・ジェンダー論の諸相と歴史
4．「らしさ」を押し付けないとは？　①「本能」ってなんだ？
5．「らしさ」を押し付けないとは？　②性規範としての「らしさ」
6．恋愛・結婚・家族の「あたりまえ」を問う　①それって暴力です～DV･デート DV
7．恋愛・結婚・家族の「あたりまえ」を問う　②制度としての「結婚」
8．「はたらく」ってなんだ？　①ペイド・ワークとアンペイド・ワーク
9．「はたらく」ってなんだ？　②「イクママ」って聞かないのはなぜ？
10．教育におけるジェンダー／セクシュアリティ　①隠れたカリキュラムとは？
11．教育におけるジェンダー／セクシュアリティ　②性教育の重要さ
12．教育におけるジェンダー／セクシュアリティ　③子どもの貧困は、だれの問題か
13．「まなざし」を問う　①消費される「マイノリティ」
14．「まなざし」を問う　②「ヘン」で何が悪い？～クィア視点から社会をみる
15．まとめ　あらためて「マイノリティ」を問いなおす
定期試験

[準備学習]
受講にあたって準備は必要ありませんが、授業中で提示する学習課題および授業内容について、ノートづくりが必要です。

[使用テキスト・参考文献]
テキスト：授業の中でテーマにそった資料を配布します。
参考文献：加藤慶・渡辺大輔編著『セクシュアルマイノリティをめぐる学校教育と支援　エンパワーメントにつながるネットワークの構築にむけて　増補版』(開成出版)、河口和也『クィア･スタディーズ』(岩波書店)
他は授業の展開に応じて紹介します。

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]
中間レポート：30%
定期試験：70%
合計して60%以上合格

授業科目名	CCCU108	授業の種類	授業担当者
フィールド体験		（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	五十嵐・宮﨑・岩本・菅野・高野・船木・皆川・亘理・金井・瓜巣・五味・柴田・丸谷・鶴ヶ谷・内田

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
8回	15時間・1単位	1年次・通年	必修	幼稚園教諭必修

［授業の目的］

保育所、幼稚園、認定こども園における見学・体験活動を通じて、実際に子どもと触れ合い、保育士、幼稚園教諭の子どもへのかかわり、仕事を見学させていただくことにより、子どもにかかわる保育現場の様子を学び、「子どもとふれあう自分」に対する新たな気づき、「子どもを支援する人となる自分」に対する自覚を促す。また、見学報告会を行うことにより見学により得た知識や情報を共有し、多様な保育現場、保育実践について知る。2年次以降の保育実習、教育実習への準備学習を兼ねる演習である。

［授業全体の内容の概要］

年間を通じて2回の学外見学を行う。それぞれの見学に対して、十分な事前学習、グループワークにおける事後学習を行い、今後の学部教育、また2年次以降の保育実習、教育実習に臨む姿勢を養う。

［授業終了時の到達目標］

保育所、幼稚園、認定こども園など保育現場における保育者の役割、こどもの姿、活動、保育環境などについての理解を深める。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業オリエンテーション
2．保育所見学事前指導
3．保育所見学
4．保育所見学事後指導
5．幼稚園見学事前指導
6．幼稚園見学
7．幼稚園見学事後指導
8．総括　見学報告会
レポート提出

［準備学習］

・見学前には他の授業で学んだ幼稚園、保育園に関する知識の確認を図るとともに、見学先の幼稚園、保育園の保育の特色等について事前に調べる。また見学後は各自のレポートをまとめるとともに、見学報告会のための配布資料の作成等を行う。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：プリント、ワークシート配布
参考文献：
「保育所保育指針」
「幼稚園教育要領」
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

レポート等　　60%
受講態度（見学時、報告会等）　40%
・レポート、ワークシートは担当者からのコメントをつけて返却する。

授業科目名	ECCU108	授業の種類	授業担当者
フィールド体験		（ 講義 ・演習・ 実習 ）	五十嵐・宮﨑・岩本・菅野・高野・船木・皆川・亘理・金井・瓜巣・五味・柴田・丸谷・鶴ヶ谷・内田

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
8回	15時間・1単位	1年次・通年	選択

［授業の目的］

保育所、幼稚園、認定こども園における見学・体験活動を通じて、実際に子どもと触れ合い、保育士、幼稚園教諭の子どもへのかかわり、仕事を見学させていただくことにより、子どもにかかわる保育現場の様子を学び、「子どもとふれあう自分」に対する新たな気づき、「子どもを支援する人となる自分」に対する自覚を促す。また、見学報告会を行うことにより見学により得た知識や情報を共有し、多様な保育現場、保育実践について知る。2年次以降の保育実習、教育実習への準備学習を兼ねる演習である。

［授業全体の内容の概要］

年間を通じて2回の学外見学を行う。それぞれの見学に対して、十分な事前学習、グループワークにおける事後学習を行い、今後の学部教育、また2年次以降の保育実習、教育実習に臨む姿勢を養う。

［授業終了時の到達目標］

保育所、幼稚園、認定こども園など保育現場における保育者の役割、こどもの姿、活動、保育環境などについての理解を深める。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業オリエンテーション
2．保育所見学事前指導
3．保育所見学
4．保育所見学事後指導
5．幼稚園見学事前指導
6．幼稚園見学
7．幼稚園見学事後指導
8．総括　見学報告会
レポート提出

［準備学習］

・見学前には他の授業で学んだ幼稚園、保育園に関する知識の確認を図るとともに、見学先の幼稚園、保育園の保育の特色等について事前に調べる。また見学後は各自のレポートをまとめるとともに、見学報告会のための配布資料の作成等を行う。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：プリント、ワークシート配布
参考文献：
「保育所保育指針」
「幼稚園教育要領」
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

レポート等　　60%
受講態度（見学時、報告会等）　40%
・レポート、ワークシートは担当者からのコメントをつけて返却する。

授業科目名	C(E)CCU209	授業の種類	授業担当者
海外セミナー（カナダ）		（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	五十嵐裕子・出口雅生・柴田崇浩

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
集中	60時間・ 2 単位	1, 2, 3年次・後期	選択

［授業の目的］

カナダのライアソン大学との学術提携にもとづいて、カナダの保育や家族支援の実際ならびにその背景にある文化について国際的な学びを行うことを通じ、保育者としての視野を広げる。

［授業全体の内容の概要］

事前に研修先について学習し、英語のスキルアップを図り、現地における６泊８日の研修に参加する。学内での授業参加および学生との交流、学内外の保育施設や家族支援のドロップインセンターなどを見学する。事後に報告会を行い、報告書を作成する。

［授業終了時の到達目標］

カナダへの研修に参加し、保育や家族支援について理解を深めるとともに、国際感覚を養い、保育者としての視野を広げ専門性を高める。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション　ライアソン大学の概要、カナダの家族支援、カナダ文化の理解、研修日程及び事前指導等について
2．事前学習　カナダの家族支援と保育について
3．英語指導①　基礎的な会話
4．英語指導②　自己紹介
5．英語指導③　カナダの生活と文化
6．英語指導④　プレゼンテーション（内容の考案）
7．英語指導⑤　プレゼンテーション（発表練習）
8．学生交流のためのプレゼンテーション準備
9．現地研修　６泊８日　ライアソン大学子ども学科の授業参加
学生との交流
学内学外保育施設等の見学
10．研修報告会
11．報告書作成

［準備学習］

事前学習、英語学習、プレゼンテーション準備等にあたり、それぞれ課題を提示するので、それぞれの課題に沿って着実に予習し、進めていくこと。カナダの文化や家族支援に興味を持って学習し、関連のある授業科目を受講するなど自主的に学びを深めること。

［使用テキスト・参考文献］

伊志嶺美津子他『子ども家庭支援プログラムの開発に関する研究』平成15年度・16年度厚生労働科学研究報告書
『浦和大学　国際セミナー2008　資料集』(図書館に蔵書あり)

［備考］

旅費等の参加費は別途提示する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

事前事後授業受講および参加態度：30%
現地研修参加態度：50%
報告書：20%

こども総合科目

（こどもの表現と文化）

授業科目名	C(E)CRC301	授業の種類	授業担当者
こどもの表現と創造性		（講義・演習・実習）	船木美佳・出口雅生

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・前期	必修

[授業の目的]

人の文化や社会を生み出す源である「創造性」は、時に破壊的、攻撃的な行為の源ともなり得る。この授業では、こどもの活動や思考の内にある創造性を、保育者、教育者としてどのように見出し、どのように育てるのか、その視点と方法を獲得することを目的とする。

[授業全体の内容の概要]

こどもの様々な分野の活動事例において、「創造性」がどのように現れるのか、また作用するのかを検討する。また、ひとつのテーマに基づいたワークショップを継続して行い、学習者自身の「創造性」が、グループの中でどのように現れ作用したのかレポートを作成する。

[授業終了時の到達目標]

保育者、教育者として、こどもの「創造的」行為を肯定的に発見し評価できる。また、その行為を適切に次のステップへと導くための指針を持っている。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．授業オリエンテーション（船木・出口）
2．こどものアート表現活動に見られる創造性（船木）
3．こどものアート表現活動に見られる創造的な展開（船木）
4．色、形、空間を用いたワークショップの計画の立て方（船木）
5．色、形、空間を用いたワークショップの実施の方法（船木）
6．色、形、空間を用いたワークショップの開放（船木）
7．色、形、空間を用いたワークショップの再構築（船木）
8．前半の振り返り（船木）
9．こどもの音楽的表現活動に見られる創造性（出口）
10．こどもの音楽的表現活動に見られる創造的な展開（出口）
11．音、身体、時間を用いたワークショップの計画の立て方（出口）
12．音、身体、時間を用いたワークショップの実施の方法（出口）
13．音、身体、時間を用いたワークショップの開放（出口）
14．音、身体、時間を用いたワークショップの再構築（出口）
15．後半の振り返り（出口）
期末レポート

[準備学習]

①こどもの「創造性」についての参考図書を読むこと。
②授業で検討した事柄について、自分自身で追加データを集めること。
③ワークショップについてのワークシート課題を、次回の授業で提出すること。

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：授業中に適宜プリントを配布する。
参考文献：石戸奈々子『子どもの創造力スイッチ！』
トニー・ワグナー『未来のイノベーターはどう育つのか』
尾方孝弘『秘密基地の作り方』
他、授業中に指示する。

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

授業内及び学期末のレポート　70%
受講態度　30%

授業科目名	C(E)CRC302	授業の種類	授業担当者
合奏アレンジメント		（ 講義・(演習)・実習 ）	出口　雅生

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	2,3,4年次・後期	選択

[授業の目的]

合奏の形態や楽器法、音楽の諸要素について学修し、合奏時の現実的諸条件に合わせた編曲方法を身に付ける。実際に施した編曲を音に出し、より良いサウンドが得られるよう試行錯誤することで、音楽の種類や演奏の目的、条件に沿った合奏を実現するための多くのアイデアを自分のものとする。

[授業全体の内容の概要]

授業の前半では、合奏の諸形態、楽器の構造や演奏法、音の組み合わせ方などの知識を、実際に受講生自身が楽器を演奏し、音を確かめながら学修していく。後半では、テーマに沿った楽曲をグループに与えられた条件で編曲し、その結果を自分たちで確認しつつ改良を加えていく。完成したものを地域の親子のひろばで発表会の形で披露する。

[授業終了時の到達目標]

①合奏・楽器法についての基礎的な知識を獲得している。
②編曲法について学び、実際の編曲に柔軟に応用できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．アンサンブルの形態
2．簡単なアンサンブル
3．楽器について①（弦楽器）
4．楽器について②（管楽器）
5．楽器について③（打楽器・教育楽器）
6．編曲の知識①（音色と音楽の構造）
7．編曲の知識②（リズムの構成）
8．編曲の知識③（コード進行）
9．編曲の知識④（メロディの組み合わせ方）
10．グループワーク①（こどもの曲）
11．グループワーク②（クラシック楽曲）
12．グループワーク③（ポピュラー楽曲）
12．グループワーク④（即興演奏を取り入れた編曲）
13．受講者内での発表と振り返り
14．地域の親子ひろばでの発表
15．まとめ、振り返り
レポート

[準備学習]

①読譜の力を十分養っておく。
②授業で得た新しい知識を実際にピアノなどで音に出しながら確認をする。

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：
授業中に資料を配布する

参考文献：
横山詔八『誰でもできる編曲入門』音楽之友社

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

期末レポート70%、受講態度30%
授業内に行う実践課題についてのレポートを提出し、それにコメントを記載し返却する。
期末レポートには評価とコメントをつけて返却する。

授業科目名	C(E)CRC203	授業の種類	授業担当者
ヴォーカルボディワーク		（ 講義・演習・実習 ）	杉森のりこ

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	保育士選択 幼稚園教諭選択
15回	30時間・1単位	1,2,3,4年次・前期,後期	選択	

［授業の目的］

からだと声の繋がりを体感することで、姿勢・呼吸は自分でコントロールできることを理解する。また、音楽的・身体的教養を身に付けることで、それを伝える保育者・教育者としての身体、心構えをサポートでき、自信に繋がることを理解する。

［授業全体の内容の概要］

身体の構造・動く仕組みを学び、それを効率よく使うことを試し、歌うことで確認していく。保育現場で活用できる教材を実践することにより、「声」「音楽」を通してこどもと関わる保育者、教育者としての基礎力を養う。

［授業終了時の到達目標］

・身体や呼吸の仕組み・使い方を知り、無理のない発声の方向性を理解する。・声と姿勢の関係を体感する。・よりよい呼吸・発声のための自分の姿勢の改善点を見つけ、自分で修正できるようにする。・歌のレパートリーを広げる。
・「声」と「からだ」を通して「音楽にできること」を自ら探し、体感し、それを伝えることの喜びを感じられるようになる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション
2．姿勢について自分と向き合う
3．「身体を支える」脚から考える
4．「腰を自由にする」腰のロックを外し、大腰筋を使ってみる
5．音楽活動実施に際しての準備
6．学内の親子のひろば「ぽっけ」における音楽活動の実施（第1回）
7．音の高低を身体で表現しながらドレミで歌う
8．前回の小テスト（暗譜）
9．音楽鑑賞
10．音楽活動実施に際しての準備
11．学内の親子のひろば「ぽっけ」における音楽活動の実施（第2回）
12．「呼吸のグレードを上げる」背中を意識して、肋骨全体で呼吸してみる
13．全身の繋がりを感じて歌う
14．前回までの復習と実践
15．今期の振り返り・まとめ
定期試験

［準備学習］

前回に行ったストレッチやトレーニングを、できるだけ毎日、自分のペースで続けること。
次の授業内容に対しての調べ学習が指示された場合、発表または伴奏できるよう準備すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：不要（プリントなどで用意）

参考文献：「ふるさとの四季」源田俊一郎編曲
カワイ出版ほか

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業態度：40%
試験：50%
小テスト：10%
テーマ毎、ふり返りシートの記入、提出、チェックと姿勢チェックをし、学期終了後テストと共に学生本人に返却する。

授業科目名	C(E)CRC304	授業の種類	授業担当者
ヴォーカルアンサンブル		（ 講義・(演習)・実習 ）	小島　邦昭

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	1,2,3,4年次・前期,後期	選択

[授業の目的]

人の声とからだを用いたアンサンブル表現の楽しさとその意義を伝えられるようになることと、わらべうたや童謡、日本の音楽、西洋クラシック音楽やポピュラー音楽など様々なジャンルの音楽内容に適した発声とアンサンブル展開能力を身につけ、自らの指導実践に生かせるようになることを目的とする。

[授業全体の内容の概要]

手軽に演奏できる形態として少人数のアカペラやボディパーカッションを合唱集団として学習活動をしながら、合唱指導法・発声法を学ぶ。

『授業で使える合唱』、『授業で使えるカノン＆パートナーソング』、『授業で使えるリズムアンサンブル』

[授業終了時の到達目標]

発声技術を身につけ、様々なジャンルのアンサンブルを楽しみながら表現できること。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．オリエンテーション／音楽経験の聞き取りアンケート／発声
2．発声と呼吸法①（基礎）／小学校の定番曲（低学年）の演習
3．発声と呼吸法②（良い声の出し方、矯正の方法）／小学校の定番曲（高学年）の演習
4．発声と呼吸法③（変声・合唱の声の作り方）／小学校の新曲の演習
5．授業で使える音楽遊び①（輪唱・パートナーソング低学年）／合唱経験を豊かにする合唱演習①
6．授業で使える音楽遊び②（輪唱・パートナーソング高学年）／合唱経験を豊かにする合唱演習②
7．授業で使えるリズムアンサンブル①＆ボイスパーカッション①
8．授業で使えるリズムアンサンブル②＆ボイスパーカッション②
9．授業で使えるリズムアンサンブル③＆ボイスパーカッション③
10．演奏を通して合唱指導法を学ぶ①（パート練習、楽曲演習）
11．演奏を通して合唱指導法を学ぶ②（パート練習、楽曲演習）／小中学校の音楽教育の現状①
12．演奏を通して合唱指導法を学ぶ③（指揮法、楽曲演習）／小中学校の音楽教育の現状②
13．演奏を通して合唱指導法を学ぶ④（合唱の仕上げ方、楽曲演習）
14．演奏を通して合唱指導法を学ぶ⑤（発表の方法、プログラム、演出、楽曲演習）
15．実技試験リハーサル（楽しい合唱・リズムアンサンブル・合唱曲）
実技試験・レポート

[準備学習]

①授業の前に配布資料を準備練習を行ってくること。
②授業の後に次回の課題を確認すること。

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：資料配布
参考文献：富澤裕編『たのしいパートナーソング』教育芸術社
山田俊之著『楽しいボディパーカッション』音楽之友社
小学校教科書（教育出版・教育芸術社）

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

実技試験：40%
レポート：40%
受講態度：20%

授業科目名	C(E)CRC305	授業の種類	授業担当者
ソングライティング		（講義・演習・実習）	出口　雅生

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	3，4年次・前期	選択

［授業の目的］

「ソングライティング」（作詞と作曲を行い「うた」を創ること）全般の基礎技法を学び、「うた」の創作、伴奏を含む楽曲全体の構成、作品発表までを行う。相互評価と創作を繰り返すことでソングライティングに慣れ、教育・保育の現場に応用できる力と経験を得る。

［授業全体の内容の概要］

取り組みやすい題材を用い、楽曲分析、「うた」の創作法の学習、創作、発表を繰り返し行う。伴奏にピアノ・ギター・DTM（デスクトップミュージック）などを活用し作品を仕上げる。まとめとしてレコーディング及び創作発表会を行い、音楽の発表・記録の形式及び方法を学習する。

［授業終了時の到達目標］

①簡単なソングライティングを行えること。
②教育・保育の場における創作の意義と価値を知ること。
③音楽の発表・記録の形式及び方法を知ること。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ソングライティングとは
2．ソングライティングの基礎
3．楽曲アナリーゼの方法①（日本のうた）
4．楽曲アナリーゼの方法②（世界のうた）
5．創作①（こどものうた）
6．旋律法
7．作詞法
8．創作②（物語のうた）
9．和声法
10．伴奏法
11．創作③（自由な題材）
12．ソングライティングと著作権について
13．創作④（伴奏付け）
14．発表
15．まとめ、振り返り
課題及びレポート提出

［準備学習］

①創作のための復習課題を確実にこなすこと。
②授業内で示す創作のための予備課題を確実にこなすこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
授業内で資料を配布する。
参考文献：
野口義学著『CD付き　楽しく学べる作詞・作曲』
ナツメ社

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

課題・レポート80%、受講態度20%
作品課題の相互講評会を行うと同時に、学生が提出するワークシートに教員からの評価を加え返却する。

授業科目名	C(E)CRC406	授業の種類	授業担当者
音響デザインとテクノロジー		（講義・演習・実習）	久木山　直

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	3，4年次・後期	選択

［授業の目的］

コンピュータを使った音楽、音響製作を教育の現場で活用する方法の探求。

［授業全体の内容の概要］

puredata というフリーのソフトを活用しながら音響の成り立ち、合成、映像との対応を製作しながら体験学習します。

［授業終了時の到達目標］

音響合成の基礎を理解し、映像や外部からの情報と音響を結合し活用する能力の習得。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．概要の説明
2．倍音の分析と合成
3．サイン波について
4．加算合成
5．フィルターによるスペクトラムの加工
6．減算合成
7．変調方式、AM、FM 合成
8．ヘリコプター、波、風、の音を作ってみよう
9．グラノーラシンセによるダイナミックな音響変化を楽しむ
10．フィジカルモデリング（仮想物理環境の構築による）音源について
11．様々なデータをやり取りすることで、映像を音響とともに変化させる
12．映像と音楽の結合
13．外部デバイスによる、リアルタイムな作品のあり方
14．総合演習
15．発表

試験・レポート等

毎時授業への参加姿勢を判断し、最終的な発表で評価する。発表はグループ単位を予定している。

［準備学習］

①参考書や Web 上の情報から、シラバスに記載のある用語の意味について予習をしておく。
②授業で学んだ事項の理解を深めるとともに、使用ソフトに習熟する。
③作品課題を授業内の指示に従って完成させていくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：授業内に随時資料を配布する。
参考書：「Pure　Data ―チュートリアル＆リファレンス」美山千香士著
ワークスコーポレーション

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

①授業に取り組む態度（30%）
②最終課題発表（50%）
③その他課題提出（20%）

授業科目名	C(E)CRC207	授業の種類	授業担当者
ストリートダンス		（ 講義・演習・実習 ）	宮田　健男

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	1, 2, 3, 4年次・前期	選択

［授業の目的］

ニュースクールヒップホップのリズムの取り方、基本的なステップを習得するとともに、幼児や児童への指導法の基本を学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

ヒップホップダンスの基本的ステップやムーヴとその指導法を、テキスト学習と実習を組み合わせ体系的に学ぶとともに、ヒップホップカルチャーの概要、知識を学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

ヒップホップダンスの基本的なリズム、アイソレーションを理解するとともに、その技術を獲得している。また文化としてのヒップホップの歴史的な背景、大まかな流れを知識として獲得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ヒップホップダンス概要の理解／基本リズム・基本アイソレーションの理解
2．基本リズム・基本アイソレーションの練習／HIP･HOP G.S.R LEVEL 1 の理解
3．基本リズム・基本アイソレーションの応用／HIP･HOP G.S.R LEVEL 1 の練習
4．HIP･HOP G.S.R LEVEL 1 の応用／HIP･HOP G.S.R LEVEL 2 の理解
5．HIP･HOP G.S.R LEVEL 1 の展開／HIP･HOP G.S.R LEVEL 2 の練習
6．HIP･HOP G.S.R LEVEL 1 指導の基本／HIP･HOP G.S.R LEVEL 2 の応用
7．HIP･HOP G.S.R LEVEL 1 指導の応用／HIP･HOP G.S.R LEVEL 2 の展開
8．HIP･HOP G.S.R LEVEL 2 指導の基本／HIP･HOP G.S.R LEVEL 3 の基本
9．HIP･HOP G.S.R LEVEL 2 指導の応用／HIP･HOP G.S.R LEVEL 3 の練習
10．HIP･HOP G.S.R LEVEL 3 の応用／ヒップホップ知識の学習（歴史）
11．HIP･HOP G.S.R LEVEL 3 の展開／ヒップホップ知識の学習（文化）
12．HIP･HOP G.S.R LEVEL 3 指導の基本／アップのステップの基本
13．HIP･HOP G.S.R LEVEL 3 指導の基本／アップのステップの応用
14．HIP･HOP G.S.R LEVEL 1 ～ 3　復習
15．HIP･HOP G.S.R LEVEL 1 ～ 3　発表
期末試験またはレポート
※HIP･HOP　G.S.R とは日本ストリートダンス教育研究所にて開発された、指導を目的に、現代のストリートダンスの技法を体系的に分類した、ストリートダンスの「型」にあたるもの。

［準備学習］

①各回の授業前にテキストの該当部分を読んでくること。
②各回の授業で学んだ実技の復習を行ってくること。
③各回の授業で学んだ実技の指導法について、予習として考えてくること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
『ヒップホップ・ダンスⅠ　指導要領・解説本』
公益社団法人日本ストリートダンス教育研究所

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験もしくはレポート　70%
授業態度　30%

授業科目名	C(E)CRC308	授業の種類	授業担当者
絵画制作		（ 講義・演習・(実習) ）	船木　美佳

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	保育士選択 幼稚園教諭選択
15回	30時間・1単位	2,3,4年次・前期,後期	選択	

[授業の目的]

与えられたテーマではなく、自らでテーマを探りプランをたてるようになる。「したいこと」と表現がすぐに結びつかなくとも、その「もどかしい」経験を経ることで自分の方向性を掴んでいく事ができるようになる。またそれがオリジナリティへと発展することが望ましい。

[授業全体の内容の概要]

主に造形表現を履修した学生を対象に、絵画制作を中心とした作品制作の実習。油画の基礎技法の習得はもとより、“自分にとって表現とは何か？”という問いのもとで作品のアプローチを試みる。本演習では個別対応形式をとりつつ、各学生の個性やオリジナリティを発見していく方法をともに検討していく。その過程で、保育者を志す学生自身が、個性やオリジナリティを発見することで、こどものそれを育み評価することができる感性を磨いていく。

[授業終了時の到達目標]

「自分がしたい事」を頭でなく手で動かしながら思考をすることができるようになる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．ガイダンス
2．観察する―自画像1　木炭画
3．観察する―自画像2　木炭画・講評会
4．観察する―友人　描画材選択・講評会
5．観察する―屋外スケッチ1　木炭画
6．観察する―屋外スケッチ2　木炭画・講評会
7．イメージを広げる―色で遊ぶ1　水彩
8．イメージを広げる―色で遊ぶ2　水彩・講評会
9．自由課題1　美術史上の作品参照　ディスカッション
10．油画　自由課題2　油絵について
11．油画　自由課題3→個別対応①
12．油画　自由課題4→個別対応②
13．油画　自由課題5→個別対応③
14．油画　自由課題6→個別対応④
15．展示場所整備　講評会　作品撮影
提出作品　レポート等

[準備学習]

油彩セットとキャンバスを個別で購入します。購入については授業で説明します。

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：　随時指示
参考文献：マチス画集
セザンヌ画集
ムンク画集
コンテンポラリーペインター画集

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

（試験やレポートの評価基準など）
課題作品・レポート　60%
受講態度　40%

授業科目名	C(E)CRC309	授業の種類	授業担当者
イノセンスアート		（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	クリスティーヌ・プレ

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	2, 3, 4年次・後期	選択	保育士選択

［授業の目的］

障がいのあるこども達との造形活動を通じて学ぶアクティブ・ラーニング（能動的学習）形式の授業。

まず素材／道具の選択、使用方法を習得し、言語以外のコミュニケーション手段のメディア選択と使用（物質、写真、映像など）を学び、活動に合わせた環境作りを行う。こどもの制作の豊かさと多様性を評価するため、視覚美術文化を学ぶ。また制作体験の結果として出来た作品よりも、制作過程並びに、もの作りの喜びの重要性を学ぶ。チームワークでの活動を通して感覚を拡げ、環境をより認識することでコミュニケーション能力を発展させる。

［授業全体の内容の概要］

造形活動とイメージリテラシーを体験しながら感動的なイノセンスアートを共に発見する。障がいのあるこども達との造形活動を実践する、また一方、アールブルミエ（原始と民族美術、もの作り）、アールブリュットの表現、現在の障がい者の芸術運動など、こども達の造形活動などを理解するための研究により様々な視点から味わえるアートの意味を思考する。

［授業終了時の到達目標］

アートの多様性を学びながら、障がいのあるこども達の表現の多様性を実践の場で理解していく。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ガイダンス「イノセンスアートとは」
2．アトリエの環境づくりについて
3．「わんぱくクラブ」のこども達との協同制作プロジェクト実践Ⅰ
4．協同制作プロジェクトⅠ実践振り返り。素材、表現研究
5．「わんぱくクラブ」のこども達との協同制作プロジェクト実践Ⅱ
6．協同制作プロジェクトⅡ実践振り返り。素材、表現研究
7．「わんぱくクラブ」のこども達との協同制作プロジェクト実践Ⅲ
8．協同制作プロジェクトⅢ実践振り返り。素材、表現研究
9．「わんぱくクラブ」のこども達との協同制作プロジェクト実践Ⅳ
10．協同制作プロジェクトⅣ実践振り返り。素材、表現研究
11．「わんぱくクラブ」のこども達との協同制作プロジェクト実践Ⅴ
12．協同制作プロジェクトⅤ実践振り返り。素材、表現研究
13．「わんぱくクラブ」のこども達との協同制作プロジェクト実践Ⅵ
14．協同制作プロジェクトⅥ実践振り返り。素材、表現研究
15．プロジェクトについての観察記録発表

試験・レポート等

＊実践は障がいのあるこども達と共に活動を行います。それに伴いガイダンスでは、適切で細やかな受講ルールを周知します。受講者は15回通じてその受講ルールをしっかりと理解し厳守するようにしてください。
＊障がいのあるこども達との活動日程は、随時、告知します。

［準備学習］

日常生活の中で、または観た映画や読んだ本のなかで、自分にとって気になる事項を考えること。GIFT：与える、受け取る事の意味を考えること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：随時指示
参考文献：
＊“Klee and Cobra. A Child’s Play”, Zentrum Paul Klee Edition, 2011
＊“Surrealism”, Phaidon Edition, 2004
＊“Gaston Chaissac”, R•union des Mus•es Nationaux Edition, 1998
＊「アウトサイダー・アートの世界、東と西のアール・ブリュット」
編著者：はたよしこ、紀伊国屋書店、2008
＊“Masques” Mus•e du Quai Branly Edition, 2010

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
試験・レポート　60%
受講態度　40%

授業科目名	C(E)CRC210	授業の種類	授業担当者
児童文化		（ 講義 ・演習・ 実習 ）	中川理恵子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・ 1 単位	2,3,4年次・前期,後期	選択

[授業の目的]

児童文化の歴史を学ぶ。

紙芝居・わらべうた・アニメーションのそれぞれの特徴を学び、基礎的理解をはかる。

[授業全体の内容の概要]

「子ども」とは誰をさすのかということを入り口に児童文化について考える。具体的には、紙芝居、わらべ歌・アニメーションについて学ぶ。特に、紙芝居について、絵本との違いを学びながら、それぞれの持つ可能性について考える。紙芝居、わらべ歌については、実演方法、遊び方も含めて学ぶ。

[授業終了時の到達目標]

⑴児童文化を歴史的に概観し、基礎的理解をはかる。

⑵紙芝居、わらべうた、アニメーションの特質について基礎的理解をはかる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．〈児童文化〉とは何か。⑴

2．〈児童文化〉とは何か。⑵ 遊びをめぐって

3．〈児童文化〉とは何か。⑶ おもちゃ、お菓子をめぐって

4．わらべうた⑴ わらべうたとは何か

5．わらべうた⑵ わらべうた遊び

6．絵本と紙芝居

7．紙芝居⑴ 歴史 戦前

8．紙芝居⑵ 歴史 戦後

9．紙芝居⑶ 特性と種類

10．紙芝居⑷ 実演するには

11．紙芝居⑸ 選び方

12．紙芝居⑹ 演じ方

13．紙芝居⑺ 観客について

14．アニメーションの特性について

15．まとめ

筆記試験

※履修者の人数により授業計画が一部変更になることがあります。

[準備学習]

①授業の前に前回のノートや配布資料を読み返してくること。

②授業の後にノートや配布資料を整理すること。

③授業の後に授業中に指定した参考書や資料を読むこと。

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：指定無し

参考文献：まついのりこ

「紙芝居―共感のよろこび」

童心社（18／09）

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

（試験やレポートの評価基準など）

①授業に取り組む態度（25%）

②課題提出（25%）

③期末試験（50%）

（単位取得に①②③は不可欠）

授業科目名	C(E)CRC311	授業の種類	授業担当者
紙芝居入門		（ 講義 ・演習・ 実習 ）	中川理恵子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	2,3,4年次・後期	選択

［授業の目的］

紙芝居の特徴を学び、基礎的理解をはかる。
紙芝居実演について基礎的知識を修得する。

［授業全体の内容の概要］

日本独自の児童文化財である「紙芝居」の特性と活用の方法を学ぶ。誕生や発展の歴史をたどり、作品に親しみながら、ジャンルや表現について見識を深める。また、実演を通じて、演じ手と聞き手の個性や関心に応じた作品の選び方と演じ方の基礎を身につける。さらに本科目では、声や身振りを用いて演じられ、対話を通じて展開される「紙芝居」というメディアの演劇性に注目する。作品鑑賞だけではなく、身体を使って演じる経験がこどもにもたらすものについて考え、遊びや教育の場における「紙芝居」の楽しみ方や役立て方を検討する。

［授業終了時の到達目標］

⑴紙芝居の歴史と特徴の関係を述べる事が出来る。
⑵紙芝居の実演に関わる基礎知識をもとに実演が出来る。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．〈紙芝居〉とは何か。⑴　紙芝居とこども
2．〈紙芝居〉とは何か。⑵　絵本と紙芝居
3．紙芝居の歴史と特性⑴　紙芝居の源流・街頭紙芝居
4．紙芝居の歴史と特性⑵　宗教紙芝居・教育紙芝居
5．紙芝居の歴史と特性⑶　国策紙芝居・戦後の紙芝居
6．紙芝居の歴史と特性⑷　現代の紙芝居
7．紙芝居作品研究⑴　構成
8．紙芝居作品研究⑵　脚本
9．紙芝居作品研究⑶　画について
10．実演⑴　実演するということ
11．実演⑵　作品選び
12．実演⑶　場作り
13．実演⑷　演じ方
14．実演⑸　観客について
15．まとめ
筆記試験
※履修者の人数により授業計画が一部変更になることがあります。

［準備学習］

①授業の前に前回のノートや配布資料を読み返してくること。
②授業の後にノートや配布資料を整理すること。
③授業の後に授業中に指定した参考書や資料を読むこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
指定無し
参考文献：
まついのりこ「紙芝居―共感のよろこび」
童心社（18／09）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
①授業に取り組む態度（25%）
②実演（25%）
③期末試験（50%）
（単位取得に①②③は不可欠）

授業科目名	C(E)CRC212	授業の種類	授業担当者
英語の歌あそび		（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	岩本　裕子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	2, 3, 4年次・後期	選択

［授業の目的］

英語が苦手でも、英語の歌を歌うことはできる。英語で歌うことで、苦手なはずの英語を好きになる。会話ができないと思っていても、歌を通して会話が始まり、世界中の子どもたちとのつながりを深めることができる。

［授業全体の内容の概要］

英語の授業ではなく、英語の歌を聴き、歌い、覚えて、自分の「力」にする授業である。英語の歌詞を読むことから始めるが、歌詞の意味は授業担当者から説明するため、受講生が辞書を引きながら訳することはしない。歌詞の意味がわからないまま歌うのでは、心から歌うことはできないので、歌詞の意味理解は絶対条件である。毎回の授業によって、自分自身のノートを作り上げ、自信を持って歌える歌を増やせるようにする。

［授業終了時の到達目標］

子どもたちの前で、英語の歌を諳んじて（暗記して）歌う発表会（最終講義）で自分自身が満足できる歌いぶりをする。授業終了後も、この経験を生かして、英語の歌を歌うことを習慣にし、自己PRの一つにしてほしい。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．講義内容紹介（英語の歌であそぶとは？）
2．自分たちの身近にある英語の歌を持ち寄ろう！
3．映像で歌われた英語の歌を聴いてみよう！①「サウンド・オブ・ミュージック」
4．映像で歌われた英語の歌を聴いてみよう！②「天使にラブソングを」
5．映像で歌われた英語の歌を聴いてみよう！③「レ・ミゼラブル」
6．子どもが歌う英語の歌を覚えよう！①　♪ London Bridge
7．子どもが歌う英語の歌を覚えよう！②　♪ Mary Had a Little Lamb
8．子どもが歌う英語の歌を覚えよう！③　♪ Old MacDonald Had a Farm
9．子どもが歌う英語の歌を歌おう！①　♪ I've Been Working on the Railroad
10．子どもが歌う英語の歌を歌おう！②　♪ My Grandfather's Clock
11．子どもが歌う英語の歌を歌おう！③　♪ Happy Birthday!
12．ミュージカルの英語の歌を歌ってみよう！①　♪ My Favorite Thing
13．ミュージカルの英語の歌を歌ってみよう！②　♪ Halle Holly Queen
14．ミュージカルの英語の歌を歌ってみよう！③　♪ On My Own
15．まとめ（ノート提出←この日までにノートを完成させておく。次週このノート持ち込みで試験）

達成度確認試験（自筆ノート持ち込み）

［準備学習］

準備学習は、予習ではなく復習にあてるように心がけること。テキストを使用せず、手作り教材が配布されるので、授業時間内で終了しなかった教材をきちんと仕上げたり、復習したりすることで、次回の授業にもつながっていく。

［使用テキスト・参考文献］

テキストは使用せず、毎回教材プリントを配布。
参考文献は適宜、講義の中で紹介する。幼児英語教育を始めているNHKのテキストなどは、その例となる。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
授業参加度　20%
ノート提出　20%
期末試験　60%

授業科目名	C(E)CRC313	授業の種類	授業担当者
地球のことばと表情		（講義・演習・実習）	齊藤　享治

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2,3,4年次・前期	選択

［授業の目的］

教育するこどもの自然に関する理解が深められるように、またこどもからの質問に適切に答えられるようにするため、自然に関する基礎的な知識とともに自然の理解を助ける技能・技術を身につけることを目的とする。

［授業全体の内容の概要］

一般的教養として、さらに保育・教育に携わるために必要な最低限の自然地理的知識とその活用法について学ぶ。学生たちが住む地域や世界の中の日本の自然的位置を、地球的視野から観察し、地球の表面のしわや陸と海の表情が、何を物語り、その表情が、どのような地球の成り立ちと私たちの環境を表現しているかについて、地形図の読み取り方、地形分析を通して学習する。埼玉の地形図解析から、この地域が古代社会から今に至るまでにどのような変化が起こり、それが私たちに何を語りかけているかを読み解くことで、自分の生きていることと自然地理学とが密接につながっていることを学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

教育するこどもの自然に関する理解を深めることができる基礎的な知識を修得するとともに、自然を理解するための地図作業等による技能・技術を身につけていること。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ガイダンス。空中写真による地表のしわの読み取り方（写真判読を含む）
2．地球表面のしわのでき方
3．さまざまな火山の形とその生い立ち
4．さまざまな山の形とその生い立ち
5．さまざまな平地の形とその生い立ち
6．地形図による地表のしわの読み取り方
（地形図読図と地図作業を含む。定規と色鉛筆が必要）
7．さまざまな湖の形とそのでき方（地図作業を含む。色鉛筆が必要）
8．さまざまな海岸線とそのでき方（地図作業を含む。定規と色鉛筆が必要）
9．暮らしに影響を及ぼす気候と植生（地図作業を含む。定規と色鉛筆が必要）
10．さまざまな気候とその成り立ち（地図作業を含む。色鉛筆が必要）
11．変化する気候とそのわけ（地図作業を含む。定規と色鉛筆が必要）
12．変化する地形と自然災害
13．地形情報の入手方法とその活用（地図作業を含む。色鉛筆が必要）
14．さまざまな日本の自然とその見方
15．特徴的な埼玉の自然とその成り立ち
期末試験

［準備学習］

○授業の前に事前に配布する資料プリントを読んでくること
○授業の後にノートや資料プリントを読んで、授業内容を確認するとともに疑問点があれば整理すること
○返却された作業地図について、間違っていると指摘された箇所を再確認すること

［使用テキスト・参考文献］

参考文献：
斉藤享治（1998）『大学テキスト　日本の扇状地』古今書院
※毎回、資料プリントを配布する

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

受講態度：15%
地図作業：15%（作業内容をチェックして返却）
期末試験：70%

授業科目名	C(E)CRC214	授業の種類	授業担当者
自然観察		（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	鶴ヶ谷柊子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・１単位	２年次・開講日指定	選択

［授業の目的］
・自然や生息する生物の調査・観察を行い、調査・観察や記録の方法を身に付ける。
・１年間を通して調査・観察を行うことで、季節による自然の変化を理解する。
・学外実習を行うことで、様々な場所での調査方法を学ぶ。

［授業全体の内容の概要］
幼少期に様々な生物と関わることは、その後の成長において重要な役割を果たす。そのため、保育者として、自然や生物の知識を持つことは不可欠である。また、自然やそこに生息する生物といった、注意深く見なければ理解したり、違いを見つけたりすることが難しいものを観察する能力を身に付けることは、将来、保育者としてこどもの観察を行う際に活かすことができると考える。この授業では、１年間を通して様々な自然や生物の観察を行い、調査・観察や記録の方法を身に付けることを目的とする。事前に生物の知識を持っている必要はないが、苦手でも挑戦してみようという気持ちを持って授業に臨んでほしい。また、授業期間外での活動や、野外活動等も行うため、欠席することなく時間外の活動にも積極的に参加のできる学生の履修を望む。

［授業終了時の到達目標］
・生物の観察方法がわかる。・生物の簡単な分類方法がわかる。・図鑑を使って生物の同定を行うことができる。
・生物のスケッチを行うことができる。・場所や種類による生物の調査方法がわかる。
・調査場所による用具や服装の準備ができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1．オリエンテーション・野外活動の安全①
2．野外活動の安全②・自然観察の基本
3．ぽっけの庭の生物調査①　春編
4．教育の森の生物調査①　春編
5．ビオトープの生物調査①　春編・顕微鏡の使い方
6．野外活動の安全③　海編・臨海実習オリエンテーション
7．海産生物の調査①（方法と注意事項）※夏季休業中に学外で行う予定
8．海産生物の調査②（調査）※夏季休業中に学外で行う
9．海産生物の調査③（分類とスケッチ）※夏季休業中に学外で行う
10．海産生物の調査④（まとめ）
11．ぽっけの庭の生物調査②　秋編
12．４号館の森の生物調査
13．教育の森の生物調査②　秋編
14．ビオトープの生物調査②　秋編
15．調査結果のまとめ
レポート提出

［準備学習］
①講義内で行った調査についてまとめ、レポートを作成して提出すること。
②講義内で学んだ調査方法や調査の準備について復習し、次の調査時には自分で準備できるようにすること。
③講義内で学んだり、行ったりした調査について復習し、自主的に観察を行うこと。

［使用テキスト・参考文献］
テキスト：随時、資料を配布する。
参考文献：生物に関する図鑑

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］
授業内および学年末のレポート　80%
受講態度（調査への取り組み、提出物）20%
提出物には、コメントを入れて返却する。

授業科目名	C(E)CRC215	授業の種類	授業担当者
スクールガーデニングA		（ 講義・演習・(実習) ）	荒木　祐二

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	1,2,3,4年次・開講日指定	選択

［授業の目的］

自然の不思議を体感し、保育・教育・福祉の現場おける自然環境を整備・保持するための植物栽培、ビオトープの育成などに寄与できる植物栽培についての基本的理解と技能を身に付ける。

［授業全体の内容の概要］

比較的管理しやすい草花、野菜などの栽培体験を通じて、それらの種類および品種、栽培方法、繁殖方法、ならびに適切な環境条件等を把握する。

［授業終了時の到達目標］

1．植物栽培にかかわる基礎的な技能を体得する。
2．施肥や除草、病害虫防除の実践を通して環境への配慮について理解できる。
3．植物栽培の実践により、生命の尊さを考えることができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．講義ガイダンス―栽培の概要と農具の説明―
2．栽培植物の選定　　ジャガイモの植付け―土づくり・施肥―
3．一年草の定植―パンジー等のプランター栽培―
4．ナス・ピーマンの植付け
5．サツマイモの定植―栄養繁殖と袋栽培―
6．栽培植物の分類と起源
7．一年草の種まき―サルビア等―
8．作物管理⑴―除草、追肥、かん水等―
9．作物管理⑵―間引き、生育診断等―
10．一年草の定植―サルビア等―
11．ジャガイモの収穫
12．ハツカダイコンの種まき―容器栽培―
13．森林と農地の多面的機能
14．サツマイモの収穫―食味―
15．ハツカダイコンの収穫
講義のまとめ
試験・レポート等

［準備学習］

①授業の前にこれから栽培する植物について調べておくこと。
②授業の前に前回の資料を読み返しておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：必要に応じてプリントを配布
参考文献：
・日本農業教育学会編『学校園の栽培便利帳』
農山魚村文化協会
・森田茂紀ほか（編）『栽培学』朝倉書店
・小宮山宏ほか（編）『サステイナビリティ学①～⑤』
東京大学出版会

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

レポート　60%
期末試験　30%
実習中の態度　10%

授業科目名	C(E)CRC316	授業の種類	授業担当者
スクールガーデニングB		（ 講義・演習・(実習) ）	荒木祐二(2017年度不開講)

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	1,2,3,4年次・開講日指定	選択

[授業の目的]

栽培実習に重点をおいたより専門的な栽培学の理論を学び、環境と自然との関係性を理解するとともに、教育現場の栽培指導および支援の方法を習得する。

[授業全体の内容の概要]

栽培実習を通じて、植物の栽培に関わる理論と方法を習得するとともに、生命を育み、環境とのかかわりを意識して生物生産することの教育的意義について考える。受講生の理解を確認しつつ、指導法に関する講義も行う。

[授業終了時の到達目標]

1．植物の栽培に関わる理論と方法を習得する。
2．環境に配慮しながら生物生産をすることの教育的意義について考えることができる。
3．植物育成上の生命倫理について理解できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．講義ガイダンス―栽培実習における指導上の安全管理―
2．栽培学習の教育的効果　　栽培植物の選定
3．果菜類の定植―トマト、キュウリ等の袋栽培―
4．ラッカセイの種まき
5．作物管理・観察⑴観察のポイント・指導上の留意点
6．作物管理・観察⑵生育診断
7．作物管理・観察⑶品質向上の工夫
8．イネの定植―ペットボトル栽培―
9．果菜類の収穫
10．作物栽培システム―連作と輪作等―
11．農業と自然再生
12．ラッカセイの収穫・イネの収穫
13．環境と共生の思想　　環境問題と栽培⑴気候変動
14．環境問題と栽培⑵ごみ問題と低炭素社会の実現・生物多様性の損失
15．環境問題と栽培⑶食農教育と ESD
講義のまとめ
試験・レポート等

[準備学習]

①授業の前にこれから栽培する植物について調べておくこと。
②授業の前に前回の資料を読み返しておくこと。

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：必要に応じてプリントを配布
参考文献：
・技術教育分科会（編）『新　技術科教育総論』
日本産業技術教育学会
・森田茂紀ほか（編）『栽培学』朝倉書店

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

レポート　60%
期末試験　30%
実習中の態度　10%

こども専門科目

（保育と福祉）

授業科目名	CMNW201	授業の種類	授業担当者
保育原理		（講義・演習・実習）	五十嵐裕子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	1年次・前期	必修	保育士必修

［授業の目的］

子どもの見方、保育の考え方、保育の思想・歴史など、保育に関する基礎知識を身につけることをめざす。具体的には、保育の専門性、保育観、子ども観、子ども理解、保育における環境の意味、保育内容・方法の原理や保育計画のあり方、保育の歴史と思想、保育の制度等を学習し、子どもと保育についての理解を深め、『幼稚園教育要領』や『保育所保育指針』で基本とされている、乳幼児の特性に即した「子どもから出発する保育」を、自ら創造するための手だてを考える糸口をつかむことを目標とする。

［授業全体の内容の概要］

保育の基礎的な理論について学習する。保育の定義、保育の歴史や思想、保育の制度について学習する。さらに、幼稚園と保育所における養護と教育を一体化した保育のあり方、幼稚園と保育所の共通点と相違点など、保育に関する基本的な原理について学習する。さらに、乳児・幼児に対する保育の意義、子どもの発達を支える保育のあり方、保育内容と保育方法、保育形態、子ども観・保育観と保育計画に基づいた具体的な指導計画について、基礎的な事項を学習する。

［授業終了時の到達目標］

子どもの見方、保育の考え方、保育制度など保育に関する基礎的な理論について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．保育とは何か
2．こども観と保育　―こどもをどうとらえるか―
3．保育とこども理解　―こどもをどう理解し、どのようにかかわるか―
4．保育の中のこども理解　―発達をどうとらえるか―
5．実践記録から学ぶ(1)
6．こどもが育つ環境の理解　―保育は「環境を通して」行われる―
7．保育内容・保育方法の原理
8．保育計画と実践の原理
9．保育計画の歴史とさまざまな保育計画
10．実践記録から学ぶ(2)
11．健康・安全と障害のある子どもへの対応
12．保育の歴史と思想(1)　―西欧における保育の歴史と思想―
13．保育の歴史と思想(2)　―日本における保育の歴史と思想―
14．保育者に求められるもの
15．保育の現状と課題
試験・レポート等

［準備学習］

授業初回に、毎回の授業テーマとテキストの範囲を示した授業計画を配布するので、前もってテキストの該当部分を読んで授業に臨むこと。授業後にはノートや配布された資料に目を通して、ノートの整理をしておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：森上史朗他編『保育原理』　ミネルヴァ書房2015
厚生労働省編『保育所保育指針解説書』　フレーベル館
文部科学省『幼稚園教育要領解説 平成20年10月』フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　平成27年2月』　フレーベル館
参考文献：全国保育団体連絡会・保育研究所編
『保育白書2015』ひとなる書房

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験：60%
コメントシート（毎時間提出）：30%
授業に臨む態度等：10%

授業科目名	CMNW202	授業の種類	授業担当者
社会福祉概論		（講義・演習・実習）	大久保秀子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	1年次・前期	必修	保育士必修

［授業の目的］

①社会福祉の基本理念ならびに現代社会において求められる役割を学ぶ。
②保育者として求められる社会福祉の基本的仕組み、法行財政、分野ごとの基礎的知識を身につけ、課題を理解する。
③社会福祉の歴史的展開と現代の動向及び展開方向について理解する。

［授業全体の内容の概要］

社会福祉の基本理念を正しく理解し、現代社会における社会福祉の意義や役割を学ぶことを通じ、保育士が広く社会福祉を担う役割を果たすことへの気づきを促す。また、社会福祉の法行財政、日本における社会福祉の歴史、社会福祉の援助の実際がどのような場でどのような考え方や方法で行われているのか、といった援助の体系、社会福祉専門職の役割など、社会福祉の基礎的な知識を学習する。この講義を通じて、多様な人々がより良く生きることができるよう支援するための、さまざまな方策が社会福祉であることを理解していく。

［授業終了時の到達目標］

社会福祉の理念と各分野の概略ならびに福祉的な支援の特色を理解すると共に、福祉の視点での人間理解を深める。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業オリエンテーション・現代社会と社会福祉、保育
2．人権の歴史と社会福祉の生成
3．社会福祉の理念
4．社会福祉の仕組み：法行財政①
5．社会福祉の仕組み：法行財政②
6．社会福祉の施設と機関
7．相談援助の理論と実際
8．社会福祉の分野①　障がい児・者の生活と自立を支援する社会福祉
9．社会福祉の分野②　高齢者の生活問題の理解
10．社会福祉の分野③　高齢者の生活問題としての介護と介護保険制度
11．社会福祉の歴史①　イギリスにおける福祉国家形成を中心に
12．社会福祉の歴史②　日本の社会福祉史概観
13．社会福祉の動向：社会福祉基礎構造改革と地域福祉の批判的検討
14．社会福祉を担う人々：専門職制度と職業倫理
15．総括――学習のまとめ――

筆記試験を実施

［準備学習］

①教科書ならびに配布資料の指定箇所を事前に読み、予習課題がある場合には期日厳守にて提出する。
②授業後はノート整理をして授業内容を復習しておく。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：大久保秀子著『新・社会福祉とは何か』（中央法規出版）
テキストで不足する部分については、授業時に資料配布を行う。
参考文献：授業時に紹介する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（成績評価の基準）試験：60%
課題の提出等：40%
（課題、成績評価のフィードバック）
授業時、または上記授業前準備学修課題等提出物の内容を授業に反映させる。他の学生の体験や意見を共有して授業内容の理解を深める。したがって課題の提出が重要である。定期試験については、記述・論述式を除き、試験後に正解を示し、学生自身の理解を促す。

授業科目名	CMNW203	授業の種類	授業担当者
児童家庭福祉論		（講義・演習・実習）	五十嵐裕子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	1年次・後期	選択	保育士必修

［授業の目的］

・児童家庭福祉の意義を歴史や子どもの人権を通して理解するとともに、制度や実施体制について知る。
・子どもと家族をめぐる福祉的問題と、それへの児童家庭福祉サービスの実際と課題について学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

児童家庭福祉の意義と歴史、子どもの人権と児童家庭福祉問題の現代的背景、児童家庭福祉の制度と体系についての理解を図るとともに、子どもを巡って現在おきているさまざまな問題を取り上げ、その背景や動向、対応、課題などについて具体的に考える。

［授業終了時の到達目標］

児童家庭福祉に携わる者としての価値観・倫理観を養うとともに、現代の子どもたちの抱えている問題、問題解決のため必要な施策、サービスについて基本的な知識を身につける。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．児童福祉とは(1) ―児童福祉の根拠・特徴・対象―
2．児童福祉とは(2) ―児童福祉の範囲・領域、わが国の児童福祉の現状―
3．児童福祉の歴史(1) ―イギリス－
4．児童福祉の歴史(2) ―日本―
5．こどもの生活と生活問題
6．こども観の変遷とこども福祉の理念の形成
7．児童福祉の法と行財政(1) ―児童福祉にかかわる法律と実施機関―
8．児童福祉の法と行財政(2) ―児童福祉にかかわる事業・施設と児童福祉の財政―
9．子どもと家族
10．子育て支援の体系と保育施策
11．社会病理・家族病理としてのこども虐待
12．社会的養護の現状と課題
13．障害のあるこどもへの福祉の現状と課題
14．こどもの福祉に携わる専門職
15．まとめ
試験・レポート等

［準備学習］

授業初回に、毎回の授業テーマとテキストの範囲を示した授業計画を配布するので、前もってテキストの該当部分を読んで授業に臨むこと。授業後にはノートや配布された資料に目を通して、ノートの整理をしておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：米山岳廣他編著『子ども・生活・福祉』
文化書房博文社

参考文献：
『社会福祉小六法』
日本子どもを守る会編『子ども白書2015』本の泉社　2015

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験：60%
コメントシート（毎時間提出）：30%
授業に臨む態度等：10%

授業科目名	CMNW404	授業の種類	授業担当者
相談援助演習		（ 講義 ・演習・ 実習 ）	馬場　康徳

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	3年次・前期	選択	保育士必修

［授業の目的］

保育・児童福祉の現場では子ども達を援助することは当然のことですが、今日においては子どもの保護者への支援、そして地域の子どもやその家庭への支援も欠かせないものとなっている。そこで保育士にとって相談援助の意義を深め、保育活動と相談援助の関係について理解をする。

［授業全体の内容の概要］

相談援助の理念と歴史、原理原則、展開過程、記録、評価について学ぶ。事例を通してグループワークやロールプレイングを行い、相談援助を体得する。

［授業終了時の到達目標］

保育・児童福祉の現場において相談援助がどのように活用されているか、その必要性と意義について理解する。また相談者の抱えている課題は多岐にわたることを知り、保育者として相談者の視点からも多様な考え方を尊重できるようにする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．保育と相談援助
2．相談援助とソーシャルワーク
3．相談援助の理論と歴史
4．相談援助の機能
5．相談援助の対象
6．相談援助の原理・原則
7．相談援助の過程
8．相談援助の記録
9．相談援助の評価
10．ソーシャルワークの方法①　グループワーク
11．ソーシャルワークの方法②　コミュニティワーク
12．ソーシャルワークの方法③　その他のソーシャルワークの方法
13．相談援助の具体的展開①　事例分析
14．相談援助の具体的展開②　事例分析
15．相談援助の具体的展開③　事例分析
試験

［準備学習］

授業の前に前回のノートや配布された資料を読み返し授業に臨むこと。授業において配布された資料等はきちんと整理をしておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：必要に応じてプリント配布。
参考文献：大久保秀子著『新・社会福祉とは何か』
中央法規出版

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験：60%
提出物、授業への取り組み等：40%

授業科目名	CMNW405	授業の種類	授業担当者
保育相談支援		（ 講義・演習・実習 ）	甲斐　恵美・木村　弘美

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	3年次・後期	選択	保育士必修

［授業の目的］

・保育相談支援の意義と原則について理解する。
・保育所・子育て支援センター、その他の児童福祉施設における保育相談支援の実際について学び、内容や方法を理解する。

［授業全体の内容の概要］

保育相談支援の意義・原則について理解を図り、保育相談支援の基本的姿勢や実際について学ぶ。
グループワークや事例、ロールプレイングを通して保育相談支援を考え深める。

［授業終了時の到達目標］

・保育相談支援の意義と原則を理解し、実際の展開に役立てられるように、保育相談の方法と技術を習得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業のねらい・保護者に対する保育相談支援の意義
2．保育の特性と保育士の専門性を活かした支援
3．子どもの最善の利益と福祉の重視
4．子どもの成長の喜びの共有
5．保護者の養育力の向上に資する支援
6．信頼関係を基本とした受容的かかわり、自己決定、秘密保持の尊重
7．地域の資源の活用と関係機関等との連携・協力
8．保育に関する保護者に対する指導
9．保育者支援の内容
10．保護者支援の方法と技術
11．保護者支援の計画、記録、評価、カンファレンス
12．保育所における保育相談支援の実際
13．保育所における特別な対応を要する家庭への支援
14．児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援
　　障害児施設、母子生活支援施設等における保育相談支援
15．まとめ

試験・レポート等

［準備学習］

授業前テキストの該当部分を読んでくること

［使用テキスト・参考文献］

〔テキスト〕保育相談支援⑲　中央法規

〔参考文献〕子育て支援の原点『保育園における子育て支援の歩みと実践事例から学ぶ働き』子育てセンター実践研究会

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験：60%
受講態度：40%（授業への取り組み・提出物等）

授業科目名	CMNW306	授業の種類	授業担当者
社会的養護論		（講義・演習・実習）	瓜巣由紀子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2年次・後期	選択	保育士必修

［授業の目的］

社会的養護とは何かということを理解し、社会的養護の法制度、実施体系などを理解する。社会的養護の今日的意義と児童福祉の専門職としての基礎的な知識等を習得できるようにする。

［授業全体の内容の概要］

社会的養護の歴史的変遷、現状と課題を把握する。家庭環境の変化と社会的養護の役割、社会的養護の法制度や体系、従事者の役割を解説する。これらをふまえ、児童福祉施設の従事者として備えるべき支援の理念や内容を学習する。

［授業終了時の到達目標］

社会的養護を必要とする子どもへの理解を深める。そしてその子どもを一人の人として尊重する支援や必要とする支援について習得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．社会的養護とは何か
2．社会的養護の歴史的変遷と今日的意義
3．児童の権利擁護と自立支援
4．社会的養護の法制度と体系
5．社会的養護と専門職
6．家庭養護（里親制度）と支援
7．施設養護の運営管理
8．施設養護と支援①　乳児院
9．施設養護と支援②　児童養護施設・母子生活支援施設
10．施設養護と支援③　障害児入所施設
11．施設養護と支援④　情緒障害児短期治療施設・児童自立支援施設
12．施設養護と支援⑤　児童厚生施設、児童福祉施設と地域のかかわり
13．施設養護と家庭支援・地域とのかかわり
14．社会的養護と危機管理
15．社会的養護まとめ
試験

［準備学習］

「社会福祉概論」や「児童家庭福祉論」を復習しておくこと。授業後に授業中に指定した参考文献や関連資料を読み、次回の授業に臨むこと。そして新聞等で児童福祉の現状を把握しておいて下さい。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：『現代の保育と社会的養護』
井村圭壮・安田誠人編／学文社

参考文献：『福祉小六法』／みらい

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

受講態度：15%
期末試験：70%
課題提出：15%（レポート講評あり）

授業科目名	CMNW407	授業の種類	授業担当者
社会的養護内容		（ 講義 ・演習・ 実習 ）	瓜巣由紀子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	3年次・前期	選択	保育士必修

［授業の目的］

社会的養護の実際と支援の方法を学び、児童福祉従事者の役割を理解する。児童福祉の現場で活かせる知識を習得する。

個人ワークやグループワークを通して、児童福祉の専門職として必要な基礎的技能を習得する。

［授業全体の内容の概要］

社会的養護の基礎的知識を活かし、児童の権利擁護と児童福祉専門職としての知識・技能を高める。そして各事例について個人ワークならびにグループワークを行い、支援の多様性や考え方の多様性を学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

グループワークを通して、事例考察から支援方法や考え方の多様性を学ぶ。考察作業や発表等からグループ活動の意義を体得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．家庭養護と社会的養護の役割
2．社会的養護の体系と支援事業
3．児童の権利擁護と自立支援の実際
4．児童福祉専門職としての役割と倫理
5．自立支援事例①における個人ワーク
6．事例のグループワークと発表、まとめ
7．自立支援事例②における個人ワーク
8．事例のグループワークと発表、まとめ
9．被虐待児事例における個人ワーク
10．事例のグループワークと発表、まとめ
11．親子関係調整事例における個人ワーク
12．事例のグループワークと発表、まとめ
13．保護者支援事例における個人ワーク
14．事例のグループワークと発表、まとめ
15．社会的養護内容のまとめ
試験

［準備学習］

「社会的養護論」を復習しておくこと。授業中に課した課題を行い、グループワークに臨むこと。グループワークでは現場実習の振り返りもあるので、実習で得た資料等を復習して授業に臨んで下さい。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：『社会的養護～社会的養護の基礎～』
瓜巣一美（執筆者代表）／中央教育・福祉研究所

※「社会的養護論」で使用したテキストを継続使用します

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

受講態度：20%
期末試験：70%
課題提出：10%（レポート講評あり）

授業科目名	CMNW308	授業の種類	授業担当者
乳児保育		（ 講義 ・演習・ 実習 ）	下田　敏江

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2年次・前期	選択	保育士必修

［授業の目的］

主に保育所における3歳未満児の保育、加えて乳児院等における3歳未満児の保育について、その意義と役割、制度と現状を理解する。さらに、乳児保育の基本的知識を理解し、実践的な技能の基礎を学習する。

［授業全体の内容の概要］

主に保育所における3歳未満児の保育、加えて乳児院等における3歳未満児の保育について、その意義、制度と現状を理解する。さらに、乳児保育の基本的知識を理解し、実践的な技能の基礎を演習を通して学習する。保育所保育指針に沿って、6ヶ月未満児、6ヶ月から1歳3ヶ月未満児、1歳3ヶ月から2歳未満児、2歳児と発達段階ごとに子どもの発達と保育内容、保育計画と指導計画、環境構成、職員のチームワーク、保護者との連携と子育て支援等について基礎的理解を促す。さらに、産休明け保育について、子どもの発達の様子と保育の実際や配慮事項について基礎的理解を促す。

［授業終了時の到達目標］

乳児保育の必要性を理解する。保育者として必要な理論、知識、技術の基本を理解する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．保育所、乳児院、家庭的保育における3歳未満児に対する保育の概要を理解する。
2．乳児保育の制度的変遷と共働き家庭や一人親家庭における意義と役割について理解する。
3．産前産後の休業、育児休業等の法律、母親・父親の育休取得の現状について理解する。
4．産休明け、3カ月～9カ月児の発達と保育のポイントについて理解する。
5．10カ月～1歳3カ月、1歳3カ月～2歳未満、2歳児の発達と保育のポイントを理解する。
6．3歳未満児保育における課題と配慮事項について理解する。
7．新入園児の受け入れとその際の配慮事項について理解する。
8．乳児の人形を使って、おしめ交換の手順と乳児の抱き方等について演習する。
9．乳児における遊びの意義、遊びを充実・発展させる人的・物的環境について理解する。
10．乳児の発達段階に適した絵本・紙芝居について理解し、選定や読み聞かせを演習する。
11．3歳未満児の保育計画と指導計画について理解する。
12．3歳未満児保育の特性をふまえ、各自で指導計画を作成する。
13．乳児保育における保育記録の意義、記録の様式と記録の仕方について理解する。
14．乳児保育における保育所と保護者との連携の重要性と連携のあり方について理解する。
15．乳児保育における連絡帳の意義、記録の様式と記録の仕方について理解する。
試験

［準備学習］

①授業の前にテキストの該当部分を読んでくること。
②授業の前にこれまでの配布資料を読み返してくること。
③授業の後に授業中に指定した参考書や資料を読むこと。

［使用テキスト・参考文献］

（テキスト）
『乳児保育　一人一人を大切に』 萌文書林、2015
参考図書：
厚生労働省編『保育所保育指針解説書』 フレーベル館、2008
CHS 子育て文化研究所編
『見る･考える･創りだす乳児保育』 萌文書林、2012

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）

試験	60%
授業態度	20%
課題への取り組み	20%

授業科目名	CMNW309	授業の種類	授業担当者
障害児保育		（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	皆川　順

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2年次・後期	選択	保育士必修 幼稚園教諭必修

［授業の目的］

障害観の歴史的な変遷と望ましい観方について基本的な理解を得る。各障害について、その障害の定義、診断基準、原因、発達特性と発達援助、早期発見と早期対応等について基礎的な知識を得る。さらに、幼稚園や保育所で健常児とともに育つ障害乳幼児に対する発達支援について、その考え方、支援の内容と方法などを理解する。

［授業全体の内容の概要］

障害をどう捉えるかという障害観の歴史的な変遷と望ましい観方について基本的な理解を促す。各障害について、その障害の定義や診断基準、原因、発達特性、早期発見と早期対応などについて基礎知識を学習する。就学前の障害乳幼児を取りまく状況について、各種通園施設や療育・発達支援センター、特殊教育諸学校の幼稚部など、障害児専門機関での受け入れとその対応、幼稚園や保育所での統合保育の状況について理解する。統合保育については、その意義と受け入れ態勢、発達支援の方法と保育における配慮事項などについて基礎的理解を促し、事例を通して具体的対応についても理解を促す。

［授業終了時の到達目標］

知的障害、運動障害、視覚障害、聴覚障害、自閉症スペクトラム障害、重症心身障害について基礎的知識を身につける。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業の概要と進め方について理解する。障害観の歴史的変遷と望ましい障害観を理解する。
2．知的障害について、その用語、定義、分類、原因
3．知的障害をもつ子どもの発達特性と発達支援
4．肢体不自由について、定義、分類、原因
5．脳性麻痺の定義、原因、発達特性、発達支援
6．重度・重複障害児、重症心身障害児の定義、発達特性、発達支援
7．自閉症、軽度発達障害について、原因、診断基準、発達特性
8．自閉症、軽度発達障害の早期発見と早期対応、発達支援
9．視覚障害の定義、分類、原因、発達特性と発達支援
10．聴覚障害の定義、分類、原因、発達特性と発達支援
11．視覚障害児・聴覚障害児に対する発達支援
12．言語障害、病弱・身体虚弱について、定義、分類、原因、発達特性と発達支援
13．統合保育の意義、障害乳幼児の受け入れに当たっての条件整備や配慮事項
14．統合保育に関する理解を深める(1)。
15．統合保育に関する理解を深める(2)。

試験　　※テキストとして幼稚園教育要領を使用する。

［準備学習］

適宜、授業で次回の学習内容とテキストの箇所を示すので、前もってテキストの該当部分を読んでおくこと。

［使用テキスト・参考文献］

（テキスト）尾野明美編著「保育者のための障害児保育」萌文書林　　¥2,000＋税
（参考文献）福永博文・藤井和枝編著「障害をもつ子どもの理解と援助」コレール社2009
「幼稚園教育要領」

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

テスト　80%
提出物　10%
授業態度　10%

授業科目名	CMNW410	授業の種類	授業担当者
在宅保育		（講義・演習・実習）	丸谷　充子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	3，4年次・後期	選択

［授業の目的］

子ども・子育て支援新制度の下、新たに「居宅訪問型保育」「地域子ども・子育て支援事業における訪問型保育」「企業主導型ベビーシッター利用者支援事業」が制度化された。ここでは施設（集団）保育に関する知識・技能を前提に、個別（在宅）保育の特性及び専門性に配慮した、個別（在宅）保育に関する専門知識、専門技能について学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

個別（在宅）保育を実際に担い展開することを想定し、家庭的保育を行うために必要な乳幼児の生活、遊び、発達と心理、栄養と食事、小児保健等に関する基礎的知識、居宅訪問型保育の保育内容、環境整備、運営、リスクマネジメント、職業倫理、保護者対応、一般型家庭訪問保育の業務の流れ等について学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

施設（集団）保育とは異なる個別（在宅）保育に関する専門知識、専門技能、職業倫理を身につけ、施設（集団）、個別（在宅）いずれの場においても信頼される保育が展開できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．家庭訪問保育とは
2．家庭訪問保育のための基礎的知識⑴　乳幼児の生活とあそび
3．家庭訪問保育のための基礎的知識⑵　乳幼児の発達と心理
4．家庭訪問保育のための基礎的知識⑶　乳幼児の栄養と食事
5．家庭訪問保育のための基礎的知識⑷　こどもの保健
6．家庭訪問保育のための基礎的知識⑸　こども虐待
7．家庭訪問保育のための基礎的知識⑹　心肺蘇生法
8．居宅訪問型保育の実際⑴　保育内容と環境整備
9．居宅訪問型保育の実際⑵　運営、安全の確保とリスクマネジメント
10．居宅訪問型保育の実際⑶　保育者の職業倫理と配慮事項
11．居宅訪問型保育の実際⑷　保護者への対応
12．居宅訪問型保育の実際⑸　配慮を要する子どもへの対応
13．一般型家庭訪問保育の実際
14．保育技術を学ぶ⑴　乳幼児のケア
15．保育技術を学ぶ⑵　乳幼児のあそび
試験・レポート等

［準備学習］

授業前はテキストの該当部分を読んでくる。また授業後にはノートや配布資料を整理し授業のふりかえりを行うこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：『在宅保育論』中央法規

参考文献：授業内で適宜紹介する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験　60%
小テスト・レポート等　30%
受講態度　10%
小テスト、レポートは返却し、講評を行う。

授業科目名	CMNW311	授業の種類	授業担当者
家庭支援論		（講義・演習・実習）	丸谷　充子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2年次・後期	選択	保育士必修

［授業の目的］

現代の家庭の状況や問題を理解することを通して、子育て家庭への支援の必要性と支援の内容について知り、支援者としての視点と知識を身につける。

［授業全体の内容の概要］

家庭の意義と機能について学び、データや事例を通して子どもと子育て家庭の置かれている社会的状況の変化と今日的課題を理解する。それらを踏まえた上で、保育の観点から子どもと子育て家庭への支援施策と支援体制を理解し、子育て家庭の多様なニーズに応じた相談支援の展開と社会資源の活用、関係機関との連携について学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

1．現代の子育て家庭の現状と家庭支援の必要性を理解できる。
2．家庭支援の方法と関係機関との連携について理解できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション　家庭支援を学ぶ意義
2．少子高齢化と家族
3．家族の変遷
4．家族の発達と家庭支援
5．子どもにとっての家庭⑴さまざまな家庭で育つ子ども
6．子どもにとっての家庭⑵子どもの発達と家庭
7．現代社会における父母の役割と協働
8．家庭支援施策の概要
9．多様な家庭への支援：ひとり親の家庭支援
10．多様な家庭への支援：発達のつまずきや障がいのある子ども
11．多様な家庭への支援：児童虐待と家庭内暴力
12．地域の家庭支援の実際
13．保育所の家庭支援
14．家庭支援における多職種・多機関連携
15．まとめ・これからの家庭支援
試験

［準備学習］

家族に関するニュースを積極的に収集してくること。
授業の前にテキストの該当部分を読んでくること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
「児童の福祉を支える家庭支援論」
吉田眞理著　萌文書林

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

課題・リアクションペーパー　20%
講義への参加度　20%
期末試験　60%
課題・リアクションペーパーの返却と講評を行います。

授業科目名	CMNW412	授業の種類	授業担当者
家族・地域支援の展開		（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	五十嵐裕子・市川美恵子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・ 2 単位	3 年次・通年	選択	保育士選択

［授業の目的］

地域支援には、誰もが地域で、その人らしく安心した生活ができるように支援するとともに、現行の仕組みでは対応しきれていない多様な生活課題に対応し福祉施策に位置付けていくという役割が期待されている。地域社会への働きかけによって、既存の社会資源の活用や新たな地域資源の構築を行い、子ども・子育て家族を含む地域住民全体の生活を向上させ、地域社会をより良いものとしていく展開過程について、具体的事例、実践例を通して学ぶ。家族支援、地域支援の展開にあたっては、住民や当事者の力を高めるという視点、新たな社会資源の創出とネットワークづくりという視点が重要であることへの理解を図る。

［授業全体の内容の概要］

地域福祉の理念や参加の意義、推進方法等など基本的な知識を学んだ後、身近な地域の生活課題をどのように発見し、解決への支援過程を計画、展開するかについて演習を通じて学ぶ。地域福祉、地域支援に関する基礎知識の習得と並行して、学内親子ひろば「ぽっけ」で展開している家族・地域支援プログラムについて知り、それが地域社会にどのような影響を与え、よりよい地域社会の創造に結びつくのか､「ぽっけ」に支援者として参加しながら理解を深め、支援的に行動する力を身につける。また「ぽっけ」において、実際に利用者のニーズに基づいた支援プログラムの立案、実践を試みる（「ぽっけ」での演習については､「ぽっけ」の開室日や行事を考慮して計画する）。

［授業終了時の到達目標］

① 家族支援・地域支援の意義を地域社会や家族の変化に結びつけて理解することができる。
② 地域や家族の課題を解決するための初歩的なプログラムを企画することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション
2．家族、地域社会の変化と地域支援
3．地域支援の理念
4．地域支援の概念と「参加」
5．地域支援の発展過程
6．地域支援の実際⑴ 生活課題の発見
7．地域支援の実際⑵ 社会資源の活用と支援の評価、質の確保
8．地域支援の計画と担い手
9．地域に根ざした多様な地域支援の実践
10．親子のひろば「ぽっけ」における家族支援・地域支援の展開
11．ニーズ把握とプログラムの立案⑴（親子のひろば「ぽっけ」における支援演習①）
12．ニーズ把握とプログラムの立案⑴（親子のひろば「ぽっけ」における支援演習②）
13．プログラムの実践と評価⑵（親子のひろば「ぽっけ」における支援演習③）
14．プログラムの実践と評価⑵（親子のひろば「ぽっけ」における支援演習④）
15．総括
試験・レポート等

［準備学習］

配布資料は必ず事前に目を通し、授業後にはノートを整理し、理解を深める。
「ぽっけ」での支援演習に際しては目的、内容等をよく把握し、必要に応じて支援のための事前準備を十分に行う。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
授業の際にプリントを配布
参考文献：
川村匡由『地域福祉の理論と方法』久美出版

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験 60%
支援演習への取り組み 30%
受講態度 10%
支援演習については口頭、レポートでのふり返りを行い、レポートについては講評、返却を行う。

授業科目名	CMNW313	授業の種類	授業担当者
家族の心理学		（講義・演習・実習）	菅野　陽子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2,3,4年次・前期,後期	選択	保育士選択

[授業の目的]

親子・同胞などの家族関係、結婚や離婚に関する心理―社会的な事象、家族の形成・発達・崩壊などの家族プロセスを学び、今日のわが国の家族問題について受講生が主体的に学ぶことを目的とする。

[授業全体の内容の概要]

まず、「家族とは何か」を考える。次に家族の起源、進化・発達というものを歴史や異文化社会から見渡す。

そして、恋愛と配偶者の選択、結婚生活と夫婦関係、親子の関係といった家族の諸相を日本のみならず諸外国のデータと比較しながら、わが国の家族問題を学ぶ。最後に受講生各自の家族に対する価値観や幸福感の再考を促す。教員が独自で用意した資料からの講義を中心とする。また、ファシリテーションやディベート式ロールプレイを用いるなど、参加型の体験学習を多く取り入れていく。

[授業終了時の到達目標]

わが国の家族問題について、広い視野から検討し考察する方法を見つけること。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．オリエンテーション（家族心理学で学ぶこと）
2．家族とは？（「家族」とは誰か、家族の定義、家族の機能）
3．歴史と異文化・社会にみる家族
4．人間家族の進化（社会変動と家族、社会変化と個人の発達）
5．結婚の態度と行動（結婚についての意見、結婚の実態、晩婚化の要因）
6．恋愛と配偶者選択（結婚の形態、配偶者選択のプロセス）
7．結婚生活と夫婦関係（夫婦関係のコミュニケーション、「非法律関係」、離婚）
8．親子の関係(1)（1．ヒトの発達の特殊性―親子関係や子育ての文化）
9．親子の関係(2)（親の発達―育児・こどもをめぐる葛藤）
10．親子の関係(3)（父親と母親―心理学における父親不在と父親発見）
11．親子の関係(4)（親にとってのこども、こどもの価値）
12．家族関係と闘病(1)（HIV 感染患者と家族、そしてその背景システム）
13．家族関係と闘病(2)（ガンの末期患者に対する心理的サポートやホスピス）
14．家族とは？　家族に対する価値観や幸福感の再考
15．まとめ（授業の振り返り）
試験

[準備学習]

次の講義内容にそってテキストを事前に読んでくる。キーワードを調べるなど課題を出す。また、授業の後にその回のふり返りシートを提出する。

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：「よくわかる家族心理学」
柏木惠子著　ミネルバ書房
参考文献：「家族の心理」
平木典子・中釜洋子共著　サイエンス社
適宜、資料を配布
その他、映像（DVD）、マンガ、新聞記事など

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

（試験やレポートの評価基準など）
授業態度、提出物：30%
試験：70%
①授業のふり返りシートを提出させ、コメントをつけて返却します。
②小テストを行い、返却します。

授業科目名	CMNW314	授業の種類	授業担当者
コミュニティの心理学		（講義・演習・実習）	菅野　陽子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2, 3, 4年次・前期	選択

［授業の目的］

コミュニティを心理学的見地から理解するには、心理学の分野でも新しいコミュニティ心理学から学ぶことが適している。新しい時代の様々な問題を考えることは、地域に深く根ざすことを可能にする。今日の学生にとってコミュニティは地域コミュニティはもちろんであるが、大学や実習先の保育園や幼稚園、アルバイト先であったり、さらにはインターネット上の仮想空間などがあてはまる。人と環境の適合性を求めるコミュニティ心理学をベースに、わが国のコミュニティを考える。

［授業全体の内容の概要］

まずコミュニティ心理学の特徴をコミュニティの概念や定義から紹介し、歴史的に振りかえることから始め、ひとと環境とがどのように心理社会的に適合できるか介入の方法を学ぶ。次にコミュニティ心理学の中心テーマである「予防」について理解をすすめる。また日々の生活に身近でやっかいなストレスと対処（コーピング）に関する知見を紹介する。

さらに社会的心理援助についての実践と研究例をテキストおよび授業担当者の経験談から学習を深めていく。

［授業終了時の到達目標］

コミュニティを単に地域ととらえずに、学生自身のコミュニティについて再考する機会を持ち、学問としても若いコミュニティ心理学のパラダイム（考え方）にふれて、今日の諸問題をひとと環境の適合（fit）という観点で実践的に捉える視野を獲得することを目標とする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション：15回の授業について概要を説明、履修への動機づけ
2．コミュニティ心理学とは何か：歴史的背景、定義、理念と目標、その研究方法
3．人と環境の適合－生態的アプローチー：生活者の視点、システム論、心理・社会的適合
4．予防：予防プログラムの例（幼児・児童期～成人・老年期）、予防の倫理問題
5．ストレスとコーピング：ストレス研究の歴史、心理・社会的ストレス・モデル、コーピング
6．危機介入とコンサルテーション：危機理論（危機状態、危機介入法）、コンサルテーション
7．ソーシャルサポートとセルフヘルプ：定義と尺度、その影響、援助への活用、セルフヘルプ
8．エンパワメント：歴史的考察、定義と発想の転換、実践例
（個人・組織・コミュニティ３つの次元）
9．コミュニティ感覚と市民参加：定義、予防介入への示唆、市民参加の定義、実証的研究
10．理論と実践の協働：コミュニティ心理学における研究と実践（アクションリサーチ）
11．研究と実践の協同の実際⑴中高年および青少年における自殺問題
12．研究と実践の協同の実際⑵ハラスメント問題
13．研究と実践の協同の実際⑶ホームレス問題
14．研究と実践の協同の実際⑷DV 被害者に対する援助についての研究
（危機アセスメントモデル）
15．まとめ：15回の授業全体を通して振り返り
期末試験

［準備学習］

①課題提出シートを教員から提示した場合は、記載して次回持参すること
②次回のテキストで行う範囲の用語について調べておくこと
③前回の範囲について、復習してくること（小テスト実施の場合もある）

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：「コミュニティ心理学入門」
上村勝彦【編】ナカニシヤ出版
参考文献：「コミュニティ心理学」
山本和朗【著】東大出版会
その他　参考 DVD 鑑賞、新聞記事のコピーなど適宜配布する

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

成績評価の方法・基準
・授業態度・課題提出　30%
・期末試験　70%
課題・成績評価のフィードバック
・提出シートはコメントを付けて個人へ返却
・授業中に全体にもフィードバックする

授業科目名	CMNW315	授業の種類	授業担当者
多文化と保育		（講義・演習・実習）	五十嵐淳子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2,3,4年次・後期	選択

［授業の目的］

保育の現場における多文化保育について学習し、様々な文化的背景をもつ子どもや保護者とのかかわりにおいて必要事項を学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

多様な文化的背景を理解し、子どもや保護者との信頼関係を構築できる保育者としての役割を踏まえ、多文化保育における子ども及び保護者支援ができる保育者の専門性を探る。

［授業終了時の到達目標］

①多文化共生社会における保育のあり方を理解する。
②多文化保育を踏まえ、子どもの生活の中に、外国の遊びや歌を取り入れ、子どもが異なる文化に親しみを持つことができるような保育の実践ができるようになる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション、多文化共生保育とは
2．異なる文化を持つ人とのかかわり　―子どもと一緒に楽しむには―
3．季節に合わせた活動①ハロウィーン
4．外国語の紙芝居の作成
5．外国語の紙芝居の実演
6．親子で楽しむ外国語の手遊びや歌
7．保育者に求められる子どもへの支援　―多文化と保育の実際―
8．保育者に求められる保護者への支援　―多文化と子育て支援の実際―
9．多文化共生社会における異文化理解
10．季節に合わせた活動②クリスマス
11．多文化共生を踏まえた保育実践(1)
12．多文化共生を踏まえた保育実践(2)
13．多文化共生を踏まえた保育実践(3)
14．卒園証書・参加証書の作成
15．多文化共生保育における現代の課題
レポート課題

［準備学習］

保育実践発表に向けて、外国の歌や手遊び、紙芝居などを覚える。

［使用テキスト・参考文献］

使用テキスト：
五十嵐淳子「英語が苦手でもできる！子どもと一緒に楽しむ英語」大学図書出版　2015年

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業態度　10%
保育実践発表　40%
レポート　50%

授業科目名	CMNW316	授業の種類	授業担当者
保育者論		（講義・演習・実習）	宮﨑　静香

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2年次・前期	選択	保育士必修

［授業の目的］

保育者としての専門性、園と地域における役割、職務内容について理解をしていきます。また、子どもたちの心に寄り添い、その成長発達を理解するだけでなく、成長発達に合わせて自立を見守り援助する方法について学んでいきます。自らの保育者としての成長と保育者間の協働について考えながら、自らのキャリアイメージを持てるようにしましょう。

［授業全体の内容の概要］

パワーポイントや映像教材、事例資料などをもちいながら、実際の保育現場での出来事や学生自身が実習体験で得られた経験を参考にして考察をしていくことで、将来保育者となる自分をイメージできるようにしましょう。また、学生のみなさんの実習などでの体験との比較などから考察を深めていきます。

［授業終了時の到達目標］

毎日成長する子ども達と過ごす楽しさをたくさん感じて、保育者という仕事の魅力を感じてください。一方で、専門職としての保育者に求められる多様な役割についても理解や考えを深めていきます。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション・保育者とは
2．保育者の役割と仕事
3．子どもの権利の視点から考える
4．子どもの気持ちに寄り添い、発達を理解する①
5．子どもの気持ちに寄り添い、発達を理解する②
6．子どもの気持ちに寄り添い、発達を理解する③
7．保育者の視点から、子どもの気持ちの変化を感じる（映画鑑賞）①
8．保育者の視点から、子どもの気持ちの変化を感じる（映画鑑賞と感想文）②
9．子どもの育ちを支える環境づくり
10．特に配慮が必要な子どもへの支援①
11．特に配慮が必要な子どもへの支援②
12．保育者として育ち合う
13．保護者や家庭と共にある保育
14．多様な支援のあり方を考える
15．まとめ
試験

［準備学習］

保育所や幼稚園、施設実習で体験した出来事の中で、疑問に感じたことや感じたことを振り返り書きとめておいてください。授業の中で皆さんの体験や疑問を一緒に考察しながら、次の実践に役立てるようにしていきましょう。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：最新保育講座2「保育者論」
ミネルヴァ書房

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
試験：60%
レポート：20%
授業への参加と態度：20%
感想文を返却します。

授業科目名	CMNW317	授業の種類	授業担当者
保育の制度と展開		（講義・演習・実習）	五十嵐裕子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2,3,4年次・後期	選択

[授業の目的]

幼稚園や保育園等で日々行われている保育は、政策や制度の影響を大きく受けており、保育制度や政策のありようを考えることは、保育実践を主体的に行う上では欠かせない作業といえる。このような認識の下、戦後日本の保育制度はどのように築かれてきたのか、そして少子化や待機児童問題が深刻化する現在、日本の保育制度・政策はどのように展開されていこうとしているのかについて学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

まず、日本において「保育」がどのような社会的背景の下、政策としてとりあげられ制度化されてきたのか、歴史的変遷について概説する。そしてその中で、親の就労保障としてだけではなく、こどもの発達保障、こどもの権利としての保育制度について考える。次に近年新たに展開されている認定こども園制度、家庭的保育制度等を取り上げ、それぞれの制度創設の背景や実施状況、課題等について概説する。また欧米の保育制度を概観することによって、日本の保育制度の特徴や課題について明らかにする。

[授業終了時の到達目標]

①日本の保育制度がどのような背景の下、成立し変遷してきたかについて理解する。
②現在展開されている幼稚園、保育所、認定こども園、家庭的保育等の制度について基礎的な知識を身につける。
③日本における保育制度・政策の現代的な特徴、課題について理解する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1.「制度を学ぶ」ということ
2. 保育制度の変遷(1) 戦前の保育制度
3. 保育制度の変遷(2) 戦後の保育制度
4. 保育制度の変遷(3) エンゼルプラン以降の保育制度・政策
5.「こどもの最善の利益」と保育制度
6. 施設や設備、保育内容に関する公的基準
7. 新たな保育制度の展開(1) 認定こども園
8. 新たな保育制度の展開(2) 家庭的保育
9. 新たな保育制度の展開(3) 夜間保育、病児保育等
10. 新たな保育制度の展開(4) 子育て支援
11. 新たな保育制度の展開(5) 放課後健全育成事業と学童保育
12. 外国における保育制度(1) イギリス・フランス
13. 外国における保育制度(2) スウェーデン・デンマーク
14. 外国における保育制度(3) カナダ・ニュージーランド
15. 授業のふりかえりとまとめ

試験・レポート等

[準備学習]

授業初回に、毎回の授業テーマとテキストの範囲を示した授業計画を配布するので、前もってテキストの該当部分を読んで授業に臨むこと。授業後にはノートや配布された資料に目を通して、ノートの整理をしておくこと。

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：全国保育団体連絡会・保育研究所編
『保育白書2015』ひとなる書房　2015

参考文献：『最新保育資料集2015』ミネルヴァ書房

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

試験：60%
コメントシート（毎時間提出）：30%
授業に臨む態度等：10%

授業科目名	CMNW318	授業の種類	授業担当者
児童福祉施設のマネジメント		（講義・演習・実習）	瓜巣由紀子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2, 3, 4年次・前期	選択

［授業の目的］

社会福祉法人や児童福祉施設はどのように運営（経営）されているのかを学び、児童福祉施設の理解をより深め、児童や保護者などへの直接的あるいは間接的支援に活用する。

［授業全体の内容の概要］

児童福祉施設のマネジメントとは何かを法制度、運営（経営）管理などの視点から学ぶ。また社会福祉法人や児童福祉施設を取り巻く関係機関や地域社会との関係を学ぶ。

児童福祉施設やその対象者に関する危機管理を多角的に捉える。

［授業終了時の到達目標］

社会福祉法人や児童福祉施設の運営（経営）を理解する。

児童やその保護者への援助や支援はどのような法律や制度に基づいて実施されているのかを理解し、援助や支援にあたる保育士や支援者の役割を理解する。

危機管理の視点の必要性と危機の回避・回復について習得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．児童福祉施設のマネジメントとは何か
2．法人とは何か、社会福祉法人・児童福祉施設の法制度
3．社会福祉法人・児童福祉施設の役割と関係機関・地域社会との関係
4．児童福祉施設の利用者
5．法人運営（経営）、施設運営（経営）
6．財務管理
7．労務管理、人事管理
8．保育者や支援者の役割
9．施設運営（経営）における危機管理①　グループワーク
10．施設運営（経営）における危機管理②　発表とまとめ
11．施設利用児者支援における危機管理①　グループワーク
12．施設利用児者支援における危機管理②　発表とまとめ
13．施設運営（経営）を考える①　基礎編
14．施設運営（経営）を考える②　応用編
15．児童福祉施設のマネジメントのまとめ
期末試験

［準備学習］

「社会福祉概論」や「保育実習指導」を復習しておくこと。「保育実習」で得た資料なども復習し、児童福祉施設の基礎を理解して授業に臨んで下さい。

児童福祉施設に関する新聞記事などに目を通し、日頃から児童や児童福祉施設の課題について関心を持つこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：　未定

参考文献：『社会保障の手引き』／中央法規、
『福祉小六法』／みらい

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

受講態度：15%
課題提出：15%（レポート講評あり）
期末試験：70%

こども専門科目
（心とからだ）

授業科目名	CMMB219	授業の種類	授業担当者
保育の心理学演習		（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	菅野　陽子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	1年次・後期	選択	保育士必修

［授業の目的］

こどもの心身の発達を、生活と遊びを通して学ぶこどもの経験や学習の過程から理解する。そして、どのように保育を進めていけばよいのか、心理学的な原則を保育場面における実際に照らしあわせていくことが授業の目的であり、さらには、保育における発達援助についての学びをねらいとする。

［授業全体の内容の概要］

保育実践においてはこどもの心身の発達にかかわる心理学的理解が不可欠であることを知ると同時に、心理学的理解をいかに具体的な保育実践に生かしていくか考える。生活や遊びを通して学ぶこどもの経験や学習の過程を理解し、それぞれの過程、場面における発達援助のあり方について学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

こどもがどのようにして生活と遊びのなかで心身を発達させているのかを、具体的な事例演習から、現場でのさまざまな場面を想像し、その支援の方法について知る。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

絵本（英語）を読み、また教科書の事例をロールプレイすることを通して、考えを深める。

1．「しなやかな」こころとからだ
2．こどものストレス
3．こどもの葛藤
4．仲間と集団
5．こころの理論
6．こどもの自我
7．もののしくみ
8．自然環境とふれあう
9．こどもの数理解と保育
10．遊びとコミュニケーション
11．やりとりと学び
12．遊びと概念獲得
13．「生きる力」の基礎
14．発達の課題に応じた援助
15．就学へのつなぎ
試験

［準備学習］

授業で行う範囲を、必ず読んでくる。よく理解できない箇所をチェックしておくこと。用語調べ。
前の回の配布資料について読み直し、演習事例についてふり返りノートを作成する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：井戸ゆかり　編著　園田巌・紺野道子「保育の心理学Ⅱ　演習で学ぶ、子ども理解と具体的援助」（第３版）　萌文書林
参考文献：適宜配布する。
鯨岡　峻・鯨岡和子　著「よくわかる保育心理学」ミネルヴァ書房　他

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

期末試験：70％
授業態度：30％
①授業のふり返りシートを提出し、それにコメントをつけて返却します。
②ロールプレイの評価をします。

授業科目名	CMMB320	授業の種類	授業担当者
子育てと父親		（講義・演習・実習）	柴田　崇浩

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	3，4年次・後期	選択

［授業の目的］

子育てにおける父親の役割は時代背景とともに大きく変化してきている。現代の子育ては圧倒的に女性によるものであるが、少子高齢化や地域コミュニティー・ネットワークの減少によって、父親の子育てに対する社会的な期待と要請はますます増加している。子育ての現状について、心理社会的状況を深く理解し、家族の子育てについて熟考し、よき保育者として、よき親として、自ら実践する姿勢や態度を学習することを目標とする。

［授業全体の内容の概要］

子育てと時代背景の実態の理解、子どものいる家族の理解をとおして、親の立場や子どもを育てる視点をもって考えていく。乳幼児とのふれあいの機会をとおして、生命、親子や家族、育てるということ、そして育てられた自分自身についても深く考える機会を持って学習する。母親・父親になるとはどういうことか、母親について、父親についてその現代的役割を考え、実際の子育て家族から具体的な事例を検討して学ぶ。妊娠の疑似体験、育児書の検討、父親の育児、母親と父親の就労など、子育てに関する課題を検討し、そのあり方を考えていく。

［授業終了時の到達目標］

父親の役割とあり方について洞察することを通して、保護者のこどもへの思いに対して深く理解し、支援に役立てる。将来自らが親となる心理社会的な準備を行い、子育てに臨む心構えを育む。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．現代の子育てと父親の位置
2．父親の役割と時代背景：現在の父親　自分たちの周辺から考える
3．父親の子育ての現状：聞き取りや観察を持ちよって考える
4．赤ちゃんから学ぶ　1妊娠の疑似体験　父親になることとは
5．赤ちゃんから学ぶ　2父親から学ぶ
6．赤ちゃんから学ぶ　3育児と父親の役割について考える
7．父親の存在・父親の意義・父性と母性
8．海外の父親のための育児支援策
9．父親の子どもとのかかわり
10．両親のチームワーク・離婚
11．父親・母親の働き方　企業における育児支援
12．子育て支援における父親　1父親参加の現状
13．子育て支援における父親　2子どもとの遊び
14．子育て支援における父親　3父親支援のためのプログラム
15．父親支援プログラムを作成する
レポート提出

［準備学習］

埼玉県がWEB上で配布する「イクメンの素（もと）」を熟読し、父親が子育てで直面する事象について理解する。ニュースや新聞等のメディアを活用し、子育てする父親の心理社会的な現状を学び、講義に臨むこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：必要により随時、資料を配布
参考文献：子ども家庭リソースセンター編・発行
『育児するお父さん』
さいたま市父子健康手帳

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
受講態度及びグループ参加態度（10%）
ワークシート（10%）
中間レポート（30%）
期末レポート（50%）

授業科目名	CMMB321	授業の種類	授業担当者
こどもと性格		（講義・演習・実習）	柴田　崇浩

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	3，4年次・前期	選択

［授業の目的］

こどもは日々の社会的かかわりの中で成長し、パーソナリティを形成していく。この授業では、生まれ持った気質と幼少期の人間関係がパーソナリティ形成にどのように影響するかを中心に、乳幼児から成人期までの発達について、社会学的諸理論と人格理論、発達臨床心理学を中心として学び、こどもたち及び成人などの自他のパーソナリティ理解を深め、保育者としての人間理解力の向上を目指す。

［授業全体の内容の概要］

こども及び成人の生まれもった性格と環境によって影響される性格を理論的に理解し、自らの発達過程と照らし合わせながら自他の理解を促進し、包括的にパーソナリティを理解する。具体的な性格理解をこどもたちの事例や映像の行動観察・考察をとおして、日常の社会生活に応用可能な知識とスキルを獲得する体験的な学習を行う。

［授業終了時の到達目標］

こども及び成人の人格の包括的な理解をとおして、豊かな人間観を養い、自信をもって意欲的に社会に参加するための基礎力を養う。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．こどもの性格①　性格とは
2．こどもの性格②　環境と気質
3．こどもの性格③　親の養育やしつけ
4．愛着の発達と性格
5．社会性の発達と性格
6．ライフサイクルと自我発達
7．こどもの性格を理解するてがかり①　類型論・特性論
8．生まれもった性格
9．環境に影響される性格
10．こどもの性格を理解するてがかり②　性格検査
11．こどもの性格の問題①　パーソナリティの障害
12．こどもの性格の問題②　発達の障害
13．こどもの性格の問題③　支援
14．性格の変容
15．性格と自己理解
期末試験

［準備学習］

日々の生活において自らの言動を強く意識し、講義内容をふまえて、自己の性格について継続的に理解することを試みる。自他の理解を促進するため、日常でこどもたちや仲間、家族を観察し、自己の行動の影響について考察する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：必要により随時、資料を配布

参考文献：
詫摩　武俊他「性格心理学への招待―自分を知り他者を理解するために」サイエンス社　2003

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
受講態度及びグループ参加態度（10%）
ワークシート（10%）
期末試験（50%）
自己分析レポート（30%）

授業科目名	CMMB322	授業の種類	授業担当者
グループダイナミクス		（ 講義・(演習)・実習 ）	雨宮　有里

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	3年次・後期	選択

[授業の目的]

社会心理学的なものの見方を学び、その知識を日常で使えるようにすることを目的とする。

[授業全体の内容の概要]

本講義ではグループダイナミクスのうち、うわさ・インターネットと心理学・プロパガンダを扱う。このように書くと難しいイメージがあるかもしれないが、これらの内容はとても身近なものである。例えば、デマはどのようにして広まっていくのだろうか？（流言）。「流行」はどのようにしてつくられるのだろうか？（プロパガンダ）。この講義はそうした日常生活の「不思議」について、実験や調査を踏まえた知見を提供する。それと同時に、実際の生活にどのように応用すればいいのかを学ぶことを目的とする。

[授業終了時の到達目標]

講義を通じてグループダイナミクスに関する知識の獲得と日常生活への応用を目的とする。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．グループダイナミクスとか何か
2．流言(1)：3．11のデマはどのように広まったのか？（社会情報としてのうわさ）
3．流言(2)：流言を広めやすい人・状況はどのようなものか
4．流言(3)：流言で伝わりやすい内容･プロセスを体験してみよう！(グループワーク)
5．ゴシップ(1)：ゴシップの構造（おしゃべりとしてのうわさ）
6．ゴシップ(2)：人はなぜゴシップが好きなのか？（ゴシップの機能）
7．都市伝説(1)：都市伝説にはどのようなものがあるのか？(楽しみとしてのうわさ)
8．都市伝説(2)：都市伝説と企業、うわさを打ち消すにはどうしたらいいのか？
9．インターネットと心理学(1)：インターネットの使用は心理的健康を損ねる？
10．インターネットと心理学(2)：インターネットと自己開示
11．インターネットと心理学(3)：インターネットと自己呈示
12．プロパガンダ(1)：広告・宣伝のからくりを見抜く、CMはなぜ効果があるのか？
13．プロパガンダ(2)：流行はどのようにして作られるのか？
14．プロパガンダ(3)：恐怖アピール､｢同じ出身地｣の人と親しくなりやすいのはなぜ？
15．ふり返りとまとめ
レポート

[準備学習]

一つのテーマが終わるごとに「復習問題」や「次回のテーマのポイント」を提示する。その内容について、復習・予習することで講義への理解を深める。

[使用テキスト・参考文献]

テキストは特に定めず、毎回、資料を配布する。なお、講義で配布する資料は重要なところは穴埋め式になっている。休んだ分は友人に聞くなどして資料を完成させる。

（参考文献）
グラフィック社会心理学
池上　知子（著）、遠藤　由美　サイエンス社

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

（試験やレポートの評価基準など）
レポート　90%
講義内課題　10%

授業科目名	CMMB223	授業の種類	授業担当者
こどもの保健Ⅰ		（講義・演習・実習）	江藤　千里

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2年次・前期	選択	保育士必修

［授業の目的］

こどもの心身の健康維持・増進に取り組むため、こどもの成長・発達への理解を深めながら、疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。こども自身が持っている発育発達する能力を保育士として援助できるようにする。保育者自身の健康管理についても理解する。

［授業全体の内容の概要］

こどもの心身の健全な育成、また、起こりやすい疾病、異常、傷害などについて理解を深め、保育を担当する者として、その予防方法を習得する。乳幼児の発育・発達を理解し、現代の乳幼児の生活状況やその環境を知る。乳幼児健康診査や保健指導、予防接種などの母子保健システムを理解する。こどもが罹患するさまざまな病気の種類、その治療法や予防法を学ぶ。また、主な小児保健統計を理解する。

［授業終了時の到達目標］

こどもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。こどもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．こどもの健康と保健の意義
2．こどもの発育・発達と保健―身体発育―
3．こどもの発育・発達と保健―生理機能の発達―
4．こどもの発育・発達と保健―運動機能の発達―
5．こどもの発育・発達と保健―精神機能の発達―
6．こどもの健康状態の把握と保育
7．こどもの病気―先天異常―
8．こどもの病気―感染症―
9．こどもの病気―アレルギー疾患―
10．こどもの病気―慢性疾患―
11．こどもの疾病の予防と適切な対応
12．精神保健・発達障害
13．衛生安全管理
14．健康および安全の実施体制
15．まとめ
試験・レポート

［準備学習］

次回の授業内容を確認し、教科書の該当する部分を読んでくること。配布資料はファイルに整理して、授業に持参すること。テキストは、毎回授業に持参すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：佐藤益子・中根淳子編著「子どもの保健Ⅰ」ななみ書房
参考文献：竹内義博・大矢紀昭編「よくわかる子どもの保健」ミネルヴァ書房
その他に、授業で提示する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

受講態度：10%
期末試験：60%
課題提出：30%

授業科目名	CMMB324	授業の種類	授業担当者
こどもの保健Ⅱ		（講義・演習・実習）	野中　和代

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2年次・後期	選択	保育士必修

[授業の目的]
小児がこどもらしく、心身ともに健やかな生活ができるために、こどもたちの健康を守り、増進を図る保健活動の意義を学び、また、こどもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。こどもの成長発達、事故防止、母子保健対策について学習する。こどもの特徴を把握する為に、こどもの健康上のニーズや課題を知り、保育に必要な、保健指導、安全管理について理解する。保育者自身の健康管理について理解する。

[授業全体の内容の概要]
前期「こどもの保健Ⅰ」で習得した知識を基に、こどもの心身の発達を促すために必要な保健活動や環境について学び、さらに、疾病や事故とその予防に対する適切な対応や、家庭・地域・他職種との連携の必要性も含め学習する。

[授業終了時の到達目標]
・こどもが健やかに成長することと、こころが健康であることがどのように関連しているかについて理解する。
・保育における環境及び衛生管理並び安全管理について理解する。
・障がい児へのより良い対処方法を育児の観点から、具体的に考えることができる。
・こどもをけがや病気から守る為に健康及び安全の実施体制について理解する。
・社会全体で子育て家庭を支援していくことが、重要であることについて理解し「『子育て支援』とは」について考えることができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数

1．ガイダンス　「こどもの保健Ⅰ」で学んだことの振り返り
2．こどものこころと健康
3．社会性とこころ
4．健康と安全　1）病気と異常の考え方
5．健康と安全　2）こどもの時期の病気の特徴　3）健康な体つくり
6．健康と安全　4)主なこどもの症状と対応法　5)こどものアレルギー　6)エピペンへの対処
7．健康と安全　7）感染症と予防接種
8．健康と安全　8）こどもと事故　9）事故予防　10）ケアと応急処置
9．こどもの健康を支える施策（教育・福祉・保健）の基本理念・現行制度
10．子育て支援　1)子育てをとりまく環境　2)こどもの生活の現状　3)子育てと情報
11．子育て支援　4)家庭での子育て　5)就労と子育て　6)災害と子育て　7)子育て支援策
12．障がいをもつこども　1)障がいの原因―発生時期から分類　2)障がいの種類　3)障がい診断･予防
13．障がいをもつこども　4)障がいや慢性疾患をもったこどもを育てる　5)障がいや慢性疾患制度
14．保育保健を支える家族・地域
15．こどもの保健Ⅱの振り返り、まとめ、期末試験について
期末試験・レポート

[準備学習]
次回の授業内容を確認し、教科書の該当する部分を予習してくる。配布資料はファイルに整理しておき、必ず授業時には持参する。テキストは、毎回持参する。コメントカードは必ず書き提出する。

[使用テキスト・参考文献]
テキスト：江藤　隆編著「新しい時代の子どもの保健」日本小児医事出版
参考文献：遠藤郁夫編著「保育保健2016」日本小児医事出版社
その他、授業時に提示配布する。

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]
授業への取り組み：10%
コメントカード：10%
レポート：20%
期末試験：60%

授業科目名	CMMB425	授業の種類	授業担当者
こどもの保健演習		（ 講義・演習・実習 ）	野中　和代

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	3年次・前期	選択	保育士必修

［授業の目的］

こどもの健康及び安全に係る保健活動の計画評価、こどもの健康増進及び適切な対応について、養護の知識・技術・救急時の対応や事故防止、安全管理について学び、保育現場において保健衛生・安全教育について実践ができるように具体的な方法を学び理解する。

［授業全体の内容の概要］

「こどもの保健Ⅰ」「こどもの保健Ⅱ」で習得した知識を基礎として踏まえ、養護の知識・技術・救急時の対応について具体的な方法を学ぶ。さらに、現代社会における心の問題や地域保健活動について学習を深める。

［授業終了時の到達目標］

・こどもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価について理解を深めることができる。
・養護の知識・技術・救急時の対応、事故防止、安全管理について理解をし、実践的な場面に応じて行動ができる。
・現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について、関心を持つ姿勢が身につく。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ガイダンス　「こどもの保健Ⅰ・Ⅱ」で学んだことの振り返り
2．保健活動の計画及び評価　1）保健活動計画の作成と活用
3．保健活動の計画及び評価　2）集団の健康と安全・衛生管理
4．こどもの保健と環境　　1）健康状態、発育・発達状態の把握
5．こどもの健康状態の観察と把握･身体状態の観察･健康調査､バイタルサイン測定
6．身体測定演習・育児マニュアル（DVD）鑑賞
7．養護技術：衣類の着脱、清潔、沐浴、抱き方、寝かせ方、オムツ交換演習第1回
8．養護技術：衣類の着脱、清潔、沐浴、抱き方、寝かせ方、オムツ交換演習第2回
9．事故防止と安全教育の実際・事故の応急処置演習
10．事故防止と安全教育の実際・救急蘇生法演習第1回
11．事故防止と安全教育の実際・救急蘇生法演習第2回
12．病児保育・病院保育士の役割
13．病児保育・プレパレーションDVD鑑賞
14．障がい児の理解　自閉症
15．こども保健演習の振り返り　まとめ
レポート

［準備学習］　・養護演習では動きやすい服装で出席する。・教科書の該当する部分は予習してくる。
・配布資料はファイルに整理しておき、必ず授業時には持参する。
・養護技術、救急演習時で学んだこと感じたことの感想を提出する。・コメントカードは必ず提出する。
・DVD鑑賞時は学んだこと感じたことを提出する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：大澤　真木子編著「子どもの保健Ⅰ・Ⅱ」
参考文献：江藤　隆「新しい時代の子どもの保健」
その他、授業時に提示配布する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業への取り組み：10%
コメントカード：10%
DVD・演習の感想文：50%
レポート（保健演習の振り返り）30%

授業科目名	CMMB226	授業の種類	授業担当者
こどもの食と栄養		（ 講義・(演習)・実習 ）	伊深　祥子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2年次・前期	選択	保育士必修

[授業の目的]

保育の現場では、子ども一人一人の心身の状態や発達過程を踏まえ、食に関わる保育実践を行なうことや食を通した保護者への支援や地域との連携が期待されています。子どもが楽しく安心して食事ができ、心身ともに健やかに成長できるよう、食生活の側面から子どもの育ちを支え、子育て家庭を支えるための専門性を養うことを目的とします。

[授業全体の内容の概要]

小児期の栄養・食生活の基礎的知識および生涯発達と食生活の課題を学修します。食育の必要性と関連させて、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題を学びます。また、特別な配慮を必要とする子どもへの理解と対応を学修します。

[授業終了時の到達目標]

・栄養と食品に関する基本的知識や小児期および生涯発達における食生活の留意点を説明できるようになります。
・食育に関わる保育内容を説明できるようになります。
・家庭の食生活を支援する方法や児童福祉施設での食事の提供および栄養管理の留意点を説明できるようになります。
・特別な配慮を要する子どもへの食事の提供の留意点を説明できるようになります。
・自らが「食」への興味、関心をもつようになります。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数		
1	子どもの健康と食生活の意義	子どもの心身の健康と食生活／食生活の現状と課題
2	栄養に関する基礎的知識①	栄養素の種類と機能（炭水化物、脂質、たんぱく質）
3	栄養に関する基礎的知識②	栄養素の種類と機能（無機質、ビタミン）／水分の機能
4	栄養に関する基礎的知識③	食事摂取基準と献立作成
5	栄養に関する基礎的知識④	調理の基本／食の安全
6	子どもの発育・発達と食生活①	乳児期の栄養・食生活（乳汁栄養）
7	子どもの発育・発達と食生活②	乳児期の栄養・食生活（離乳）
8	子どもの発育・発達と食生活②の実習	調乳／ベビーフード体験
9	子どもの発育・発達と食生活③	幼児期の栄養・食生活
10	子どもの発育・発達と食生活③の実習	幼児期の間食
11	子どもの発育・発達と食生活④	学童期の栄養・食生活／生涯発達の食生活
12	食育の基本と内容①	養護と教育の一体性／食育の内容と計画および評価
13	食育の基本と内容②	食育のための環境／連携／保護者への支援
14	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	家庭の食育／児童福祉施設給食の基本
15	特別な配慮を要する子どもへの対応	体調不良・食物アレルギーへの対応／摂食・嚥下障害への対応
	定期試験	

[準備学習]

授業の前にテキストの該当部分を読んでくること。
授業の前に前回の学修内容に関する確認問題に取り組む。
授業の後にノートや配布資料を整理すること。

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：「新版　子どもの食生活」ななみ書房
「食べるって何だろう」合同出版
参考文献：「食育の力」創成社
「栄養の基本がわかる図解辞典」
成美堂出版

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

期末試験：60%
課題提出：20%
確認問題：10%
受講態度：10%

授業科目名	CMMB327	授業の種類	授業担当者
こどもの食と調理		（ 講義・演習・実習 ）	伊深　祥子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	3，4年次・後期	選択	保育士選択

［授業の目的］

食育の実践力を養うために、「こどもの食と栄養」で習得した体系的な知識を基にして、各発達・発育段階に応じた食材や食べる量、大きさ、調理形態、食事バランスを意識した食事を実習します。また、日々の食育活動を考えられるようになることを目指します。

［授業全体の内容の概要］

子どもの発育・発達段階を再確認しながら食育の意義を明確にし、食育の５項目に関する具体的な内容を考えていきます。また、離乳食、幼児食、特別な配慮を要する食事および子どもと一緒に調理できる内容に取り組みます。最後に、保育所の食育活動内容について考えます。

［授業終了時の到達目標］

・子どもの発育・発達段階に応じた食育の意義について説明できるようになります。
・各発達・発育段階に応じた食事の特徴を把握できるようになります。
・保育所の食育活動を具体的に示すことができるようになります。
・自らが調理活動に対して興味・関心を高め、子どもにも調理の楽しさを伝えられるようになります。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数	
1．食育の意義	保育所の食育
2．食育の実践①	食と健康／いのちの育ちと食
3．食育の実践②	食と文化／食と人間関係
4．食育の実践③	料理と食
5．食育の実践④	調理の基本／衛生管理
6．離乳期の食事	離乳食に関する調理実習
7．幼児期の食事	幼児食に関する調理実習
8．調理保育①	子どもと一緒にできる調理実習①
9．調理保育②	子どもと一緒にできる調理実習②
10．調理保育③	子どもと一緒にできる調理実習③
11．調理保育④	子どもと一緒にできる調理実習④
12．特別な配慮を要する食事	アレルギー対応（摂食・嚥下機能障害対応を含む）の調理実習
13．特別な日の食事	行事に関する調理実習
14．食育の内容①	保育所の食育活動
15．食育の内容②	「自分が考える保育所の食育活動」の記述・提出
定期試験	

［準備学習］

授業の前にテキストの該当部分を読んでくること。
授業の前に前回の学修内容に関する確認問題に取り組む。
授業の後にノートや配布資料を整理すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：「食育のアイディア」メイト
参考文献：「食育の力」創成社
「保育における食育活動の道しるべ」
トロル出版部

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

期末試験：60%
課題提出：20%
確認問題：10%
受講態度：10%

こども専門科目

（教育の原理と保育内容）

授業科目名	CMTM301	授業の種類	授業担当者
教職概論		（講義・演習・実習）	亘理　史子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	3,4年次・前期,後期	選択	幼稚園教諭必修

［授業の目的］

教職についての基本的な事項を理解する。教職の意義、幼児教育、義務教育の意義を理解する。

［授業全体の内容の概要］

幼稚園の教員養成における教職の意義や教員の果たす役割、服務の厳正、身分保障と分限・懲戒、職務内容など理解する。幼児教育の重要性を知り研修の大切さを理解する。具体的な実践事例をあげ、望ましい子ども観、教材観を身に付け、教職に就くことへの意欲を高める。アクティブラーニングにより主体的に授業に参加する態度を身に付ける。

［授業終了時の到達目標］

①教職の意義を理解し、教員の果たす役割に関する知識を身に付ける。
②幼児教育の役割を理解し、教職への意欲を高める。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．教職の定義
2．教育の本質と目的
3．教員として必要な資質・条件
4．子どもがともに生きる学校空間
5．教育観、子ども観の歴史
6．教員の任用・身分・服務
7．現代学校に求められる教育内容
8．教員の研修
9．教員の守秘義務
10．現代社会の子ども
11．現代社会における教員の役割
12．信頼される教師（保護者の信頼）
13．気になる子への望ましい対応
14．学級経営について
15．幼児教育と小学校教育の接続を目指して
試験・レポート

［準備学習］

①各回のテーマについてテキストの該当部分を読み、まとめておくこと。
②教育に関係するニュースを調べておくこと。
③授業の後に振り返りシートを作成し、提出すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：『新・教職課程シリーズ教職概論』
高橋勝（編）　一藝社
参考文献：『教育法規集』

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

感想文毎時間提出振り返りシート（20%）
試験・レポート・指導案作成（80%）

授業科目名	CMTM302	授業の種類	授業担当者
教育原理		（講義・演習・実習）	内田　徹

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2年次・後期	必修	保育士必修 幼稚園教諭必修

［授業の目的］

1．幼稚園教育と小学校教育の違いを理解し、両者をめぐって展開している教育改革の現状をおさえる。
2．幼年教育にかかわる現代的諸問題を理解できるようにする。
3．幼稚園・小学校教育において最低限必要となる教職教養について学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

1．幼稚園・小学校に関わる現代的な教育課題について具体的な事例をもとに学習する。
2．教育とは何かという難しい課題を、具体的な教育問題を通して紹介し、議論する。
3．教育の目的、方法、制度について、具体的な事例を通じて理解する。

［授業終了時の到達目標］

1．現代の教育が抱える諸問題について、日常的な関心を形成し、意見を述べることができるようにする。
2．幼稚園教育と小学校教育に共通する教職教養の基本を理解できるようになる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．学校暦と子どもの成長
2．子どもたちの不安状況と「居場所論」
3．日本の子ども達がおかれた現状
4．「学び観」の転換…覚える勉強から問題解決への主体的な学びへ
5．「生きる力」とは何を育てることなのか
6．学習権をめぐるトリレンマ
7．早期教育と子どもの発達可能性
8．特別支援教育の体制と課題
9．教育の市場化と幼稚園・保育園教育
10．学校の安全と危機管理
11．ジェンダーとセクシャリティ
12．多文化社会の教育
13．児童虐待とその対応
14．いじめの構造とその対応
15．教育改革の現状と課題
定期試験

［準備学習］

事前の準備は必要ありませんが、授業中に提示される課題について事後にノートづくりをすることが必要です。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：授業の展開に応じて授業中に配布します。
参考文献：池上彰『日本の大課題　子どもの貧困』（ちくま新書）、川崎二三彦『児童虐待』（岩波新書）他、池谷孝司『スクールセクハラ』幻冬舎、佐伯胖『学びを問い続けて』（小学館）、『〈いじめ〉〈迫害〉』（全国生活指導研究協議会編、クリエイツかもがわ）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

中間レポート：30%
定期試験：70%
総合して60%以上合格

授業科目名	CMTM303	授業の種類	授業担当者
教育心理学		（講義・演習・実習）	皆川　順

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2,3,4年次・前期	選択	保育士選択 幼稚園教諭選択

［授業の目的］

幼児期から児童期の子どもに焦点を当て、保育や教育を通して、学ぶこと、学ぶことへの動機付け、条件付けと学習、記憶のメカニズムと記憶の発達、知能観、知能を規定する要因と知的機能の測定方法、集団における人間関係、評価について、心理学的側面から基礎的な理論を理解する。さらに、障害のある幼児、児童、生徒の心身の発達と学習過程について理解し、特に、記憶、学習、知能、動機付けについては障害児の発達とその特性を知る。

［授業全体の内容の概要］

保育所、幼稚園、小中学校で学ぶ幼児、児童、生徒の発達と学習および教育評価について、心理学的側面から基本的知識を習得し理解を深める。子どもの発達と子どもが学ぶこと、学ぶことへの動機づけ、条件付けと学習、記憶のメカニズムと記憶の発達、知能観、知能を規定する要因と知能の測定、集団の中での子ども同士の関係、保育者や教師の子ども理解や評価と子どもの発達や行動との相互関係、保育や教育における評価について、心理学的側面から基礎的な理論を学習する。

［授業終了時の到達目標］

学習理論、学習への動機付け、記憶のメカニズム、知能観と知的機能の発達、評価に関して基礎的知識を身につける。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．子ども理解のために教育心理学の果たす役割、学習法（知識の整理法など）
2．記憶のメカニズム、短期記憶と長期記憶、リハーサル、認知構造
3．乳幼児期からの記憶の発達と知識の形成過程
4．古典的条件づけと道具的条件づけによる学習の理論
5．条件付けの、幼児・児童・生徒に対する適応促進・治療的かかわりへの応用
6．社会的学習理論とその応用、社会現象への見方
7．知能観についての諸説、知的機能の発達、知的障害児の知能の発達
8．知的機能の測定に関する理論と方法及び知能検査
9．知的機能の変動要因、遺伝と環境が知能におよぼす影響
10．学習に対する達成動機、期待と価値、学習意欲等と学習成果
11．学習における内発的動機付けと外的報酬及びこれらの成果との関係
12．障害のある幼児・児童・生徒の心身の発達と学習過程
13．クラス集団の子ども同士の関係、教師の役割、教師と子どもの関係
14．教育における評価の意義と目的、評価基準と方法
15．教育心理学研究法
試験

［準備学習］

毎回の授業で次回の学習内容とテキストの箇所を示すので、前もってテキストその他の該当部分を読んでおくこと。また、図書館等で調べておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

（テキスト）
鎌原雅彦・竹網誠一郎著
『やさしい教育心理学第3版』有斐閣2015
￥1,900＋税

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

テスト（中間・期末・小テスト）80%
授業態度　20%

授業科目名	CMTM204	授業の種類	授業担当者
発達心理学		（講義・演習・実習）	柴田　崇浩

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	1年次・前期	必修	保育士必修 幼稚園教諭選択

［授業の目的］

こどもの発達を中心に、生涯発達の視点から、心理的、生理的、社会的側面に関する発達心理学の知見を学び、より深い人間理解を目指す。子どもから大人までの各発達段階の変化を詳細に理解することにより、日常生活の人間行動の諸現象への洞察を深め、保育・教育現場で活かせる基礎力の獲得と向上に取り組む。

［授業全体の内容の概要］

こどもの発達における運動、知覚、言語、思考、情動等の、精神的および身体的な機能および構造の発達的要因や変化の条件を理解する。そして、具体的な発達に関する事例や現象について、映像等を観察し、考察することをとおして、発達段階によって生じる様々な心理的問題や障碍について体験的に理解する。発達の変化を予測する力を養い、適切な発達の理解と援助を可能とする知識とスキルを学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

胎児期から老年期のライフサイクルにおけるこどもの発達的要因（運動、知覚、言語、思考、情動等）について理解する。

発達の変化を予測する力を獲得し、適切な発達の理解と援助が可能となる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．発達心理学の視点、研究法
2．発達心理とライフサイクル
3．発達の生物学的側面
4．発達の心理・社会的側面
5．こころの発達の時期と段階説
6．出生前から幼児期までの発達
7．児童期から青年期までの発達
8．成人期から高齢期までの発達
9．学習と言語の発達
10．社会性の発達
11．パーソナリティの発達
12．発達に関する問題の理解と心理学的援助(1)
13．発達に関する問題の理解と心理学的援助(2)
14．発達と保育、教育、創造性
15．総括
定期試験：筆記試験を実施

［準備学習］

事前にテキストを熟読し講義を受けること。準備学習で不明な点、疑問点を講義で質問し、こどもの発達の理解を深めていく。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：無藤隆 他『よくわかる発達心理学』
ミネルヴァ書房　2009

参考書・参考資料等：
藤崎眞知代他『保育のための発達心理学』新曜社
高橋道子他共著『子どもの発達心理学』新曜社

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験	50%
授業への取り組み	20%
ミニレポート	20%
授業参加度	10%

授業科目名	CMTM305	授業の種類	授業担当者
教育の制度と経営		（講義・演習・実習）	山口　和孝

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2,3,4年次・前期,後期	選択	幼稚園教諭選択

［授業の目的］

教育制度を大きく転換させる教育改革のマクロな視点と子ども達に向かいあう教室場面というミクロな状況をリンクさせながら、教育制度と学校経営・教室経営に関わる基本を理解する。

［授業全体の内容の概要］

教育制度と教育法規の知識・理解習得だけでなく、教育制度そのものが目まぐるしく変化している現状の中で、最新の教育制度を紹介する。制度の歴史的変遷、幼保一元化、小中高一貫教育などの持つ意味を理解するだけではなく、現行の教育制度が地域や学校や教室、あるいは幼稚園・小学校教諭に関わるものとしてどのように機能しているかについて具体的事例を挙げながら学習する。また、学級経営の具体的な方法について、実践的に学ぶ機会を提供する。

［授業終了時の到達目標］

1．学級経営の基礎的スキルを身に着ける。
2．教育制度に関わる基本的な理解ができるようにする。
3．教育制度の大きな転換をもたらす教育改革について関心を持てるようにする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．学級づくりの基本的スキル…子どもが明日も学校に来たくなるような学級づくりとは？
2．学校経営上の基本問題…文句を言う保護者が出てきたら、どうしよう？
3．子ども達の命を守るために…いじめや児童虐待を発見したら…どうしよう？
4．学校の設置主体…学校は誰がつくれる？
5．就学年齢、学年、学区制度…入学する小学校はどうやって決まる？
6．「一条校」問題…保育園と幼稚園はどこが違う？外国の大学を卒業しても…。
7．学校安全保健の制度…インフルエンザに罹った子どもが登校してきたら？
8．教育職員免許法制…教員免許状の1種と2種はどう違う？
9．特別支援教育の制度…普通教室に時々しか来ない友達がいたけれど…？
10．教育課程制度…学校の教育課程はどうなっている？
11．学校給食法…学校給食は、日本の世界に誇る制度だ。
12．教育委員会制度…教育委員会ってどこにあって、何やっている？
13．教育公務員特例法…学校の先生にはどんな研修がある？
14．県費負担教職員制度…学校の先生の給料は、どこが払っている？
15．社会教育法制…公民館や児童館って何やってるのだろうか？
定期試験

［準備学習］

・授業テーマに関わる新聞記事やニュースに関心を払い、教育制度に関する授業とリンクできるように。前回の授業ノートや配布資料を読み返しておくこと。
・毎回、資料を授業で配布します。授業終了後、授業内容と資料をノートにまとめること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：『教育小六法』学陽書房
（定期試験は、『教育小六法』持ち込み可としますので、必ず購入しておきましょう）
参考文献：土屋基規『現代教育制度論』
ミネルヴァ書房

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

1．授業への取り組み：10%
2．定期試験：90%
合計して60%以上合格

授業科目名	CMTM306	授業の種類	授業担当者
教育社会学		（講義・演習・実習）	山﨑　真之

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2,3,4年次・前期	選択	幼稚園教諭選択

［授業の目的］

本講義では、現代の子どもや教育にかかわる現象を社会的なものとして捉え、それを分析・解釈するための社会学的な捉え方・考え方を事例を通して学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

本講義では、教育と社会のかかわり、保育所、幼稚園など学校が果たしている機能、子どもの姿、保育者や教師の仕事、教育と職業のつながりなどの事例を通して現代の子どもや教育の現実を知る。そしてそれらを検討することで批判的・分析的視点や実証性の重要さに気付き、受講者それぞれが自らの問題として実践的に捉え・考える。

［授業終了時の到達目標］

①教育と社会との関係性の理解
②保育園、幼稚園など学校、保育者や教師の社会的機能の理解
③特別な支援を必要とする子どもの実態の教育社会学的視点からの理解

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．社会の中の教育
2．子どもの社会学
3．近代社会と学校(1)　戦前の近代学校制度の成立と変容
4．近代社会と学校(2)　戦後の近代学校制度の概要
5．学校の社会的機能(1)　統合機能
6・学校の社会的機能(2)　社会的選別機能
7．少年非行の社会学
8．ニューカマーと教育
9．子どもの貧困と教育
10．ジェンダーと教育
11．いじめ問題
12．社会的排除と教育
13．教育政策と社会階層
14．教師・保育者の社会学
15．教育社会学の社会的使命
試験

［準備学習］

教育や子どもに関する新聞記事やニュースに日々関心を払い、一つのトピックに対し様々な意見や考え方があることに意識を向けてみて下さい。また、次回の授業に向けた準備課題を出し、その課題を用いて授業を行う回もあります。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：遠藤克弥ほか編『教育の原理を学ぶ』

参考文献：広田照幸・伊藤茂樹『教育問題はなぜまちがって語られるのか：「わかったつもり」からの脱却』日本図書センター

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

講義への参加度：10%
課題・リアクションペーパー：10%
期末試験：80%

授業科目名	CMTM307	授業の種類	授業担当者
カリキュラム論		（講義・演習・実習）	杉本　久枝

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2年次・後期	選択	保育士必修 幼稚園教諭必修

［授業の目的］

幼稚園教育要領及び保育所保育指針における教育課程・保育課程の編成原理の理解、及び保育における指導計画の必要性・意義について基礎的事項の習得を目的とする。

［授業全体の内容の概要］

幼稚園教育要領及び保育所保育指針における保育のねらい及び内容についての理解を深める。幼児の生きる力の基礎となる心情、意欲、態度を育てる教育課程及び保育課程について具体的な例を示しながら講義する。幼児の自発的な活動としてのあそびは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮し、遊びを通した総合的な指導による子どもの育ちへの理解を深め、小学校への成長の連続性、系統性を踏まえたカリキュラム論を展開する。

［授業終了時の到達目標］

・カリキュラムの必要性・意義についての基本的な知識を身に付ける。
・子どもたちの遊びをカリキュラムの中にどのように位置づけているかを理解する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ガイダンス・教育の目的
2．幼稚園・小学校教育の目的（学校教育法）・保育所の指針
3．教育課程に関する法規・カリキュラムとは
4．幼児期・児童期の発達的特性
5．幼児期・児童期における教育（西洋）
6．幼児期・児童期における教育（日本）
7．小学校学習指導要領の変遷
8．小学校学習指導要領（現行）
9．幼稚園教育要領のねらい（総則）・保育所保育指針のねらい
10．幼稚園教育要領の内容「健康」「人間関係」
11．幼稚園教育要領の内容「環境」「ことば」「表現」
12．保育所保育指針のねらい
13．幼稚園における指導計画の作成とカリキュラム
14．保育所における指導計画の作成とカリキュラム
15．小学校教育と幼稚園教育カリキュラム保育所保育内容の連続性
定期テスト・レポート等

［準備学習］

○毎回振り返りカードにその日の要点、課題を記入すること。
○授業の前に前回授業箇所のテキストやノートを読み返してくること。

［使用テキスト・参考文献］

参考文献：『幼稚園教育要領解説』
文部科学省　フレーベル館
『保育所保育指針解説書』
厚生労働省編　フレーベル館

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業への取り組み・小レポート（40%）
定期試験（60%）の結果を総括して評価する。

授業科目名	CMTM408	授業の種類	授業担当者
保育計画法		（ 講義 ・演習・ 実習 ）	五味美奈子・宮﨑　静香

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	保育士選択 幼稚園教諭選択
15回	30時間・ 2 単位	3 年次・前期, 後期	選択	

［授業の目的］

教育課程・保育課程について理解を深め、更に指導計画についての理解と実際の活用について学ぶ。また、豊かな保育を展開できるような子ども理解をめざした記録のあり方や保育形態など多様な保育方法についても学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

教育課程や保育課程の意義について学び、その編成の方法について具体的に学ぶ。また、教育課程や保育課程を土台にした指導計画の考え方を学び、実際に指導計画を立案することで、それに基づいた保育の実践、反省・評価についても学ぶ。さらに、子どもへの理解が可能となる保育の記録の方法、保育形態や多様な保育方法についても理解を深める。

［授業終了時の到達目標］

指導計画（指導案）作成、保育（教育）理念・保育（教育）目標と保育実践の関連付けなどを通して実際的な技能を身につけていく。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．本授業のねらい／幼児教育・保育の基本と計画
2．保育（教育）理念・保育（教育）目標と保育実践の関連
3．教育課程・保育課程の編成と手順
4．教育課程・保育課程と指導計画の関連
5．幼稚園・保育所における長期指導計画の作成・実施
6．幼稚園・保育所における短期指導計画の作成・実施
7．子ども理解に根ざした保育とその記録
8．保育の記録の活かし方
9．指導計画と立案の方法
10．指導計画の具体的作成（部分）
11．指導計画の具体的作成（全日）
12．指導計画の具体的作成（全日）
13．保育実践の評価・反省および活かし方
14．多様な保育方法への理解
15．まとめ
定期試験・レポートなど

［準備学習］

授業開始時に前回の授業内容の振り返りを行うため、それまでに前回授業箇所のテキスト・ノートを一読しておくこと。指導案作成にあたり指示された準備をして授業に臨むこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
文部科学省「幼稚園教育要領」
厚生労働省「保育所保育指針」
「子どもの育ちを支える保育課程論」大学図書出版
参考書・参考資料等：適宜、プリントを配布する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業への参加態度：20%
指導計画案提出：20%
試験：60%
提出物の返却、講評を行う。

授業科目名	CMTM209	授業の種類	授業担当者
保育内容総論		（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	五味美奈子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	1年次・後期	選択	保育士必修 幼稚園教諭必修

［授業の目的］

幼稚園教育要領や保育所保育指針が示している保育の考え方や全体構造を理解し、保育の目標を達成するために必要な保育内容・保育者の指導・援助を理解する。また、保育内容の歴史的な変遷を踏まえ、現代の保育の課題を理解する。さらに子ども理解を深め、特別な支援を必要とする子どもへの保育や、連携、協働についても学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

幼稚園教育要領や保育所保育指針に示されている、保育の目的、目標、ねらい、内容や領域の考え方について学び、子ども主体に根ざした保育の指導や援助を学ぶ。保育内容の歴史的変遷を理解することで保育内容と社会や時代との関係を知り、現代の保育課題についても学ぶ。さらに、保育の質や内容を高めていくために不可欠である子ども理解の大切さを理解し、さらに保護者や保育者同士の連携や協働、小学校との連携についても学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

保育内容の基本的構造を理解し、幼稚園・保育所における保育内容について総合的に捉えられるようにする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．本授業についてのガイダンス　保育内容とは何か
2．保育内容の基本構造
3．保育の特質
4．保育内容の変遷
5．子どもの発達と生活
6．子ども理解と保育内容
7．「環境」と保育内容
8．子どもにとっての遊び
9．保育内容と保育の計画
10．保育内容と保育の展開
11．さまざまな主義の保育と保育内容
12．保育の評価と記録
13．保育者の役割
14．保育内容における現状と課題（小学校・地域・家庭との連携）
15．今日の保育の課題と保育内容（生活環境、幼稚園・保育所をめぐる状況の変化と保育内容）

定期試験・レポート

※テキストとして幼稚園教育要領を使用する。

［準備学習］

授業開始時に前回の授業内容の振り返りを行うため、それまでに前回授業箇所のテキスト・ノートを一読しておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：文部科学省「幼稚園教育要領」
厚生労働省「保育所保育指針」
「子どもの育ちを支える保育内容総論」大学図書出版
参考文献：「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
「保育所保育指針解説書」フレーベル館

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業への取り組み：20%
レポート：20%
試験：60%
提出物の返却、講評を行う。

授業科目名	CMTM310	授業の種類	授業担当者
保育内容（人間関係）		（ 講義 ・演習・ 実習 ）	五十嵐淳子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2年次・前期	選択	保育士必修 幼稚園教諭必修

［授業の目的］

人間関係の基礎を培う乳幼児期において、乳幼児が生活するそれぞれの場で人とのかかわりがどのように育っていくのか、乳幼児の発達の特性を踏まえた、人とのかかわりを育てる保育者の役割と援助について習得する。

［授業全体の内容の概要］

子ども達の「人とかかわる力」を育てるための集団づくりについて、実践例や映像等を使用しながら考えを深め、乳幼児期の人間関係の発達特性を踏まえた保育実践のあり方を指導する。幼児の「人とかかわる力」がどのように育まれていくのかを理解し、情意的体験によって保育者にふさわしい人格の陶冶を目指す。

［授業終了時の到達目標］

①一人ひとりの子どもの気持ちに寄り添い、かかわっていくことはどういうことかを捉え、人とかかわる力を養う。
②「人間関係」の領域を理解する。
③保育内容領域「人間関係」について構造的にとらえた上で、保育内容をいかに構成・展開していくか理解を深める保育実践力を養うことを目標とする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション、領域「人間関係」とは
2．子どもの遊びと人間関係
3．領域「人間関係」のねらいと内容
4．人とのかかわりを育てる保育教材①
5．人とのかかわりを育てる保育教材②
6．子どもの人間関係を育む保育者の役割
7．子どもの言葉と人間関係
8．子どもの人間関係を育む保育実践①
9．子どもの人間関係を育む保育実践②
10．子どもの人間関係を育む保育実践③
11．子どもを取り巻く地域や高齢者との交流
12．保育者同士の人間関係
13．保育者と保護者の人間関係
14．保護者へのかかわり（学級便りの作成）
15．子どもの人間関係をめぐる現代的課題
試験

※テキストとして幼稚園教育要領を使用する。

［準備学習］

予習として次回の授業を行う箇所の教科書を読むこと。授業で学んだことを踏まえ、保育実践発表ができるように準備しておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

（テキスト）
浅見均『実践から学ぶ　人間関係』
大学図書出版2013年
文部科学省『幼稚園教育要領』
厚生労働省『保育所保育指針』

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

受講態度：10%
提出課題：10%
保育実践の発表：30%
期末試験：50%

授業科目名	CMTM311	授業の種類	授業担当者
保育内容（環境）		（ 講義・演習・実習 ）	下田　敏江

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2年次・前期	選択	保育士必修 幼稚園教諭必修

［授業の目的・ねらい］

幼稚園教育要領または保育指針における領域「環境」のねらいと内容を理解し保育における環境の意味や重要性について考えるとともに、「保育環境のデザイン」をテーマに子どもの豊かな生活を育む視点を学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

子どもの体験や活動内容を充実させていくための「保育環境」とは何か、実践例を通し具体的に描き出すと共に、子どもの年齢に応じた「保育環境」の構成について理解を深める。さらに、保育者に求められる専門性を考え、環境に関わる力を育てる保育実践力を高める。

［授業修了時の達成課題（到達目標）］

「保育環境」を理解すると共に自然と関わりながら、子どもの心情を理解し、子どもに対してどのように関わるのか、子どもの生活・活動を支える「保育環境」を捉える力

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．保育内容の「環境」とは
2．領域「環境」の捉え方
3．保育環境の構成
4．自然を生かした環境①：自然を取り入れた遊び
5．自然を生かした環境②：活動の場の安全と確保
6．友だちや保育者と共に育つ
7．保育園や幼稚園の環境について①：保育環境と私の育ち
8．保育園や幼稚園の環境について②：豊かな生活を楽しむ環境デザイン
9．保育園や幼稚園の環境について③：子どもの育ちを考えた空間
10．遊びや生活の情報に興味をもつ
11．子どもの遊びと伝統遊び
12．子どもを守るための安全な環境
13．保育環境に求めるもの
14．現代社会における子どもの環境の課題
15．「環境を通して」の保育とは
試験

※テキストとして幼稚園教育要領を使用する。

［準備学習］

①授業の前にテキストの該当部分を読んで予習してくること。
②授業の前に今までの内容を読み返し復習してくること。
③授業内容での資料や参考図書を読むこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：演習　保育内容　環境　建帛社
新時代の保育双書　保育内容「環境」
第2版　㈱みらい
参考文献：厚生労働省編　保育所保育指針解説書
フレーベル館
幼稚園教育要領

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験やレポートの評価基準
試験…60％
授業態度…40％

授業科目名	CMTM212	授業の種類	授業担当者
保育内容（健康）		（ 講義 ・演習・ 実習 ）	宮﨑　静香

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	1年次・後期	選択	保育士必修 幼稚園教諭必修

［授業の目的］

保育者として皆さんが関わる子どもたちが、人間の生涯において成長の一時期であることを理解し、乳幼児期における「健康」についての意味を考えていきます。

［授業全体の内容の概要］

子どもたちの心と身体の健やかな発達を可能にするために、日々の保育の中で必要な保育者の立場から必要な知識、役割、行動について、VTR や実際の事例等を交えて学習していきます。また、子どもだけではなく、保育者自身や保護者の健康の大切さについても理解を深めていきましょう。

［授業終了時の到達目標］

健康とは何か、また子どもの成長発達について理解し、子どもたちが健康を保つために必要な環境づくりについて考えるようになる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション：人間の健康とは何か
2．私自身の健康について考える
3．子どもの健康と成長発達
4．子どもの心身の発達①（0・1歳児）
5．子どもの心身の発達②（2歳児）
6．子どもの心身の発達③（3歳児）
7．子どもの心身の発達④（4歳児）
8．子どもの心身の発達⑤（5・6歳児）
9．「健康」の歴史の変遷
10. 子どものケガとその対応
11. 子どもの病気とその対応
12. 自然の中で遊び育つ子どもたち（保育の取り組み事例から）
13. 保護者の心の健康に配慮した支援
14. 食育を通して健康を考える
15. まとめ
試験

※テキストとして幼稚園教育要領を使用する。

［準備学習］

自分自身の心と身体の健康管理を大切にしてください。
TV・新聞・インターネットなどで「健康」に関するニュースの情報に関心を持ってください。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：事例で学ぶ保育内容　領域「健康」
萌文書林

参考文献：文部科学省編『幼稚園教育要領解説書』
厚生労働省編『保育所保育指針解説』

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
試験：60%
レポート：20%
授業への参加と態度：20%
感想文を返却します。

授業科目名	CMTM213	授業の種類	授業担当者
保育内容（ことば）		（ 講義・演習・実習 ）	中川理恵子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	1年次・後期	選択	保育士必修 幼稚園教諭必修

[授業の目的]

子どもがどのように言葉を獲得していくのか、その発達の道筋について知る。
子どもたちの言葉を育むために、保育者がなすべき指導や援助の方法を学ぶ。
言葉への関心を高め、言葉についての知識を修得する。

[授業全体の内容の概要]

幼稚園教育要領が示す領域の考え方を知り、領域「言葉」のねらいと内容について理解する。乳幼児期の言語的発達をふまえ、言葉を育てるための環境づくり、保育者の言葉がけや指導・援助の方法、絵本などの文化財の活用方法について、実践的に学ぶ。

[授業終了時の到達目標]

①幼稚園教育要領が示す領域「言葉」のねらいと内容を理解する。
②子どもの言葉を用いて表現する力、思考する力、他者と関わる力を育むために、適切な機会と環境を整え、支援できるようになる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．オリエンテーション「言葉とはなにか」
2．領域「言葉」がめざすもの「言葉の意義」
3．子どもの育ちと言葉について
4．子どもの言葉の獲得と発達「言葉の前の言葉」
5．子どもの言葉の獲得と発達「言葉の使用」
6．子どもの言葉の獲得と発達「気持ちや考えを言葉で伝え合うこと」
7．子どもの言葉の獲得と発達「文字への関心を育てる」
8．言葉を育てる環境「保育者の役割と援助」
9．言葉を育てる環境「共に育つ」
10．言葉の響き・リズム・ルール「詩」
11．言葉遊び
12．言葉と物語
13．言葉と絵
14．言葉の遅れ、地域言葉
15．まとめ
定期試験

※テキストとして幼稚園教育要領を使用する。

[準備学習]

日頃から文学や芸術に親しみ、他者の言葉に耳を傾けて、言葉への関心を高めてください。

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：幼稚園教育要領

参考文献：授業で紹介する。

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

①授業への取り組み：20%
②授業中に出す課題：20%
③定期試験：60%
単位取得に①②③は不可欠

授業科目名	CMTM314	授業の種類	授業担当者
保育内容（表現）		（ 講義 ・演習・ 実習 ）	津山由美子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2年次・前期	選択	保育士必修 幼稚園教諭必修

［授業の目的］

渾然一体となって現われる子どもの表現を総合的にとらえる視点を身につけ、子どもの表現する意欲・感性を育む保育者の関わり方や保育計画について理解する。

［授業全体の内容の概要］

生活や遊びの中で子どもが表現する姿を事例等から検討するとともに、子どもの表現の発達過程や特徴および領域「表現」に関する理論を学ぶ。また、子どもの表現に共感し、意欲や感性を育むための実技や基礎的な援助法、教材研究を取り入れる。

［授業終了時の到達目標］

さまざまな表現活動の学びから高いコミュニケーション能力を身につけ、子どものあそびを支えるとはどういうことなのか考えられるようになる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション・あそびと表現
2．乳幼児期の発達と表現（事例映像）
3．ドラマによる表現教育とは（全人格的な人間形成）
4．あそびと表現活動「感覚」
5．あそびと表現活動「集中」
6．あそびと表現活動「想像」
7．あそびと表現活動「解放」
8．あそびと表現活動「スピーチ」
9．あそびと表現活動「模倣」
10．劇あそび（行事）を生活の中でどのように展開していったらよいか（保育計画）
11．即興劇あれこれ
12．表現劇場1（フィンランドメソッド・仮面＆でたらめ劇場）
13．表現劇場2（物語・ムーブメント）
14．表現劇場3（お笑い）
15．まとめ・保育者の心もち（子どもに学ぶ姿勢）

レポート、実技

※テキストとして幼稚園教育要領を使用する。

［準備学習］

授業の前にテキストや参考書の関連部分を読んでくること。
講義＆実技を毎回行うので動きやすい格好で参加すること。
授業の後に簡単な振り返りレポートを提出すること。

［使用テキスト・参考文献］

①保育・幼児教育シリーズ『表現の指導法』
田澤里喜編：玉川大学出版部
②『幼稚園教育要領』
③『保育所保育指針』

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
受講態度・課題提出：40%
実技：60%

授業科目名	CMTM415	授業の種類	授業担当者
こどもと学習活動		（講義・演習・実習）	橋本由美子・亘理　史子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	3,4年次・前期,後期	選択	幼稚園教諭必修

［授業の目的］

幼児期の学習活動について具体的内容及び幼児理解に関する理論と方法を理解し、幼児教育に携わる保育者としての資質を身に付けることを目的とする。また、幼児を取り巻く社会的な状況や今日的な課題に対応できるよう実践力を伸ばす。

［授業全体の内容の概要］

幼稚園教育要領に基づき、学習活動の具体的内容と方法を学ぶ。幼児の発達の側面から見た各領域「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」のねらい、内容について具体的に考察する。また、幼児を取り巻く今日的な課題や小学校との成長の接続を視野に入れた具体的な事例を学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

①幼児期の学習活動の具体的内容と方法について理解を深め、幼児教育に携わる保育者としての資質を身に付ける。
②幼児を取り巻く今日的な課題、小学校との成長の接続など具体的な事例を考察し、実践力を伸ばす。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．子どもと学習活動について（子どもにとっての学習活動とは何か）
2．幼児教育を取り巻く現代社会の課題(1)
3．幼児教育を取り巻く現代社会の課題(2)
4．「健康」と学習活動
5．「人間関係」と学習活動
6．「環境」と学習活動
7．「言葉」と学習活動
8．「表現」と学習活動
9．子どもの発達段階に応じた学習活動（3歳）
10．子どもの発達段階に応じた学習活動（4歳）
11．子どもの発達段階に応じた学習活動（5歳）
12．指導計画の作成(1)（年間指導計画と指導案・数量に関する作品の教材化）
13．指導計画の作成(2)（月間指導計画と指導案・図形に関する作品の教材化）
14．幼児教育と小学校教育を接続した学習活動(1)
15．幼児教育と小学校教育を接続した学習活動(2)
試験・レポート

［準備学習］

①各回のテーマについて調べ、まとめておくこと。
②授業の前に調べたことを、授業時に提出すること。
③授業の後に振り返りシートを作成し、提出すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：『実習における遊びの援助と展開』
萌文書林　久富陽子他

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

感想文毎時間提出振り返りシート（20%）
試験・レポート・指導案作成（80%）

授業科目名	CMTM316	授業の種類	授業担当者
教育の方法と技術		（講義・演習・実習）	亘理　史子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2,3,4年次・前期,後期	選択	幼稚園教諭選択

[授業の目的]

教育の方法と技術について歴史的変遷や理論的な基礎及び視聴覚教育、情報教育の意義を理解し、視聴覚教材やICT機器の有効活用ができるようにする。また、教育場面を想定し、指導改善のための教育の方法と技術について実践力を身に付けることを目的とする。

[授業全体の内容の概要]

幼稚園教育における視聴覚教材やICT機器活用の必要性やその果たす役割について、教育現場における展開事例から学ぶ。また、パワーポイント使用のプレゼンテーションなど実践事例に考察を加え、作成し発表する。

[授業終了時の到達目標]

①教育の方法と技術について歴史的変遷を理解し、視聴覚教育、情報教育に関わる知識を深める。
②指導改善のためにパワーポイント使用のプレゼンテーションなど実践事例に考察を加え、それを作成することができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．教育の方法と技術の理論
2．視聴覚教育の歴史的変遷(1)
3．視聴覚教育の歴史的変遷(2)
4．情報社会における課題(1)
5．情報社会における課題(2)
6．幼児教育における視聴覚教育と情報教育（ICT機器活用）の役割(1)
7．幼児教育における視聴覚教育と情報教育（ICT機器活用）の役割(2)
8．教育技術（グループワーク）視聴覚教材・ICT機器活用の作品制作(1)
9．教育技術（グループワーク）視聴覚教材・ICT機器活用の作品制作(2)
10．教育技術（グループワーク）視聴覚教材・ICT機器活用の作品制作(3)
11．教育技術　視聴覚教材・ICT機器活用の作品の発表(1)
12．教育技術　視聴覚教材・ICT機器活用の作品の発表(2)
13．学習指導案の作成（視聴覚教材、ICT機器を使った豊かな環境作り）
14．学習指導案の発表（視聴覚教材、ICT機器を使った豊かな環境作り）
15．幼児教育と小学校教育の接続
試験・レポート

[準備学習]

①授業の前に該当部分を調べること。
②授業の前に調べたことを簡単にまとめ、授業時に提出すること。
③授業の後に振り返りシートを作成し、提出すること。

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：資料配布
参考文献：『実践に活かす教育課程論･教育方法論』
学事出版　林尚示他

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

感想文・毎時間提出振り返りシート（20%）
試験・レポート・作品・発表（80%）

授業科目名	CMTM117	授業の種類	授業担当者
保育教材演習		（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	五味美奈子・細井　圭子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	1年次・通年	選択	保育士必修 幼稚園教諭選択

［授業の目的］

・保育活動に欠かすことのできない保育教材の意義、ねらいについて知る。
・基本的な保育教材の制作、実演を経験し、保育者としての技能を身につける。

［授業全体の内容の概要］

保育教材・教具には目的、ねらいがあることを知り、保育現場で活用されている保育教材を紹介し、制作、実演、遊びを経験する。具体的には折り紙、身近な素材を用いての工作などの日々の遊び、ペープサート、パネルシアターなど作って演じる教材、壁面装飾などを取り上げる。

［授業終了時の到達目標］

保育教材のねらいや製作方法を知り、2年次以降の実習で使用可能なパネルシアターなどを完成させる。
折り紙や身近な素材を用いて、工作あそびや装飾の制作などにイメージをもって取り組めるようにする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．本授業のねらいと進め方
2．春の行事と保育教材
3．保育教材とこどもの遊び
4．七夕の工作
5．パネルシアターの制作①
6．夏の行事と保育教材
7．パネルシアターの制作②
8．パネルシアター実技①
9．パネルシアター実技②
10．秋の行事と保育教材
11．クリスマスの制作
12．冬の行事と保育教材
13．シアタースタイルの児童文化財
14．身近な素材を用いての工作
15．1年間の振り返り
定期試験・レポートなど

［準備学習］

毎回の授業で、次回の授業内容とその準備について指示する。
折り紙、パネルシアター制作・実演、季節の工作など課題が多いので、積極的・自主的に取り組むことを期待する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
新版遊びの指導乳・幼児編（同文書院）
おりがみ事典（同文書院）
参考書・参考資料等：適宜、プリントを配布する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

課題提出：50%
試験：30%
授業への取り組み：20%
提出物の返却、講評を行う。

授業科目名	CMTM418	授業の種類	授業担当者
保育カウンセリング		（ 講義・演習・実習 ）	皆川　順

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	3,4年次・前期,後期	選択	保育士選択 幼稚園教諭必修

［授業の目的］

幼稚園や保育所において、発達遅滞や発達障害のある子ども、障害とは言えないが気になる子どもやかかわりの難しい子ども、虐待の疑われる子どもなど、特別な配慮や支援を必要とする子どもの理解とその対応について、事例を通して、基礎的な知識を理解する。

［授業全体の内容の概要］

幼稚園や保育所において、発達遅滞や発達障害のある子どもとそのリスクのある子ども、障害とは言えないが気になる子どもやかかわりの難しい子ども、虐待の疑われる子どもなど、特別な配慮を要する子どもに対する保育者の関わりと保護者への対応について、臨床心理学的な視点から学習する。特別な配慮を必要とする子どもの事例を通して、保育者としての基本的な心構えや保育者間のチームワーク、保護者対応で求められるカウンセリングマインド、外部の関連機関との連携の仕方などについても学習する。

［授業終了時の到達目標］

幼稚園や保育所において、障害のある子ども、気になる子ども、かかわりの難しい子どもなど特別な配慮や支援を必要とする子どもの理解と対応に関して基礎的知識を身につける。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．保育カウンセリングの背景
2．保育カウンセリングの定義・方向性・特徴
3．保育カウンセリングにおける基本的な心構え
4．カウンセリングの基本理論と保育カウンセリング
5．カウンセリングの基礎的な訓練
6．軽度発達障害児に対する対応、発達援助、他児との関係づくり
7．集団生活への適応が難しい子どもの心理について理解し、その対応について学習する。
8．他児との関係作りが難しい子どもの心理について理解し、その対応について学習する。
9．自傷行為をする子どもの心理について理解し、その対応について学習する。
10．他児に手を出すなど困る行動をする子どもの心理について理解し、その対応を学習する。
11．特別な支援が必要な子どもの保護者の気持を理解し、その対応について学習する。
12．被虐待の疑われる子どもを発見する手掛かり、心理特性、対応の際の配慮事項を理解する。
13．子どもへの虐待が疑われる保護者を発見する手掛かり、対応の際の配慮事項を理解する。
14．虐待が疑われる事例に対応する際の園でのチームワークと関連機関との連携を理解する。
15．担当者があげる特別な配慮や支援を必要とする子どもの事例について、履修者がその対応等をまとめる。

試験

［準備学習］

授業時に次回の学習内容とテキストの箇所を示したり、関連する資料を配布するため、前もってテキストの該当部分や資料を読んでおくこと。

［使用テキスト・参考文献］

（テキスト）藤後悦子他著
「保育カウンセリング」ナカニシヤ出版2010

（参考文献）佐川寛子・成瀬美恵子著
「保育者のためのカウンセリングマインド入門」
チャイルド本社2007

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
試験　70%
課題への取り組み　15%
授業態度　15%

こども専門科目

（教科専門）

授業科目名	CMES301	授業の種類	授業担当者
国語		（講義・演習・実習）	高野実貴雄

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	3，4年次・前期，後期	選択	幼稚園教諭選択

［授業の目的］

幼稚園教諭として心得ておくべき国語（国語学・国文学）の基礎的な事柄を項目別に理解し、現場で役立つ国語の知識を身に付けさせる。

［授業全体の内容の概要］

幼稚園教諭が現場ですぐに使うことを想定した国語（国語学・国文学）の基礎知識、もしくは早期教育での文字教育等の可能性をも勘案しての国語の講義とする。具体的には乳幼児の言葉に対する感覚から始めて漢字の話（六書等）、日本の文字（ひらがな等）、敬語、そして言葉遊び、昔話の構成、童謡、絵本の視点や語り手の問題、俳句の作り方、百人一首とカルタ遊びなどについて取り上げ、この講義の国語の基礎知識を幼児教育の中でどのように生かしていったらよいかを考えつつ講義を進める。

［授業終了時の到達目標］

すべての項目のベースとなる日本語の知識（話し言葉・書き言葉）の基礎を獲得することを目標とし、幼稚園教諭の国語の側面での地盤の知識を修得することを目標とする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．子どもと言葉の発達Ⅰ（0歳から3歳）
2．子どもと言葉の発達Ⅱ（4歳から6歳）
3．漢字の話（六書・漢字音・書体・常用漢字・教育漢字）
4．ひらがな・カタカナ・送り仮名・仮名遣い・ローマ字
5．助数字（一本・一枚・一個）
6．敬語（尊敬語・謙譲語・丁寧語・美化語）
7．言葉遊び（なぞなぞとことわざ）
8．昔話とは
9．昔話の構成
10．唱歌と童謡
11．絵本の表現Ⅰ（視点）
12．絵本の表現Ⅱ（場面の連続性と語り手）
13．俳句の作り方（季語・取り合わせ・写生）
14．小倉百人一首と遊び方
15．まとめ
試験

［準備学習］

復習は板書したノートに必ず目を通し、書き直すような形ですること。復習の際、疑問点は調べ、解決するように努力すること。

［使用テキスト・参考文献］

（テキスト）
授業で指示。

（参考文献）
『新しい国語表記ハンドブック』三省堂

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
試験　60％
授業態度　40％
修了時ノート提出。

授業科目名	CMES302	授業の種類	授業担当者
算数		（講義・演習・実習）	亘理　史子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	3,4年次・前期,後期	選択	幼稚園教諭選択

［授業の目的］

小学校算数教育の目標、4領域「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の内容や各学年の内容を具体的に考察することにより、幼児期に共通する数感覚、量感覚、図形感覚等について理解する。算数への興味関心をもたせる。

［授業全体の内容の概要］

幼児教育で数についての数感覚、量についての量感覚、図形についての図形感覚を重視することにより、小学校における算数教育への滑らかな接続を図る。算数教育、数学教育の系統性を見通した幼児期における数量・図形についての基本的な事項を理解する。数と計算、量と測定、図形、数量関係領域において幼児の発達段階に応じた興味や関心及び感覚が養われる指導法を研究事例について検討する。そのために、算数科における授業研究の意義を探る。また、学生自身が問題解決できるように、算数的活動を重視した指導法を考察する。

［授業終了時の到達目標］

①算数に興味関心をもち数感覚、量感覚、図形感覚を身に付ける。
②幼児教育と小学校教育の滑らかな接続を目指し、幼児教育の学びを小学校算数教育で活かす指導法を考察する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．算数科学習指導要領と算数的活動
2．算数科の目標と歴史的変遷
3．数学的な思考力・表現力とは
4．「数と計算」領域の内容
5．「量と測定」領域の内容
6．「図形」領域の内容
7．「数量関係」領域の内容
8．第1学年の内容
9．第2学年の内容
10．第3学年の内容
11．第4学年の内容
12．第5学年の内容
13．第6学年の内容
14．幼児教育と小学校教育の接続を目指して(1)
15．幼児教育と小学校教育の接続を目指して(2)
試験・レポート

［準備学習］

①算数科の独自の教具（コンパス、三角定規など）を用意すること
②算数科にかかわる実践研究論文などにあたり教材研究をすること
③授業の後に振り返りシートを作成し、提出すること

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：『小学校学習指導要領解説〔算数編〕』
平成20年
『新編算数科教育研究改訂版』
算数科教育学研究会編　東洋館出版社

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

感想文毎時間提出振り返りシート（20%）
試験・レポート・指導案作成（80%）

授業科目名	CMES303	授業の種類	授業担当者
あそびと科学		（講義・演習・実習）	鶴ヶ谷柊子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2,3,4年次・前期	選択	幼稚園教諭選択

[授業の目的]

・実際の活動を通して生活科の特徴を学び、教師としてどう関わるべきなのか考える。
・幼児のあそびの中や身の回りにある科学現象を、実際の体験を通して理解する。
・理解した科学現象について説明することができる。

[授業全体の内容の概要]

こどもたちにとってあそびは自然なものであり、自ら発見し工夫が重ねられていくものである。そのあそびの中には多くの科学現象がつまっている。子どものあそびのなかにある科学現象について理解し、こどもの自然な学びをサポートできることを目指す。また、こどもの自然な興味・関心を伸ばす科目である生活科の特色を実際の活動から学ぶ。

[授業終了時の到達目標]

・生活科の授業の意義を理解できる。
・生活科の指導要領を理解し、簡単な指導案を作成できる。
・あそびの中の科学現象についてその原理を理解し、レポートにまとめることができる。
・あそびの中にある科学現象を、こどもの学びにどのようにしてつなげるか考え、指導案を作成することができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．シーソー（てこの原理）
2．紙飛行機（揚力）
3．楽器づくり（音の伝搬）
4．折り紙（立体）
5．スライムづくり（化学変化）
6．ホバークラフト（空気のちから）
7．いろ水（酸性とアルカリ性）
8．草花や木の観察（植物の体のつくりと環境）
9．身の回りの生き物の観察（昆虫の体のつくりと環境）
10．身の回りの生き物の観察（魚、鳥の体のつくりと環境）
11．水辺の生き物の観察（水辺の環境と生物の関係）
12．土と石（土壌の形成）
13．天気（天気の移り変わりと気圧）
14．太陽や星（天体の動きと季節）
15．まとめ
定期試験・レポート

[準備学習]

①講義で行った実験についてまとめ、レポートを作成し提出する。②身のまわりにある科学現象に目を向け、疑問に思ったことについて調べておく。②講義で説明をした生活科の指導要領について復習し、指導案に反映できるようにしておく。③生活科の指導要領に関する配布資料をよく読み内容を理解しておく。④講義で取り扱った内容に関する科学現象を復習し、説明できるようにしておく。

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：随時、資料を配布する。
参考文献：小学校学習指導要領解説　生活編
（日本文教出版）

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

試験　40%
レポート　50%
小テスト及び受講態度　10%
提出されたレポートは、コメントを入れて返却する。

授業科目名	CMES104	授業の種類	授業担当者
幼児体育		（ 講義・演習・実習 ）	北原　澄高

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	保育士必修 幼稚園教諭選択
15回	30時間・1単位	2年次・前期	選択	

［授業の目的］

多様な運動パターンの体験から運動を構成している要素を意識し、また様々な運動遊びに含まれる楽しさの質について実践を通しての考察を重ねながら、幼児への運動指導の基本的技能の獲得を図る。特別な運動技能を身に付ける過程ではなく、基本的な動きを獲得する過程において、特に必要とされる事柄を中心に学習する。

また、運動を単に筋肉の動きのみでなく、心の動き、脳の動きを伴うものとして認識し、その視点から保育現場における子どもの見方、援助の方法について実践的に学習する。

［授業全体の内容の概要］

多様な運動パターンの体験から運動を構成する要素を意識し、また様々な運動遊びに含まれる楽しさの質について、実践を通しての考察を重ねながら幼児への運動指導の基本的技能の獲得を図ると共に、運動を単に筋肉の動きのみでなく、心の動きを伴うものとして捉え、運動指導の意義について実践的に学習する。また、運動を単に筋肉の動きのみでなく、心の動き、脳の動きを伴うものとして認識し、その視点から保育現場に於ける子どもの見方、援助の方法について実践的に学習する。

［授業終了時の到達目標］

対象年齢に合った運動遊びの指導法を身につける。また、そのために必要な指導案の作成能力を身につけることを到達目標とする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ガイダンス　授業の進め方や注意点等の確認
2．表現遊び　ダンス「ディン・ドン・ダディ」を中心に行います
3．集団ゲーム遊び　鬼ごっこなどの多人数でできるゲームや遊び
4．マット①　基礎的なマット運動
5．マット②　マットを利用した遊び
6．ボール①　基礎的なボール運動
7．ボール②　ボールを利用した遊び
8．平均台　基礎的な平均台運動
9．プレイバルーン　プレイバルーンを使用した表現
10．鉄棒　簡単な鉄棒遊び
11．表現①　オーレチャンプの練習①
12．表現②　オーレチャンプの練習②
13．総合①　創作表現の発表会
14．総合②　運動会
15．まとめ　VTR 鑑賞、前期の振り返り
レポート提出

［準備学習］

各回の授業テーマに沿った運動遊びを事前に調べておくことを準備学習とする。

［使用テキスト・参考文献］

参考文献：
幼児期運動指針（文部科学省ホームページ参照）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

レポート　60%
授業への取り組み　40%

授業科目名	CMES205	授業の種類	授業担当者
こどもと音楽		（ 講義・演習・実習 ）	金井　玲子・出口　雅生

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	保育士必修 幼稚園教諭選択
15回	30時間・2単位	1年次・後期	選択	

［授業の目的］

保育や幼児教育における音楽活動に必要な音楽的知識や技術（音楽理論、歌唱、簡易楽器など）の基礎を修得するとともに、こどもの音楽的発達過程を理解し、それを踏まえた音楽活動の内容や教材の活用、遊びの展開について学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

歌唱や楽器演奏に必要な音楽理論の基礎について、テキストやビデオ及び実技を通して学ぶ。また、こどもの音楽的発達過程への理解や教材研究を踏まえ、歌遊びやリズム遊び、簡易な器楽合奏など保育に取り入れられている音楽活動を実践する。

［授業終了時の到達目標］

音楽理論、歌唱や器楽の基礎を身に付け、保育者としての基本的な音楽表現ができる。こどもの音楽表現活動を理解し、手遊びや歌唱、器楽合奏の初歩的な指導ができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション
2．音の高さ、音の長さ
3．簡単な合奏（トーンチャイム）
4．変化記号、拍節とリズム
5．音階・調性
6．こどもの音楽表現行動の発達、手遊び・歌唱の指導法
7．手遊び歌の実演
8．合奏
9．合奏の指導法
10．和音
11．総合発表の準備①（内容の決定）
12．総合発表の準備②（練習）
13．総合発表の準備③（発表に向けての仕上げ）
14．実演発表
15．まとめ、振り返り
試験・レポート

［準備学習］

授業の前に前回のノートや配布資料を読み返してくること。実演発表の前に十分な準備練習を行ってくること。授業の後にノートや配布資料を整理すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
和田葉子ほか共編『こどものうた140選』
参考文献：
大畑祥子編著『音楽表現』

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験：40%　レポート：40%　受講態度：20%
理論的な事項は授業内に筆記試験を行い、採点の上返却する。
実践課題についてはレポートを提出し、評価とコメントをつけ返却する。

授業科目名	CMES206	授業の種類	授業担当者
造形表現(図画工作)		(講義 ・(演習)・ 実習)	船木　美佳

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	保育士必修 幼稚園教諭選択
15回	30時間・1単位	1年次・後期	選択	

[授業の目的]

材料・道具についての基礎的な知識と理解、絵画や彫塑に関する基礎技能を習得する。また講評会において他者と自分の作品を並列することで、客観性や「自分らしさ」を発見し、他者への理解や興味を作品を通し抱くきっかけとする。その経験が将来、幼児の作品を観察し支援する力へと発展することが望ましい。また少しでも自分の「枠」を造形や表現を通じて拡げることを狙いとする。

[授業全体の内容の概要]

造形活動で必要となる材料や道具に関する基本的な知識を実習を通じで学ぶ。基礎力として、“もの（事象）を観察する力”を重要視する。課題ごとに講評会形式を取り入れ、各自、自らの作品についてプレゼンテーションを行い、総合的な表現力を養う。課題は多様だが、ゼロから作り上げるだけでなく、編集作業的な創作過程を経る課題もある。活動は個人作業と協同作業があり、特に協同作業時はコミュニケーションも含めた活動を促す。

[授業終了時の到達目標]

「自分らしさ」を発見し、自己表現につなげる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．授業の概要説明　鉛筆デッサン／講評会
2．コラージュ1
3．コラージュ2／講評会
4．自然を観察する
5．既にある形から発想する
6．伝言ワーク　グループワーク1
7．伝言ワーク　グループワーク2／講評会
8．友人を観る・観られる／講評会
9．環境を考える　グループワーク1
10．環境を考える　グループワーク2
11．環境を考える　グループワーク3／講評会
12．紙粘土1
13．紙粘土2　講評会小麦粉粘土
14．イメージ水彩画
15．自由制作
レポート　提出作品

[準備学習]

特にありません。

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：随時指示

参考文献：ニキドサンファル画集
ブルーノムナーリ画集
エミールノルデ画集

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

（試験やレポートの評価基準など）
課題作品　60%
受講態度　40%

授業科目名	CMES207	授業の種類	授業担当者
絵本学		（講義・演習・実習）	中川理恵子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	1, 2, 3, 4年次・前期	選択	幼稚園教諭選択

［授業の目的］

絵本の特性を学び、絵本についての基礎的な知識や視点を獲得する。口承文芸である昔ばなしの絵本化について考察し、絵本ならではの表現を学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

絵本の歴史を紐解くことで、多角的に絵本というメディアの本質について考える機会をもつ。その上で、昔ばなしの絵本化について考察する。これらをふまえ各自絵本を分析する。絵本というメディアとその表現の可能性を見つけ、それを他者と分かち合うことの楽しさと意義を知る。

［授業終了時の到達目標］

①絵本の特性を説明できる。
②絵本の楽しみ方を他者に提案できるようになる。
③子どもの生活を豊かにし、ことばや創造性を育むために、絵本を活用する方法を考えられるようになる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．絵本とは何か
2．絵本の歴史①書物としての絵本
3．絵本の歴史②芸術としての絵本
4．絵本の歴史③文学としての絵本
5．児童文化財としての絵本
6．昔ばなし絵本①昔ばなしとはなにか
7．昔ばなし絵本②昔ばなしの特徴
8．昔ばなし絵本③昔ばなしは残酷か
9．昔ばなし絵本④昔ばなし絵本とアニメーション
10．絵本を分析する①デザイン色・形
11．絵本を分析する②デザインリズム・構造
12．絵本を分析する③デザイン視点・視界
13．絵本を分析する④ストーリー
14．絵本を分析する⑤文章
15．まとめ
課題・レポート

［準備学習］

①多くの絵本を手に取り読むこと。
②指示した配布プリントを読んで来ること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：プリントを配布する。
参考文献：『昔話入門』小澤俊夫編著（ぎょうせい）
『アプローチ児童文学』関口安義編（翰林書房）
『絵本を読む』松居直（日本エディタースクール出版部）
『絵本のよろこび』松居直（日本出版放送協会）
『えほんのせかい　こどものせかい』松岡享子
（日本エディタースクール出版部）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

①授業への取り組み：20%
②授業中に出す課題：20%
③定期試験：60%
単位取得に①②③は不可欠

授業科目名	CMES308	授業の種類	
物語とこども		（講義・演習・実習）	2017年度不開講

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	2，3，4年次・前期	選択	幼稚園教諭選択

［授業の目的］

他者の語る物語に耳を傾けること、物語を発見する喜びを味わうこと、自らの物語を紡ぐことは、こどもの発達において大きな意味をもつ。本講義では、さまざまなメディアによって語られてきた物語をみつめ、その語り方や内容について理解を深めながら、こどもと物語の出会いについて見識を広めていく。

［授業全体の内容の概要］

洞窟壁画からアニメーションまで、さまざまなメディアによる物語に親しみながら、こどもと物語の存在について深く考える。また、どのような物語がいかなる表現で語られているかやそれぞれの作品におけるこどもの描き方とこどもという存在への認識について、作品の精読や文献研究、ディスカッション等を通じて学び、思索する。さらに、こどもが物語をどのように楽しんでいるのかについても考える。

［授業終了時の到達目標］

①絵画、物語絵、伝承文学、児童文学、アニメーション等、物語るメディアの特性と共通点について理解を深める。②こどもと物語の出会いに貢献できる見識を備える。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．物語とこども
2．洞窟壁画
3．物語絵
4．物語絵本
5．神話と伝説
6．昔話①昔話とは何か
7．昔話②昔話の語法
8．児童文学の誕生
9．幼年文学
10．冒険物語
11．ファンタジー文学
12．アニメーション
13．ナラティブ・アート
14．こどもが紡ぐ物語
15．まとめ
試験・レポート

［準備学習］

①授業時に指定した作品や文献を必ず読んでくる、あるいは鑑賞してくること。
②授業後にノートや配布資料を読み返して復習し、学んだ事や疑問点を整理しておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：川端有子『児童文学の教科書』
玉川大学出版部、2013
参考文献：授業時に紹介する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業への取り組み：25%
授業中に出す課題：25%
試験・レポート：50%

授業科目名	CMES109	授業の種類	授業担当者
ピアノ基礎A		（ 講義・(演習)・実習 ）	上田亜津子・浦啓子・金淵洋子・清水京子・杉森のりこ・高牧恵里

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	1年次・前期	選択	保育士必修 幼稚園教諭選択

[授業の目的]

保育者、幼児教育者としてこどもの音楽表現活動を支援するにあたって大切な「音楽を楽しみ共有する心」を育み、そのために必要なピアノ演奏・弾き歌いの基礎を修得し、同時に自ら目標を設定、達成する力を身に付ける。

[授業全体の内容の概要]

授業全体で基本的なピアノについての知識、演奏すること、練習の仕方・考え方について学ぶ。個人及びグループレッスンでピアノ演奏に取り組み、各自のレベルに合わせた個々の目標を確実に達成させる。

[授業終了時の到達目標]

ピアノ演奏の基本的な知識と技術を獲得していること。自らのレベルに合わせた到達目標を設定し、その実現のための練習方法を理解していること。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．全体オリエンテーション　授業の進め方についての説明及び個人のレベルチェック
2．全体授業　楽器･演奏･練習法についての概論と各自のレベルに応じた短期･中期目標の設定
3．個人レッスン①（姿勢、身体の使い方を中心に）
4．個人レッスン②（読譜を中心に）
5．個人レッスン③（練習方法を中心に）
6．グループレッスン①（各自の短期目標の達成度合いを発表し次の目標設定、初見について）
7．個人レッスン④（実技試験曲の読譜）
8．個人レッスン⑤（実技試験曲の運指等奏法の指導）
9．個人レッスン⑥（実技試験曲の困難な個所の解決法）
10．グループレッスン②（楽譜を見て試験曲を中間発表）
11．個人レッスン⑦（実技試験曲の前半暗譜）
12．個人レッスン⑧（実技試験曲の後半暗譜）
13．個人レッスン⑨（実技試験曲の全曲暗譜）
14．個人レッスン⑩（実技試験曲をより音楽的な表現で完成させる）
15．実技試験のためのリハーサル
実技試験

[準備学習]

①授業の前に、前回課された課題曲を十分練習してくること。
②演奏に必要な読譜を行い、楽語などの意味を調べてくること。
③授業の後に、レッスン内容の整理を行うこと。

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：
浦和大学編『ピアノを弾こう 1st Step』
『ピアノを弾こう 2nd Step』
和田葉子ほか共編『こどものうた140選』
参考文献：授業中に指示する

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

定期試験：60%　課題の進度：20%
受講態度：20%
毎回のレッスン内容を記録表に記載し、課題の達成度を受講生と確認する。
実技試験後に、受講時の取り組みと評価を含めた試験結果の振り返りを行う。

授業科目名	CMES210	授業の種類	授業担当者
ピアノ基礎B		（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	上田亜津子・浦啓子・金淵洋子・清水京子・杉森のりこ・高牧恵里

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	1年次・後期	選択	保育士必修 幼稚園教諭選択

［授業の目的］

保育者、幼児教育者としてこどもの音楽表現活動を支援するにあたって大切な「音楽を楽しみ共有する心」を育み、そのために必要なピアノ演奏・弾き歌いの基礎を確実に修得し、歌唱や手遊びのための教材の弾き歌いの初歩技術を得る。

［授業全体の内容の概要］

授業全体でピアノ演奏及び伴奏についての基本的な事項を学ぶ。個人及びグループレッスンで連弾も含めてピアノ演奏に取り組み、各自のレベルに合わせた個々の目標を確実に達成させる。

［授業終了時の到達目標］

ピアノ演奏及び伴奏の基本的な知識と技術を獲得していること。自らのレベルに合わせた到達目標を設定し、その実現のための練習方法を理解していること。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．全体オリエンテーション　授業の進め方についての説明及び個人のレベルチェック
2．全体授業　楽器･演奏･練習法についての概論と各自のレベルに応じた短期･中期目標の設定
3．個人レッスン①（読譜の苦手部分克服）
4．個人レッスン②（技術の苦手部分克服）
5．個人レッスン③（練習方法を中心に）
6．グループレッスン①（各自の短期目標の達成度合いを発表し次の目標設定、伴奏について）
7．個人レッスン④（実技試験曲の読譜）
8．個人レッスン⑤（実技試験曲の運指等奏法の指導）
9．個人レッスン⑥（実技試験曲の困難な個所の解決法）
10．グループレッスン②（楽譜を見て試験曲を中間発表）
11．個人レッスン⑦（弾き歌いを含む実技試験曲の前半暗譜）
12．個人レッスン⑧（弾き歌いを含む実技試験曲の後半暗譜）
13．個人レッスン⑨（弾き歌いを含む実技試験曲の全曲暗譜）
14．個人レッスン⑩（弾き歌いを含む実技試験曲をより音楽的な表現で完成させる）
15．実技試験のためのリハーサル
実技試験

［準備学習］

①授業の前に、前回課された課題曲を十分練習してくること。
②演奏に必要な読譜を行い、楽語などの意味を調べてくること。
③授業の後に、レッスン内容の整理を行うこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
浦和大学編『ピアノを弾こう 1st Step』
『ピアノを弾こう 2nd Step』
和田葉子ほか共編『こどものうた140選』
参考文献：授業中に指示する

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験：60%　課題の進度：20%
受講態度：20%
毎回のレッスン内容を記録表に記載し、課題の達成度を受講生と確認する。
実技試験後に、受講時の取り組みと評価を含めた試験結果の振り返りを行う。

授業科目名	CMES311	授業の種類	授業担当者
ピアノ応用A		（ 講義・演習・(実習) ）	金井玲子・上田亜津子・浦啓子・金淵洋子・清水京子・杉森のりこ・高牧恵里

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	保育士選択 幼稚園教諭選択
15回	30時間・1単位	2,3,4年次・前期,後期	選択	

［授業の目的］

保育者、幼児教育者としてこどもの音楽表現活動を支援するにあたって必要なピアノ演奏及び伴奏の技術を向上させ、音楽的な解釈に基づいた表現を目指す。また歌唱や手遊びのための基礎的な教材を、確実に歌いながら伴奏できるようにする。

［授業全体の内容の概要］

授業全体でピアノ演奏及び伴奏についての応用的な事項を学ぶ。個人及びグループレッスンで初見・連弾も含めてピアノ演奏に取り組み、各自のレベルに合わせた個々の目標を確実に達成させる。受講には原則として、ピアノ基礎A及びピアノ基礎Bの履修が必要。

［授業終了時の到達目標］

保育者・幼児教育者としてのピアノ演奏の応用的な知識と技術を獲得していること。そのレベルに合わせた到達目標を設定し、実現のための練習方法を理解していること。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．全体オリエンテーション　授業の進め方についての説明及び個人のレベルチェック
2．全体授業　楽器･演奏･練習法についての概論と各自のレベルに応じた短期･中期目標の設定
3．個人レッスン①（読譜の苦手部分克服）
4．個人レッスン②（技術の苦手部分克服）
5．個人レッスン③（練習方法を中心に）
6．グループレッスン①（各自の短期目標の達成度合いを発表し次の目標設定、伴奏について）
7．個人レッスン④（実技試験曲の読譜）
8．個人レッスン⑤（実技試験曲の運指等奏法の指導）
9．個人レッスン⑥（実技試験曲の困難な個所の解決法）
10．グループレッスン②（楽譜を見て試験曲を中間発表）
11．個人レッスン⑦（弾き歌いを含む実技試験曲の前半暗譜）
12．個人レッスン⑧（弾き歌いを含む実技試験曲の後半暗譜）
13．個人レッスン⑨（弾き歌いを含む実技試験曲の全曲暗譜）
14．個人レッスン⑩（弾き歌いを含む実技試験曲をより音楽的な表現で完成させる）
15．実技試験のためのリハーサル
実技試験

［準備学習］

①授業の前に、前回課された課題曲を十分練習してくること。
②授業の後に、レッスン内容の整理を行うこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
浦和大学編『ピアノを弾こう 2nd Step』
和田葉子ほか共編『こどものうた140選』
参考文献：授業中に指示する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験：60%　課題の進度：20%
受講態度：20%
毎回のレッスン内容を記録表に記載し、課題の達成度を受講生と確認する。
実技試験後に、受講時の取り組みと評価を含めた試験結果の振り返りを行う。

授業科目名	CMES312	授業の種類	授業担当者
ピアノ応用Ｂ		（ 講義・演習・(実習) ）	金井玲子・上田亜津子・浦啓子・金淵洋子・清水京子・杉森のりこ・高牧恵里

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	保育士選択 幼稚園教諭選択
15回	30時間・１単位	2,3,4年次・前期,後期	選択	

［授業の目的］

保育者、幼児教育者としてこどもの音楽表現活動を支援するにあたって必要なピアノ演奏及び伴奏の技術を向上させ、音楽的な解釈に基づいた表現を実現する。また歌唱や手遊びのための様々な教材を、生き生きと歌いながら伴奏できるようにする。

［授業全体の内容の概要］

授業全体でピアノ演奏及び伴奏についての応用的な事項を学ぶ。個人及びグループレッスンで初見・連弾・簡単な伴奏付けも含めてピアノ演奏に取り組み、各自のレベルに合わせた個々の目標を確実に達成させる。受講には原則として、ピアノ基礎Ａ及びピアノ基礎Ｂの履修が必要。

［授業終了時の到達目標］

保育者・幼児教育者としてのピアノ演奏及び伴奏の応用的な知識と技術を獲得していること。そのレベルに合わせた到達目標を設定し、実現のための練習方法を理解していること。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．全体オリエンテーション　授業の進め方についての説明及び個人のレベルチェック
2．全体授業　楽器･演奏･練習法についての概論と各自のレベルに応じた短期･中期目標の設定
3．個人レッスン①（読譜の苦手部分克服）
4．個人レッスン②（技術の苦手部分克服）
5．個人レッスン③（練習方法を中心に）
6．グループレッスン①（各自の短期目標の達成度合いを発表し次の目標設定、伴奏について）
7．個人レッスン④（実技試験曲の読譜）
8．個人レッスン⑤（実技試験曲の運指等奏法の指導）
9．個人レッスン⑥（実技試験曲の困難な個所の解決法）
10．グループレッスン②（楽譜を見て試験曲を中間発表）
11．個人レッスン⑦（弾き歌いを含む実技試験曲の前半暗譜）
12．個人レッスン⑧（弾き歌いを含む実技試験曲の後半暗譜）
13．個人レッスン⑨（弾き歌いを含む実技試験曲の全曲暗譜）
14．個人レッスン⑩（弾き歌いを含む実技試験曲をより音楽的な表現で完成させる）
15．実技試験のためのリハーサル
実技試験

［準備学習］

①授業の前に、前回課された課題曲を十分練習してくること。
②授業の後に、レッスン内容の整理を行うこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
浦和大学編『ピアノを弾こう 2nd Step』
和田葉子ほか共編『こどものうた140選』
参考文献：授業中に指示する

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験：60%　課題の進度：20%
受講態度：20%
毎回のレッスン内容を記録表に記載し、課題の達成度を受講生と確認する。
実技試験後に、受講時の取り組みと評価を含めた試験結果の振り返りを行う。

授業科目名	CMES413	授業の種類	授業担当者
ピアノ実践A		（ 講義・演習・(実習) ）	金井玲子・上田亜津子・浦啓子・金淵洋子・清水京子・杉森のりこ・高牧恵里

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	保育士選択 幼稚園教諭選択
15回	30時間・1単位	2,3,4年次・前期,後期	選択	

［授業の目的］

保育者、幼児教育者としてこどもの音楽表現活動を支援するにあたって必要なピアノ演奏及び伴奏の技術を発展させ、音楽的な解釈に基づいた表現ができる楽曲レパートリーを増やす。また歌唱や手遊びのための難易度の高い教材を生き生きと歌いながら伴奏できることに加え、身体を使った音楽活動のためにテンポやリズムの自在な演奏表現を目指す。発表会を通して、人前での演奏に慣れる。

［授業全体の内容の概要］

授業全体でピアノ演奏及び伴奏についての発展的な事項を学ぶ。個人及びグループレッスンで初見・連弾・簡単な伴奏付けも含めてピアノ演奏に取り組み、各自のレベルに合わせた個々の目標を確実に達成させる。受講にはピアノ応用Aまたはピアノ応用Bの履修が必要であり、学習成果の発表会を行う。

［授業終了時の到達目標］

保育者・幼児教育者としてのピアノ演奏及び伴奏の発展的な知識と技術を獲得していること。そのレベルに合わせた到達目標を設定し、実現のための練習方法を理解していること。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．全体オリエンテーション　授業の進め方についての説明及び個人のレベルチェック
2．全体授業　楽器･演奏･練習法についての概論と各自のレベルに応じた短期･中期目標の設定
3．個人レッスン①（読譜の苦手部分克服）
4．個人レッスン②（技術の苦手部分克服）
5．個人レッスン③（練習方法を中心に）
6．グループレッスン①（各自の短期目標の達成度合いを発表し次の目標設定、伴奏について）
7．個人レッスン④（実技試験曲の読譜）
8．個人レッスン⑤（実技試験曲の運指等奏法の指導）
9．個人レッスン⑥（実技試験曲の困難な個所の解決法）
10．グループレッスン②（楽譜を見て試験曲を中間発表）
11．個人レッスン⑦（弾き歌いを含む実技試験曲の前半暗譜）
12．個人レッスン⑧（弾き歌いを含む実技試験曲の後半暗譜）
13．個人レッスン⑨（弾き歌いを含む実技試験曲の全曲暗譜）
14．個人レッスン⑩（弾き歌いを含む実技試験曲をより音楽的な表現で完成させる）
15．実技試験のためのリハーサル
実技試験

［準備学習］

①授業の前に、前回課された課題曲を十分練習してくること。
②授業の後に、レッスン内容の整理を行うこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
和田葉子ほか共編『こどものうた140選』
参考文献：
授業中に指示する

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験：60%　課題の進度：20%
受講態度：20%
毎回のレッスン内容を記録表に記載し、課題の達成度を受講生と確認する。
実技試験後に、受講時の取り組みと評価を含めた試験結果の振り返りを行う。

授業科目名	CMES414	授業の種類	授業担当者
ピアノ実践Ｂ		（ 講義・演習・(実習) ）	金井玲子・上田亜津子・浦啓子・金淵洋子・清水京子・杉森のりこ・高牧恵里

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	保育士選択 幼稚園教諭選択
15回	30時間・１単位	2,3,4年次・前期,後期	選択	

［授業の目的］

保育者、幼児教育者としてこどもの音楽表現活動を支援するにあたって必要なピアノ演奏及び伴奏の技術を発展させ、音楽的な解釈に基づいた表現ができる楽曲レパートリーを増やす。また歌唱や手遊びのための難易度の高い教材を生き生きと歌いながら伴奏できることに加え、身体を使った音楽活動のためにテンポやリズムの自在な演奏表現を実現する。発表会を通して、人前で普段通りの演奏ができるようにする。

［授業全体の内容の概要］

授業全体でピアノ演奏及び伴奏についての発展的な事項を学ぶ。個人及びグループレッスンで初見・連弾・簡単な伴奏付けも含めて、より難易度の高い楽曲のピアノ演奏に取り組み、各自のレベルに合わせた個々の目標を確実に達成させる。受講にはピアノ応用Ａまたはピアノ応用Ｂの履修が必要であり、学習成果の発表会を行う。

［授業終了時の到達目標］

保育者・幼児教育者としてのピアノ演奏及び伴奏の発展的な知識と技術を獲得していること。そのレベルに合わせた到達目標を設定し、実現のための練習方法を理解していること。大勢の聴者の前でも普段通りの演奏ができること。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．全体オリエンテーション　授業の進め方についての説明及び個人のレベルチェック
2．全体授業　楽器･演奏･練習法についての概論と各自のレベルに応じた短期･中期目標の設定
3．個人レッスン①（読譜の苦手部分克服）
4．個人レッスン②（技術の苦手部分克服）
5．個人レッスン③（練習方法を中心に）
6．グループレッスン①（各自の短期目標の達成度合いを発表し次の目標設定、伴奏について）
7．個人レッスン④（実技試験曲の読譜）
8．個人レッスン⑤（実技試験曲の運指等奏法の指導）
9．個人レッスン⑥（実技試験曲の困難な個所の解決法）
10．グループレッスン②（楽譜を見て試験曲を中間発表）
11．個人レッスン⑦（弾き歌いを含む実技試験曲の前半暗譜）
12．個人レッスン⑧（弾き歌いを含む実技試験曲の後半暗譜）
13．個人レッスン⑨（弾き歌いを含む実技試験曲の全曲暗譜）
14．個人レッスン⑩（弾き歌いを含む実技試験曲をより音楽的な表現で完成させる）
15．実技試験（発表会形式）のためのリハーサル
実技試験

［準備学習］

①授業の前に、前回課された課題曲を十分練習してくること。
②授業の後に、レッスン内容の整理を行うこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
和田葉子ほか共編『こどものうた140選』
参考文献：
授業中に指示する

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験：60%　課題の進度：20%
受講態度：20%
毎回のレッスン内容を記録表に記載し、課題の達成度を受講生と確認する。
実技試験後に、受講時の取り組みと評価を含めた試験結果の振り返りを行う。

授業科目名	CMES415	授業の種類	授業担当者
応用伴奏法		（ 講義・演習・実習 ）	金井　玲子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	4年次・前期	選択

［授業の目的］

ピアノやギターなどの楽器の演奏を通して、保育・児童教育の現場における音楽表現活動のための、また受講者自らの音楽表現活動のための高い応用能力を養うことを目的とする。

［授業全体の内容の概要］

「ピアノ応用Ａ」または「ピアノ応用Ｂ」終了と同等以上の者を受講対象とする。講義の前半は、コードネームによる伴奏付け、伴奏譜の編曲、与えられたメロディへの即興的な伴奏付けなどの課題を、簡易なものから高度なものへと順に行うことにより、楽器を用いた実践的な応用能力と表現能力を身に付ける。後半は各自が到達目標の設定を行い、個々の課題に取り組む。

［授業終了時の到達目標］

標準的な音楽における和音の構成と進行を理解し、簡易なメロディであれば即興的に器楽伴奏を付けられるようになること。ねらいに応じた伴奏を自身で編曲し演奏できるようになること。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション及び個々の能力レベルを知るためのアンケート
2．音階とその練習方法
3．和音とその練習方法①（長三和音、短三和音）
4．和音とその練習方法②（その他の和音）
5．初見視奏とその練習方法
6．コードネームによる伴奏付け
7．伴奏譜の編曲
8．即興伴奏
9．各自の課題設定
10．課題練習とレッスン①（音楽理論上の指導）
11．課題練習とレッスン②（演奏上の指導）
12．課題練習とレッスン③（総合的な指導）
13．課題練習とレッスン④（発展的な指導）
14．課題実演発表
15．まとめ、振り返り
実技試験

［準備学習］

①授業の前に前回のノートや配布資料を読み返してくること。②授業の前に与えられた実技課題を十分練習してくること。③授業の後にノートや配布資料を整理すること。④授業の後に与えられた実技課題の練習ポイントを整理すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
使用しない。適宜、プリントを配布する。
参考文献：
野村美樹子ほか共著
『はじめようピアノでコード弾き』他

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験：60%　課題の進度：20%
受講態度：20%
実技レッスン内容を記録表に記載し、課題の達成度を受講生と確認する。
実技試験後に、受講時の取り組みと評価を含めた試験結果の振り返りを行う。

授業科目名	CMES316	授業の種類	授業担当者
器楽・合奏		（ 講義・演習・実習 ）	梅本　由紀

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・1単位	2,3,4年次・前期,後期	選択	保育士選択

［授業の目的］

器楽を通して合奏を作りあげてゆくことを学ぶ。

こどもに関わる現場で必要とされることや想定されること（職員＝大人同士の合奏など）に対応できるような経験を通して知識を習得する。

［授業全体の内容の概要］

合奏に必要なことを体得するために、各自の技術を磨くことから始める。キーボードをはじめ、音楽室で用意できる楽器を使用して合奏の仕方を学んだり、互いに鑑賞することによって内容を発展できるようにする。

こちらが指定したグループごとに練習する課題も、個々に行う課題もある。履修前の読譜力や演奏力は問わないが、苦手な事を克服したり補い合うことをしながら積極的に参加することが求められる。

［授業終了時の到達目標］

個々の苦手な部分を少しでも克服すること。

音楽を通して「人に何かを伝えること」へのエネルギーを体感すること。

日常生活における様々な音・音楽への興味関心を持つこと。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション・指の体操・元の曲を知って弾いてみよう1
2．指の体操・元の曲を知って弾いてみよう2
3．音階を弾いてみよう1～同じ指使いで弾ける調たち・元の曲を知って弾いてみよう3
4．音階を弾いてみよう2～2の指から始まる調たち・元の曲を知って弾いてみよう4
5．楽譜の読み方、書き方、拍子について
6．リズム練習・手拍子の音楽1
7．打楽器体験1・手拍子の音楽2～打楽器で演奏してみた場合
8．打楽器体験2～音と音で会話してみよう1・図形楽譜
9．身近な物で音を出してみよう・音と音で会話してみよう2
10．物語を立体的に1～場面に合った音を探してみよう、テーマの音を作ってみよう
11．物語を立体的に2～音・音楽を入れて完成させよう
12．ドラム体験～ドラムの楽譜を見てみよう
13．グランドピアノを弾いてみよう
14．管楽器体験～ドの音はどの音？
15．さまざまな音楽

試験

上記のシラバスを基本とするが、履修者の状況により順序を入れ替えたり内容を変更することがある。

［準備学習］

五線の楽譜が読めることが望ましい。苦手な場合は自力で読めるよう努力すること。

1．授業前に手を温めておくこと。　2．1回目の授業で行った指の体操を復習しておくこと。　3．指の体操を復習し、親指が大きく動かせるようにしておくこと。　4．指の体操を復習し、各指が独立し動かせるようにしておくこと。　5．ト音記号、ヘ音記号の楽譜を少しでも読めるようにしておくこと。　6．授業後に、うまくできなかった箇所を練習しておくこと。　7．授業後に、学んだことや気付いたことを整理しておくこと。　8．日常の会話がどのように行われているのか観察しておくこと。　9．楽器としてどのようなものが使えるのか、具体例をまとめておくこと。　10．授業後に、感想をまとめておくこと。　11．授業後に、改善できることをまとめておくこと。　12．色々なジャンルの音楽を聞いておくこと。動きやすい服装で受講すること。　13．授業後に、復習しておくこと。
14．授業後に､資料を見て復習しておくこと。　15．授業後に､これまでの授業で体験したこと･学んだことをまとめ、復習しておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

（テキスト）必要に応じてプリントを配布する
（参考文献）汐巻公子著「大人の音楽ドリル　入門編」ヤマハミュージックメディア

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

グループごとに発表する課題についてはその場で講評し、各自で行う課題については個々に評価。
試験実施後（時間内）に解説を行う。
授業への取り組み：40%
試験：60%

こども専門科目

（実践に学ぶ）

授業科目名	CMPS201	授業の種類	授業担当者
保育実習指導ＩＡ		（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	五十嵐裕子・皆川順・内田徹・五味美奈子・丸谷充子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
10回	20時間・１単位	２年次・前期	選択	保育士必修

［授業の目的］

保育実習の意義・目的、保育実習ＩＡの内容を理解し、実習の計画を立てると共に自らの実習課題を明確にする。また、実習園における子どもの人権、最善の利益、プライバシーの保護、守秘義務の重要性を理解する。さらに、観察、実践、記録、評価の方法や内容を学び、実習後は、実習の総括と自己評価を行い、課題や学習の目標を明確にする。

［授業全体の内容の概要］

保育士資格取得を目指す学生として、保育実習の意義や目的を理解し、保育実習ＩＡに必要な基本的な知識・態度、専門的な知識・技術を学ぶ。具体的には、実習に必要な書類についての知識、専門的な立場からの講話や視覚教材を用いての演習、倫理綱領や保育所保育指針、記録、指導案についての学習、実技の演習、オリエンテーションや実習での指導の受け方などについて学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

初回の保育実習（保育所）の実習課題を明確にし、保育所での実習に必要な準備（保育者を目指す者の心構え、実習記録の書き方、部分実習に関する諸準備等）を整える。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．保育実習（保育所）の目的と内容、保育実習指導ＩＡの目的と授業計画について
2．保育所の一日の流れと保育士の仕事について
3．実習の方法、課題、実習生としての心構えについて
4．現場の保育士から学ぶ
5．オリエンテーションについて
6．実習記録について(1)
7．実習記録について(2)
8．部分実習と保育実技
9．実習直前の指導、巡回指導教員との顔合わせ
10．実習報告会

＊必要に応じて随時補講、個別指導を行う。また実習終了後には個別に評価面談を行う。

レポート

［準備学習］

①「保育実習（保育所）の手引き」の該当部分を読み、内容を理解し、疑問点などをまとめておく。②保育所保育指針を熟読し、既習の保育関連教科のテキスト等を復習しておく。③実習先について、インターネット等で調べる。④絵本、紙芝居、手あそび、エプロンシアターなどの練習をしておく。

［使用テキスト・参考文献］

浦和大学こども学部「保育実習（保育所）の手引き」
久富陽子「学び続ける保育者をめざす実習の本」
萌文書林
厚生労働省編「保育所保育指針解説書」
幼少年教育研究所「新版　遊びの指導　乳幼児編」
同文書院

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業態度：40％
レポートなどの課題の提出(期限・内容)：60％
原則として、特別な理由以外での欠席は認めない。
課題や書類の提出期限は遵守すること。

授業科目名	CMPS202	授業の種類	授業担当者
保育実習指導ＩＢ		（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	五十嵐裕子・皆川順・ 瓜巣由紀子・柴田崇浩・丸谷充子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
10回	20時間・１単位	２年次・後期	選択	保育士必修

［授業の目的］

保育所以外の児童福祉施設における実習の意義を理解し、利用児・者、施設への理解を図る。さらに、実習計画、記録、評価について理解するとともに、利用児・者の人権擁護や守秘義務について確認する。

［授業全体の内容の概要］

保育所以外の児童福祉施設（一部成人施設を含む）における実習の意義を理解し、実習施設の目的、利用児・者への理解、養護実践、生活支援・自立支援について学習し、自身の実習計画を立案する。また利用児・者の人権擁護や守秘義務への理解を図る。実習後は実習を総括し、今後の課題を明確にする。

［授業終了時の到達目標］

保育実習（福祉施設）の意義を理解し、実習課題を明確にする。保育所以外の児童福祉施設、社会福祉施設の目的と利用児・者への理解を深める。さらに、各自、実習計画を立案し、実習記録、評価について理解し、利用児・者への人権擁護と守秘義務について確認する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．保育実習ＩＢの目的と内容、保育実習指導ＩＢの目的と授業計画について
2．施設種別の理解①（障がい分野）
3．施設種別の理解②（養護分野）
4．実習課題を立てる
5．福祉施設の職員から学ぶ①（障がい分野）
6．福祉施設の職員から学ぶ②（養護分野）
7．オリエンテーションについて
8．実習記録について
9．実習直前の指導　巡回指導教員との顔合わせ
10．実習報告会

＊上記の他、前期７月には保育実習ＩＢの希望調査と、希望調査に先立ち「先輩の話を聞く」授業を実施する。また必要に応じて随時補講、個別指導を行う。実習終了後には個別に評価面談を行う。

レポート

［準備学習］

①「保育実習（福祉施設）の手引き」と実習指導のテキストの該当部分を読み、内容を理解し、疑問点などをまとめておき、既習の保育関連教科のテキスト等も復習しておく。②事前学習で課されるレポート等の課題に真剣に取り組み、期日までに提出する。③各自の実習施設についてインターネット等で調べるだけでなく、実習先と同種別の施設や利用児・者に関連する書籍を読む。④実習先や同種別の施設の行事等のボランティア活動にも積極的に参加し、利用児・者についての理解を深める。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
浦和大学こども学部「保育実習（福祉施設）の手引き」
久富陽子「学び続ける保育者をめざす実習の本」
萌文書林
阿部和子他編著「最新保育講座13．保育実習」
ミネルヴァ書房

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業態度：40％
レポートなどの課題の提出（期限・内容）：60％
原則として、特別な理由以外での欠席は認めない。
課題や書類の提出期限は遵守すること。

授業科目名	CMPS203	授業の種類	授業担当者
保育実習ＩA(保育所)		（ 講義・演習・(実習) ）	五十嵐・皆川・内田・五味・丸谷・船木・亘理・金井・瓜巣・柴田・鶴ヶ谷・宮﨑

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
集中	90時間・2単位	2年次・前期	選択	保育士必修

[授業の目的]

児童福祉施設としての保育所の生活の流れや全体像、養護的な役割や機能、家庭や地域との連携を理解する。さらに、乳幼児とのふれ合いを通して乳幼児について理解し、発達の概略を学び、保育所保育士の役割や職務内容についても実践的に学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

保育士資格取得のために、見学実習、参加実習に加え、部分実習を含めた12日間の保育所実習を行う。実習を通じて保育の場に参加しながら、保育所の役割や機能について学び、乳幼児についての理解を深める。実習中の子どもとのふれ合いを通して、乳幼児の発達の実際について理解する。保育所の生活と保育士の役割、実習記録の書き方についても学習し、保育士としての基本的な態度を学ぶ。

[授業終了時の到達目標]

観察実習、参加実習、部分実習を通して、児童福祉施設としての保育所の役割と機能、家庭や地域との連携、乳幼児への理解や発達、保育士の役割や職務内容について理解する。

既習の保育関連教科の内容を理解して実習に取り組み、保育所の全体像と保育について理解し、今後の学習課題を明確にする。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．保育所での見学実習のオリエンテーション：見学実習の目的と概要
2．保育所での見学実習と見学実習報告書の提出
3．保育所実習のオリエンテーション：保育実習ＩＡ（保育所）の目的と概要
4．保育所実習
5．保育所実習
6．保育所実習
7．保育所実習（担当教員が実習園を訪問し学生の指導を行う）
8．保育所実習
9．保育所実習（部分実習について､実習園の実習担当保育者より指導案等の指導を受ける）
10．保育所実習
11．保育所実習
12．保育所実習
13．保育所実習（実習園において部分実習を行う）
14．保育所実習
15．保育所実習（実習園における保育実習の反省会において、指導していただく）
レポート

[準備学習]

その日の実習についてふり返り日々の記録を作成するとともに、次の日の実習のねらいを明確にする。次の日に配属されるクラスの子どもの発達について保育所保育指針等で確認しておく。部分実習の準備を行う。

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：
浦和大学こども学部「保育実習（保育所）の手引き」
参考文献：
厚生労働省編「保育所保育指針解説書」

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

（試験やレポートの評価基準など）

実習記録	50%
実習評価票	40%
取組の姿勢など	10%

授業科目名	CMPS204	授業の種類	授業担当者
保育実習ＩB(福祉施設)		（ 講義・演習・(実習) ）	五十嵐・皆川・瓜巣・柴田・丸谷・船木・亘理・金井・内田・五味・鶴ヶ谷・宮﨑

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
集中	90時間・2単位	2年次・後期	選択	保育士必修

[授業の目的]

①保育所以外の児童福祉施設の役割や機能を具体的に理解する。②観察やかかわりを通して利用児・者への理解を図る。③児童福祉施設で展開されている保育、養護及び保護者への支援について学ぶ。④保育、養護の計画、観察、記録、自己評価等について理解を図る。⑤児童福祉施設で働く保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

原則として12日間、90時間以上の実習を行う。実習中は施設の実習担当職員の指導、また大学の巡回指導教員の指導を受ける。また日々の実習内容を記録して翌朝提出し、指導を受ける。

[授業終了時の到達目標]

観察、参加、部分実習を通して、保育所以外の児童福祉施設、社会福祉施設の社会的役割と機能を知り、施設を利用する人たちへの理解を深める。施設における養護内容と方法を知り、保育士の役割を実践的に学び、他職種の職員間の役割とチームワークについても理解する。既習の関連教科の内容を理解して実習に取り組み、施設での支援の全体像と社会的養護や保育・療育について理解し、今後の学習課題を明確にする。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．施設実習のオリエンテーション：保育実習ＩB（福祉施設）の目的と概要
2．施設実習
3．施設実習
4．施設実習
5．施設実習
6．施設実習
7．施設実習（担当教員が実習施設を訪問し学生の指導を行う）
8．施設実習（実習施設における施設実習の中間反省会において、指導していただく）
9．施設実習
10．施設実習
11．施設実習
12．施設実習
13．施設実習
14．施設実習
15．施設実習（実習施設における施設実習の全体反省会において、指導していただく）
レポート

[準備学習]

その日の実習についてふり返り日々の記録を作成するとともに、次の日の実習のねらいを明確にする。次の日に配属される生活寮やグループの利用児・者について施設でいただいた資料やテキスト、関連書籍などで確認し、利用児・者に相応しい関わり、部分実習等について準備をしておく。

[使用テキスト・参考文献]

テキスト：
浦和大学こども学部「保育実習（福祉施設）の手引き」
阿部和子他編著「最新保育講座13．保育実習」
ミネルヴァ書房

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

（試験やレポートの評価基準など）

実習記録	50%
実習評価票	40%
取組の姿勢など	10%

授業科目名	CMPS305	授業の種類	授業担当者
保育実習指導Ⅱ		（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	丸谷充子・五十嵐裕子・宮﨑静香

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
10回	20時間・1単位	3年次・後期	選択	保育士選択

［授業の目的］

「保育実習Ⅱ」は、「保育実習ＩＡ」及び「保育実習ＩＢ」を履修した学生が、さらに保育所保育について学習するための科目である。「保育実習指導Ⅱ」では、「保育実習Ⅱ」の事前事後指導を行う。「保育実習Ⅱ」の意義と目的を理解し、自分の実習課題をもって実習に臨めるよう指導する。子どもの発達段階に適した部分実習の内容や環境構成について理解し、教材研究を行い、部分・責任実習の指導計画を作成する。保育所と家庭や地域との連携、保護者支援や子育て支援についても理解を深める。実習後は、実習の総括と自己評価を行い、今後の各自の課題を明確にする。

［授業全体の内容の概要］

「保育実習Ⅱ」のための事前・事後指導を行う。事前指導では、「保育実習Ⅱ」の目的と意義を理解する。「保育実習ＩＡ」では、保育所実習を行うにあたっての心構えや保育への参加の仕方についての基本を学習しており、「保育実習Ⅱ」では、「保育実習ＩＡ」をふり返って明らかになった自己課題について再学習し、さらに深く学ぶよう促す。実習記録においては、日々の実習のねらいと合致したエピソード記録と考察の書き方を学習する。また、子どもの発達段階に相応しい部分実習、責任実習の内容、環境構成、進め方、指導計画の立案について学習する。さらに、保育所と家庭や地域との連携、保護者支援や子育て支援などの保育所の社会的な役割についても事前に理解する。事後指導では、各自が実習をふり返り、実習の総括と自己評価を行い、今後の各自の課題を明確にする。

［授業終了時の到達目標］

２回目の保育実習（保育所）の実習課題を明確にし、保育所での実習に必要な準備（保育者を目指す者の心構え、実習記録の書き方、責任実習に関する諸準備等）を整える。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．「保育実習Ⅱ」の目的と概要、実習指導の進め方と日程・「保育実習ＩＡ」のふり返り
2．実習課題と実習生カードの記入
3．保育所保育指針の解説・守秘義務と実習記録の取り扱い
4．部分実習の内容と教材研究、環境構成、進め方と指導計画の立案
5．グループ学習―模擬保育―
6．責任実習の指導計画の立案―３歳未満児―
7．責任実習の指導計画の立案―３，４，５歳児―
8．実習記録の書き方―日々の実習のねらいとエピソード記録・考察との関連性―
9．直前指導―オリエンテーションを経ての指導―
10．「保育実習Ⅱ」のまとめ、実習のふり返りと報告会（グループディスカッション）、評価票面談

［準備学習］

毎回の授業で、次回の学習内容を示すので、「保育実習（保育所）の手引き」、保育所保育指針、テキスト等の該当部分をよく読み、内容を理解し、疑問点などをまとめておく。次回までに各自が行う課題について説明するので、課題を完成させて持参する。

［使用テキスト・参考文献］

浦和大学こども学部「保育実習（保育所）の手引き」
厚生労働省編「保育所保育指針解説書」
フレーベル館　2008
財団法人幼少年教育研究所編著　新版「遊びの指導　乳幼児編」同文書院2014

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業態度：40％
レポートなどの課題の提出（期限・内容）：60％

授業科目名	CMPS306	授業の種類	授業担当者
保育実習Ⅱ（保育所）		（ 講義・演習・(実習) ）	丸谷・五十嵐・宮﨑・船木・皆川・亘理・金井・内田・瓜巣・五味・柴田・鶴ヶ谷

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
集中	90時間・2単位	3年次・後期	選択	保育士選択

［授業の目的］

「保育実習Ⅱ」では、以下の４点について学ぶことを目的とする。①１週間ないしは２週間同じクラスで実習することにより、遊びや生活の中で、発達や個に応じた乳幼児理解とその援助方法を学ぶ。②集団の中での一人ひとりの乳幼児へのかかわりやクラス運営などにおけるきめ細かい保育士の役割を学ぶ。③実際に指導計画を立てて乳幼児とかかわる中で、教材研究や環境構成のあり方、計画と実践の関係について学ぶ。④保育所と家庭や地域との連携、子育て支援などの保育所の社会的な役割について学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

「保育実習Ⅱ」は、保育士資格のための選択必修科目である。「保育実習ＩＡ」（保育所での実習）及び「保育実習ＩＢ」（保育所以外の福祉施設での実習）を履修した者が履修し、保育所で12日間の実習を行う。「保育実習ＩＡ」の学習内容をもとにして、責任実習の指導計画の立案や実施等を含む、さらにステップアップした保育実習である。

［授業終了時の到達目標］

参加実習、部分実習、責任実習を通して、乳幼児の発達、集団保育やクラス運営における保育士の役割、集団の中での個に応じたかかわりや援助方法について理解する。部分実習や責任実習を通して、教材研究や環境構成のあり方、指導計画を立てることと実践との関係等について理解する。既習の保育関連教科の内容を理解して実習に取り組み、保育所保育を総合的に理解し、今後の学習課題を明確にする。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．保育所実習のオリエンテーション：保育実習Ⅱ（保育所）の目的と概要
2．保育所実習
3．保育所実習
4．保育所実習
5．保育所実習
6．保育所実習
7．保育所実習（授業担当者が実習園を訪問し学生の指導を行う）
8．保育所実習（責任実習について､実習園の実習担当保育者より指導案等の指導を受ける）
9．保育所実習
10．保育所実習
11．保育所実習
12．保育所実習（実習園において責任実習を行う）
13．保育所実習
14．保育所実習
15．保育所実習（実習園における保育実習の反省会において、指導していただく）

［準備学習］

その日の実習についてふり返り、次の日の実習のねらいを明確にし、そのねらいにそって保育所保育指針等の関連書籍等を読む。

次の日に配属されるクラスの子どもの発達について保育所保育指針等で確認し、発達段階等に相応しい部分実習や責任実習の準備をしておく。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
浦和大学こども学部「保育実習（保育所）の手引き」
厚生労働省編「保育所保育指針解説書」
フレーベル館　2008

参考文献：
「最新保育資料集2014」ミネルヴァ書房　2014
その他の参考文献については、授業で適宜説明する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）

実習記録	50%
実習評価票	40%
取組の姿勢など	10%

授業科目名	CMPS307	授業の種類	授業担当者
保育実習指導Ⅲ		（ 講義 ・(演習)・ 実習 ）	瓜巣由紀子・皆川順・柴田崇浩

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
10回	20時間・1単位	3年次・後期	選択	保育士選択

［授業の目的］

社会福祉施設の実習を通じて、利用児・者とのかかわりを深め、施設の機能と課題について十分に理解するとともに、福祉施設における保育士の役割、他職種との連携、チームワークについて学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

保育実習ＩＡ、ＩＢの修了者が選択する12日間の社会福祉施設実習である。居住型または通所型の施設における養護的側面、個々の利用者理解と支援、施設における職員の職務、チームワークの重要性などについて体験を通じて理解を深める。保育実習の総括的な実習となることから、３回の実習をふり返って学び得たことを実習報告書として執筆し、学生自身の実習全体への省察と今後の学習課題を明らかにする。

［授業終了時の到達目標］

保育実習Ⅲ〈福祉施設〉を効果的に行うための準備を整えるとともに、実習後は保育実習全体の成果をまとめることを通じ、実習からの学びについて報告書を作成する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業オリエンテーション、施設実習配属調査アンケート
2．配属面談
3．実習目標と実習課題
4．実習施設の理解
5．利用児・者、職員とのコミュニケーション
6．実習記録の書き方
7．実習での学びと評価の観点
8．実習中の諸注意と必要な事務手続き
9．実習報告会
10．実習評価票面談、報告書執筆指導

［準備学習］

指導教員の指示に従って実習に臨むために必要な準備を計画的に進める。実習後は指導教員の個別指導を受けて報告書を作成し、保育実習全体のふり返りを行う。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
浦和大学こども学部『保育実習の手引き』

参考文献：
『最新保育講座13　保育実習』（ミネルヴァ書房）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業態度：40％
レポートなどの課題の提出（期限・内容）：60％

授業科目名	CMPS308	授業の種類	授業担当者
保育実習Ⅲ（福祉施設）		（ 講義・演習・(実習) ）	瓜巣・皆川・柴田・船木・亘理・金井・五十嵐・内田・五味・鶴ヶ谷・丸谷・宮﨑

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
集中	90時間・2単位	3年次・後期	選択	保育士選択

［授業の目的］

社会福祉施設の実習を通じて、利用児・者とのかかわりを深め、施設の機能と課題について十分に理解するとともに、福祉施設における保育士の役割、他職種との連携、チームワークについて学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

保育実習ＩＡ、ＩＢの修了者が選択する12日間の社会福祉施設実習である。居住型または通所型の施設における養護的側面、個々の利用者理解と支援、施設における職員の職務、チームワークの重要性などについて体験を通じて理解を深める。

［授業終了時の到達目標］

社会福祉施設における２週間の実習を通じて、福祉施設の役割ならびに施設における保育士の業務の意義と特色を理解し、実践することができる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．施設実習
2．施設実習
3．施設実習
4．施設実習
5．施設実習
6．施設実習
7．施設実習（実習指導教員の巡回指導）
8．施設実習（実習施設における中間反省会）
9．施設実習
10．施設実習
11．施設実習
12．施設実習
13．施設実習
14．施設実習
15．施設実習

［準備学習］

毎日、記録を作成してその日の実習をふり返り、翌日の目標を定めて計画的な実習を行う。
実習施設の指導者からの指導を受けることによって、より広い視野からの学習を深められるようにする。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
浦和大学こども学部『保育実習の手引き』

参考文献：
『最新保育講座13　保育実習』（ミネルヴァ書房）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）

実習記録	50%
実習評価票	40%
取組の姿勢など	10%

授業科目名	CMPS409	授業の種類	授業担当者
幼稚園教育実習指導		（ 講義・演習・(実習) ）	五味美奈子・亘理史子・内田徹・宮﨑静香

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	45時間・1単位	3,4年次・開講日指定	選択	幼稚園教諭必修

［授業の目的］

幼稚園教育実習に向けての事前指導を通して、幼稚園の機能と役割、実習の基本的な知識、技術を習得する。

幼稚園教育実習後には自らの実習を振り返ることで自分の課題を明らかにするとともに、幼稚園教育の意味・方法を再認識する。

［授業全体の内容の概要］

教育実習前には、幼稚園の機能と役割、実習の目的、実習のテーマ、観察や記録の仕方、実習日誌の書き方、部分・責任実習の進め方など、実習の基本的な知識、技術を習得する。実習後は、実習体験の報告と検討、レポートの作成等を行い、実習で学んだことの意味を改めて問い直し自分の課題を明らかにするとともに、幼稚園教育の意味、方法について再認識する。

［授業終了時の到達目標］

・実習前には、幼稚園の機能・役割・実習の目的を知り、実習の基本的な知識や技術を身に付ける。
・実習後は、実習で学んだことを振り返り、自分の解決すべき課題を明確にできる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．幼稚園教育実習Ⅰ及びⅡの概要・意義・目的
2．幼稚園教育実習Ⅰの目標と課題
3．幼稚園教育実習Ⅰの内容と進め方
4．特別講義
5．直前指導並びに守秘義務と実習記録の取り扱い
6．幼稚園教育実習Ⅰの振り返りとまとめ
7．幼稚園教育実習Ⅱの課題と目標
8．幼稚園教育実習Ⅱの内容と進め方
9．幼稚園教育実習準備 1
10．幼稚園教育実習準備 2
11．指導案準備 1
12．指導案準備 2
13．幼稚園教育実習Ⅱの直前指導
14．幼稚園教育実習Ⅱの振り返りとまとめ
15．幼稚園教育実習Ⅰ及びⅡの振り返りとまとめ　報告書作成

［準備学習］

①幼稚園教育要領を復習しておく。　②手遊び、ペープサートなど教材作成ノートを作り各自事前に準備しておく。　③自分の実習する園についての方針・特徴について調べておく。　④ピアノの課題について、途中で止まらずに弾き歌いができるようにしておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
評価の視点
授業及び課題への取り組み：30%
保育実践への取り組み（ピアノ等）：20%
指導案、提出物、レポート等：50%

授業科目名	CMPS410	授業の種類	授業担当者
幼稚園教育実習Ⅰ（基礎）		（ 講義・演習・(実習) ）	五味・亘理・内田・宮﨑・船木・皆川・金井・五十嵐・瓜巣・柴田・鶴ヶ谷・丸谷

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
集中	80時間・2単位	3年次・後期	選択	幼稚園教諭必修

[授業の目的]

幼稚園教諭に求められる基礎的な技能を実際の現場で学び、学内授業で身につけた理論的予習の成果と結びつけながら理解を深める。

[授業全体の内容の概要]

観察実習、参加実習を中心に、幼稚園という教育機関の具体的な環境、幼稚園教諭の仕事の実際、具体的な子どもの姿について学ぶ。また、実習指導担当教諭のもとで部分実習を行い幼児理解に基づく指導・援助の方法についても学ぶ。

[授業終了時の到達目標]

・観察実習、参加実習を通して、幼稚園教諭として必要な知識・技能を理解する。
・幼稚園教育実習Ⅱへの課題をみつけることができる。
・授業で学んだことと、実践を結びつけることができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

年少から年長までの各発達段階における幼児教育のあり方について幼稚園において学ぶ2週間の現場実習である。

事前訪問による学習、見学・観察実習、参加実習、部分実習、放課後における実習指導並びに学級や園の運営に関する学習並びに、基礎的な技能を実際の現場で学ぶ。

[準備学習]

・実習園について調べる。
・課題で出されたピアノ、手遊び、ペープサートなどができるようにしておく。
・幼稚園と保育園の違いについて調べる。

[使用テキスト・参考文献]

『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

（試験やレポートの評価基準など）

実習記録	50%
実習評価票	40%
取組の姿勢など	10%

授業科目名	CMPS411	授業の種類	授業担当者
幼稚園教育実習Ⅱ（応用）		（ 講義・演習・(実習) ）	五味・亘理・内田・宮﨑・船木・皆川・金井・五十嵐・瓜巣・柴田・鶴ヶ谷・丸谷

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
集中	80時間・2単位	4年次・前期	選択	幼稚園教諭必修

［授業の目的］

幼稚園教育実習Ⅰ（基礎）をふまえて、指導案を立案して責任実習を行うことにより、幼稚園での実践的な能力をより高める。

［授業全体の内容の概要］

幼稚園教育実習Ⅰ（基礎）から得た各自の実習課題をもとに実習に臨む。参加実習を経た後に、実習指導担当教諭のもとで指導案を立案し部分・責任実習を行う。それらを通して子どもたちの園生活の実態、環境構成、保育者の援助、指導などについての理解をさらに深め、保育者になるにあたっての各自の課題を自覚する。

［授業終了時の到達目標］

1．部分・責任実習を自信を持って行い、やり方を身につける。
2．実習を通して、園生活の実態や保育者の援助について知り、自分の課題を見つける。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

幼稚園教育実習Ⅰでの学習をふまえ、年少から年長までの各発達段階における幼児教育のあり方について学び、部分実習を中心として実施し、総まとめとして責任実習を行う2週間の現場実習である。

事前訪問による学習、見学・観察実習、参加実習、部分実習、責任実習、放課後における実習指導並びに学級や園の運営に関する学習を行う。

［準備学習］

・ピアノ、手遊び、ペープサートができるようにしておく。（各自、数を増やしておく）
・園のオリエンテーションに基づき、園の教育方針等について、事前に調べておく。

［使用テキスト・参考文献］

『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）

実習記録	50%
実習評価票	40%
取組の姿勢など	10%

授業科目名	CMPS412	授業の種類	授業担当者
保育・教職実践演習（幼稚園）		（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	橋本由美子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	
15回	30時間・2単位	4年次・後期	選択	保育士必修 幼稚園教諭必修

［授業の目的］

大学4年間で学んだ幼稚園教諭としての知識と、幼稚園教育実習や保育実習で得た指導力・幼児理解力等実践力との統合を図り、幼稚園教諭や保育士としての資質を身に付けることを目的とする。また、子どもや保護者への理解、学級経営、教育的環境構成、年間を通しての子どもの動きなどを、事例研究、グループディスカッション、指導案検討、模擬保育、ロールプレイ等を通して身に付ける。

［授業全体の内容の概要］

子どもとのコミュニケーション、信頼関係、遊びや環境の構成、学級経営、特別支援、障害のある子どもへの配慮や個への援助、教科や発達の連続性を考えた幼稚園と小学校との連携など、幼稚園教諭としての実践に必要な資質を身に付けるために事例研究、グループディスカッション、指導案検討、模擬保育、ロールプレイ等を行う。

［授業終了時の到達目標］

1．大学で学んだ知識と実習で身に付けた指導力、理解力など、幼稚園教諭としての資質を身に付ける。
2．幼児教育への意欲を持つ。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画（前期3回　後期12回）

1．オリエンテーション（授業目的、概要、評価について）、保育・幼稚園実習振り返り(1)
2．保育・幼稚園実習振り返り(2)（遊びを通しての総合的な指導に必要な力）
3．新入園児に対して（年間保育・教育課程計画）
4．子ども理解（コミュニケーションの基礎知識とスキルアップ）
5．保護者理解（信頼関係づくり、モンスターペアレントへの対応）
6．特別支援教育（個への援助、個のカリキュラムと学級のカリキュラム、障害への理解）
7．環境づくり（学内子育て支援広場「ぽっけ」や幼稚園の環境づくり）
8．行事を通して育つもの（個の育ち、集団の育ち）
9．好きな遊び場面の援助(1)（運動遊び、音楽遊び、製作遊びなど）
10．好きな遊び場面の援助(2)（劇ごっこの実際、グループ活動）
11．遊びを通して育つもの（子どもの育ちを保護者へ伝える、連絡帳、学級だより、園だより）
12．表現の指導・援助(1)（音楽、言葉、数量、形などに関する感性）指導案作成
13．表現の指導・援助(2)（音楽、言葉、数量、形などに関する感性）模擬保育
14．小学校との連携（小1プロブレム、発達の連続性）
15．幼児教育に携わる者としての指導力と使命（グループディスカッション）

試験・レポート等

［準備学習］

○事前に次回のテーマの文献・ニュースを調べ、教育要領の関連箇所を予習しておく。
○実習後、自分の課題となる点をまとめておく。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
現実と向きあう教育学
　教師という仕事を考える25章

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業態度・感想文毎時間提出（20%）
試験・レポート・発表（80%）

こども専門科目

（卒業研究）

授業科目名	CMTH301	授業の種類	授業担当者
卒業研究Ⅰ		（ 講義 ・演習・ 実習 ）	岩本裕子・高野実貴雄・亘理史子・金井玲子・五十嵐裕子・内田徹・丸谷充子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
30回	60時間・2単位	3年次・通年	必修

［授業の目的］

2年間の学内外における学びをもとに、3年次、4年次においては、個々の学生が関心のあるテーマに取組み、4年間の学修成果をまとめていくための幅広い学習を行う。4年次に成果物として論文や作品を仕上げ、「卒業研究」として提出することをめざし、3年次には、文献やデータ収集、事例研究、教材研究などを行い、どのようにして各自の望む成果を達成していくのかについて、担当教員の指導を受けつつ自主的に学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

2年次終了時に学生の希望をもとに授業担当教員（所属ゼミ）を決定し、原則として2年間を通じて同一教員による指導を受ける。卒業研究Ⅰにおいては、各自の課題発見と研究の意義と方法について焦点化することを目的として、調査報告、討論などの演習と、分析、考察の深め方、研究方法に関する指導を中心に行う。

［授業終了時の到達目標］

研究及び作品作成のための適切な課題設定を行い、目的に応じた方法を理解し、活動計画を立てることができる。卒業研究成果物提出の形式に従って小規模なレポートや作品を完成できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業オリエンテーション
2．課題の立て方と研究の進め方
3．研究課題設定のための学習①
4．研究課題設定のための学習②
5．学生による発表とディスカッション①
6．研究課題設定のための学習③
7．研究課題設定のための学習④
8．学生による発表とディスカッション②
9．研究課題設定のための学習⑤
10．研究課題設定のための学習⑥
11．学生による発表とディスカッション③
12．研究計画の立て方①
13．研究計画の立て方②
14．研究方法指導①
15．研究方法指導②
レポート提出

16．後期の進め方
17．研究計画発表とディスカッション①
18．研究計画発表とディスカッション②
19．研究課題に関する指導①
20．研究課題に関する指導②
21．研究計画及び研究方法
22．個別指導①
23．個別指導②
24．個別指導③
25．経過発表とディスカッション③
26．経過発表とディスカッション④
27．総括レポート作成指導①
28．総括レポート作成指導②
29．総括レポート作成指導③
30．卒研発表会（4年生の発表聴講）
レポート提出

［準備学習］

各教員の指導にしたがって、文献やデータ収集、調査、レポートの作成等、論文作成や作品制作を行うための準備として示される課題を、授業時間外に準備学習として行う。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：教員により指示される。
参考文献：教員により指示される。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

レポート：60%
受講態度、発表への取組姿勢と成果：40%

授業科目名	CMTH402	授業の種類	授業担当者
卒業研究Ⅱ		（ 講義 ・演習・ 実習 ）	岩本裕子・高野実貴雄・船木美佳・出口雅生・瓜巣由紀子・五味美奈子・柴田崇浩・宮﨑静香

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
30回	60時間・2単位	4年次・通年	必修

［授業の目的］

4年間の学内外における学びの総まとめとして、個々の学生が関心のある課題を発見し、3年次の「卒業研究Ⅰ」における研究計画や研究方法に基づいて、さらに研究を発展させ成果物を完成させる。自らが課題を発見し、それを解決するための総合的能力を高める自主的な学習態度を養う。

［授業全体の内容の概要］

2年次終了時に学生の希望をもとに授業担当者（所属ゼミ）を決定し、原則として2年間を通じて同一教員による指導を受ける。卒業研究・作品を仕上げていくための個別指導と相互発表を中心に授業を行う。

［授業終了時の到達目標］

卒業論文・作品の作成と発表を通じて、研究、及びその発表に必要な知識や技術を習得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業オリエンテーション
2．論文・作品指導演習〈個別指導①〉
3．論文・作品指導演習〈個別指導②〉
4．論文・作品指導演習〈個別指導③〉
5．研究成果中間発表①
6．論文・作品指導演習〈個別指導④〉
7．論文・作品指導演習〈個別指導⑤〉
8．論文・作品指導演習〈個別指導⑥〉
9．研究成果中間発表②
10．論文・作品指導演習〈個別指導⑦〉
11．論文・作品指導演習〈個別指導⑧〉
12．論文・作品指導演習〈個別指導⑨〉
13．研究成果中間発表③
14．研究計画の修正
15．夏休み中の進め方
レポート提出
16．研究成果中間発表④
17．論文・作品指導演習〈個別指導⑩〉
18．論文・作品指導演習〈個別指導⑪〉
19．論文・作品指導演習〈個別指導⑫〉
20．論文・作品指導演習〈個別指導⑬〉
21．論文・作品指導演習〈個別指導⑭〉
22．研究成果中間発表⑤
23．論文・作品指導演習〈個別指導⑮〉
24．論文・作品指導演習〈個別指導⑯〉
25．論文・作品指導演習〈個別指導⑰〉
26．論文・作品指導演習〈個別指導⑱〉
27．論文・作品指導演習〈個別指導⑲〉
28．ゼミ内研究発表会
29．卒業研究発表会準備
30．卒業研究発表会
卒業研究の提出

［準備学習］

各教員の指導にしたがって、文献やデータ収集、調査、レポートの作成等、論文作成や作品制作を行うための準備として示される課題と、成果物の完成に向けた作業を、授業時間外に行う。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：教員により指示される。
参考文献：教員により指示される。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

卒業研究提出物：60%
受講態度、発表への取組姿勢と成果：40%

教育専門科目
（児童・生徒の理解）

授業科目名	EMSU301	授業の種類	授業担当者
近代市民社会と学校		（講義・演習・実習）	山口　和孝

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	3年次・前期	選択

［授業の目的］

産業革命以降、こどもたちの教育思想がどのように生まれ、変遷し、それに伴った近代公教育が成立していく教育思想を概観し、近代市民社会が「社会の役割」として学校教育を展開・確立してきた制度の流れを理解する。

［授業全体の内容の概要］

産業革命以降における近代公教育の成立とその背景にある思想の概要を提示し、現在の公立学校教育成立の原理の変質が多様な学びが拡大している現状も紹介する。

［授業終了時の到達目標］

こどもの教育思想と学校教育の在り方が、歴史的に変遷してきたことを理解し、現代の学校教育における寛容と共生の課題が要請される背景を知る。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業の流れと受講についてシラバスを確認。
2．産業革命前の子どもの教育観
3．工場法の成立と子どもの教育観の転換
4．教育の私事性と例外としての公教育
5．慈善事業としての教育から社会による学校へ
6．学校教育をめぐる教育思想の相克
7．近代公教育思想の成立
8．近代公教育制度の原理とは-私事性から公共性へ
9．国家の教育管理へ-帝国主義段階の国民教育
10．近代市民社会における学校の機能
11．人間教育と公民教育の二重構造
12．国民教育を担う学校教師の組織的養成
13．画一的教育と官僚による教育の支配
14．新自由主義による教育観の転換-選択の自由と私事性の拡大-
15．教育改革の背景
中間レポートと期末レポート

［準備学習］

世界史の知識を必要とする。高校の世界史の教科書（特に、フランス革命後）を学習しなおしておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：特に指定しないが、授業の展開に応じて適宜資料を配布する。

参考文献：J.S.ミル『自由論』（岩波文庫）、J.デューイ『学校と社会』（岩波文庫）、J.ルソー『エミール』（岩波文庫）、堀尾輝久『現代教育の思想と構造』（岩波書店）、デュルケイム『道徳教育論』（明治図書）、M.フリードマン『選択の自由』（講談社文庫）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

中間レポート（50%）と期末レポート（50%）の総合評価による。参考文献を参照しながら、出題される課題について、他者の見解と自らの見解を区別しながら論理的な記述がなされているかどうかを総合的に判断する。60点以上合格。

中間レポートの評価について、授業中に解説する。

授業科目名	EMSU302	授業の種類	授業担当者
教員養成の歴史		（講義・演習・実習）	内田　徹

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	3年次・後期	選択

［授業の目的］

本授業は、教員として今日的かつ地域的な学校教育の課題に適切に対応できる実践的指導力を獲得するために、日本や世界の教育制度改革等にみられる教員養成の成果と課題の検討を通して、教員として求められる力量や期待される役割等について学ぶことを目的とする。

［授業全体の内容の概要］

本授業は、受講者各自が教員に必要な力量や使命感に自覚的になると同時に、「学び続ける教員像」の実現に必要な歴史的思考力の獲得のために、主に、教育制度改革等にみられる教員養成の課題意識に着目し、同時代に求められた教員の力量や期待された役割等を検討する。

［授業終了時の到達目標］

教員養成の成果と課題を教員養成の歴史と世界の教員養成制度改革の動向から説明できる。

教員養成の成果と課題を学ぶ中で、自らが目指す教員像や使命感に自覚的になると同時に、それを実現するために必要な知識と技能を獲得するための PDCA サイクルを設定できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業の概要の説明―教員養成や教員に関する時事に関するアンケート
2．日本における教員像の展開
3．戦後日本の教員養成の二大原則
4．師範学校における初等教育教員養成の制度と実態
5．戦前日本の初等教育教員養成に果たした小学校教員検定の役割
6．高等師範学校・臨時教員養成所における中等教育教員養成の制度と実態
7．戦前日本の中等教育教員養成に果たした師範学校中学校高等女学校教員検定の役割
8．実業教員養成所における実業教育教員養成の制度と実態
9・戦前日本の実業教育教員養成に果たした実業学校教員検定の役割
10. 戦前日本の教員養成の特徴
11. 戦後日本の教員養成論の再検討
12. 戦後日本の教員養成教育の教育課程
13. 世界の教員養成制度改革の動向
14. 日本の教員養成制度改革の動向
15. 今日における教員養成の成果と課題
定期試験

［準備学習］

配布資料をもとに、初等・中等・実業教育機関の学校数や生徒数、在学者の特徴や卒業後の動向等について分析し、特徴を明らかにする。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：中央教育審議会「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」、等。適宜、資料等を配布する。

参考文献：船寄俊雄編『教員養成・教師論』日本図書センター、等。適宜、紹介する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

授業ごとの課題（40%）、定期試験（60%）。

総合して60点以上合格。

授業科目名	EMSU203	授業の種類	授業担当者
学校教育の現代的課題		（講義・演習・実習）	稲葉　喜徳

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・前期	選択

［授業の目的］

現在のわが国の学校がどのような状況にあるか実例を通して把握し、現代社会における学校教育の重要性と教師の果たすべき役割を検討する。

［授業全体の内容の概要］

①「学校」・「子ども」・「教師」の三つのキーワードから現在の学校教育の実情を理解し、②戦後の教育の流れを概観してその特徴を把握し、③これからの教育の方向性を考える。

［授業終了時の到達目標］

学校教育の今日的課題を理解するとともに、学校と教師が担う役割の重要性を認識する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．ガイダンス「子どもとことば」
2．「学校・子ども・教師」の現在　①学校
3．「学校・子ども・教師」の現在　②子ども
4．「学校・子ども・教師」の現在　③教師
5．「学校・子ども・教師」の現在　④課題を考える
6．「はつらつ先生」を訪ねる　①T校長の実践
7．「はつらつ先生」を訪ねる　②「旅立ちの日に」の誕生
8．「はつらつ先生」を訪ねる　③ポケットいっぱいの宝物
9．戦後史の中の教育　①プレ高度成長期
10．戦後史の中の教育　②高度経済成長期
11．戦後史の中の教育　③ポスト高度成長期
12．戦後史の中の教育　④教育改革の動向
13．国際比較の中の日本の教育（特にドイツと比べて）
14．「教育の重要性」と「教師の責務」
15．まとめ

試験・レポート

［準備学習］

各授業時に資料を配布するので、それを基にノートを作成すること。

［使用テキスト・参考文献］

参考文献：
『私たちの教育紀行』（花伝社）
『ポケットいっぱいの宝物』（世界通信）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

期末試験　50%
レポート　30%
受講態度　20%

授業科目名	EMSU304	授業の種類	授業担当者
臨床心理学		（講義・演習・実習）	菅野　陽子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	3年次・後期	選択

［授業の目的］

臨床心理学がどのような学問で、具体的にこころのさまざまな問題をどのように解決へと導くかを理解する。

［授業全体の内容の概要］

臨床心理学とは狭義には社会福祉への貢献を目的とし、障害の診断治療、予防に関する心理学の理論の集積と臨床的な実践が含まれ、心理学的臨床活動のための基礎心理学の１つである。

我が国も国際社会同様、急激な社会構造の変化にあって、どの年齢層においてもさまざまなこころの問題が発生している。

本講義では、そのようなこころの問題や悩みを持つ人びとに対して、どのように問題を解決し、より健全に成長するように援助するのか、特に子どもや青年に特有な問題の研究方法や理論について中心に説明する。

［授業終了時の到達目標］

こころの問題を抱えた人々への理解を深め、臨床心理学の基礎を習得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション（臨床心理学とは何か）
2．臨床心理学の成り立ち（歴史～世界＆日本）
3．臨床心理学の活動（実践活動、研究活動＆専門活動）
4．臨床心理学の基本理念(アプローチ､モデル､エンパワメント､コラボレーション)
5．アセスメント（アセスメントの基礎、技法、データの分析技法）
6．ひとの発達とこころの問題⑴発達臨床心理学の基礎
7．ひとの発達とこころの問題⑵各発達段階の特徴
8．ひとの発達とこころの問題⑶発達段階で生じる問題
9．精神障がいと臨床心理学⑴異常心理学の基礎
10．精神障がいと臨床心理学⑵精神障がいの分類
11．問題への介入⑴介入のための理論
12．問題への介入⑵個人＆集団・社会への介入技法
13．コミュニティへの介入（教育領域、地域＆医療領域でのコミュニティ活動）
14．臨床心理学の研究活動（基礎と技法）
15．社会と臨床心理学（臨床心理士の資格と仕事）＆まとめ
期末試験

［準備学習］

①次回の授業の範囲についてテキストを読んでくること
②わからない用語などは事前に調べておくこと
③課題提出シートが配布されたら、次回に持参し提出すること

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：「臨床心理学」下山晴彦【監修】西東社
参考文献：
「臨床心理学の世界」菅佐和子他【著】有斐閣、
「徹底図解　臨床心理学」青木紀久代【監修】
新星出版社

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

・授業態度、課題達成度　30％
・期末試験　70％
①提出シートはコメントをつけて返却します。
②授業で行う質問紙への結果は、データを示し、全体の講評などを用紙でプリントして配布します。
③小テストは返却します。

授業科目名	EMSU205	授業の種類	授業担当者
家族の心理学		（講義・演習・実習）	菅野　陽子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2,3,4年次・前期,後期	選択

［授業の目的］

親子・同胞などの家族関係、結婚や離婚に関する心理―社会的な事象、家族の形成・発達・崩壊などの家族プロセスを学び、今日のわが国の家族問題について受講生が主体的に学ぶことを目的とする。

［授業全体の内容の概要］

まず、「家族とは何か」を考える。次に家族の起源、進化・発達というものを歴史や異文化社会から見渡す。

そして、恋愛と配偶者の選択、結婚生活と夫婦関係、親子の関係といった家族の諸相を日本のみならず諸外国のデータと比較しながら、わが国の家族問題を学ぶ。最後に受講生各自の家族に対する価値観や幸福感の再考を促す。教員が独自で用意した資料からの講義を中心とする。また、ファシリテーションやディベート式ロールプレイを用いるなど、参加型の体験学習を多く取り入れていく。

［授業終了時の到達目標］

わが国の家族問題について、広い視野から検討し考察する方法を見つけること。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．オリエンテーション（家族心理学で学ぶこと）
2．家族とは？（「家族」とは誰か、家族の定義、家族の機能）
3．歴史と異文化・社会にみる家族
4．人間家族の進化（社会変動と家族、社会変化と個人の発達）
5．結婚の態度と行動（結婚についての意見、結婚の実態、晩婚化の要因）
6．恋愛と配偶者選択（結婚の形態、配偶者選択のプロセス）
7．結婚生活と夫婦関係（夫婦関係のコミュニケーション、「非法律関係」、離婚）
8．親子の関係(1)（1．ヒトの発達の特殊性―親子関係や子育ての文化）
9．親子の関係(2)（親の発達―育児・こどもをめぐる葛藤）
10．親子の関係(3)（父親と母親―心理学における父親不在と父親発見）
11．親子の関係(4)（親にとってのこども、こどもの価値）
12．家族関係と闘病(1)（HIV 感染患者と家族、そしてその背景システム）
13．家族関係と闘病(2)（ガンの末期患者に対する心理的サポートやホスピス）
14．家族とは？　家族に対する価値観や幸福感の再考
15．まとめ（授業の振り返り）
試験

［準備学習］

次の講義内容にそってテキストを事前に読んでくる。キーワードを調べるなど課題を出す。また、授業の後にその回のふり返りシートを提出する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：「よくわかる家族心理学」
柏木惠子著　ミネルバ書房
参考文献：「家族の心理」
平木典子・中釜洋子共著　サイエンス社
適宜、資料を配布
その他、映像（DVD）、マンガ、新聞記事など

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

（試験やレポートの評価基準など）
授業態度、提出物：30％
試験：70％
①授業のふり返りシートを提出させ、コメントをつけて返却します。
②小テストを行い、返却します。

授業科目名	EMSU306	授業の種類	授業担当者
グループダイナミクス		（ 講義・(演習)・実習 ）	雨宮　有里

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・1単位	3年次・後期	選択

[授業の目的]

社会心理学的なものの見方を学び、その知識を日常で使えるようにすることを目的とする。

[授業全体の内容の概要]

本講義ではグループダイナミクスのうち、うわさ・インターネットと心理学・プロパガンダを扱う。このように書くと難しいイメージがあるかもしれないが、これらの内容はとても身近なものである。例えば、デマはどのようにして広まっていくのだろうか？（流言）。「流行」はどのようにしてつくられるのだろうか？（プロパガンダ）。この講義はそうした日常生活の「不思議」について、実験や調査を踏まえた知見を提供する。それと同時に、実際の生活にどのように応用すればいいのかを学ぶことを目的とする。

[授業終了時の到達目標]

講義を通じてグループダイナミクスに関する知識の獲得と日常生活への応用を目的とする。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1．グループダイナミクスとか何か
2．流言(1)：3．11のデマはどのように広まったのか？（社会情報としてのうわさ）
3．流言(2)：流言を広めやすい人・状況はどのようなものか
4．流言(3)：流言で伝わりやすい内容･プロセスを体験してみよう！(グループワーク)
5．ゴシップ(1)：ゴシップの構造（おしゃべりとしてのうわさ）
6．ゴシップ(2)：人はなぜゴシップが好きなのか？（ゴシップの機能）
7．都市伝説(1)：都市伝説にはどのようなものがあるのか？(楽しみとしてのうわさ)
8．都市伝説(2)：都市伝説と企業、うわさを打ち消すにはどうしたらいいのか？
9．インターネットと心理学(1)：インターネットの使用は心理的健康を損ねる？
10．インターネットと心理学(2)：インターネットと自己開示
11．インターネットと心理学(3)：インターネットと自己呈示
12．プロパガンダ(1)：広告・宣伝のからくりを見抜く、CMはなぜ効果があるのか？
13．プロパガンダ(2)：流行はどのようにして作られるのか？
14．プロパガンダ(3)：恐怖アピール､｢同じ出身地｣の人と親しくなりやすいのはなぜ？
15．ふり返りとまとめ
レポート

[準備学習]

一つのテーマが終わるごとに「復習問題」や「次回のテーマのポイント」を提示する。その内容について、復習・予習することで講義への理解を深める。

[使用テキスト・参考文献]

テキストは特に定めず、毎回、資料を配布する。なお、講義で配布する資料は重要なところは穴埋め式になっている。休んだ分は友人に聞くなどして資料を完成させる。

（参考文献）
グラフィック社会心理学
池上　知子（著）、遠藤　由美　サイエンス社

[成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック]

（試験やレポートの評価基準など）
レポート　90%
講義内課題　10%

授業科目名	EMSU207	授業の種類	授業担当者
特別支援教育入門		（講義・演習・実習）	岩橋　翔

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭選択
15回	30時間・2単位	1年次・後期	選択	

［授業のテーマ及び到達目標］

特別な支援ニーズを必要とする子ども達の障害別の理解をはかり、発達障害をもつ人の困難さを体験する疑似体験やグループワークを通して、発達障害の特性と基本的な対応ならびに学校における合理的配慮について理解する。

［授業の概要］

特別支援教育が必要な子どもの状況とその支援の仕方について基礎的な事柄を障害別に紹介する。また、通常学級に6.5%在籍するとされる発達障害をもつ児童、生徒への教育を鑑み、通常学級の担任として最低限理解しておくべき支援・配慮などについて基礎的な知識を紹介する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

授業計画

第1回：授業の概要と進め方のガイダンス
第2回：障害の理解⑴：ADHDを知る
第3回：障害の理解⑵：LDを知る
第4回：障害の理解⑶：ASDを知る
第5回：障害の理解⑷：知的障害とダウン症を知る
第6回：障害の理解⑸：視覚障害、聴覚障害、肢体不自由を知る
第7回：障害の理解⑹：言語障害、病虚弱、情緒障害を知る
第8回：障害の理解⑺：障害に関する世界と日本の動向を知る
第9回：DVD「発達障害の子どもたち～“自立”をめざして～」視聴（レポート提出）
第10回：特別支援教育の歴史とシステム
第11回：通常学級の特別支援教育⑴：ASD
第12回：通常学級の特別支援教育⑵：ADHD、LD
第13回：通常学級の特別支援教育⑶：ユニバーサルデザイン、学校における合理的配慮、ICTの活用
第14回：コンサルテーションの技法と実例⑴：保育・幼稚園の子どもと親を対象に
第15回：コンサルテーションの技法と実例⑵：小学校・中学校の子どもと親を対象に
定期試験

［準備学習］

授業前に前回の配布資料やメモなどを読み返すこと。
授業後に資料等を整理すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：特になし。適宜資料を配布。
参考文献：国立特別支援教育総合研究所『特別支援教育の基礎・基本（新訂版）』ジアース教育新社
玉村・清水・黒田・向井編『キーワードブック特別支援教育』クリエイツかもがわ

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験：60%、レポート等提出物：20%、
グループワーク等参加度：20%。
合計して60点以上を合格とする。

教育専門科目
（教育の実践と応用）

授業科目名	EMPA301	授業の種類	授業担当者
スクールソーシャルワーク		（講義・演習・実習）	角田　友二

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
15回	30時間・2単位	2年次・後期	選択

［授業の目的］

現在の「学校」という場にまつわる言葉を連想すると、いじめ、不登校、学級崩壊、モンスターペアレント、貧困、発達障害などなど多くのことが思い浮かび、それが特別なことでなくどこの学校にでもある。学校とそこで働く教職員は疲弊して、教職員の療養休暇も増加してきている中で、外部の専門家としてスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどが導入され、不登校対策のための居場所を作ったりして、文部科学省は「チーム学校」という方策をもって対処しようとしている。学校現場が「チーム学校」の流れの中で、近い将来の学校教育を担う皆さんが、ゆとりをもって職業人として成長していけるように、スクールソーシャルワークのことを理解して、連携して「ほどよくチーム学校」が機能していくためのひとりとなることを目指します。

［授業全体の内容の概要］

テキストによる理解と、さらに関係する法律・制度・資源の理解と思考する展開をしていきます。

［授業終了時の到達目標］

テキストにある事例のアセスメントシート、支援計画シートなどの作成の基本にふれて、「ケース会議」に参加できるだけのコミュニケーション力を将来にわたり身につけていくことを目指します。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．第1章　なぜスクールソーシャルワーカーが必要なのか　13～26＊テキストページ
2．第2章　学校経営者としてスクールソーシャルワーカーに期待すること　27～38
3．第3章　アメリカでの取り組みとスクールカウンセラーとの連携　39～54
4．第4章　特別支援教育でのスクールソーシャルワーカーの役割　55～69
5．第5章　事例別スクールソーシャルワークの実践方法　事例①、②　70～77
6．第5章　事例別スクールソーシャルワークの実践方法　事例③、④　77～83
7．第5章　事例別スクールソーシャルワークの実践方法　事例⑤、⑥　83～89
8．第5章　事例別スクールソーシャルワークの実践方法　事例⑦、⑧　89～94
9．第5章　事例別スクールソーシャルワークの実践方法　事例⑨、⑩　94～100
10．第5章　事例別スクールソーシャルワークの実践方法　事例⑪、⑫　100～105
11．第5章　3）12事例から見る社会的対応の課題　4）学校の精神保健上の課題　110～124
12．第5章　5）児童期・思春期の精神保健上の問題　6）家庭の精神保健上の問題　125～146
13．第5章　7）スクールソーシャルワークの実践方法　7）全体のまとめ　154～158
14．第6章　学校の精神保健でのナラティブアプローチの提案　161～178
15．関係法律・諸制度・資源についての整理・理解　まとめ
期末試験

＊⑤～⑩回までの事例の学びの際は進行に合わせて、事例を一つだけ取り上げることもあります。

［準備学習］

①授業前に当日の該当部分を読んでくること。②授業中に配布された文献資料などを整理してファイリングすること。③授業に関係する報道資料などに積極的に目を通し、学びを深めること。④授業担当者ならびに学生自身の経験などの発言については守秘義務を徹底すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：『スクールソーシャルワークの実践方法』石川瞭子　編著　青弓社

参考文献：『社会福祉小六法』他、関係する資料は適宜配布し、紹介します。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

・授業時間ごとの小テスト　30%
・期末試験　70%

授業科目名	EMPA402	授業の種類	授業担当者
学校経営と学校図書館		（講義・演習・実習）	杉山　悦子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭選択
15回	30時間・2単位	3年次・前期	選択	

［授業のテーマ及び到達目標］

学校図書館の教育的意義や経営等、全般的事項について理解することを目標とする。

［授業の概要］

学校図書館の理念および位置づけを知り、人的体制や施設・メディアの環境整備等に関する基本的事項の理解、および学校経営の観点から学校図書館の課題を解決する力を育成する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第１回：現代の教育課題と学校図書館の教育的意義
第２回：学校図書館に関する法制度
第３回：教育行政における学校図書館の施策
第４回：歴史にみる学校図書館の理念
第５回：学校空間における図書館施設の機能性とその課題
第６回：学校図書館の経営計画および運営の評価
第７回：学校の教育計画と図書館活用：学校経営における司書教諭の役割と研修
第８回：特別なニーズにたいする学校図書館の支援機能
第９回：学校図書館メディアの収集と選択：資料の種類と特性
第10回：学校図書館メディアの提供と管理：図書館の機能と役割
第11回：学校図書館の研修および司書教諭・学校司書・ボランティアとの連携
第12回：学校図書館における諸活動とその広報
第13回：学校図書館と各機関とのネットワーク：図書館の相互協力
第14回：知識基盤型社会および高度情報社会における学校図書館の展開
第15回：学校図書館の課題と未来
定期試験

［準備学習］

授業中に指定した参考書や資料を、授業後に２時間程度読むこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：図書館教育研究会編『新学校図書館通論　三訂版』学芸図書
参考文献：塩見昇編『学校教育と学校図書館』教育史料出版会、黒沢浩編著『学校図書館入門：子どもと本と教育をつなぐ』草土文化、野口武悟編著『一人ひとりの読書を支える学校図書館：特別支援教育から見えてくるニーズとサポート』読書工房

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験70%、課題・レビューシートの提出30%。授業内の発表等も含め総合的に評価する。総合して60点以上を合格とする。

授業科目名	EMPA403	授業の種類	授業担当者
学校図書館メディアの構成		（講義・演習・実習）	磯部　延之

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭選択
15回	30時間・2単位	3年次・後期	選択	

［授業のテーマ及び到達目標］

学校図書館を整備充実させ運営していくために、学校図書館設置の目的、資料収集の方針、資料選択の基準、整備運営の方法を理解し、実務に生かしていく力を身に付けさせる。

［授業の概要］

教育課程を支える学校図書館のメディアの構成について講義を行うとともに、学校教育における具体的な場面を提示しながら対応策を思考・検討させていく。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第１回：学校図書館メディアとは何か
第２回：「学校図書館法」の変遷と学校図書館設置の目的
第３回：学習指導要領・教育要領が求めるもの
第４回：資料収集の方針と資料選択の基準
第５回：学校図書館メディアとメディア基準　①図書資料
第６回：学校図書館メディアとメディア基準　②絵本に関する扱い
第７回：学校図書館メディアとメディア基準　③ファイル資料、パンフレット類
第８回：学校図書館メディアとメディア基準　④紙芝居、簡易映像資料
第９回：学校図書館メディアとメディア基準　⑤視聴覚資料
第10回：学校図書館メディアとメディア基準　⑥電子媒体
第11回：調査に見られる学校図書館の現状
第12回：学校図書館資料の受入と廃棄
第13回：図書資料の出版の現状と流通の状況
第14回：望ましい学校図書館の施設・設備と学校図書館資料
第15回：学校図書館の活性化を目指した図書館メディア提供の工夫
定期試験　学校図書館の役割と現状、運営の工夫

［準備学習］

・授業の前にテキストの該当部分を読んでくること。
・授業の前に前回のノートや配布資料を読み返してくること。
・授業の後にノートや配布資料を整理すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
全国学校図書館協議会監修『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携　理論と実践』悠光堂
参考文献：『小学校学習指導要領』

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

学校図書館と学校図書館メディアに関する理解が深まり、業務に積極的に取り組む意欲と能力が身についたかをレポート（50%）、定期試験（50%）によって評価する。合わせて60点以上を合格。

授業科目名	EMPA404	授業の種類	授業担当者
学習指導と学校図書館		（講義・演習・実習）	杉山　悦子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭選択
15回	30時間・2単位	4年次・前期	選択	

［授業のテーマ及び到達目標］

学習指導における学校図書館メディアの活用について理解する。

［授業の概要］

教育課程の展開に寄与する学校図書館メディアの活用を知り、発達段階および学習過程における学校図書館メディア・情報サービスの選択、および学習支援・教師への支援の実際を学ぶ。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第１回：教育課程と学校図書館：教育における図書館の意義
第２回：学習指導における学校図書館の活用
第３回：学校図書館の活用力育成と発達段階に応じたメディアの選択
第４回：ことばの教育と学校図書館
第５回：学習過程における学校図書館の支援：社会事象と課題の探究
第６回：学校図書館による科学的探究と数学的思考の経験
第７回：表現・芸術・創造活動と学校図書館
第８回：生活と学校図書館：健康・技術・特別教科における探究活動
第９回：総合的学習と学校図書館：国際・文化・持続可能な社会への理解
第10回：学校図書館による教師への支援：教材研究とチームティーチング
第11回：多様な学校図書館メディアによる情報リテラシー力の育成
第12回：情報サービスとレファレンスサービス：情報へのアクセスとその提供
第13回：探究型学習から論理的表現への展開
第14回：学習過程における図書館教育と学校図書館メディア活用の実際
第15回：学校図書館における学習指導の課題
定期試験

［準備学習］

授業の後、関連する文献や資料を２時間程度調べること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：図書館教育研究会編『新学校図書館通論　三訂版』学芸図書
参考文献：『教育を変える学校図書館』塩見昇、風間書房、『子どもと本をつなぐ：学校図書館の可能性』高橋元夫、片岡則夫、岩波書店、『学校図書館発、育てます！調べる力・考える力』遊佐幸枝、少年写真新聞社、『「なんでも学べる学校図書館」をつくる：ブックカタログ＆データ集：中学生1,300人の探究学習から』片岡則夫編著、少年写真新聞社

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

試験70%、課題・レビューシートの提出30%。授業内の発表等も含め総合的に評価する。総合して60点以上合格。

授業科目名	EMPA405	授業の種類	授業担当者
読書と豊かな人間性		（講義・演習・実習）	眞有　澄香

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭選択
15回	30時間・2単位	3年次・前期	選択	

［授業のテーマ及び到達目標］

学校図書館における読書指導の原理と方法を理解することで、子どもの読書の意義について、自分の考えを持つことができる。また、司書教諭の役割や読書教育について認識する。どのような学校図書館活動が有効かを考え、具体的な発達段階に合わせた読書指導の方法を習得する。

［授業の概要］

子どもの「活字離れ」「本離れ」が深刻化する現代、子どもの読書は社会の大きな関心事となってきている。また、子どもの読書活動の推進は、最も重要な文教政策の一つとなっている。こうした現状の中で、学校図書館、司書教諭は、どのように子どもの読書活動と関わり、それを推進していくべきか。子どもに読書を薦める意義を再確認し、読書教育の方法や指導体制、読書環境の整備などについて考察を進めていく。さらに、子どもの読書材についての知識を深め、自らも読書と豊かな人間性についての理解を深める。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第1回：読書指導と読書教育
第2回：子どもの読書の歴史と子どもの読書実態
第3回：学校教育法と学校図書館法
第4回：子どもの発達段階とそれぞれの読書・読書材
第5回：読書指導の実際―子どもにとっての読書とは―
第6回：読書指導の方法―読み聞かせ―
第7回：読書指導の方法―ブックトーク―
第8回：読書指導の方法―朝の読書―
第9回：読書活動の展開―読書のアニマシオン―
第10回：読書の集団的指導と個別的指導
第11回：読書体験から表現へ
第12回：生涯学習へと誘う読書教育
第13回：読書活動の推進と司書教諭の役割
第14回：家庭・地域・公共図書館との連携
第15回：総括及び課題レポート提出

［準備学習］

授業にはテキストを精読して臨むこと。また、最終講義日に、赤木かん子『今こそ読みたい児童文学100』（ちくまプリマー新書）の中から3作品を選び、読書感想文を提出してもらう。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：「シリーズ学校図書館学」編集委員会編『読書と豊かな人間性』(シリーズ学校図書館学第4巻)
参考文献：脇明子『読む力は生きる力』、赤木かん子『今こそ読みたい児童文学100』（ちくまプリマー新書）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

読書感想文の課題レポート（70%）、平常の学習や発表及び提出物（30%）で総合評価する。総合して60点以上を合格とする。

授業科目名	EMPA406	授業の種類	授業担当者
情報メディアの活用		（講義・演習・実習）	磯部　延之

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭選択
15回	30時間・2単位	4年次・後期	選択	

［授業のテーマ及び到達目標］

教育課程を支える学校図書館のさまざまな情報メディアについて理解するとともに、その効果的な活用法を身に付け、実務に活かす力をつける。

［授業の概要］

学校図書館における情報メディアの種類と内容について講義を行うとともに、それぞれの特色や効果的な活用法について具体的な場面を想定しながら提示し、思考・検討させていく。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第１回：学校図書館における情報メディアの概観
第２回：情報メディアの組織化を図るための分類（日本十進分類法）に関する理解
第３回：情報メディアと学習指導要領・教育要領との関連
第４回：国語科における教科書を基盤とした学習指導計画と情報メディア
第５回：社会科における教科書を基盤とした学習指導計画と情報メディア
第６回：その他の教科の学習指導計画と情報メディア
第７回：情報メディアを活用する学び方指導の体系　①情報メディアと教科学習
第８回：情報メディアを活用する学び方指導の体系　②学習に役立つメディアの使い方
第９回：情報メディアを活用する学び方指導の体系　③情報の活用の仕方
第10回：情報メディアを活用する学び方指導の体系　④学習結果のまとめ方
第11回：読書センターとしての学校図書館の生かし方
第12回：学習センターとしての学校図書館の生かし方
第13回：情報センターとしての学校図書館の生かし方
第14回：教材センターとして、またその他の機能に関する学校図書館の生かし方
第15回：学習成果の蓄積と活用
定期試験　学校図書館の機能とそれを生かす方策

［準備学習］

・授業の前にテキストの該当部分を読んでくること。
・授業の前に前回のノートや配布資料を読み返してくること。
・授業の後にノートや配布資料を整理すること。
・簡単なレポートを提出すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：全国学校図書館協議会監修『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携　理論と実践』悠光堂
参考文献：『小学校学習指導要領』

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

学校図書館の情報メディアに関する理解が深まり、業務に積極的に取り組む意欲と能力が身についたかを小テストとレポート（合わせて60%）、定期試験（40%）によって評価する。60点以上合格。

授業科目名	EMPA307	授業の種類	授業担当者
外国語活動指導法		（講義・演習・実習）	髙橋　まり

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭選択
15回	30時間・2単位	4年次・前期	選択	

［授業のテーマ及び到達目標］

この授業では、小学校低学年から高学年にわたる児童英語教育の基礎を学んでいきます。好奇心旺盛な児童に英語を教える者として、まずは教師自身が「楽しい」という気持ちを持って子どもに接するように心掛けましょう。児童英語の授業で必要となるクラスルームイングリッシュを学び、実践的に英語を使い練習します。グループでの話し合いを通して指導についての改善方法も探っていきます。授業では、児童の知的発達に合わせ、児童の思考力を養う指導方法も学び、実際に指導方法を実践するために模擬授業を行い実践的な力を養います。

［授業の概要］

公立小学校における「外国語活動」では、学級担任が主たる指導者となることが多いため、学級担任の英語発音が児童のインプットモデルとなります。そのため、英語の母音・子音の調音音声学的な特徴を理解させ、フォニックスの指導法などを適宜取り入れ、発音指導を行います。テキストは、「外国語活動」の教科書である『Hi, Friends』とクラスルーム・イングリッシュや身近な英語表現を扱った『Bright and Early』の2種類を用い、挨拶・自己紹介などの基本的事柄から、ゲーム・活動の指示を全て英語で導入する実践力を身に付けます。また、『Hi, Friends』の単元の指導展開を考え、模擬授業を行います。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第1回：授業概要／レディネスニーズ調査
第2回：チャンツを活用した音声教育
第3回：フォニックスの実践
第4回：絵カードの作成方法と効果的な見せ方
第5回：ゲーム活動①（教科書を活用）
第6回：ゲーム活動②（絵カードを活用）／指導案作成
第7回：練習模擬授業への準備
第8回：練習模擬授業の発表
第9回：練習模擬授業の振り返りとフィードバック
第10回：ALTとの会話練習とティームティーチング
第11回：絵本の読み聞かせ（Shared Reading）
第12回：模擬授業①（初日グループ）
第13回：模擬授業②（2日目グループ）
第14回：模擬授業③（3日目グループ）
第15回：復習とまとめ
定期試験

［準備学習］

小テストやレポートの課題に取り組んでください。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
・Junko Matsuzaki Carreira 著『Bright and Early』（南雲堂　2009年）
・文部科学省『Hi, friends！1（児童用）』（東京書籍　2012年）
・文部科学省『Hi, friends！1（指導編）』（東京書籍　2012年）
参考文献：特になし

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験（60%）
模擬授業・授業態度・小テスト（40%）。
総合して60点以上を合格とします。

授業科目名	EMPA108	授業の種類	授業担当者
教育インターンシップA		（ 講義・演習・(実習) ）	鶴ヶ谷柊子・内田　徹

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭必修
集中	30時間・1単位	1年次・通年	必修	

［授業のテーマ及び到達目標］

近隣の小学校に継続的に出向き、そこで働く人たちや子どもたちの諸活動に参加し、小学校教育を成り立たせている制度、施設、運営、教育方針などを体験的に学ぶほか、先生たちや子どもたちとの円滑なコミュニケーションが図れる体験を行い、小学校教師をめざすために必要な実践的な基礎知識を身につける。

［授業の概要］

授業における理論学習と現場体験を結ぶ「往還的学習」の最初の現場体験場所について、調べ、現場体験で獲得すべき課題について認識できるような基礎知識を学び、受講生自らが企画を立て、指定された時間のインターンシップを実施する。また、インターンシップの事前・事後指導も行う。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第1回：教育インターンシップ受講に際してのガイダンス
第2回：インターンシップ先についての情報収集・学習
第3回：インターンシップ計画の立案
第4回：インターンシップ実施上の諸注意・留意事項
第5回：インターンシップ実施
第6回：インターンシップ実施
第7回：インターンシップ実施
第8回：インターンシップ実施
第9回：インターンシップ実施
第10回：インターンシップ実施
第11回：インターンシップ実施
第12回：インターンシップ実施
第13回：インターンシップ実施
第14回：インターンシップ実施

受入れ小学校が指示する補助的活動に従事する。10日間、30時間以上のインターンシップ

第15回：ふりかえり

［準備学習］

事前指導の資料を十分に学習しておくこと。実施にあたって、次回の補助作業の見通しをたてること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
事前指導の際に、インターンシップ履修の実施要項などを配布。
参考文献：
特に指定しない。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

指定された時間数をクリアしていること。教員インターンシップ先の評価と、「ふりかえり」発表の内容を総合して評価する。60点以上合格。

授業科目名	EMPA209	授業の種類	授業担当者
教育インターンシップB		（ 講義・演習・(実習) ）	山口和孝・菅野陽子・高野実貴雄・出口雅生・眞有澄香・矢部一夫・伊深祥子・内田徹・鶴ヶ谷柊子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭選択
集中	30時間・1単位	2年次・通年	選択	

［授業のテーマ及び到達目標］

「教育インターンシップA」における教育現場体験を基礎として、さまざまな教育機関や学習支援活動に参加し、1年次で学習した教科に関する科目や教職に関する科目の意味を体験的に確認する。また、2年次でのそれらの理論学習の必要性を実感できるようにする。

［授業の概要］

授業における理論学習と現場体験を結ぶ「往還的学習」を継続するために、受講者自らが体験先を選択し、現場体験で獲得すべき課題について認識できるような基礎知識を学ぶ。受講生自らが企画を立て、指定された時間のインターンシップを実施する。また、インターンシップの事前・事後指導も行う。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第1回：教育インターンシップ受講に際してのガイダンス

第2回：インターンシップ先についての情報収集・学習

第3回：インターンシップ計画の立案

第4回：インターンシップ実施上の諸注意・留意事項

第5回：インターンシップ実施

第6回：インターンシップ実施

第7回：インターンシップ実施

第8回：インターンシップ実施

第9回：インターンシップ実施

第10回：インターンシップ実施

第11回：インターンシップ実施

第12回：インターンシップ実施

第13回：インターンシップ実施

第14回：インターンシップ実施

受入れ先の指示に従って補助的活動に従事する。
10日間、30時間以上の教育インターンシップ

第15回：ふりかえり

［準備学習］

事前学習の資料を十分に学習しておくこと。実施にあたっては、次回の補助作業の内容の見通しを立てること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
事前指導の際に、インターンシップ履修の実施要項などを配布。
参考文献：
特に指定しない。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

指定された時間数をクリアしていること。教員インターンシップ先の評価と、「ふりかえり」発表の内容を総合して評価する。60点以上合格。

授業科目名	EMPA310	授業の種類	授業担当者
教育インターンシップC		（ 講義・演習・(実習) ）	山口和孝・菅野陽子・高野実貴雄・出口雅生・眞有澄香・矢部一夫・伊深祥子・内田徹・鶴ヶ谷柊子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭選択
集中	30時間・1単位	3年次・通年	選択	

［授業のテーマ及び到達目標］

3年次後期の教育実習にむけた姿勢と自信を深め、3年次で学習するさまざまな理論と実践との関係を認識し、教育現場で期待されるスキルを自覚し継続的な関わりの信頼関係を形成する。

［授業の概要］

教育インターンシップを継続するために、これまでの現場体験を省察し、新たな課題を見出せるように支援する。受講生自らが企画を立て、指定された時間のインターンシップを継続的実施することができるように指導する。また、インターンシップの事前・事後指導も行う。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第1回：教育インターンシップ受講に際してのガイダンス
第2回：インターンシップ先についての情報収集・学習
第3回：インターンシップ計画の立案
第4回：インターンシップ実施上の諸注意・留意事項
第5回：インターンシップ実施
第6回：インターンシップ実施
第7回：インターンシップ実施
第8回：インターンシップ実施
第9回：インターンシップ実施
第10回：インターンシップ実施
第11回：インターンシップ実施
第12回：インターンシップ実施
第13回：インターンシップ実施
第14回：インターンシップ実施

受入れ先の指示に従って補助的活動に従事する。10日間、30時間以上の教育インターンシップ

第15回：ふりかえり

［準備学習］

事前学習の資料を十分に学習しておくこと。実施にあたっては、次回の補助作業の内容の見通しを立てること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
事前指導の際に、インターンシップ履修の実施要項などを配布。
参考文献：
特に指定しない。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

指定された時間数をクリアしていること。教員インターンシップ先の評価と、「ふりかえり」発表の内容を総合して評価する。60点以上合格。

授業科目名	EMPA411	授業の種類	授業担当者
教育インターンシップD		（ 講義・演習・実習 ）	山口和孝・菅野陽子・高野実貴雄・出口雅生・眞有澄香・矢部一夫・伊深祥子・内田徹・鶴ヶ谷柊子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭選択
集中	30時間・1単位	4年次・通年	選択	

［授業のテーマ及び到達目標］
教育実習終了後においても、引き続きさまざまな教育現場に出向いて実践的体験を継続し、教育実習の成果・課題をさらに深め、教職への適正を確認する。

［授業の概要］
教員の支援と指導を受けながら、教育実習での課題を明確にし、それを教育インターンシップ先でさらに実践しつづける。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数
授業計画

第1回：教育インターンシップ受講に際してのガイダンス
第2回：教育実習での課題
第3回：教育インターンシップで磨くさらなる課題
第4回：インターンシップ計画の立案
第5回：インターンシップ実施
第6回：インターンシップ実施
第7回：インターンシップ実施
第8回：インターンシップ実施
第9回：インターンシップ実施
第10回：インターンシップ実施
第11回：インターンシップ実施
第12回：インターンシップ実施
第13回：インターンシップ実施
第14回：インターンシップ実施

受入れ先の指示に従って補助的活動に従事する。10日間、30時間以上の教育インターンシップ

第15回：ふりかえり

［準備学習］
事前学習の資料を十分に学習しておくこと。実施にあたっては、次回の補助作業の内容の見通しを立てること。

［使用テキスト・参考文献］
テキスト：
事前指導の際に、インターンシップ履修の実施要項などを配布。
参考文献：
特に指定しない。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］
指定された時間数をクリアしていること。教員インターンシップ先の評価と、「ふりかえり」発表の内容を総合して評価する。60点以上合格。

授業科目名	EMPA412	授業の種類	授業担当者
介護等体験		（ 講義・演習・実習 ）	内田　　徹

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
集中	30時間・1単位	4年次・通年	選択

［授業のテーマ及び到達目標］

介護等体験の意義を理解し、特別支援学校と社会福祉施設で規定の日数の介護等体験を実施し、現場体験を深める。

［授業の概要］

介護等体験実施にむけた事前指導を行い、受講者が体験を行う教育機関・施設の状況、求められる姿勢などについて学び、受講生それぞれの計画に基づいて、体験先における介護等体験を実施する。体験終了後、事後指導として、ふり返りの発表を行い、体験を共有する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第1回：介護等体験の目的と概要、事前準備の手順と方法

第2回：特別支援学校における介護等体験の概要

第3回：特別支援学校における介護等体験の実施(1)：教育目標について理解する

第4回：特別支援学校における介護等体験の実施(2)：教育内容について理解する

第5回：特別支援学校における介護等体験の実施(3)：特別な配慮についてまなぶ

} 2日間

第6回：社会福祉施設における介護等体験の概要

第7回：社会福祉施設における介護等体験の実施(1)：特別支援学校との違いを理解する

第8回：社会福祉施設における介護等体験の実施(2)：職員の仕事と役割分担を理解する

第9回：社会福祉施設における介護等体験の実施(3)：「利用者が主役」を理解する

第10回：社会福祉施設における介護等体験の実施(4)：利用者の人権に配慮する

第11回：社会福祉施設における介護等体験の実施(5)：自らの課題を再検討する

第12回：社会福祉施設における介護等体験の実施(6)：社会福祉施設の多様性を理解する

第13回：社会福祉施設における介護等体験の実施(7)：社会的包摂と利用者理解の深化

第14回：社会福祉施設における介護等体験の実施(8)：利用者に応じた介助・支援・援助

} 5日間

第15回：介護等体験でまなんだこと：発表とふりかえり

［準備学習］

テキストや参考書・参考資料等を参考に、体験する教育機関や施設の特徴等について調査する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：現代教師養成研究会編『教師をめざす人の介護体験ハンドブック（4訂版)』大修館書店。

参考文献：介護等体験先に応じて、適宜資料を配布する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

規定の日数・時間の介護等体験を実施すること（60%）、ふり返り発表（40%）を総合して、60点以上を合格とする。

教育専門科目

（教職基礎・教科指導法）

授業科目名	EMTM201	授業の種類	授業担当者
教職入門		（講義・演習・実習）	山口和孝・矢部一夫・稲葉喜徳

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭必修
15回	30時間・2単位	1年次・前期	必修	

［授業のテーマ及び到達目標］

評価する主体としての教師になるための教職への動機づけと学び続ける教師のあり方、及び専門職としての教師に必要とされる基本的な職務内容、研修機会などについて、教育現場の実情を踏まえた認識を持てるようにする。それをもって、教職に就くものとしての学習のあり方と将来に向けた構えを形成する。

［授業の概要］

①子どもに寄り添うとはどういうことか、②教師としての魅力と抱える課題についての対応の仕方、③教職の専門性とはどのようなものか、④教師としての責任と研修の必要性などについての基本的な事項を教育現場経験者の体験を含めて紹介する。また、ともに教職をめざす学生として励まし合う関係性づくりを行うために宿泊合宿の形態を一部とり入れる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第１回：授業の目的と流れの説明。履修カルテについて（担当：山口）
第２回：なぜ教職をめざすのか（担当：山口、平成30年度以降：矢部）
第３回：教師像の振り返り（担当：山口、平成30年度以降：矢部）
第４回：「良い教師」と「悪い教師」（担当：山口、平成30年度以降：矢部）
第５回：学び続ける教師像（担当：山口、平成30年度以降：矢部）
第６回：教師の魅力①…頑張る先生たち（担当：稲葉）
第７回：教師の魅力②…授業のヒント（担当：稲葉）
第８回：教師の魅力③…こどもを励まそう（担当：稲葉）
第９回：特色ある学校づくり①…問題が起きにくい学校（担当：稲葉）
第10回：特色ある学校づくり②…特別なニーズを必要とする子どもたちのために（担当：稲葉）
第11回：教師の職務①…校務分掌、学級経営（担当：山口、平成30年度以降：矢部）
第12回：教師の職務②…研修（担当：山口、平成30年度以降：矢部）
第13回：教師の職務③…分限（担当：山口、平成30年度以降：矢部）
第14回：教職への魅力にむけて（担当：山口、平成30年度以降：矢部）
第15回：教職への動機のゆらぎへの対応（担当：山口）

［準備学習］

一回前の授業で提示する（事前学習資料を配布する場合もある）課題について考えておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
特になし
参考文献：
岩田康之他『教職論』学文社、稲葉喜徳『ポケットいっぱいの宝物』（世界通信）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

担当者別のレポート提出（各20%、計60%）、
授業参加姿勢（発表、討論）40%。
合計して60点以上合格。

授業科目名	EMTM202	授業の種類	授業担当者
教育学概論		（講義・演習・実習）	山口　和孝

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭必修
15回	30時間・2単位	1年次・前期	必修	

［授業のテーマ及び到達目標］

近代公教育を支えてきた教育の理念・思想、その展開史、及び現代的な教育課題に関する事項を扱い、それらに関する基礎的知識を獲得するとともに、現代における学校教育が抱える諸課題を認識する。

［授業の概要］

教育の理念・思想・歴史、学校教育の変遷などを具体的な事例を通して学習し、教育とは何かという難しい課題や現代の学校教育が抱える諸問題を身近な教育問題として認識できるような対話の形式で授業を展開する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第１回：授業の流れ・評価の仕方の説明と受講に際しての注意
第２回：これまで受けてきた教育の振り返り
第３回：さまざまなこども観と教育思想
第４回：近代公教育を成立させた教育の原理―教育の機会均等と自由―
第５回：学校教育の成立と教員の養成
第６回：戦前の教育から戦後民主教育への流れ
第７回：平等な教育から競争の教育へ
第８回：近代学校教育の常識と非常識
第９回：経済格差と学力問題
第10回：教育の市場化と教育商品の選択
第11回：「いじめ」の構造とその対応
第12回：不登校問題と多様な学びのあり方
第13回：グローバリゼーションの中での国際理解教育
第14回：学校の安全と危機管理
第15回：教育改革の現状と課題
定期試験

［準備学習］

一回前の授業で提示する課題（資料を配布する場合もある）について考えておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：特になし
参考文献：三輪定宣編『教育学概論』（学文社）、
勝野正章『問から始まる教育学』（有斐閣）、
堀尾輝久『教育とは何か』（岩波新書）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

中間レポート（30%）及び定期試験（50%）及び授業参加姿勢（発表、討論等）（20%）。中間レポートは、課題に対して複数の文献や資料を参考にして、自分の意見をどれだけ展開できているかで評価。定期試験は、授業で扱ったテーマに関連して提示される課題についての記述。総合評価で60点以上合格。

授業科目名	EMTM203	授業の種類	授業担当者
教育心理学基礎論		（講義・演習・実習）	皆川　順

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭必修
15回	30時間・2単位	1年次・後期	必修	

［授業のテーマ及び到達目標］

①教育心理学の基礎的な原理を理解し、心理学的な考え方を身につける。
②教育心理学の学習を通して、身につけた心理学的知見によって、実践に役立てる工夫が出来る。
③教育心理学の幅広い領域について学び、幼児・児童・生徒・学生の学びを援助できるようにする。

［授業の概要］

授業はスライド提示による知識理解と獲得とを目指し、随時、プリントを配布し、また前回の復習小テストを行う。隣接する心理学領域の知見も取り入れた学習を行う。予習・復習は必須である。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第１回：教育心理学とは何か：教育心理学の学び方
第２回：発達と教育：幼児から学童期までのこども
第３回：記憶に関する諸理論
第４回：学習に関する理論
第５回：授業の技術と受講者の性格との関連
第６回：効果的な学習法⑴認知心理学的方法
第７回：効果的な学習法⑵アンダーライン、要約その他
第８回：性格とその形成：こども（乳幼児期から義務教育期まで）の発達に対応して
第９回：外向性・内向性と脳の働き
第10回：適応のメカニズムと不適応児の理解
第11回：社会性の発達について
第12回：学級という社会
第13回：教育評価と教育統計
第14回：障害児の心理と学習指導
第15回：発達障害とは何か
定期試験

［準備学習］

毎回の授業で次回の学習内容とテキストの箇所を示すので、前もってテキストその他の該当部分を読んでおくこと。また、図書館などで調べておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
北尾倫彦他著『コンパクト教育心理学』北大路書房
参考文献：
多鹿秀継編著『認知心理学から見た授業過程の理解』北大路書房

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験80%、提出物10%、授業態度10%。総合して60点以上を合格とする。

授業科目名	EMTM304	授業の種類	授業担当者
教育の制度と経営		（講義・演習・実習）	山口　和孝

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭必修
15回	30時間・2単位	2年次・後期	必修	

［授業のテーマ及び到達目標］

学校教育を成立させている法制度と学校・学級経営に関わる基本的な法制度を理解する。その上で、現代の学校教育が抱えている諸問題がどう法制度的に解決されようとしているか、あるいは、課題を提示しているかを理解する。

［授業の概要］

指定テキストを使いながら、学校教育法制の基本を解説する。毎授業のテーマに対応した資料を配布して、教育に対して社会が提起する課題を認識し、現代の学校が抱える諸問題に諸制度はどう対応しようとしているかを学ばせる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第１回：授業の流れをシラバスで確認し、受講に際しての留意事項などを伝達。
第２回：憲法と教育基本法における教育理念と学校・教師への期待
第３回：学校とは―一条校問題―（学校教育法）
第４回：保育所と幼稚園・小学校の違い（児童福祉法、学校教育法）
第５回：教員養成制度と教員免許制度（教育職員免許法）
第６回：教育課程とは（学校教育法）
第７回：就学困難な子どものための制度的援助（教育基本法、学校教育法）
第８回：学校の安全と保健（学校保健安全法、学校教育法）
第９回：児童虐待・いじめ防止のために（児童虐待防止法、いじめ防止対策推進法）
第10回：教育公務員の職務・分限・研修（教育公務員特例法、地方公務員法）
第11回：教育委員会の組織（地方教育行政の組織及び運営に関する法律）
第12回：教育委員会の業務（地方教育行政の組織及び運営に関する法律）
第13回：生涯学習の制度と展開（生涯学習振興法）
第14回：教育改革の大きな流れ―教育振興基本計画が投げかけるもの―
第15回：学校改革の課題―特色ある学校づくりと教師に期待される社会的役割
定期試験

［準備学習］

一回前の授業で提示する課題について考えてくること。事前に資料を配布することもある。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
『教育小六法』（学陽書房）
参考文献：
なし。授業の展開に応じて、関連する資料を適宜配布する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験による評価（80%）、授業参加姿勢（発表、討論等）（20%）。定期試験は、授業で解説したテーマについて提示される複数の設問について解答。総合して60点未満不合格。

授業科目名	EMTM305	授業の種類	授業担当者
教育課程論		（講義・演習・実習）	亘理　史子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭必修
15回	30時間・2単位	2年次・後期	必修	

［授業のテーマ及び到達目標］

1．教育課程の意味及び役割が分かる。
2．学習指導要領の目的、内容が分かる。
3．特色ある教育活動を展開する教育課程の編成について考察する。
4．教育課程の編成の仕方や手続きについて調べる。

［授業の概要］

教育課程の意味や学習指導要領の目的、内容について考察する。教育課程の編成の仕方を理解し、学習指導要領に基づく教育活動や特色ある教育活動を展開する教育課程の編成の実際を調べ教育課程の果たす役割を理解する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数
授業計画

第１回：教育課程の意味と学習指導要領（教育の目標と目的）
第２回：近代日本の教育課程（明治時代から戦前の教科書から考察する）
第３回：現代日本の教育課程（学習指導要領の成立から考察する）
第４回：諸外国の教育課程
第５回：学習指導要領について⑴（単元学習から系統学習へ）
第６回：学習指導要領について⑵（教育の現代化、ゆとり教育）
第７回：今日的教育課題と教育課程（新学力観と生きる力）
第８回：教育課程の編成の手続きと内容
第９回：教育課程と教科学習（教育内容、教科書）
第10回：教育課程と特別活動、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間
第11回：特色ある学校の教育課程
第12回：学校における教育課程編成の実際と教育課程の実施
第13回：教育課程の評価（評価項目、評価の手順）
第14回：教育課程の改善（学校評価の活用）
第15回：教育課程と学校の教育計画の作成
定期試験

［準備学習］

各回のテーマについて調べまとめておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
『小学校学習指導要領解説　総則編』東洋館出版社
参考文献：
特になし

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験（60%）、毎時間の振り返り・学習への取り組み（20%）、レポート（20%）。
総合して60点以上を合格とする。

授業科目名	EMTM306	授業の種類	授業担当者
初等国語科指導法		（講義・演習・実習）	眞有　澄香

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭必修
15回	30時間・2単位	2年次・後期	必修	

［授業のテーマ及び到達目標］

初等国語科教育の特質について理解を深め、実践的な力を身につけよう。

現在の初等国語科における諸問題について考察を深め、教材研究や教材開発などから、それを教室の中に実現していくための様々な教育方法を身につける。

［授業の概要］

本講義では、まず国語科の歴史を学び、わが国における「国語」の特性について理解を深める。その上で、初等国語科の現状について学び、今後の国語教育が目指すべき方向性や「私たちのことば」の教育としての可能性を探る。また、社会生活に役立つ言語活動を営むための国語教育とはどのようなものが望ましいのか、様々な角度から授業改革を意識した教材研究や学習指導案の作成に取り組んでもらう。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第１回：ガイダンス―授業の内容と進め方、「読書ノート」の作成について―
第２回：小学校の国語科では何を教えるのか―被教育体験から―
第３回：国語科は、なぜ「国語」科と呼ばれるのか―「国語」の歴史展開―
第４回：「伝え合う」「ことばを届ける」ための国語教育とは―ことばと声と身体と―
第５回：国語教育における方言指導の検討―母語と方言と―
第６回：方言による詩作―方言から母語と共通語と標準語を考える―
第７回：音声言語教育の可能性―「伝え合う力」とは―
第８回：群読の方法と練習―群読の教育的効果について―
第９回：群読発表会とその評価―群読のシナリオ作りと教育評価―
第10回：読むことの教育―文学作品―
第11回：読むことの教育―説明文―
第12回：書くことの教育―その歴史と展開―
第13回：書写指導の内容と目標―指導計画や指導法について―
第14回：学習指導要領の変遷と国語学力
第15回：学習指導案による模擬授業とまとめ、課題提出

［準備学習］

テキストを精読して授業に臨むこと。ワークシートの記入など、随時作業をしてもらうので、積極的な授業参加が求められる。最終講義日には、学習指導案や課題図書の「読書ノート」を提出してもらう。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
府川源一郎『私たちのことばをつくり出す国語教育』（東洋館出版）
参考文献：
『小学校学習指導要領　解説　国語編』
その他は適宜授業時に配布する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

毎授業時の課題や「読書ノート」、学習指導案などの提出物70％、学習参加や意欲30％を総合して評価し、60点以上を合格とする。

授業科目名	EMTM307	授業の種類	授業担当者
初等社会科指導法		（講義・演習・実習）	岸　康裕

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭必修
15回	30時間・2単位	2年次・後期	必修	

［授業のテーマ及び到達目標］

子どもの主体的な学びを育てる調べる社会科授業の創造をめざし、アクティブラーニングの手法を採用して、学年単元の指導法及び指導案づくりと模擬授業を行い実践的に学ぶ。

［授業の概要］

各学年単元の学習内容を紹介し、指導案づくりと学生による模擬授業を行う。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第１回：オリエンテーション（社会科の誕生と魅力、授業計画と進め方）
第２回：授業実践の紹介（３年生）：地図の読み方
第３回：授業実践の紹介（４年生）：各地のくらし
第４回：授業実践の紹介（５年生）：日本の産業
第５回：授業実践の紹介（６年生）：歴史の中の人々のくらし
第６回：調べる社会科の魅力と可能性
第７回：指導案づくり⑴：中学年の社会科指導案
第８回：模擬授業⑴：私たちの町の生産活動（農家、工場、商店を調べてみよう）
第９回：指導案づくり⑵：中学年の社会科指導案
第10回：模擬授業⑵：都道府県の位置と地域の特色について調べよう
第11回：指導案づくり⑶：高学年の社会科指導案（日本の歴史）
第12回：模擬授業⑶：郷土の歴史を見つめ直そう（日本の歴史と地域）
第13回：指導案づくり⑷：高学年の社会科指導案（日本の憲法）
第14回：模擬授業⑷：政治のしくみと地域開発を調べよう
第15回：まとめ
定期試験

［準備学習］

テキストの対象の部分を予習する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：岸康裕『子どもと学び子どもから学んだ教師の記録』世織書房
　　文部科学省『学習指導要領、社会科編』
参考文献：授業の展開に応じてその都度提示する

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験(60%)、小論文(20%)、模擬授業(20%)。
総合評価とし60点以上合格とする。

授業科目名	EMTM308	授業の種類	授業担当者
算数指導法		（講義・演習・実習）	矢部　一夫

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭必修
15回	30時間・2単位	2年次・後期	必修	

［授業のテーマ及び到達目標］

算数科の目標である「思考力・表現力の育成」「活用」「基礎・基本の定着」について、問題解決的な学習を行う中で、それらを達成する授業のあり方を知る。

［授業の概要］

学習指導要領等でいわれる「問題解決的な授業」「アクティブラーニング」について、その背景と具体的な内容を学ぶ。それらの学習形態をもとに、各学年での主要単元を指導するうえでの留意点を知り、指導案を作成し考察する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第１回：「問題解決学習」「算数的活動」「数学的な考え方」：授業構成の基本事項
第２回：算数科の目標をもとに求められる学力（算数学習指導要領の変遷）
第３回：第１学年の単元「数」「加法減法」を学ぶねらいとねらいを達成する指導案
第４回：第１学年の単元「長さやひろさ、かさの大きさくらべ」を学ぶねらいと指導案
第５回：第２学年の単元「乗法九九」を学ぶねらいとねらいを達成する指導案
第６回：第２学年の単元「三角形と四角形」「はこの形」を学ぶねらいと指導案
第７回：第３学年の単元「整数の乗法除法」「分数」を学ぶねらいとねらいを達成する指導案
第８回：第３学年の単元「長さ重さ時間の単位」を学ぶねらいとねらいを達成する指導案
第９回：第４学年の単元「２つの数量の関係と折れ線グラフ」を学ぶねらいと指導案
第10回：第４学年の単元「小数、分数の意味と四則演算」を学ぶねらいと指導案
第11回：第５学年の単元「約数と倍数」「異分母分数の加法減法」を学ぶねらいと指導案
第12回：第５学年の単元「かんたんな比例」を学ぶねらいとねらいを達成する指導案
第13回：第６学年の単元「分数の乗法除法」を学ぶねらいとねらいを達成する指導案
第14回：第６学年の単元「比例と反比例」を学ぶねらいとねらいを達成する指導案
第15回：各自で選んだ単元の指導案作成と模擬授業

［準備学習］

①テキストや各回に関する文献（教科書を含む）から教材研究をして授業に臨む。
②授業中に指導案作成の演習を行う。指導案を完成させ、授業の後提出する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
赤井利行『わかる算数科指導法』（東洋館出版社）
参考文献：
『小学校学習指導要領解説　算数編』

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

講義に関する振り返りレポート（60%）、及び指導案略案を作成し、理解定着度を評価（20%）する。また、模擬授業を行い、授業の流れの的確さや適正さを評価（20%）。総合して60点以上を合格とする。

授業科目名	EMTM309	授業の種類	授業担当者
初等理科指導法		（講義・演習・実習）	小倉　康・鶴ヶ谷柊子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭必修
15回	30時間・2単位	3年次・前期	必修	

［授業のテーマ及び到達目標］

・小学校理科の教育課程の主な構成要素を理解する。
・小学校児童の自然認識の発達的特徴を理解する。
・小学校理科の指導法の主たる特徴を理解する。
・小学校理科の学習指導案作成の基本を理解する。

［授業の概要］

学習指導要領の主旨に沿って、小学校理科の目標と内容の基本的な理解、小学生の自然認識と身につけさせる理科学力、理科学習の活用と評価、学習指導案の作成法、各学年の特徴的な指導法、安全性の確保、ICT 機器の活用、授業研究について扱う。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第１回：小学校理科の目標と内容（担当：小倉）
第２回：自然事象に対する関心・意欲・態度：（担当：小倉）
第３回：観察・実験の役割：（担当：小倉）
第４回：科学的な概念の形成：（担当：小倉）
第５回：科学的な思考力・表現力の育成：（担当：小倉）
第６回：理科学習の意義や有用性の指導：（担当：小倉）
第７回：理科の指導と評価の一体化：（担当：小倉）
第８回：理科の学習指導案と単元展開：（担当：小倉）
第９回：３年生の理科授業：（担当：小倉）
第10回：４年生の理科授業：（担当：小倉）
第11回：５年生の理科授業：（担当：小倉）
第12回：６年生の理科授業：（担当：小倉）
第13回：安全な観察実験：（担当：小倉、鶴ヶ谷）
第14回：ICT 機器の活用：（担当：小倉、鶴ヶ谷）
第15回：模擬授業：（担当：小倉、鶴ヶ谷）
定期試験

［準備学習］

参考書・参考資料中の文部科学省『小学校学習指導要領解説理科』および『小学校理科観察・実験の手引き』をインターネット検索して読み、どのような内容を記述した資料であるかを概括しておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：文部科学省『小学校学習指導要領』。及び、資料・プリントを配布する。
参考文献：文部科学省『小学校学習指導要領解説理科』、『小学校理科観察・実験の手引き』、国立教育政策研究所『評価方法等の工夫改善のための参考資料(小学校)』、『全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた理科の観察・実験に関する指導事例集』、科学技術振興機構「理科ねっとわーく」（デジタルコンテンツ）、日置光久他『小学校理科室経営ハンドブック』(東洋館)

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験（50％）、レポート（50％）。
総合して60点以上合格。

授業科目名	EMTM310	授業の種類	授業担当者
生活科指導法		（講義・演習・実習）	岸　康裕

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭必修
15回	30時間・2単位	1年次・後期	必修	

［授業のテーマ及び到達目標］

子どもの主体的な学びを育てる楽しい生活科授業の創造。

1．ステキな人・もの・ことと出あう。

2．伝達型を排し子どもの主体的な学びを創造するアクティブ・ラーニングの手法を学ぶ。

3．子どもの問い、討論、作品交流で共同した学びを追究する。

［授業の概要］

生活科の各学年に応じた指導法を学び、指導案づくりと学生による模擬授業で生活科指導の方法を実践的に学ぶ。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第1回：オリエンテーション（生活科の魅力と授業づくり、計画と進め方）

第2回：子どもの声を聴くということ（朝の発表交流）

第3回：生活科授業実践の紹介（1年生）

第4回：生活科授業実践の紹介（2年生）

第5回：フレネ教育を考える

第6回：生活科誕生の経緯と問題点

第7回：生活科授業案づくり⑴：わたしのかぞく

第8回：模擬授業⑴：「わたしとかぞく」（家族の中でのわたし、家族とのかかわりをみつめ直す）

第9回：生活科授業案づくり⑵：がっこうたんけん

第10回：模擬授業⑵：「がっこうたんけん」（学校で働いている人と話してみよう）

第11回：生活科授業案づくり⑶：しぜんとなかよし

第12回：模擬授業⑶：「しぜんとあそぶ」（身近な自然の不思議、面しろさをさがしてみよう）

第13回：生活科授業案づくり⑷：まちの人となかよし

第14回：模擬授業⑷：「わたしのまちのたんけん」（町の人々の話を聞きにいこう）

第15回：まとめ（学級文化活動）

定期試験

［準備学習］

テキストの対象の部分を予習する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：

文部科学省『小学校学習指導要領解説、生活科編』

岸康裕『子どもと学び子どもから学んだ教師の記録』世織書房

参考文献：授業の展開に応じてその都度提示する

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

レポート（50%）と定期試験（50%）で総合評価とし、60点以上合格。

授業科目名	EMTM311	授業の種類	授業担当者
初等音楽科指導法		（講義・演習・実習）	八木　正一

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭必修
15回	30時間・2単位	2年次・前期	必修	

［授業のテーマ及び到達目標］

授業のテーマ：小学校音楽科の授業づくり

到達目標：⑴小学校における音楽科の授業構成の方法を理解する。

⑵小学校の音楽科の授業を展開するための基礎的能力を身につける。

［授業の概要］

小学校音楽科の授業の構成法について、その基本的な考え方を理解し、授業をつくっていく能力を身につける。同時に、教師として実際に音楽の授業を展開する上での教授行為を中心とした実践的な方法について学習する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第１回：オリエンテーション

第２回：小学校音楽科の授業の問題点の理解「音楽科の授業の問題点」

第３回：授業の構成要素と授業づくりの３つの基本的な方法の学習「授業構成の方法」

第４回：授業づくりの実際１：歌唱表現の授業づくり「歌唱の授業」

第５回：授業づくりの実際２：器楽表現の授業づくり「器楽の授業」

第６回：授業づくりの実際３：音楽づくりの授業「音楽づくりの授業」

第７回：授業づくりの実際４：鑑賞の授業づくりと学習活動の工夫「鑑賞の授業」

第８回：授業づくりの実際５：音楽科におけるアクティブラーニングの組織「場の構成」

第９回：教授行為の重要性とその工夫の方法「教授行為」

第10回：学習指導案の作成「学習指導案」

第11回：模擬授業１：歌唱の授業「歌唱の模擬授業」

第12回：模擬授業２：器楽の授業「器楽の模擬授業

第13回：模擬授業３：鑑賞の授業「鑑賞の模擬授業」

第14回：小学校音楽科の評価「音楽科の評価」

第15回：学習指導要領の理解と今後の音楽科の展望「学習指導要領」

［準備学習］

授業終了時に出される課題への取り組み　　模擬授業への準備

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：

授業中に指示する

参考文献：

文部科学省『小学校学習指導要領解説　音楽編』（教育芸術社）

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

レポート60％、模擬授業への取り組みなど40％を総合的に判断し評価する。

合計で60点以上を合格とする。

授業科目名	EMTM312	授業の種類	授業担当者
図画工作指導法		（講義・演習・実習）	菖蒲澤　侑

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭必修
15回	30時間・2単位	1年次・後期	必修	

［授業のテーマ及び到達目標］

1．図画工作科の基本的な考え方を体験とともに学ぶ。
2．目標に応じた題材選び及び題材研究を行い、学習指導案の構造を理解する。

［授業の概要］

小学校における造形活動とその指導に関わる文科省の学習指導案改訂提案に基づき、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心をもって、生涯にわたって主体的に造形に関わっていく態度を育むための、こどもによる表現や主体的な鑑賞活動を重視した指導法のあり方を展開する。

具体的には、①学習指導要領における図画工作の位置づけ・構造とその概要、②造形素材について、③造形教育の基礎、④主体的な鑑賞とは、⑤題材研究（鑑賞、造形遊び、立体・工作など）、⑥授業計画と図画工作指導案の作成を取り扱う。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第1回：ガイダンス（授業内容、評価方法等について）。
　　自身の図画工作科受講体験について議論。
第2回：図画工作科の目標について
第3回：図画工作科の構造と内容について
第4回：素材の研究①：身近な素材で出来る平面表現・立体表現
第5回：素材の研究②：自然素材で出来る平面表現・立体表現
第6回：共通事項、造形あそび、教師の役割について
第7回：身近な素材と自然素材でアニメーションづくり
第8回：アニメーション鑑賞会とその評価について
第9回：子どもの鑑賞活動とその評価について
第10回：学習指導案の構造について
第11回：グループごとに題材研究と授業づくり
第12回：グループごとに模擬授業①（低学年における造形あそび）
第13回：グループごとに模擬授業②（中学年における立体表現）
第14回：グループごとに模擬授業③（高学年における鑑賞）
第15回：模擬授業の相互評価
定期試験

［準備学習］

・毎回、次回授業のテキスト該当範囲を指示します。授業前にテキストの該当部分を一読してきてください。
・グループ活動の際は発表前に発表内容をまとめてきてください。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
『小学校学習指導要領解説　図画工作編』
（文部科学省）
参考文献：
授業内容に応じて適宜提示。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

学習指導案の内容（20%）、模擬授業とその相互評価の内容（20%）、定期試験の点数（60%）により評価する。
全体の60%以上を満たしていれば合格。

授業科目名	EMTM313	授業の種類	授業担当者
初等家庭科指導法		（講義・演習・実習）	伊深　祥子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭必修
15回	30時間・2単位	2年次・後期	必修	

［授業のテーマ及び到達目標］

小学校家庭科教育を構成する「衣生活」「食生活」「家庭生活」「消費生活」の全領域についての基礎的な学習を通して、家庭科指導に必要な基礎的知識とスキルを形成し、家庭科の授業案を作成できる力の基礎を形成する。

［授業の概要］

家庭科の授業分析によって授業展開についての基礎的な能力を身につける。さらに模擬授業を実施し、家庭科の指導法を学び、児童とのかかわり方を考える。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第１回：既存の小学校家庭科指導案分析
第２回：既存の家庭科指導案の導入部分の模擬授業
第３回：導入の模擬授業後のカンファレンス
第４回：授業と説明の違い
第５回：発問の方法
第６回：発言しない子どもの指導法
第７回：課題のある指導案の分析
第８回：小学校家庭科指導案の書き方①　授業の展開・板書案
第９回：指導案：板書案作成
第10回：指導案：板書案の修正
第11回：代表による模擬授業
第12回：模擬授業後のカンファレンス
第13回：修正模擬授業
第14回：小学校家庭科指導案の書き方②　教材観・児童観・指導計画
第15回：講義のまとめ
定期試験

［準備学習］

授業の前にテキストの該当部分を読んでくること。
授業の前に学修内容に関する課題に取り組むこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
伊深祥子・野田知子編
『評価が変われば授業が変わる』開隆堂出版
参考文献：
『小学校学習指導要領解説　家庭科編』、小学校家庭教科書

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験（60%）、指導案の提出（20%）、
授業分析（20%）。
総合して60点以上合格

授業科目名	EMTM314	授業の種類	授業担当者
初等体育科指導法		（講義・演習・実習）	林　園子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭必修
15回	30時間・2単位	2年次・前期	必修	

［授業のテーマ及び到達目標］

小学校体育科の目標である「健康の保持増進」「体力の向上」「運動に親しむ資質や能力の育成」を踏まえ、各運動領域・保健領域の指導内容及び方法などの基本的な考え方を理解し、小学校教員としての体育授業づくりの授業実践力を高める。

［授業の概要］

小学校体育科の目標、各運動領域及び保健領域内容について理解し、体育科の学習指導案作成及び授業評価の方法について学ぶ。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第１回：小学校体育の概念及び変遷
第２回：小学校体育の目標（学習指導要領における体育の位置づけ)、平成20年改訂の趣旨
第３回：小学校体育における各領域と発達段階（学年ごと）の取り扱い
第４回：運動領域「体つくり運動」の内容と指導法
第５回：運動領域「器械運動」の内容と指導法
第６回：運動領域「陸上運動」の内容と指導法
第７回：運動領域「水泳」の内容と指導法
第８回：運動領域「ボール運動」の内容と指導法
第９回：運動領域「表現運動」の内容と指導法
第10回：保健領域の内容と指導法
第11回：小学校体育の学習形態・学習環境
第12回：小学校体育の学習評価
第13回：小学校体育の指導計画（年間・単元・単位時間）
第14回：小学校体育学習指導案作成①　運動領域について
第15回：小学校体育学習指導案作成②　保健領域について
定期試験

［準備学習］

・毎授業ごとに、Ａ４一枚程度の内容要約を行っておくこと。また、学習指導要領における運動領域を熟読しておくこと。質問がある場合は質問内容を用意して授業に臨むこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
『小学校学習指導要領解説・体育編』東洋館出版社
参考文献：
杉山重利他　『保健体育科教育法』大修館書店

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験40%、小レポート30%、
学習指導案作成30%、
総合して60点以上を合格とする。

授業科目名	EMTM215	授業の種類	授業担当者
初等道徳教育		（講義・演習・実習）	横田　文夫

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭必修
15回	30時間・2単位	2年次・前期	必修	

［授業のテーマ及び到達目標］

学校、家庭、地域の人との関わりの中で、道徳の授業や教育活動全体を通して身につけた道徳的価値観をどのように道徳的実践力につなげるかについて実践例を通して学びながら、道徳の時間の授業設計ができる基礎的な力を形成する。

［授業の概要］

基本的には授業者が課題とするテーマを決めて「模擬授業」を行い、それを全体で検討し、目標を達成できる「道徳教育の授業像」を導き出す。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第１回：道徳教育の変遷と教育の現状（学校・児童・教員・保護者）について学ぶ。
第２回：学習指導要領を元に小学校の道徳教育の目標と内容について学ぶ。
第３回：１年生の徳目「親切、思いやり」
第４回：２年生の徳目「規則の尊重」
第５回：３年生の徳目「善悪の判断、自律、自由と責任」
第６回：４年生の徳目「希望と勇気、努力と強い意志」
第７回：５年生の徳目「公正、公平、社会正義」
第８回：６年生の徳目「よりよく生きる喜び」
第９回：１年生の学級問題「そうじさぼり」を扱った道徳授業の実践例の検討
第10回：２年生の学級問題「ルールを守れない」を扱った道徳授業の実践例の検討
第11回：３年生の学級問題「責任を果たせない」を扱った道徳授業の実践例の検討
第12回：４年生の学級問題「宿題忘れ」を扱った道徳授業の実践例の検討
第13回：５年生の学級問題「いじめ」を扱った道徳授業の実践例の検討
第14回：６年生の学級問題「他人への迷惑」を扱った道徳授業の実践例の検討
第15回：模擬授業と実践例から学んだことを発表し意見交換を図る。
レポートを提出

［準備学習］

・授業の前に、その授業で学習するテーマや内容について自分の考えをまとめてくること。
・授業の後に、簡単なレポートを提出すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
特になし
参考文献：
文部科学省『小学校学習指導要領解説　道徳編』

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成することの重要性を理解できたか、の観点からの期末レポート（60%）、授業での小レポート（40%）。
総合して60点以上を合格とする。

授業科目名	EMTM216	授業の種類	授業担当者
初等特別活動論		（講義・演習・実習）	亘理　史子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭必修
15回	30時間・2単位	1年次・前期	必修	

［授業のテーマ及び到達目標］

1．特別活動の教育的意義及び目標や内容が分かる。
2．特別活動と各教科、道徳、外国語活動及び総合的な学習の時間、学級経営などとの関連が分かる。
3．各活動・学校行事の目標及び内容が分かり、1単位時間の指導案を作成することができる。
4．特別活動の評価について分かる。

［授業の概要］

特別活動の教育課程における位置づけを理解し、特別活動の教育的意義及び目標や内容を考察する。特別活動は各教科などと関連させて展開されること、特に、学級経営との関連が深く、学級の望ましい人間関係を形成することを目指していることを理解し、実践的な態度を育てる学級活動の指導案を作成する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数
授業計画

第1回：特別活動の教育課程における位置付け、教育的意義と学習指導要領
第2回：特別活動と今日的な教育課題
第3回：特別活動と各教科、道徳、外国語活動及び総合的な学習の時間、学級経営との関連
第4回：学級活動と目標と内容、発達の段階に即した指導と指導計画
第5回：低学年の学級活動と指導案
第6回：中学年の学級活動と指導案
第7回：高学年の学級活動と指導案
第8回：児童会活動の目標と内容、指導計画
第9回：児童会活動の実際と発達段階に即した指導（自主的・実践的な態度を育てる）
第10回：クラブ活動の目標と内容、指導計画
第11回：学校行事の目標と内容、小学校における実際（儀式的行事）
第12回：学校行事の年間計画と教育課程編成（文化的行事、健康安全・体育的行事）
第13回：学校行事の実施案（遠足・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事）
第14回：特別活動の全体計画、小・中・幼・保との連携、地域社会との連携
第15回：特別活動の評価
定期試験

［準備学習］

各回のテーマについてテキストの該当部分を読みまとめておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
『小学校学習指導要領解説　特別活動編』
東洋館出版社

参考文献：
特になし

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験（60%）、
毎時間の振り返り・学習への取り組み（20%）、
レポート（20%）。
総合して60点以上合格とする。

授業科目名	EMTM317	授業の種類	授業担当者
教育の方法と技術		（講義・演習・実習）	亘理　史子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭必修
15回	30時間・2単位	3年次・前期	必修	

［授業のテーマ及び到達目標］

1．教育方法の基本理論や教育方法の意義を理解する。
2．授業の構成要素を知り、教材研究の仕方が分かり、授業改善の指導技術を身に付ける。
3．情報メディア活用の仕方が分かる。

［授業の概要］

教育方法の基本理論や板書等を通した教育方法の変遷を考察し、教育方法の意義を捉える。授業改善を目指す授業研究、教材研究の実態を調べ、今日的教育課題に対応する指導法、指導技術を身に付ける。情報活用能力を高め、授業改善に生かす方法と技術を身に付ける。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第1回：教育方法の意義
第2回：教育方法の変遷⑴（一斉指導法を通して）
第3回：教育方法の変遷⑵（問題解決学習、プログラム学習を通して）
第4回：教育方法の変遷⑶（明治以降の板書を通して）
第5回：教育方法の基本原理と授業改善（単元学習と系統学習）
第6回：授業の構成要素及び教材研究、授業研究の意味とその方法
第7回：授業と教材研究⑴（内容の教育的価値と教師の専門性）
第8回：授業と教材研究⑵（授業の展開と学習指導案）
第9回：授業と教材研究⑶（評価と授業改善の視点）
第10回：指導技術の改善⑴（教材開発と視聴覚教材の活用、ICT機器活用）
第11回：指導技術の改善⑵（発問、児童の問いを引き出す問題設定とその板書の仕方）
第12回：情報機器活用による授業改善の実際と指導案作成
（各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動）
第13回：情報機器活用による授業改善の実際（生活指導など）と模擬授業の授業研究
第14回：模擬授業と研究協議会（授業改善案）
第15回：授業と評価の方法（診断的評価、形成的評価、総括的評価の活用の仕方）
定期試験

［準備学習］

各回のテーマ及び（　）内の言葉について調べまとめておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
『小学校学習指導要領』東洋館出版社
参考文献：
『わたしたちとじょうほう　3年・4年』学習研究社
『私たちと情報　5年・6年』学習研究社

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験（60%）、
毎時間の振り返り・学習への取り組み（20%）、
レポート（20%）。
総合して60点以上を合格とする。

授業科目名	EMTM218	授業の種類	授業担当者
児童指導基礎論		（講義・演習・実習）	横田　文夫

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭必修
15回	30時間・2単位	3年次・前期	必修	

［授業のテーマ及び到達目標］

児童指導とは一人一人の児童の人格を尊重し、個性の伸張を図りながら社会的資質や行動力を高めることをめざして行われる教育活動であることの理論と実践を理解する。それらを通じて、
1）「小1プロブレム」への対応、2）子ども社会の文化とルールについて、3）子どもの逸脱行動とそれへの対応について、4）いじめ防止と指導について、5）不登校児への対応と指導・援助、6）学校不適応と教育相談、7）課外活動の意義などについての基礎的な対応方法を学ぶ。

［授業の概要］

毎回、児童が抱えている生活・学習上の諸問題の広がりとそれらの背後にある要因・行動の特徴などについて、具体的事例を通じて考える。それぞれの対応への実践例に考察を加えた上で自分自身が指導する立場に立ったときどのように指導できるか考える。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第1回：45年間の教師人生から学んだこと
第2回：「小1プロブレム」を起こさせないために
第3回：自己存在感・自己肯定感
第4回：共感的人間関係を築く
第5回：基本的生活習慣を身につけることとルールやきまりを守ることの大切さ。
第6回：自主性を育てる
第7回：自己実現を図る
第8回：自己決定力（自分で考え判断し行動する力）を育てる
第9回：いじめのない学級づくり
第10回：体罰がこどもに与える影響
第11回：特別支援学級の児童支援について
第12回：生きる力を育てる：課外活動を通して
第13回：将来への夢をもつ⑴：働くことと様々な職業の理解を通して
第14回：将来への夢をもつ⑵：進学することと勉強の意味を通して
第15回：将来への夢をもつ⑶：自らが主体的に進路を選択・決定できる方法について
レポートを提出

［準備学習］

・授業の前に、その授業で学習するテーマや内容について自分の考えをまとめてくること。
・授業の後に、簡単なレポートを提出すること。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
特になし
参考文献：
文部科学省『1　これからの生徒指導編』、文部科学省『生徒指導提要』

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

期末レポート（60%）、各授業での小課題（40%）。
総合して60点以上を合格とする。

授業科目名	EMTM219	授業の種類	授業担当者
教育相談の基礎		（講義・演習・実習）	菅野　陽子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭必修
15回	30時間・2単位	3年次・後期	必修	

［授業のテーマ及び到達目標］

教育現場における様々な問題の発見と教育相談の重要性を理解し、そのために必要なカウンセリング理論、面接技法を学び、教育相談の理論および方法の基礎を習得することを目指す。

［授業の概要］

前半は教育相談の基礎知識を概観し、教育相談の基礎姿勢と実際を個別に取り上げて理解を深める。後半は学校教育相談の組織的観点や、教育相談に役立つ心理援助技術を、ロールプレイをとおして学び、実際に多い教育相談の事例から児童生徒および保護者への支援方法の基礎を習得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第1回：オリエンテーション　教育相談とは（定義）
第2回：学校教育相談の基礎知識（学校教育相談の歴史、課題、機能とその内容）
第3回：カウンセリングの基本姿勢⑴受容と共感（心の世界と現実の世界）
第4回：カウンセリングの基本姿勢⑵カウンセリングの主な理論と技術（スキル）
第5回：カウンセリングの基本姿勢⑶児童・生徒理解（一般的理解、発達段階の理解）
第6回：学校教育相談の組織的展開⑴校内教育相談体制の構築
第7回：学校教育相談の組織的展開⑵スクールカウンセラー等との連携、専門機関との連携
第8回：カウンセリングの演習⑴自己理解を深める、人間関係を深める、自尊感情を育てる
第9回：カウンセリングの演習⑵課題解決を助ける、共感能力を高める、集団成長を促す
第10回：教育相談の実際⑴発達障害、非行、いじめへの対応、不登校児童生徒への支援
第11回：教育相談の実際⑵性非行、喫煙・飲酒・薬物乱用への対応
第12回：教育相談の実際⑶被災・被害児への支援、教師に反抗的な児童生徒への対応
第13回：保護者（クレーム問題への対応、保護者支援のポイント、保護者との連携）
第14回：これからの学校教育相談（開発的・包括的支援体制構築へ）
第15回：まとめ（講義内容の整理）
定期試験

［準備学習］

①次回のテキストで学習する範囲において、不明な用語があれば調べてくること
②前回の範囲で小テストを行うこともある
③課題提出シートが提示された場合は、記載して次回持参してくること

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：嶋崎政男『入門　学校教育相談　知っておくべき基礎基本と実際の対応』学事出版
参考文献：
・文部科学省『生徒指導提要』教育図書
・小野田正利監修・藤川信夫／大前玲子編『体験型　ワークで学ぶ教育相談』大阪大学出版会
・高野弘幸『はじめての教育相談室』北大路書店
その他、適宜教員が新聞記事の切り抜きや参考資料を配布する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験(70%)、小課題及び授業参画態度(30%)を総合して60点以上を合格とする。

教育専門科目

（教科専門）

授業科目名	EMES201	授業の種類	授業担当者
初等国語		（講義・演習・実習）	高野実貴雄

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭必修
15回	30時間・2単位	2年次・後期	必修	

［授業のテーマ及び到達目標］

小学校教諭として心得ておくべき国語（「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高め国語を尊重する態度を育てる」小学校学習指導要領）の内容として、国語学、国文学、書写）の基礎的な事柄を項目別に理解し、現場で役立つ国語の基礎知識を身につけさせることを目標とする。

［授業の概要］

国語全般の基礎知識、それに当世のトピックも織り交ぜ、初等国語の全領域をほぼカバーした講義とする。具体的には、日本語の音声、音声と文字化、文法、語彙、文字、作文、文学（詩、短歌、俳句、児童文学）、書写等である。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第１回：音声と文字：国際音声字母と日本語の音節と五十音図との関係
第２回：文法：品詞文法と構文法（形容動詞の扱いと統辞論の議論を含む）
第３回：語彙１：和語の特徴とオノマトペの問題、漢語の特徴、熟語、近代漢語と学問
第４回：語彙２：外国語から外来語へ何が変化するのか、公共での外来語使用の問題
第５回：語彙３：敬語（尊敬語、謙譲語Ⅰ、Ⅱ、丁寧語、美化語、敬語の内と外、二重敬語）
第６回：文字１：戦後漢字政策史の中での常用漢字、教育漢字、人名用漢字
第７回：文字２：現代仮名遣いと歴史的仮名遣いと送り仮名の付け方
第８回：文字３：外来語表記とローマ字、ローマ字のパソコン入力
第９回：作文１：原稿用紙の使い方（文章符号、句読点、横書きの数字の扱いをふくむ）
第10回：作文２：書き言葉と話し言葉（特に語彙使用の違いに着目して）
第11回：作文３：要約の方法（縮約法と肉付け法）
第12回：作文４：生活文・感想文・実用文の書き方
第13回：文学１：童話（昔話と童話）
第14回：文学２：近代詩、近代短歌、近代俳句の発生の由来と俳句の作り方
第15回：書写：書と仮名の歴史、及び楷書と仮名の書写
定期試験

［準備学習］

第２回以降、あらかじめ次回分の教材をわたすので、読んでくること。板書のノートをかならず作り、自分の解説を入れておく。15回目に書写をするので、筆（大きいもの）、下敷き、筆巻き、墨、硯、文鎮等を用意する。紙は用意しなくてよい。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
特定のものはない。必要に応じてプリントを配布する。
参考文献：
石黒圭『よくわかる文章表現の技術Ⅰ、Ⅱ』（明治書院）、『小学校学習指導要領　解説　国語編』

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験70%、受講態度（提出物）30%。
合計して60点以上を合格とする。

授業科目名	EMES202	授業の種類	授業担当者
社会		（講義・演習・実習）	岸　康裕

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭選択
15回	30時間・2単位	2年次・前期	選択	

［授業のテーマ及び到達目標］

子どもの主体的な学びを育てる調べる社会科授業の創造。

1．自分の生きる社会を学ぶ。　　2．国土の様子と歴史を学ぶ。
3．いのちの尊厳・人権を学ぶ。　　4．世界のつながりと環境を学ぶ。
5．平和で民主的な社会の形成者としての資質を学ぶ。

［授業の概要］

1．新しい社会科学習のあり方とその可能性を探る。
2．学年毎の単元内容の基礎的理解を深め、初等社会科指導法の学習で活用できるようにする。
3．グループ学習を通して、協同して学び合う。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第1回：オリエンテーション
第2回：社会科の誕生、魅力、授業計画と進め方
第3回：社会科の教材論
第4回：地図学習（3年生、地図の読み方、書き方）
第5回：地域学習（3年生、工場・お店たんけんまかせてよ）
第6回：地図学習（4年生、日本地図）
第7回：地域学習（4年生、「各地のくらし」）
第8回：工業学習（5年生、産業と公害）
第9回：農業学習（5年生、食と安全）
第10回：歴史学習（6年生、大正期の農民のくらし）
第11回：歴史学習（6年生、戦争体験）
第12回：歴史学習（6年生、世界の戦争）
第13回：憲法学習（6年生、日本国憲法）
第14回：6年生社会科の一年・卒業研究にチャレンジ
第15回：まとめ（調べる社会科の魅力と可能性）
定期試験

［準備学習］

テキストの対象の部分を予習する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
岸康裕『子どもと学び子どもから学んだ教師の記録』世織書房
参考文献：
授業の展開に応じてその都度提示する

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

小論文（50%）と、定期試験（50%）の総合評価とし、60点以上合格。

授業科目名	EMES203	授業の種類	授業担当者
算数		（講義・演習・実習）	矢部　一夫

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭選択
15回	30時間・2単位	2年次・前期	選択	

［授業のテーマ及び到達目標］

小学校学習指導要領の4領域「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」について、それぞれの領域のねらいと内容について理解する。主な内容について8割以上の理解と定着を図ることを目標とする。

［授業の概要］

算数教育の変遷から、現在の算数に求められているものを知る。算数における各領域の主内容を、各回でそのねらいと系統について学ぶ。また、講義に加え、各自作成のレポートによる発表形式をとる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第1回：現行学習指導要領でうたわれる算数の教科の目標と学習内容
第2回：学習指導要領や教科書の変遷：それぞれの学習指導要領でねらう学力
第3回：「数と計算」領域⑴：数や数の仕組
第4回：「数と計算」領域⑵：演算の意味や四則演算
第5回：「量と測定」領域⑴：量の意味やその種類
第6回：「量と測定」領域⑵：分数と小数について演算の仕組や意味
第7回：「図形」領域⑴：図形についての見方や定義、定理
第8回：「図形」領域⑵：図形どうしの関連、辺や頂点などの構成要素、円
第9回：「図形」領域⑶：面積や体積など図形と量、求積公式
第10回：「数量関係」領域⑴：文字を使う意義や式の意味や有用性
第11回：「数量関係」領域⑵：関数の意味や定義、表やグラフの作成
第12回：「数量関係」領域⑶：割合の意味や用法、表し方
第13回：「数量関係」領域⑷：場合の数を、確率について意味や意義
第14回：数学の歴史を学び先人の苦慮や工夫
第15回：数学的な考え方とは

［準備学習］

①各回のテーマについてテキストや関係文献についてよく読み事前にまとめ、授業で発表をする。
②授業中に演習を行い、簡単なレポートを作成し、授業後に提出する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
黒木哲徳『入門　算数学』（日本評論社）
参考文献：
『小学校学習指導要領解説　算数編』

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

テーマにそったレポート発表（60%）、演習問題（20%）、また、児童生徒が領域を学習するねらい、主題材の内容や価値の理解定着度（20%）を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業科目名	EMES204	授業の種類	授業担当者
初等理科		（講義・演習・実習）	鶴ヶ谷柊子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭選択
15回	30時間・2単位	2年次・後期	選択	

［授業のテーマ及び到達目標］

・自然科学への興味や関心・知識を幅広く形成し、小学校理科全般にわたる実験技術・観察能力を身につけることによって、物理・生物・化学・地学に関する基本的な知識と指導の基本を獲得できるようにする。・実験や観察を行う理科授業を計画し、実践することで実験・観察における注意点や工夫する点に気付く。

［授業の概要］

実験器具の使用方法や、薬品の管理などを含む実験・観察への苦手意識から理科の授業を行うことに自信を持てない小学校教員が存在する。そこで、実験・観察を安全に行うための実験器具や薬品の使用方法などについて実際の活動を通じて学ぶ。また、実験・観察を取り入れた模擬授業をグループで計画して実践する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第１回：実験の安全管理
第２回：実験器具の取り扱い
第３回：実験の基本操作　試薬の準備とガラス器具の取り扱い
第４回：物質・エネルギーに関する実験・観察　エネルギー①　～力・光～
第５回：物質・エネルギーに関する実験・観察　エネルギー②　～電気・磁気～
第６回：物質・エネルギーに関する実験・観察　粒子①　～物質～
第７回：物質・エネルギーに関する実験・観察　粒子②　～化学変化～
第８回：野外活動の安全管理
第９回：生命・地球に関する実験・観察　生命①　～植物～
第10回：生命・地球に関する実験・観察　生命②　～動物～
第11回：生命・地球に関する実験・観察　地球①　～気象・地形～
第12回：生命・地球に関する実験・観察　地球②　～宇宙～
第13回：実験・観察を行う授業の指導案作成
第14回：実験・観察を取り入れた授業の実践①模擬授業
第15回：実験・観察を取り入れた授業の実践②模擬授業と評価
定期試験

［準備学習］

①小学校理科の内容に目を通し、自分が苦手だと思う内容について勉強しておく。
②身のまわりの自然や科学現象に目を向け、気付いたことや疑問に思ったことを記録しておく。
③疑問に思ったことについて調べ、どのように説明するか考えておく。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
『小学校学習指導要領解説　理科編』
参考文献：
川村康又他編『実験で実践する　魅力ある理科教育―小中学校編―』オーム社

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

レポート50%、試験40%、受講態度（小テストの成績や授業への参加の積極性）10%。
総計して60点以上を合格とする。

授業科目名	EMES205	授業の種類	授業担当者
生活		（講義・演習・実習）	鶴ヶ谷柊子・岸　康裕

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭選択
15回	30時間・2単位	1年次・前期	選択	

［授業のテーマ及び到達目標］

・幼児から小学校低学年前のこどもたちの実際の活動を通じて生活科の特徴を学び、小1プロブレムに対応しながら低学年のこどもの指導に教師としてどう関わるべきなのか考える。
・子どもの主体的な学びを育てる楽しい生活科授業の創造。①ステキな人・もの・ことと出あう。②伝達型を排し子どもの主体的な学びを創造するアクティブ・ラーニングの手法を学ぶ。③子どもの問い、討論、作品交流で共同した学びを追究する。

［授業の概要］

・生活科は、理科と社会を合わせた科目と考えられがちであるが、教科の目標は大きく異なっている。そこで、生活科と理科の目標の違いについて考えながら、実際の活動を通じて生活科の特徴を学ぶ。
・①子どもの問いと討論で授業づくりをすすめる。②地域に出かけ豊かな生きた教材と出あわせる。③調べたことを作品化する。④まとめたものを発表交流し学習をまとめる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数
授業計画

第1回：生活科の誕生とその魅力、授業計画と進め方（担当：岸）
第2回：ねこのウメちゃん（ひん死の子猫を救った家族の物語）（担当：岸）
第3回：学校に犬がやってきた（ドックトレーナーと出会う）（担当：岸）
第4回：90歳のおばあちゃんにわらべ唄を教わる（担当：岸）
第5回：わくわく町たんけん（担当：岸）
第6回：駅たんけん、まかせてよ（担当：岸）
第7回：子どもの声を聴くということ（朝の発表交流）（担当：岸）
第8回：外に出て季節を探してみよう（担当：鶴ヶ谷）
第9回：暮らしの中の季節を探してみよう（担当：鶴ヶ谷）
第10回：自然と仲良し（担当：鶴ヶ谷）
第11回：身近なものと仲良し（担当：鶴ヶ谷）
第12回：動物の飼育を通して（担当：鶴ヶ谷）
第13回：栽培を通して（担当：鶴ヶ谷）
第14回：生活科から総合的な学習の時間、理科への発展（担当：鶴ヶ谷）
第15回：まとめ（担当：鶴ヶ谷）

［準備学習］

（鶴ヶ谷）①身のまわりの自然や科学現象に目を向け、気付いたことや不思議に思ったことを記録しておく。
②不思議に思ったことについて調べ、どのように説明したらよいか考えておく。
（岸）テキストの対象の部分を予習する。事前配布の資料で予習する。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：『小学校学習指導要領解説　生活編』
参考文献：『小学校学習指導要領解説　理科編　総合的な学習の時間編』、水内宏編『〈教え〉から〈学び〉への授業づくり　6．生活科』大月書店
岸康裕『子どもと学び子どもから学んだ教師の記録』世織書房

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

レポート4回（それぞれ20%）、及び授業への参加の積極性（20%）。
全体を総合して60点以上を合格とする。

授業科目名	EMES206	授業の種類	授業担当者
初等音楽		（講義・演習・実習）	出口　雅生

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭選択
15回	30時間・2単位	1年次・前期	選択	

［授業のテーマ及び到達目標］

小学校音楽の授業を行う際に必要な音楽の知識と技術を学び、実践のための基礎的な能力を確実に身につけることを目標とする。また教材についての知見を得ると共に、集団としての意義ある音楽活動の実践を探求できる基礎的な能力を養う。

［授業の概要］

楽典及び音楽理論の初歩の講義と小学校音楽指導に必要な基礎的な音楽能力を養うトレーニングを並行して行う。また共通教材を中心とする歌唱や器楽演奏から、応用的な教材を用いた合奏や音楽創りへと実践を展開しその内容を考察する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第１回：オリエンテーション
第２回：音楽の基礎⑴音の高さ、ソルフェージュ
第３回：音楽の基礎⑵音の長さ、ソルフェージュ
第４回：音楽の基礎⑶音階、ソルフェージュ
第５回：音楽の基礎⑷調性、ソルフェージュ
第６回：音楽の基礎⑸和音、ソルフェージュ
第７回：音楽の基礎⑹楽曲分析、ソルフェージュ
第８回：歌唱の実践と教材分析⑴斉唱
第９回：歌唱の実践と教材分析⑵合唱
第10回：器楽演奏の実践と教材分析⑴小学校音楽科で用いる各種打楽器
第11回：器楽演奏の実践と教材分析⑵小学校音楽科で用いる各種旋律楽器及びその他の楽器
第12回：合奏の実践
第13回：合奏の発表と相互評価
第14回：音楽創りの実践
第15回：音楽創りの発表と相互評価
定期試験

［準備学習］

①授業中に配布するワークシートを用いた予習及び復習を行い、読譜能力を向上させること。
②実技課題の練習を十分に行うこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
芥川也寸志『音楽の基礎』岩波書店、『小学校学習指導要領解説　音楽編』文部科学省
参考文献：
『大人のための音楽ワーク　ドリル』
ヤマハミュージックメディア

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

小テスト及び定期試験60%、レポート20%、
課題への取り組み20%。
総合して60点以上を合格とする。

授業科目名	EMES107	授業の種類	授業担当者
ピアノ演習A		（講義・演習・実習）	金井　玲子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭選択
15回	30時間・1単位	1年次・前期	選択	

［授業のテーマ及び到達目標］

小学校の音楽の授業を行うにあたって大切な「音楽を楽しみ共有する心」を育み、そのために必要なピアノ演奏・弾き歌いの基礎を習得し、同時に自ら目標を設定、達成する力をつける。

［授業の概要］

全体授業で基本的なピアノについての知識、演奏すること、練習の仕方・考え方について学び、各自のレベルに応じた短期及び中期の目標を設定し、初見・連弾・簡単な伴奏付けも含めてピアノ曲の演奏に取り組む中で演奏技術や表現力を高める。個人及びグループレッスンにより確実に目標を達成させる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第1回：全体オリエンテーション　授業の目標と進め方についての説明及び個人のレベルチェック
第2回：全体授業　楽器・演奏・練習法についての概論と各自のレベルに応じた短期・中期目標の設定
第3回：各自の到達目標に合わせた個人レッスン①（姿勢、身体の使い方を中心に）
第4回：個人レッスン②
（読譜を中心に、併せてハ長調主要三和音を鍵盤を見ずに弾けるようにする）
第5回：個人レッスン③（練習方法を中心に、併せてハ長調三和音のいくつかの伴奏型）
第6回：グループレッスン①（各自の短期目標の達成度合を発表し次の目標設定、初見について）
第7回：個人レッスン④（実技試験曲の読譜、併せてコードネームによるハ長調の伴奏付け）
第8回：個人レッスン⑤（実技試験曲の運指等奏法の指導、併せてハ長調の伴奏付けを訓練）
第9回：個人レッスン⑥（実技試験曲の困難な個所の解決法、併せてハ長調の伴奏付けを訓練）
第10回：グループレッスン②（楽譜を見て試験曲を中間発表、連弾についての説明と実践）
第11回：個人レッスン⑦（実技試験曲の前半暗譜、併せてト・ヘ長調の主要三和音を学ぶ）
第12回：個人レッスン⑧（実技試験曲の後半暗譜、併せてコードネームによるト長調の伴奏付け）
第13回：個人レッスン⑨（実技試験曲を全曲暗譜、併せてコードネームによるヘ長調の伴奏付け）
第14回：個人レッスン⑩（実技試験曲をより音楽な表現で完成させる）
第15回：実技試験のためのリハーサル
定期試験

［準備学習］

①授業の前に前回課されたピアノ課題の練習を行ってくること　②授業の前に前回のノートや配布資料を読み返してくること　③授業の後にピアノレッスン内容を整理すること　④授業の後にノートや配布資料を整理すること　⑤各自に設定した短期・中期の目標を常に意識し、確実にクリアしているか見直すこと

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
鈴木渉『教師のためのピアノ伴奏法入門』（東洋館出版社）他、適宜指示する
参考文献：
呉暁『うたとピアノの絵本』（音楽之友社）、バスティン『初見の練習』（東音企画）、鈴木渉『新版　ひとりでマスターピアノ伴奏法入門』（子どもの未来社）。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験：60%、課題の進度（毎回の課題を確実にこなしているか）：20%、受講態度（意欲的に取り組んでいるか、努力の様子が見られるか）：20%、総合して60点以上を合格とする。

授業科目名	EMES208	授業の種類	授業担当者
ピアノ演習B		（ 講義・演習・(実習) ）	金井　玲子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭選択
15回	30時間・1単位	1年次・後期	選択	

［授業のテーマ及び到達目標］

小学校の音楽の授業を行うにあたって必要なピアノ演奏技術を向上させ、音楽的な解釈に基づいた表現を目指す。又、共通歌唱教材を生き生きと歌いながら伴奏できるようにする。

［授業の概要］

全体授業でピアノ演奏及び伴奏についての基本的なことを学び、各自のレベルに応じた短期及び中期の目標を設定し、初見・連弾・簡単な伴奏付けも含めてピアノ曲の演奏に取り組む中で演奏技術や表現力を高める。個人及びグループレッスンにより確実に目標を達成させる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第１回：全体オリエンテーション　授業の目標と進め方についての説明及び個人のレベルチェック
第２回：全体授業　楽器・演奏・練習法についての概論と各自のレベルに応じた短期・中期目標の設定
第３回：各自の到達目標に合わせた個人レッスン①(読譜の苦手部分克服、ハ・ト長調主要三和音)
第４回：個人レッスン②（技術の苦手部分克服、併せてヘ長調・イ短調主要三和音）
第５回：個人レッスン③（練習方法を中心に、併せて４つの調の主要三和音の様々な伴奏型）
第６回：グループレッスン①
（各自の短期目標達成度合確認し次の目標設定、ポリフォニーについて）
第７回：個人レッスン④（実技試験曲の読譜、併せてコードネームによる伴奏付け）
第８回：個人レッスン⑤（実技試験曲の運指等奏法の指導、併せてコードネームによる伴奏付け）
第９回：個人レッスン⑥（実技試験曲の困難な個所の解決法､併せてコードネームによる伴奏付け）
第10回：グループレッスン②（楽譜を見て試験曲を中間発表、連弾についての説明と実践）
第11回：個人レッスン⑦（実技試験曲の前半暗譜、併せて共通歌唱教材の伴奏）
第12回：個人レッスン⑧（実技試験曲の後半暗譜、併せて共通歌唱教材の伴奏）
第13回：個人レッスン⑨（実技試験曲を全曲暗譜、併せて共通歌唱教材の伴奏）
第14回：個人レッスン⑩(実技試験曲をより音楽な表現で完成させる､併せて共通歌唱教材の伴奏)
第15回：実技試験のためのリハーサル
定期試験

［準備学習］

①授業の前に前回課されたピアノ課題の練習を行ってくること　②授業の前に前回のノートや配布資料を読み返してくること　③授業の後にピアノレッスン内容を整理すること　④授業の後にノートや配布資料を整理すること　⑤各自に設定した短期・中期の目標を常に意識し、確実にクリアしているか見直すこと

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
鈴木渉『教師のためのピアノ伴奏法入門』（東洋館出版社）他、適宜指示する
参考文献：
呉暁『うたとピアノの絵本』（音楽之友社）、バスティン『初見の練習』（東音企画）、鈴木渉『新版　ひとりでマスターピアノ伴奏法入門』（子どもの未来社）。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験：60%、課題の進度（毎回の課題を確実にこなしているか）：20%、受講態度（意欲的に取り組んでいるか、努力の様子が見られるか）：20%、総合して60点以上を合格とする。

授業科目名	EMES209	授業の種類	授業担当者
図画工作		（講義・演習・実習）	クリスティーヌ・プレ

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭選択
15回	30時間・2単位	1年次・後期	選択	

［授業のテーマ及び到達目標］

本授業のねらいと目標は次の3点を柱とする。1）美術史及び芸術理論を、知識と鑑賞だけでなく制作実践をとおして、理解すること。2）1の展開として、こどもたちの表現活動を幅広く捉えまた支援できる意義を認識すること。3）図画工作科の目標や教育内容を、現在こどもが置かれている環境や状況中で、生きる力と繋がるような設定ができるようになる。

［授業の概要］

各回において、さまざまな資料を通し美術史に触れながら、表現方法や素材に挑戦、実践活動をする。また、幼児から小学生までのこどもの発達段階を、哲学・心理学を横断しながら幅広く理解を深めていき、創造性とは、制作現場でも、思考や遊び、鑑賞のなかでも、人間の内側で楽しさや情熱をもつ瞬間にて発動することを知る。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第1回：オリエンテーション（図画工作科の今日的課題や動向）
第2回：様々な造形活動「観る」ことについて　①自然
第3回：様々な造形活動「観る」ことについて　②構造・関係性
第4回：様々な造形活動「観る」ことについて　③内面
第5回：様々な造形活動「観る」ことについて　④自己・主体
第6回：平面造形活動　①枠組のない支持体の制作活動
第7回：平面造形活動　②フレーミングについて
第8回：版表現で活動　①創造性と世界の反転
第9回：版表現で活動　②創造の複数性
第10回：様々な素材をつかった造形活動　①神話
第11回：様々な素材をつかった造形活動　②ファンタジー
第12回：様々な素材をつかった造形活動　③世界の多様性
第13回：創造的な鑑賞活動　①感じることの創造性
第14回：創造的な鑑賞活動　②こどもの表現を感じる
第15回：総括・自己評価

［準備学習］

受講者は自身の創作活動を行う。また子どもの造形活動、表現、鑑賞に関する資料収集、美術館等での展覧会鑑賞、ワークショップの参加体験を増やすように努めてください。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
学習内容ごとに印刷物等を配布する。
参考文献：
『小学校学習指導解説　図画工作編』日本文教出版

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

提出課題60%、制作実践への取組等授業態度40%で総合的に評価する。
総合点において60点以上を合格とする。

授業科目名	EMES210	授業の種類	授業担当者
初等家庭		（講義・演習・実習）	伊深　祥子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭選択
15回	30時間・2単位	2年次・前期	選択	

［授業のテーマ及び到達目標］

初等家庭の授業内容を包括的に理解する。

教材研究をとおして他者と協力し、他者から学ぶ力をつけることによって児童が初等家庭科を学ぶ意義に対する理解を深める。

［授業の概要］

初等家庭科の教材研究を実施することによって「家庭」の授業内容を学ぶとともに、グループによる教材研究および、グループ発表をとりいれることにより家庭科の実技的内容を身につける。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第１回：自分が学んできた家庭科
第２回：家庭科の内容の特徴
第３回：食の領域の内容例：だしを調べる
第４回：衣の領域の内容例：布を使った小物づくり
第５回：評価と家庭科の授業づくり
第６回：教材研究：教材内容の理解
第７回：教材研究：教材内容の深化
第８回：教材研究：発表準備
第９回：教材研究：発表練習
第10回：発表会：食
第11回：発表会：衣
第12回：発表会：住・環境
第13回：発表会：家族
第14回：これからの家庭科の学び
第15回：講義のまとめ
定期試験

［準備学習］

授業の前にテキストの該当部分を読んでくること。

授業の前に学修内容に関する課題に取り組むこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
伊深祥子・野田知子編『評価が変われば授業が変わる』開隆堂出版
参考文献：
『小学校学習指導要領解説　家庭科編』、小学校家庭教科書

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

定期試験（60%）、発表内容のレポート（20%）、発表会の相互評価（20%）。
総合して60点以上を合格とする。

授業科目名	EMES211	授業の種類	授業担当者
初等体育		（講義・演習・実習）	林　園子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭選択
15回	30時間・2単位	1年次・後期	選択	

［授業のテーマ及び到達目標］

小学校体育科の役割と課題について概括的な理論と実技を理解し、発達段階に応じた体つくりとそれが生涯にわたって親しめる運動能力・知識につながるような指導ができるようになる。

［授業の概要］

平成20年の小学校体育科の改善基本方針（中央教育審議会）で示された点に留意しながら、なぜこうした改訂が必要であったのかを理解した上で、「運動に親しむ資質や能力の基礎」の育成、「健康の保持増進」、「体力の向上」にかかわる基礎的な理論と各種運動領域における実技指導の基本的な内容について解説するとともに、実技指導を通してそれらの理解が深まるようにする。なお、水泳の授業に関しては、天候・気候条件によって日程が変更になる場合があります。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第１回：授業の流れと受講にあたっての留意点の解説(準備すること､配慮すること)
第２回：小学校体育科の目標と運動領域について
第３回：こどもの身体発達と「体つくり運動」の内容
第４回：「体つくり運動」の実技構成
第５回：「器械・器具を使っての運動遊び」と「器械運動」の内容
第６回：「器械・器具を使っての運動遊び」と「器械運動」の実技構成
第７回：「走・跳の運動遊び」と「走・跳の運動」の内容
第８回：「走・跳の運動遊び」と「走・跳の運動」の実技構成
第９回：「水遊び」「浮く・泳ぐ運動」と「水泳」の内容
第10回：「水遊び」「浮く・泳ぐ運動」と「水泳」の実技構成
第11回：「ゲーム」と「ボール運動」の内容
第12回：「ゲーム」と「ボール運動」の実技構成
第13回：「表現リズム遊び」と「表現運動」の内容
第14回：「表現リズム遊び」と「表現運動」の実技構成
第15回：小学生の毎日の生活と健康、病気とケガの予防

［準備学習］

体力及びスキルに自信がない者は、日常生活で積極的に体力・スキル向上に取り組むこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
『小学校学習指導要領解説・体育編』東洋館出版社
参考文献：
杉山重利他『保健体育科教育法』大修館書店

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

レポート60%、授業への参加姿勢（積極性）グループ活動における協調性、準備など40%。
総合して60点以上を合格とする。

教育専門科目

（実践に学ぶ）

授業科目名	EMPS301	授業の種類	授業担当者
教育実習指導		（ 講義・演習・(実習) ）	山口和孝・菅野陽子・高野実貴雄・眞有澄香・矢部一夫・伊深祥子・出口雅生・内田徹・鶴ヶ谷柊子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭
15回	30時間・1単位	3年次・前期	選択	必修

［授業の目的］

小学校の機能や組織・運営について基本的な理解を行い、小学校教育実習を行うに際しての留意点、指導案についての確認をする。

［授業全体の内容の概要］

『学外実習の手引き』のうちの「小学校教育実習編」にそって、「授業の各テーマ」にあるような小学校教育実習を行うに際しての留意点や指導案を学ぶ。

［授業終了時の到達目標］

教育実習への姿勢ができること。教育実習終了後に、実施した研究授業を振り返り、授業設計の次の課題を確認する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業の概要説明。小学校教育実習の意義
2．小学校の機能と組織・運営
3．小学生の発達と教育課程
4．学級集団づくりと学級経営
5．教育実習に際しての留意点（服装、態度、危機管理など）
6．指導案作成（国語）
7．模擬授業（国語）
8．指導案作成（算数）
9．模擬授業（算数）
10．教科指導案作成（生活）
11．模擬授業（生活）
12．教科指導案作成（道徳）
13．模擬授業（道徳）
14．教育実習のふりかえり⑴…研究授業の反省
15．教育実習のふりかえり⑵…振り返りから見えている課題

［準備学習］

『学外実習の手引き』のうち「教育実習」の項を予習しておくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
『学外実習の手引き』、『小学校学習指導要領』
参考文献：教科指導案の作成にかかわる文献・資料を適宜授業で紹介する。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

指導案作成、模擬授業での取り組み（40%）、および、実習の振り返り（60%）の総合評価による。60点以上合格。課題・成績評価のフィードバックは「教職実践演習」において行う。

授業科目名	EMPS402	授業の種類	授業担当者
教育実習		（ 講義・演習・(実習) ）	山口和孝・菅野陽子・高野実貴雄・眞有澄香・矢部一夫・伊深祥子・出口雅生・内田徹・鶴ヶ谷柊子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭必修
集中	160時間・4単位	3年次・後期	選択	

［授業の目的］

小学校教員として求められる基礎的な授業展開技能を実践的に学ぶとともに、学内授業で学んだ理論の意味を教育現場の実践とつなげて理解する。教育実習校の指導にしたがい、小学校という教育機関の組織、運営、授業展開、あるいは学校行事の実際を学び、研究授業において指導案にもとづく授業を実施して講評をうける。

［授業全体の内容の概要］

実習校において、実習指導の先生たちに指導を受けながら、学校と地域社会とのつながり、児童たちの様子、授業の観察、研究授業のための指導案作成、研究授業を展開する。

［授業終了時の到達目標］

教員として責任ある学級運営、研究授業を行い、関係者の講評を受け、小学校教師としての適性を判断する基礎的な体験となる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

配当された小学校において4週間の教育実習を行う。学校が立地する地域の様子、学校の歴史、地域と学校の繋がり、学校の運営、教室運営や子どもたちの学校での様子などを学習・観察しながら、また、他教員や教育実習生の授業を参観して、教授法について学ぶ。さらに、担当する学年に対応し、指定された教科の研究授業を設計し、研究授業を行う。

［準備学習］

「教育実習指導」で学んだことがらを復習しておくことと、担当する授業に関する教材研究と指導案の作成を行い、指導の先生の点検をうける。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
『学外実習の手引き』、小学校教科書、『小学校学習指導要領』
参考文献：研究授業で担当する教科に関する文献・資料

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

実習校における講評（70%）をもとに、教育実習ノート（20%）、実習指導時の諸情報（10%）を総合して評価する。60点以上合格。
フィードバックは、「教職実践演習」において行う。

授業科目名	EMPS403	授業の種類	授業担当者
教職実践演習		（ 講義 ・演習・ 実習 ）	眞有澄香・矢部一夫・山口和孝・伊深祥子・出口雅生・鶴ヶ谷柊子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択	小学校教諭必修
15回	30時間・2単位	4年次・前期	選択	

［授業のテーマ及び到達目標］

教育実習や教育インターンシップ等の実践的体験を中心に、教師を志して過ごした大学生活全体を通した学びを省察し、その到達点と課題、教師への自覚と適性、および就職後の目標を明確にする。

［授業の概要］

教育現場経験者、教職専門・教科専門の教員が参加し、グループディスカッションやグループワーク、模擬授業、ロールプレイなどを行って、教育現場における実践的体験を振り返りながら、現場ですぐに役立つ実践的知識と技能を確認する。一部合宿形態の演習を行う。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

授業計画

第1回：授業概要の説明、受講に際しての留意事項ガイダンス。履修カルテの確認。（担当：山口）
第2回：教職の意義、教師の役割と職務内容、子どもに対する責任等の理解（担当：矢部）
第3回：教師の社会性や他者との協力関係の構築（担当：矢部）
第4回：ロールプレイ⑴：学級経営事例についてのグループワーク（担当：矢部）
第5回：ロールプレイ⑵：いじめへの基本的な対応方法（担当：菅野）
第6回：ロールプレイ⑶：行事運営事例についてのグループワーク（担当：矢部）
第7回：ロールプレイ⑷：不登校への基本的な対応方法（担当：菅野）
第8回：模擬授業⑴：実践的体験を振り返りながらグループディスカッション（担当：出口）
第9回：模擬授業⑵：教科等専門の模擬授業とグループディスカッション（担当：井深）
第10回：模擬授業⑶：模擬授業とグループディスカッション（担当：鶴ケ谷）
第11回：模擬授業⑷：授業や教職への不安や動揺についての教員による支援（担当：眞有）
第12回：進路に向けた将来計画のためのフィールドワーク（担当：全員）
第13回：進路に向けた将来計画の発表・検討⑴：発表（Aグループ）（担当：全員）
第14回：進路に向けた将来計画の発表・検討⑵：発表（Bグループ）（担当：全員）
第15回：教師としての基本的資質の向上（担当：全員）
期末レポート

［準備学習］

教育実習の記録を再読しておくこと。『小学校学習指導要領』の該当する箇所を読んでおくこと。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：
文部科学省『小学校学習指導要領』東京書籍。
参考文献：
文部科学省検定済教科書、副読本、等。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

期末レポートの評価（60%）、
および模擬授業（20%）、発表（20%）。
総合して60点以上合格。

教育専門科目

（卒業研究）

授業科目名	EMTH301	授業の種類	授業担当者
卒業研究Ⅰ		（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	菅野陽子・高野実貴雄・眞有澄香・矢部一夫・山口和孝・伊深祥子・出口雅生・内田徹・鶴ヶ谷柊子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
30回	60時間・2単位	3年次・通年	必修

［授業の目的］

2年間の学内外における学びをもとに、3年次、4年次においては、個々の学生が関心のあるテーマに取組み、4年間の学修成果をまとめていくための幅広い学習を行う。4年次に成果物として論文や作品を仕上げ、「卒業研究」として提出することをめざし、3年次には、文献やデータ収集、事例研究、教材研究などを行い、どのようにして各自の望む成果を達成していくのかについて、担当教員の指導を受けつつ自主的に学ぶ。

［授業全体の内容の概要］

2年次終了時に学生の希望をもとに授業担当教員（所属ゼミ）を決定し、原則として2年間を通じて同一教員による指導を受ける。卒業研究Ⅰにおいては、各自の課題発見と研究の意義と方法について焦点化することを目的として、調査報告、討論などの演習と、分析、考察の深め方、研究方法に関する指導を中心に行う。

［授業終了時の到達目標］

研究及び作品作成のための適切な課題設定を行い、目的に応じた方法を理解し、活動計画を立てることができる。卒業研究成果物提出の形式に従って小規模なレポートや作品を完成できる。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業オリエンテーション
2．課題の立て方と研究の進め方
3．研究課題設定のための学習①
4．研究課題設定のための学習②
5．学生による発表とディスカッション①
6．研究課題設定のための学習③
7．研究課題設定のための学習④
8．学生による発表とディスカッション②
9．研究課題設定のための学習⑤
10．研究課題設定のための学習⑥
11．学生による発表とディスカッション③
12．研究計画の立て方①
13．研究計画の立て方②
14．研究方法指導①
15．研究方法指導②
レポート提出
16．後期の進め方
17．研究計画発表とディスカッション①
18．研究計画発表とディスカッション②
19．研究課題に関する指導①
20．研究課題に関する指導②
21．研究計画及び研究方法
22．個別指導①
23．個別指導②
24．個別指導③
25．経過発表とディスカッション③
26．経過発表とディスカッション④
27．総括レポート作成指導①
28．総括レポート作成指導②
29．総括レポート作成指導③
30．卒研発表会（4年生の発表聴講）
レポート提出

［準備学習］

各教員の指導にしたがって、文献やデータ収集、調査、レポートの作成等、論文作成や作品制作を行うための準備として示される課題を、授業時間外に準備学習として行う。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：教員により指示される。
参考文献：教員により指示される。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

レポート：60%
受講態度、発表への取組姿勢と成果：40%

授業科目名	EMTH402	授業の種類	授業担当者
卒業研究Ⅱ		（ 講義 ・演習・ 実習 ）	菅野陽子・高野実貴雄・眞有澄香・矢部一夫・山口和孝・伊深祥子・出口雅生・内田徹・鶴ヶ谷柊子

授業の回数	時間数（単位数）	配当年次・時期	必修・選択
30回	60時間・2単位	4年次・通年	必修

［授業の目的］

4年間の学内外における学びの総まとめとして、個々の学生が関心のある課題を発見し、3年次の「卒業研究Ⅰ」における研究計画や研究方法に基づいて、さらに研究を発展させ成果物を完成させる。自らが課題を発見し、それを解決するための総合的能力を高める自主的な学習態度を養う。

［授業全体の内容の概要］

2年次終了時に学生の希望をもとに授業担当者（所属ゼミ）を決定し、原則として2年間を通じて同一教員による指導を受ける。卒業研究・作品を仕上げていくための個別指導と相互発表を中心に授業を行う。

［授業終了時の到達目標］

卒業論文・作品の作成と発表を通じて、研究、及びその発表に必要な知識や技術を習得する。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］

コマ数

1．授業オリエンテーション
2．論文・作品指導演習〈個別指導①〉
3．論文・作品指導演習〈個別指導②〉
4．論文・作品指導演習〈個別指導③〉
5．研究成果中間発表①
6．論文・作品指導演習〈個別指導④〉
7．論文・作品指導演習〈個別指導⑤〉
8．論文・作品指導演習〈個別指導⑥〉
9．研究成果中間発表②
10．論文・作品指導演習〈個別指導⑦〉
11．論文・作品指導演習〈個別指導⑧〉
12．論文・作品指導演習〈個別指導⑨〉
13．研究成果中間発表③
14．研究計画の修正
15．夏休み中の進め方
レポート提出
16．研究成果中間発表④
17．論文・作品指導演習〈個別指導⑩〉
18．論文・作品指導演習〈個別指導⑪〉
19．論文・作品指導演習〈個別指導⑫〉
20．論文・作品指導演習〈個別指導⑬〉
21．論文・作品指導演習〈個別指導⑭〉
22．研究成果中間発表⑤
23．論文・作品指導演習〈個別指導⑮〉
24．論文・作品指導演習〈個別指導⑯〉
25．論文・作品指導演習〈個別指導⑰〉
26．論文・作品指導演習〈個別指導⑱〉
27．論文・作品指導演習〈個別指導⑲〉
28．ゼミ内研究発表会
29．卒業研究発表会準備
30．卒業研究発表会
卒業研究の提出

［準備学習］

各教員の指導にしたがって、文献やデータ収集、調査、レポートの作成等、論文作成や作品制作を行うための準備として示される課題と、成果物の完成に向けた作業を、授業時間外に行う。

［使用テキスト・参考文献］

テキスト：教員により指示される。
参考文献：教員により指示される。

［成績評価の方法・基準及び課題・成績評価のフィードバック］

卒業研究提出物：60%
受講態度、発表への取組姿勢と成果：40%